

令和 5 年度
「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」
調 査 報 告 書

長 野 市

目次

I	調査の概要	1
	1 調査の目的	
	2 調査の対象	
	3 抽出方法	
	4 調査の方法	
	5 調査時期	
	6 送付・回収状況	
	7 調査事項	
	8 調査票の集計 報告書の見方	
II	回答者の属性	5
III	結果の概要	13
IV	調査の結果	19
	一般的なこと	21
	職場における「女性活躍と就労」に関することについて	55
	仕事と生活の調和に関することについて	111
	地域社会に関することについて	145
	男女の人権に関することについて	155
	「性」の多様性に関することについて	167
	男女共同参画施策に関することについて	175
	資料	179
	単純集計	181
	調査票	207

I 調査の概要

1 調査の目的

市民の男女共同参画・女性活躍等の推進に関する意識と実態を統計的手法によって把握・分析し、長野市の男女共同参画施策の基礎資料を得るとともに、今後の施策に反映することを目的とする。

2 調査の対象

令和5年9月1日現在で長野市に在住する18歳以上75歳未満の男女各1,000人
(計：2,000人)

3 抽出方法

長野市住民基本台帳より、単純無作為抽出

4 調査の方法

調査票を郵送し、個人へ記入を依頼。その後、返信用封筒(料金受取人払)により調査票を返送してもらう郵送調査法による(調査票は別紙のとおり)。

5 調査時期

令和5年10月2日(月) ～ 令和5年10月31日(火)

6 送付・回収状況

送付数：2,000票

回収数：748票 (回収率：37.4%)

【男性票：330票、女性票：405票 性別無回答他：13票】

7 調査事項

● 回答者の属性

F1性別 F2年齢 F3職業 F4家族 F5配偶者の有無

F6子の有無 F7配偶者またはパートナーの就業の有無

- (1) 一般的な質問
- (2) 職場における「女性活躍と就労」に関する質問
- (3) 仕事と生活の調和に関する質問
- (4) 地域社会に関する質問
- (5) 男女の人権に関する質問
- (6) 「性」の多様性に関する質問
- (7) 男女共同参画施策に関する質問
- (8) 自由記入

8 調査票の集計

電子計算機による集計(委託)

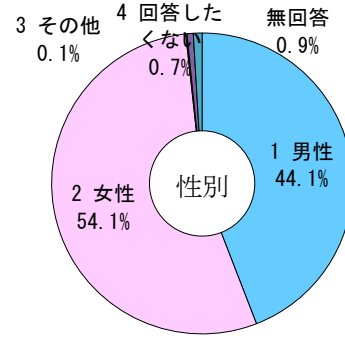
報告書の見方

- ①調査結果の数値は、原則として百分率で表記した。百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表記している。従って、内訳を合計しても100%に合致しない場合がある。
- ②アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が100%を上回る場合がある。
- ③属性別の結果については、特徴的なもの、資料として重要と思われるものについて分析した。なお、図表によっては、不明サンプルを表示していないため、標本数の合計が全体の標本数と異なる場合がある。
- ④設問中の選択肢の文字数が多いものについては、本文中や図表中において、便宜上短く省略している場合がある。
- ⑤回答者数が少ない場合参考値として掲載。データの精度が低くなる為その分析は行わないものとする。

II 回答者の属性

F 1 性別

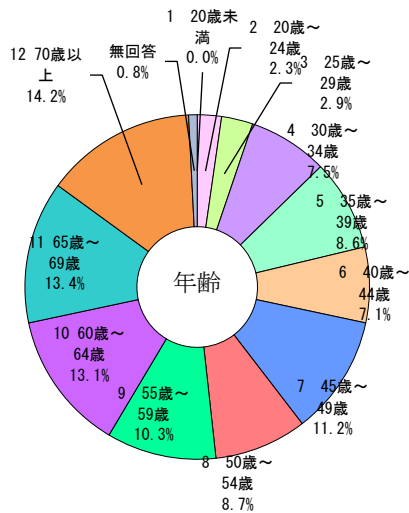
	回答者数 (人)	割合 (%)
1 男性	330	44.1%
2 女性	405	54.1%
3 その他	1	0.1%
4 回答したくない	5	0.7%
無回答	7	0.9%
合計	748	100.0%



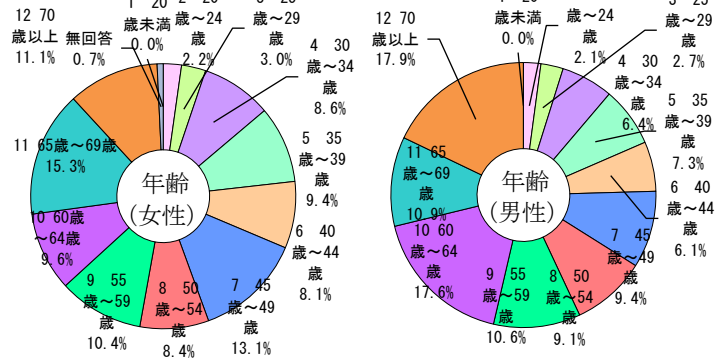
F 2 年齢

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	その他	全体	女性	男性	その他
1 20歳未満	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
2 20歳～24歳	17	9	7	1	2.3	2.2	2.1	7.7
3 25歳～29歳	22	12	9	1	2.9	3.0	2.7	7.7
4 30歳～34歳	56	35	21	0	7.5	8.6	6.4	0.0
5 35歳～39歳	64	38	24	2	8.6	9.4	7.3	15.4
6 40歳～44歳	53	33	20	0	7.1	8.1	6.1	0.0
7 45歳～49歳	84	53	31	0	11.2	13.1	9.4	0.0
8 50歳～54歳	65	34	30	1	8.7	8.4	9.1	7.7
9 55歳～59歳	77	42	35	0	10.3	10.4	10.6	0.0
10 60歳～64歳	98	39	58	1	13.1	9.6	17.6	7.7
11 65歳～69歳	100	62	36	2	13.4	15.3	10.9	15.4
12 70歳以上	106	45	59	2	14.2	11.1	17.9	15.4
無回答	6	3	0	3	0.8	0.7	0.0	23.1
合計	748	405	330	13	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】



【男女別】

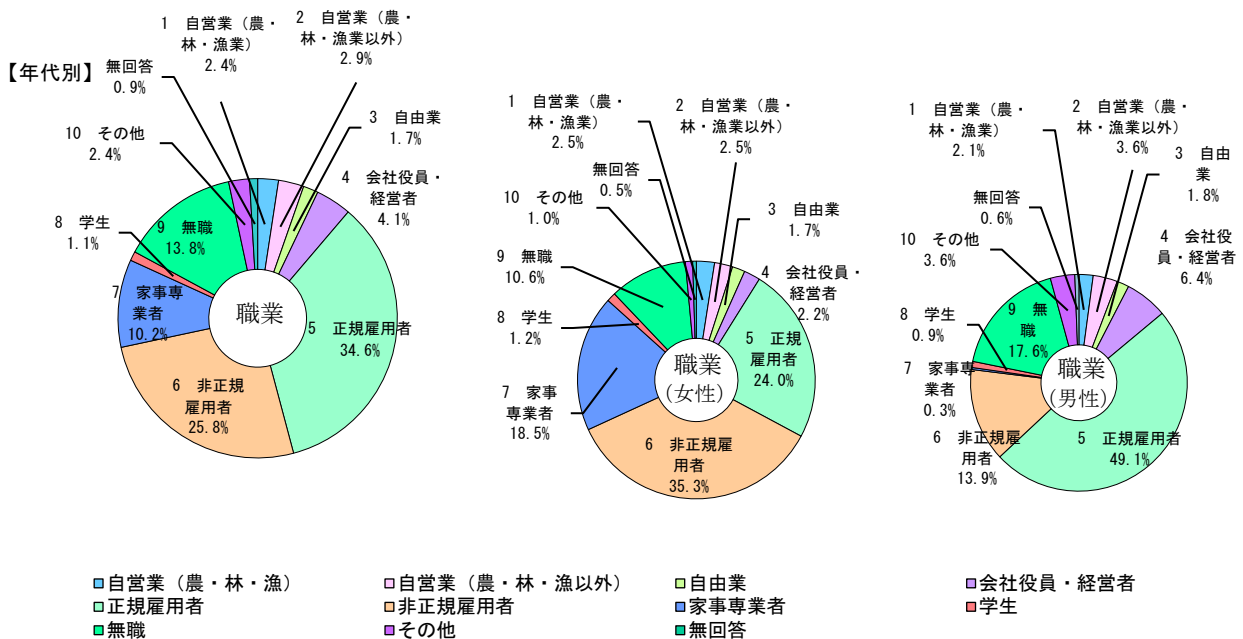


F 3 職業

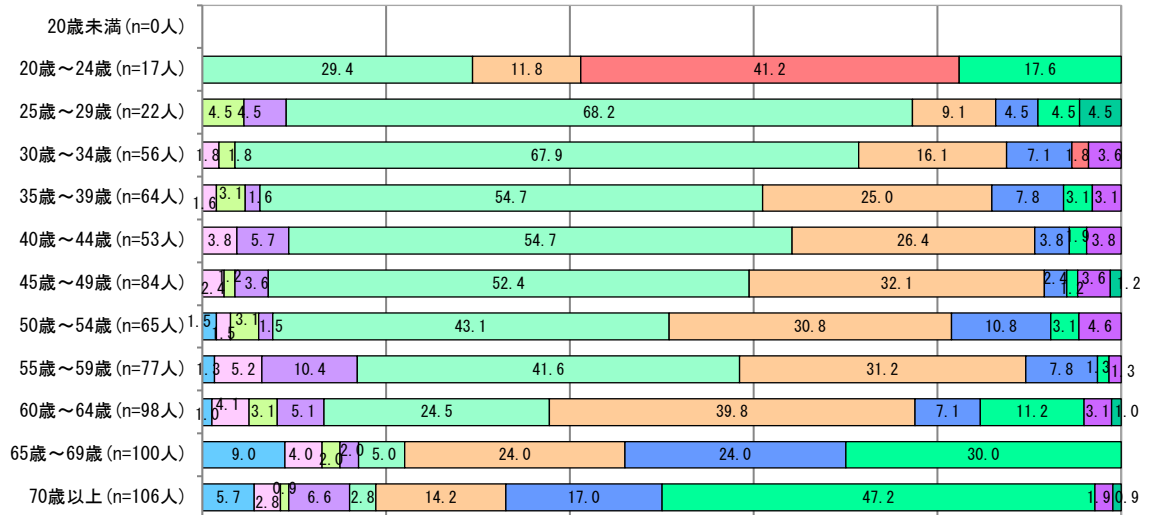
	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	その他	全体	女性	男性	その他
1 自営業 (農・林・漁業)	18	10	7	1	2.4	2.5	2.1	7.7
2 自営業 (農・林・漁業以外)	22	10	12	0	2.9	2.5	3.6	0.0
3 自由業	13	7	6	0	1.7	1.7	1.8	0.0
4 会社役員・経営者	31	9	21	1	4.1	2.2	6.4	7.7
5 正規雇用者	259	97	162	0	34.6	24.0	49.1	0.0
6 非正規雇用者	193	143	46	4	25.8	35.3	13.9	30.8
7 家事専業者	76	75	1	0	10.2	18.5	0.3	0.0
8 学生	8	5	3	0	1.1	1.2	0.9	0.0
9 無職	103	43	58	2	13.8	10.6	17.6	15.4
10 その他	18	4	12	2	2.4	1.0	3.6	15.4
無回答	7	2	2	3	0.9	0.5	0.6	23.1
合計	748	405	330	13	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

【男女別】



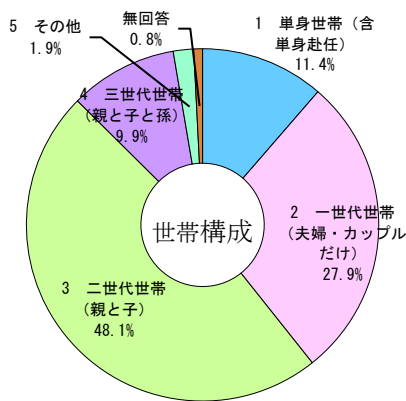
0% 20% 40% 60% 80% 100%



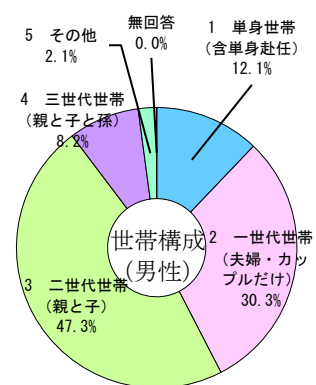
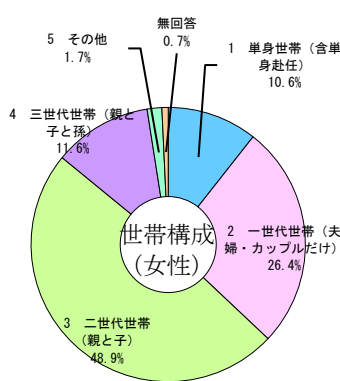
F 4 あなたのご家族の構成（世帯構成）について教えてください。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	その他	全体	女性	男性	その他
1 単身世帯（含単身赴任）	85	43	40	2	11.4	10.6	12.1	15.4
2 一世帯世帯（夫婦・カップルだけ）	209	107	100	2	27.9	26.4	30.3	15.4
3 二世帯世帯（親と子）	360	198	156	6	48.1	48.9	47.3	46.2
4 三世帯世帯（親と子と孫）	74	47	27	0	9.9	11.6	8.2	0.0
5 その他	14	7	7	0	1.9	1.7	2.1	0.0
無回答	6	3	0	3	0.8	0.7	0.0	23.1
合計	748	405	330	13	100.0	100.0	100.0	100.0

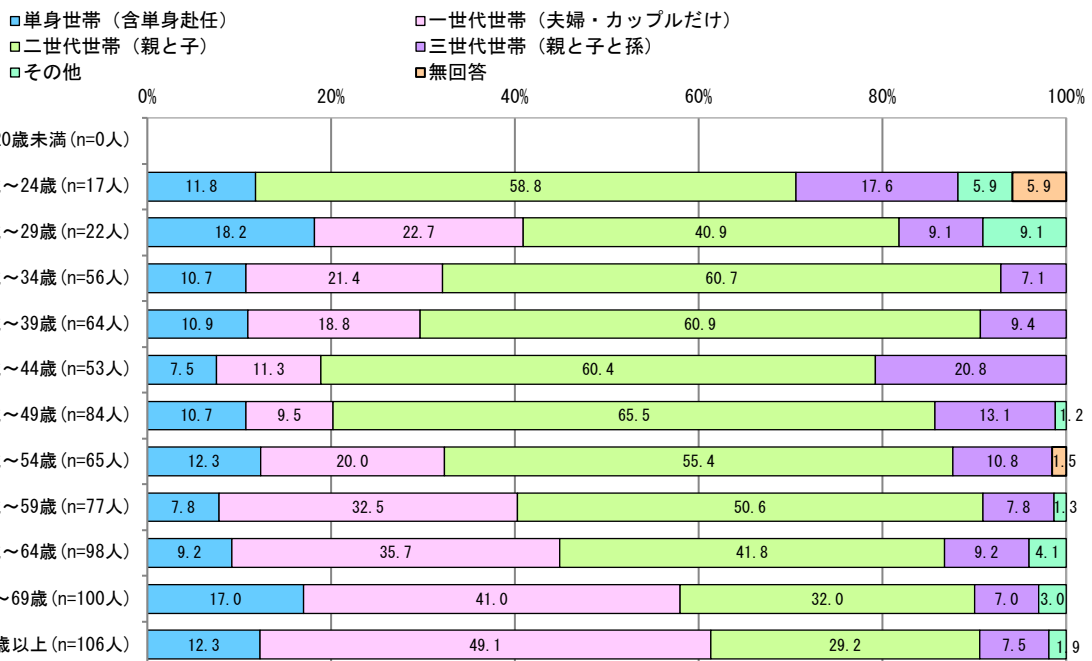
【全体】



【男女別】



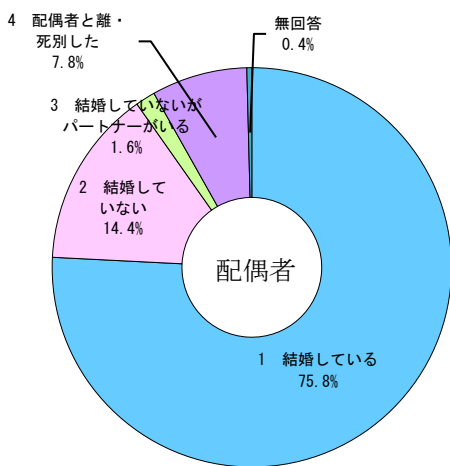
【年代別】



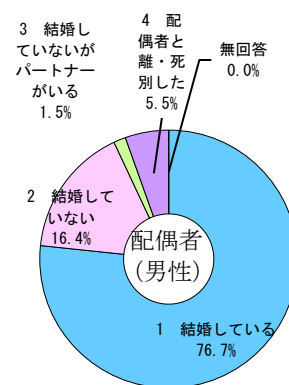
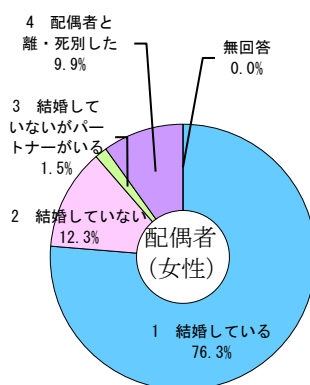
F5 あなたは現在、結婚していますか。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	その他	全体	女性	男性	その他
1 結婚している	567	309	253	5	75.8	76.3	76.7	38.5
2 結婚していない	108	50	54	4	14.4	12.3	16.4	30.8
3 結婚していないがパートナーがいる	12	6	5	1	1.6	1.5	1.5	7.7
4 配偶者と離・死別した	58	40	18	0	7.8	9.9	5.5	0.0
無回答	3	0	0	3	0.4	0.0	0.0	23.1
合計	748	405	330	13	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

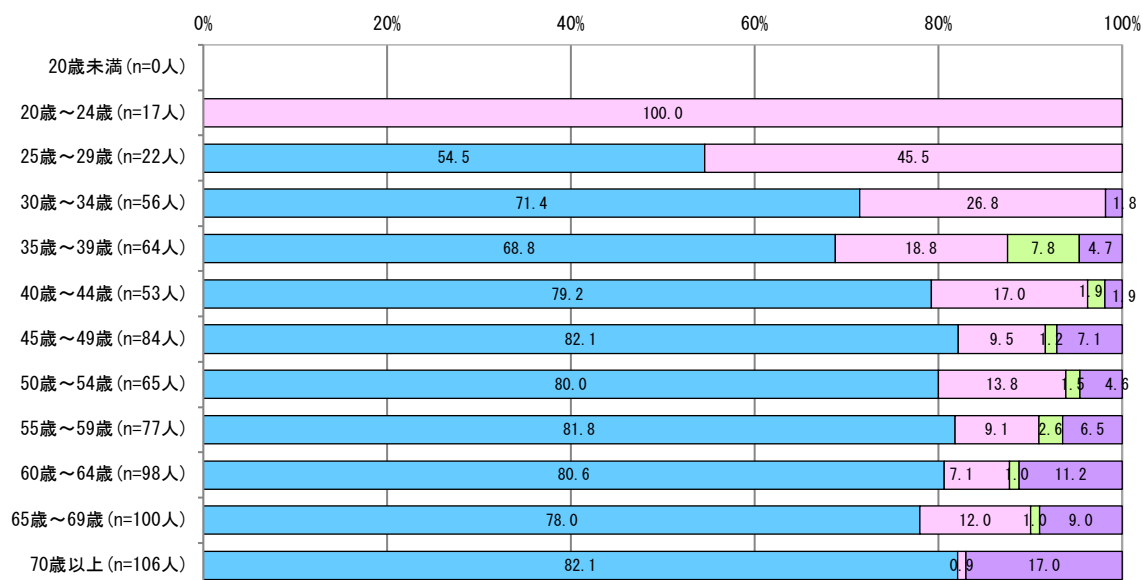


【男女別】



【年代別】

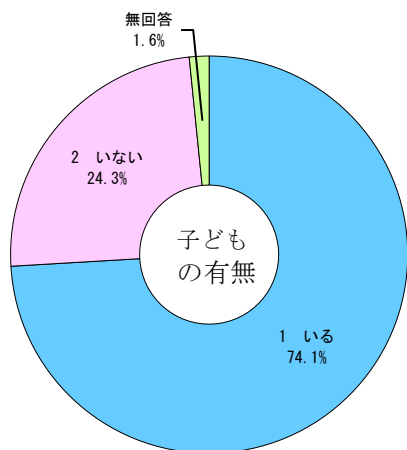
■結婚している □結婚していない ■結婚していないがパートナーがいる □配偶者と離・死別した ■無回答



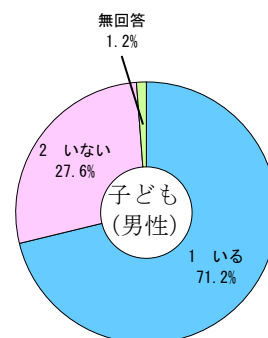
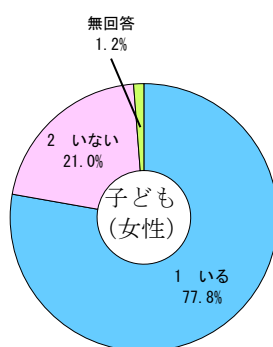
F 6 あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	その他	全体	女性	男性	その他
1 いる	554	315	235	0	74.1	77.8	71.2	0.0
2 いない	182	85	91	1	24.3	21.0	27.6	100.0
無回答	12	5	4	0	1.6	1.2	1.2	0.0
合計	748	405	330	1	100.0	100.0	100.0	100.0

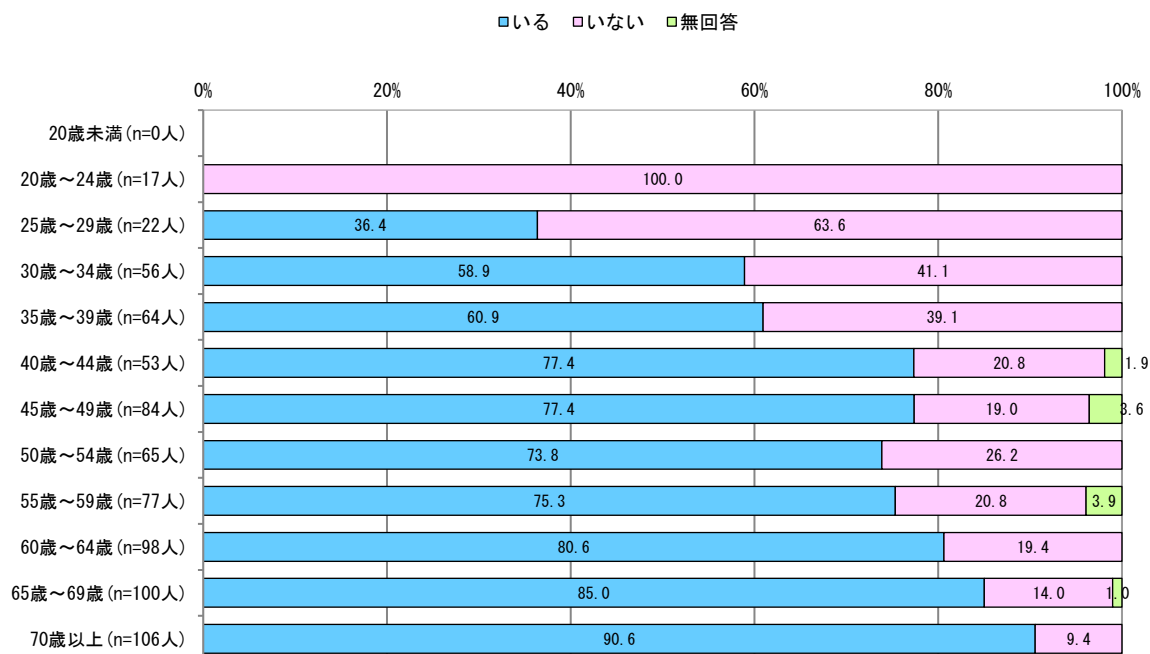
【全体】



【男女別】



【年代別】

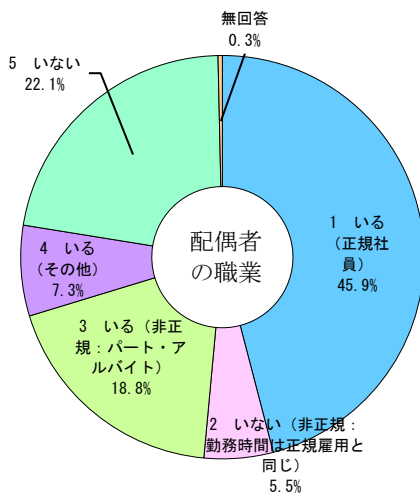


結婚している方またはパートナーがいる方におたずねします。

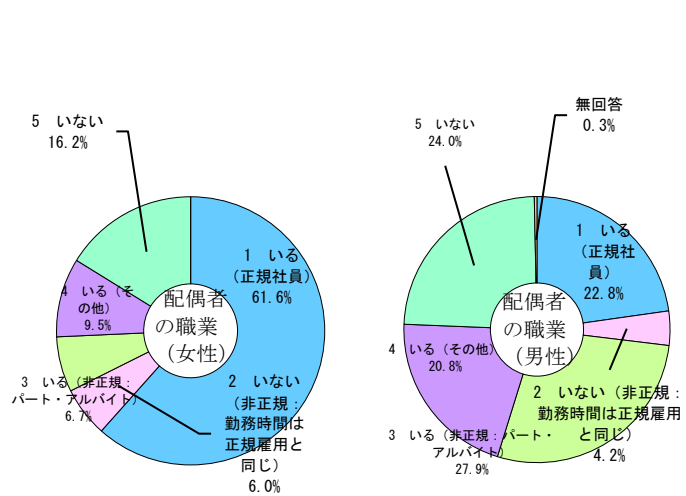
F 7 配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	その他	全体	女性	男性	その他
1 いる (正規社員)	266	194	71	1	45.9	61.6	27.5	16.7
2 いる (非正規:勤務時間は正規雇用と同じ)	32	19	13	0	5.5	6.0	5.0	0.0
3 いる (非正規:パート・アルバイト)	109	21	87	1	18.8	6.7	33.7	16.7
4 いる (その他)	42	30	11	0	7.3	9.5	4.3	0.0
5 いない	128	51	75	2	22.1	16.2	29.1	33.3
無回答	2	0	1	1	0.3	0.0	0.4	16.7
合計	579	315	258	6	100.0	100.0	100.0	100.0

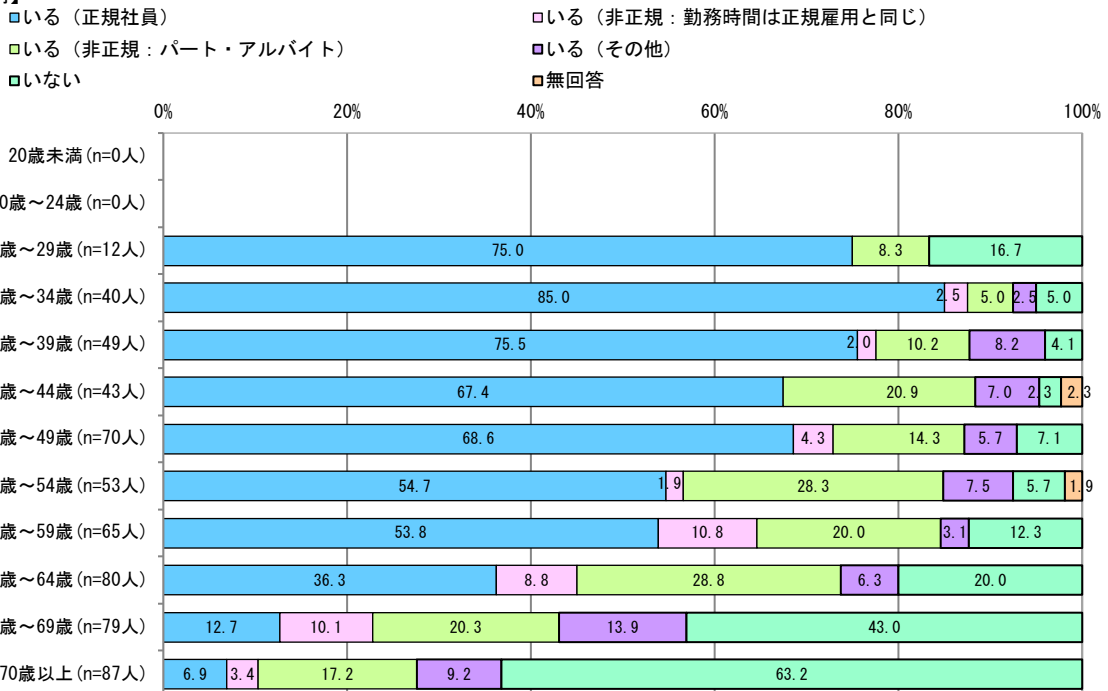
【全体】



【男女別】



【年代別】



Ⅲ 結果の概要

1 一般的なこと

(1) 社会における男女の扱いについて

「家庭生活」、「学校教育」、「地域社会」、「職場」、「法律や制度」、「社会通念・慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」の8つの分野に関して、男女は平等になっているかを尋ねたところ、「平等である」と考えている割合が高いのは、「学校教育」(58.7%)の1分野であった。それ以外の分野では「男性の方が優遇」という回答割合の合計が最も多くなっている。特に「社会通念・慣習・しきたり」、「政治」では「男性の方が優遇」という回答割合の合計が約8割となっている。

分野別でみると、「家庭生活」においては、「男性の方が優遇」という回答割合の合計は、男性が47.2%に対し、女性が68.4%となり、性別による感じ方に差がある。同様に、「法律や制度」においても、「男性の方が優遇」という回答割合の合計は、男性が35.7%なのに対し、女性は53.6%となっている。また、「地域社会」、「職場」、「社会通念・慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」といった分野でも、「男性の方が優遇」という回答割合が多く、男女とも約5割～8割となっている。

(2) 男女共同参画に関する用語について

「男女共同参画社会」に関する7つの用語の認知度を尋ねたところ、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が高いのは、「ジェンダー」(95.2%)、「男女共同参画社会」(83.2%)となっている。また、「女性活躍推進法」(64.0%)、「女性差別撤廃条約」(53.2%)も、5割以上となっている。それ以外の3つの用語の認知度は、5割を下回っている。

(3) 固定的性別役割分担意識について

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は17.6%、一方、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は72.6%となっている。前年に比べ、前者は2.6ポイント減少し、後者は2.1ポイント増加した。平成22年調査から、「反対」、「どちらかといえば反対」という回答の合計が、半数を上回っている。年代別性別でみると、35歳～39歳の女性、45歳～49歳の男性、50歳～54歳の女性、60歳代の男性、70歳以上の女性で「賛成」がある結果となっている。

(4) 「女らしさ・男らしさ」などを言われたり、期待されることについて

「たまにある」という回答が、男女とも約6割となる。30歳～34歳の男性を除く、いずれの年代性別でも、「よくある」、「たまにある」の回答割合の合計が6割以上となっている。

言われる場としては、「家庭」、「職場」、「地域・近隣」がそれぞれ4割以上となる。男性では「地域・近隣」、女性では「家庭」が多い傾向にある。

内容としては、「家事・育児・介護」、「働き方や仕事の内容」、「行動の仕方」が4割以上となっている。

(5) 女性が職業をもつことについて

女性が働くことへの考え方に関しては、男女ともに「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が5割以上と、最も多い回答となっている。

2 職場における「女性活躍と就労」に関することについて

(1) 方針決定の場などへの女性活躍の必要性について

方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性に関しては、男女ともに「必要だと思う」という回答が最も多い回答となっており、「必要ないと思う」という回答は1.3%となっている。

(2) 職場における男女の平等について

職場における「賃金」、「昇進や昇格」、「仕事の内容」、「研修の機会や内容」、「経験や能力を発揮する機会」の5つに関して、男女が平等であるかを尋ねたところ、いずれの項目でも「平等である」という回答が最も多くなっている。「昇進や昇格」に関しては、「平等である」がやや多いものの、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答と拮抗している。「どちらかといえば女性の方が優遇されている」という回答が最も多いのは、「仕事の内容」で10.1%となっているが、この項目における「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は22.6%と女性を上回っている。

(3) 就労意識について

職業に就いている方に尋ねたところ、「そう思う」と考えている割合が高いのは、「あなた自身は活躍したい」(30.2%)、「仕事を続けキャリアを積んでいきたい」(25.2%)、「女性が社会で働くには不利な点が多い」(23.1%)「女性も管理職として活躍している」(19.6%)の4分野であった。「思わない」と考えている割合が高いのは、「女性の管理職の部下には、なりたくない」(45.9%)、「退職して仕事に就かない」(44.0%)、「管理職への打診があれば受けてみたい」(28.5%)の3分野であった。

(4) 職場における女性の雇用や登用の推進について

女性が活躍するために企業が取り組むべきは何かと尋ねたところ、「とても重要だと思う」と考えている割合が高いのは、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入」(61.7%)、「企業内託児所や学童保育所などの設置」(53.9%)、「在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化」(51.4%)、「非正規労働者の正社員転換・待遇改善」(46.5%)の4分野であった。

(5) 再就職について

離職されている方に、再就職の際の雇用形態の希望を尋ねたところ、全体で見ると「パート・アルバイト(家に子どもがいない時間のみなど)」(34.6%)という回答が最も多くなっている。次いで女性は、「正規の社員・職員」(11.9%)、男性は「派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員」(22.0%)という回答が多くなっている。

「派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員」、「パート・アルバイト(家に子どもがいない時間のみなど)」を回答した理由を尋ねたところ、男女ともに「仕事より家庭生活を優先したいから」が最も多い回答となっている。

(6) 離職の原因(理由)について

離職の原因(理由)について尋ねたところ、「出産」という回答が全体で25.0%、「結婚」が全体で23.7%となっているが、「出産」では男性が1.3%なのに対し、女性は36.9%、「結婚」では男性が1.3%なのに対し、女性は34.9%となり、性別により差がある。

(7) 女性の就労について

女性の活躍を進めるうえでの問題について尋ねたところ、「家事・育児などと仕事の両立が難しい」(83.2%)という回答が最も多くなっており、次いで「結婚・出産で退職す

る（退職せざるを得ない）女性が多い」（50.4%）、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」（37.0%）となっている。

女性が意欲をもって働き続けるために何が必要か尋ねたところ、「育児・介護に関する制度の充実」（47.6%）が最も多い回答となっており、次いで「職場の理解や協力」（36.5%）、「家族の理解や協力」（34.0%）、「働き方改革の推進」（31.1%）と続いている。

離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思うか尋ねたところ、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」（83.2%）が最も多い回答となっており、次いで「保育所などの保育施設の充実」（63.4%）、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」（54.0%）と続いている。

3 仕事と生活の調和に関することについて

（1）ワーク・ライフ・バランスの認知度について

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度については、「言葉も内容も知っている」という回答が、全体の38.1%となっており、認知度は依然として低い。「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が45.5%と女性の32.3%より多くなっている。

（2）理想とする生活と、現実の生活について

「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、理想とする生活と、現実の生活について尋ねたところ、理想とする生活としては、『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となり、現実の生活では、『家庭生活』優先」が最も多い回答となっている。女性は40.0%と多く回答しており、男性は13.3%となっている。男性では、『仕事』優先」という回答が30.6%となっており、性別により違いがある。

（3）家事と育児・介護について

「掃除」、「洗濯」、「食料品、日用品などの買物」、「食事のしたく」、「食事の後かたづけ」、「ごみ捨て」の6つの分野に関して尋ねたところ、「主に自分がしている」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「ごみ捨て」（42.8%）、女性では、「食事のしたく」（79.8%）であった。「していない」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「食事のしたく」（37.5%）で、女性では、「ごみ捨て」（16.5%）であった。

また、男性は、「食料品、日用品などの買物」、「掃除」については、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合が3割を超えている。

家事従事時間に関しては、平日では「0～1時間未満」という回答は、男性47.6%、女性6.7%と差が大きくなっている。休日では「0～1時間未満」という回答が男性27.6%、女性4.4%となっており、平日に比べて差が小さくなっている。

育児に関しては、「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合の合計は、男性は21.7%、女性は58.6%と差が大きい。介護に関しては男性が14.1%、女性が14.8%と育児より差が小さい。

「育児・介護休業制度」に関しても、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」（61.0%）、「職場や同僚に迷惑がかかるから」（55.7%）、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」（51.7%）、「昇給、昇格に影響すると考えるから」（23.5%）といった理由で利用が進まない状況となっている。

4 地域社会に関することについて

（1）自治会やPTAなど地域の活動における現状と女性の参画について

自治会やPTAなど、地域での活動における事例について尋ねたところ、「そうである」という回答が多かったのは、「自治会やPTAの責任ある役職は、ほとんどが男性である」で、45.6%となっている。一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項

は、男性だけで決めている」(40.2%)、「女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される」(37.6%)、「自治会やPTAの会長は、男性と決まっている」(32.0%)となっている。

女性が地域の重要な方針決定の場に参画するためにはどうすればよいか尋ねたところ、「積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も回答割合が高く、2割(22.7%)となっている。次いで、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」(22.5%)と「役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を導入すること」(14.8%)と続いている。

5 男女の人権に関することについて

(1) DV(ドメスティック・バイオレンス)について

DVを受けた又はしたことがあるか尋ねたところ、「受けたことがある」と答えた割合は、男性が12.4%に対し、女性は32.3%となっている。項目別でみると、「大声で怒鳴る」については、男性で「したことがある」という回答が20.6%、女性では6.7%、女性では「受けたことがある」という回答が17.5%、男性は4.2%となっている。

DVにあったときの相談窓口として、「知っている」という回答が最も多かったのは、「県警(警察安全相談窓口)」で4割(40.5%)となっている。次いで、「相談できる窓口は知らない」(38.5%)、「女性の人権ホットライン」(12.8%)、「長野県児童虐待・DV24時間ホットライン」(12.3%)、「長野県女性相談センター」(12.2%)、「長野市福祉事務所」(8.8%)の順となる。

DVに対する考え方は、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」が最も多く、約6割(58.0%)となっている。

6 「性」の多様性に関する質問

(1) 性的少数者(セクシュアルマイノリティ)について

性的少数者(セクシュアルマイノリティ)についてどのような考え、イメージを持っているか尋ねたところ、「性の多様性として認めるべきである」(63.8%)が最も多く約6割となっている。次いで、「テレビ等マスコミにも取り上げられており、理解に努めようと思う」(44.3%)、「身近な存在だと思う」(24.2%)と続いている。

(2) 性的少数者(セクシュアルマイノリティ)の人権について

「社会全体での教育や啓発」(52.5%)で、約5割となっている。次いで、「学校等、子供のころからの教育や啓発」(45.5%)、「社会制度(法制度や条例制定等)の整備」(25.4%)と続いている。「学校等、子供のころからの教育や啓発」の回答割合は、男性が40.0%、女性が50.1%となっており、性別により違いがある。

7 男女共同参画施策に関することについて

(1) 男女共同参画社会実現へ向けた行政に期待することについて

行政に期待することについては、「保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備」(67.4%)が最も多くなっている。次いで、「多様で柔軟な働き方(テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など)や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」(62.0%)、「出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組」(56.1%)の順となっている。

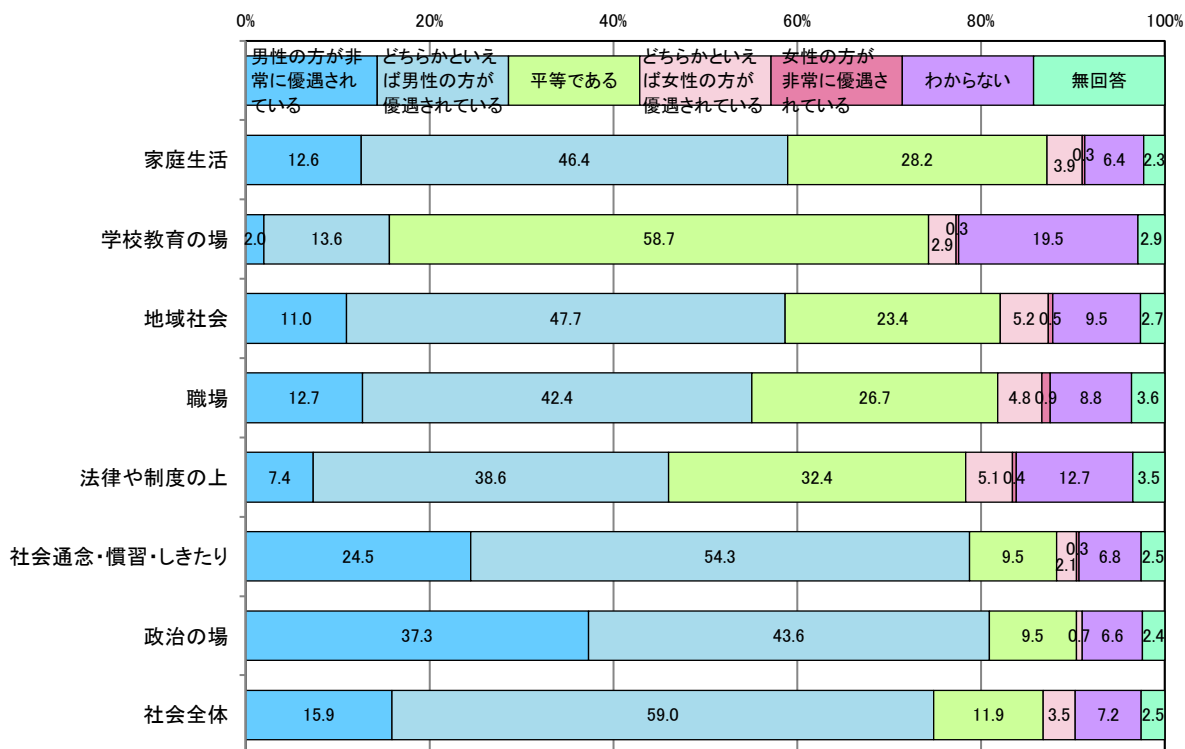
IV 調査の結果

一般的なこと

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。（それぞれ〇は1つ）

- ・「平等である」と考えている割合が多いのは、「学校教育」（58.7%）、「法律や制度」（32.4%）、「家庭生活」（28.2%）の3分野となっている。
- ・一方、「政治」（80.9%）、「社会通念・慣習・しきたり」（78.8%）では、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答合計がいずれも約8割で最も多い回答となっている。

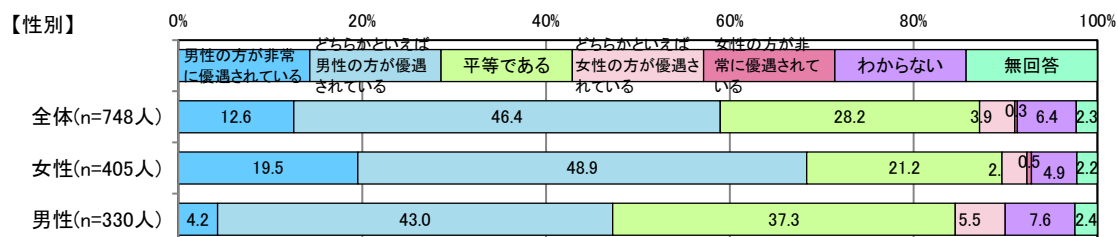
【全分野】



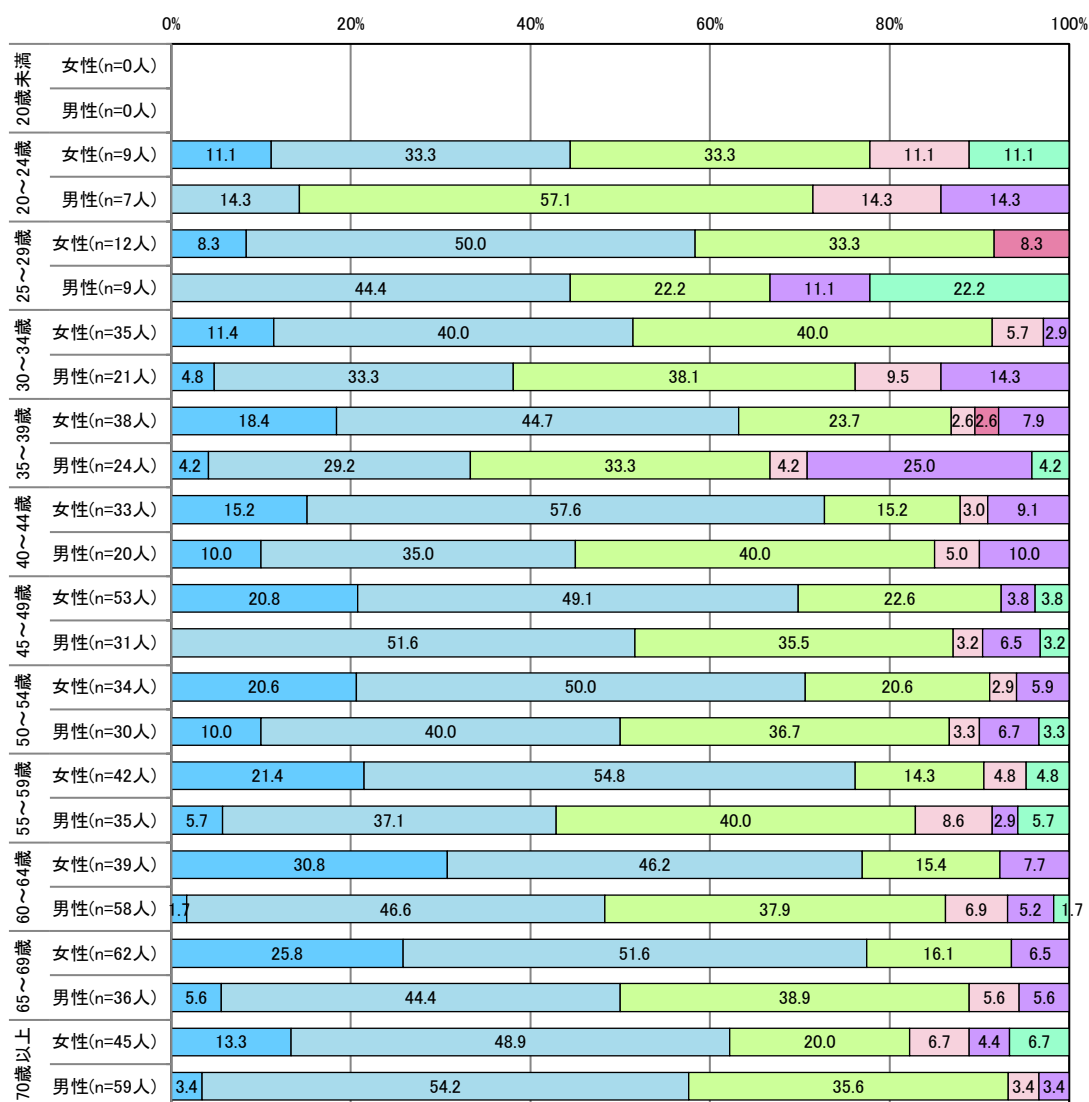
全体 (n=748人)

1 家庭生活

- 性別でみると、男性は、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」（43.0％）という回答が最も多く、約4割となっている。女性も「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（48.9％）が約5割となっている。「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答合計は、男性では約5割（47.2％）となっているが、女性では約7割（68.4％）となっている。
- 世代別性別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答合計は、女性では55歳～69歳で約8割となっている。男性でも、45歳～54歳、65歳～69歳で約5割、70歳以上で約6割となっている。



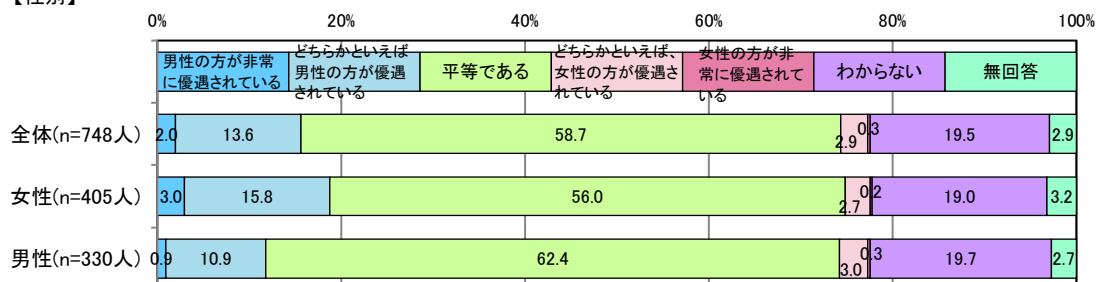
【世代別性別】



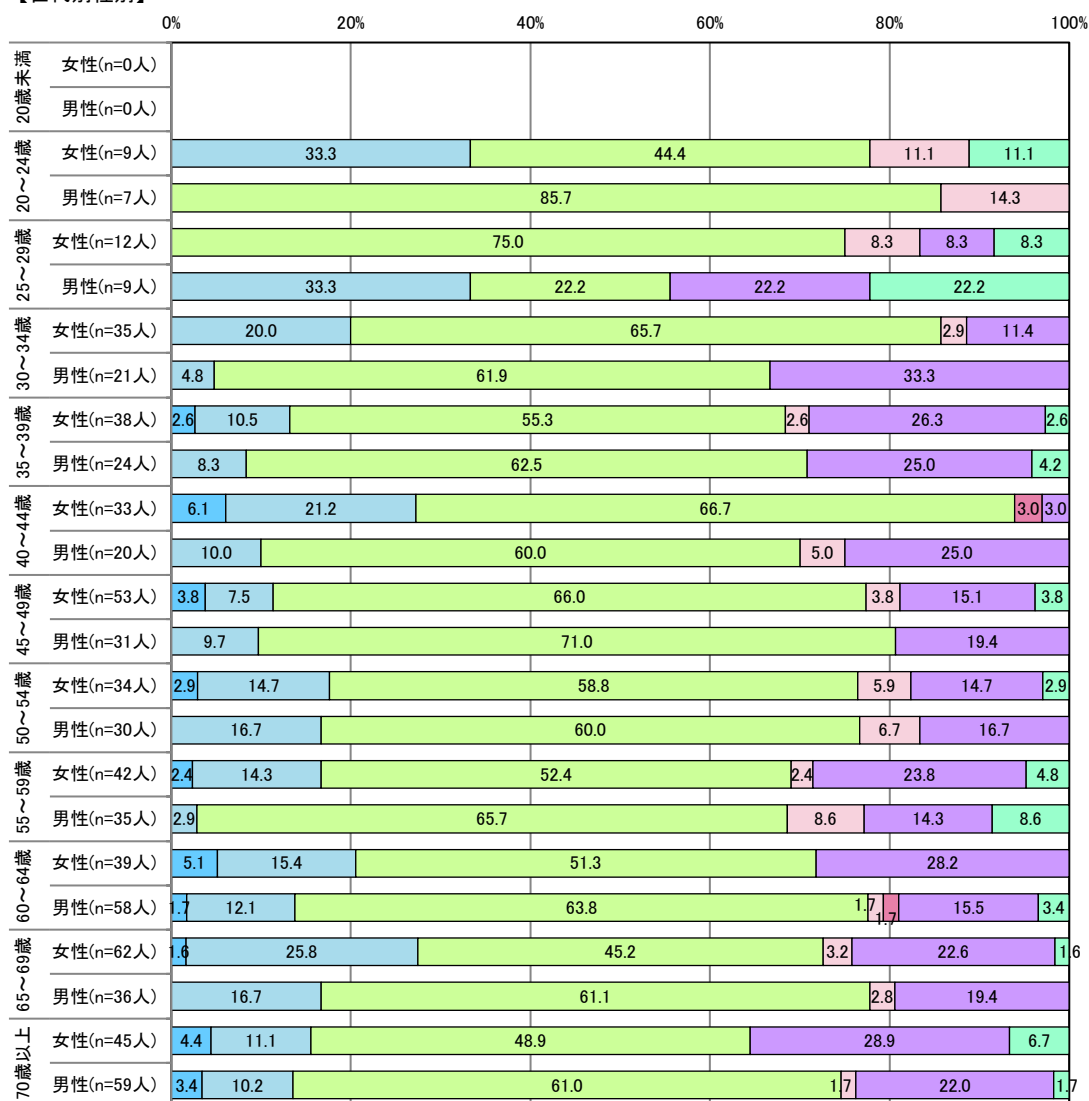
2 学校教育の場

- 性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性（62.4%）、女性（56.0%）とも約6割となっている。「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答合計は、男性よりも女性の方がやや多くなっている。
- 世代別性別でみると、25歳～29歳の男性を除く、いずれの世代でも「平等である」という回答が最も多くなっている。「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が3割以上となる世代は、20歳～24歳の女性、25歳～29歳の男性となっている。

【性別】



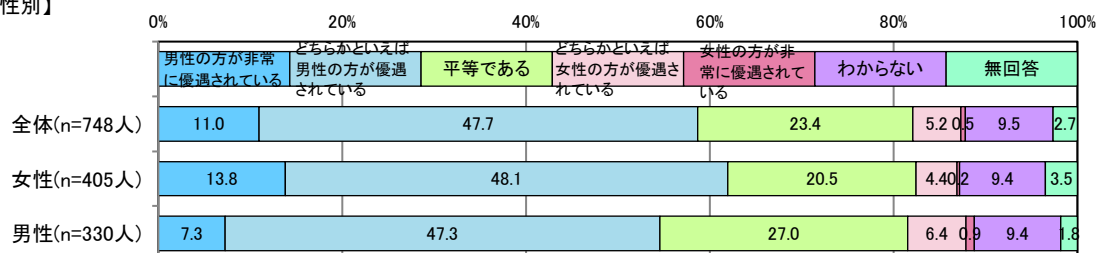
【世代別性別】



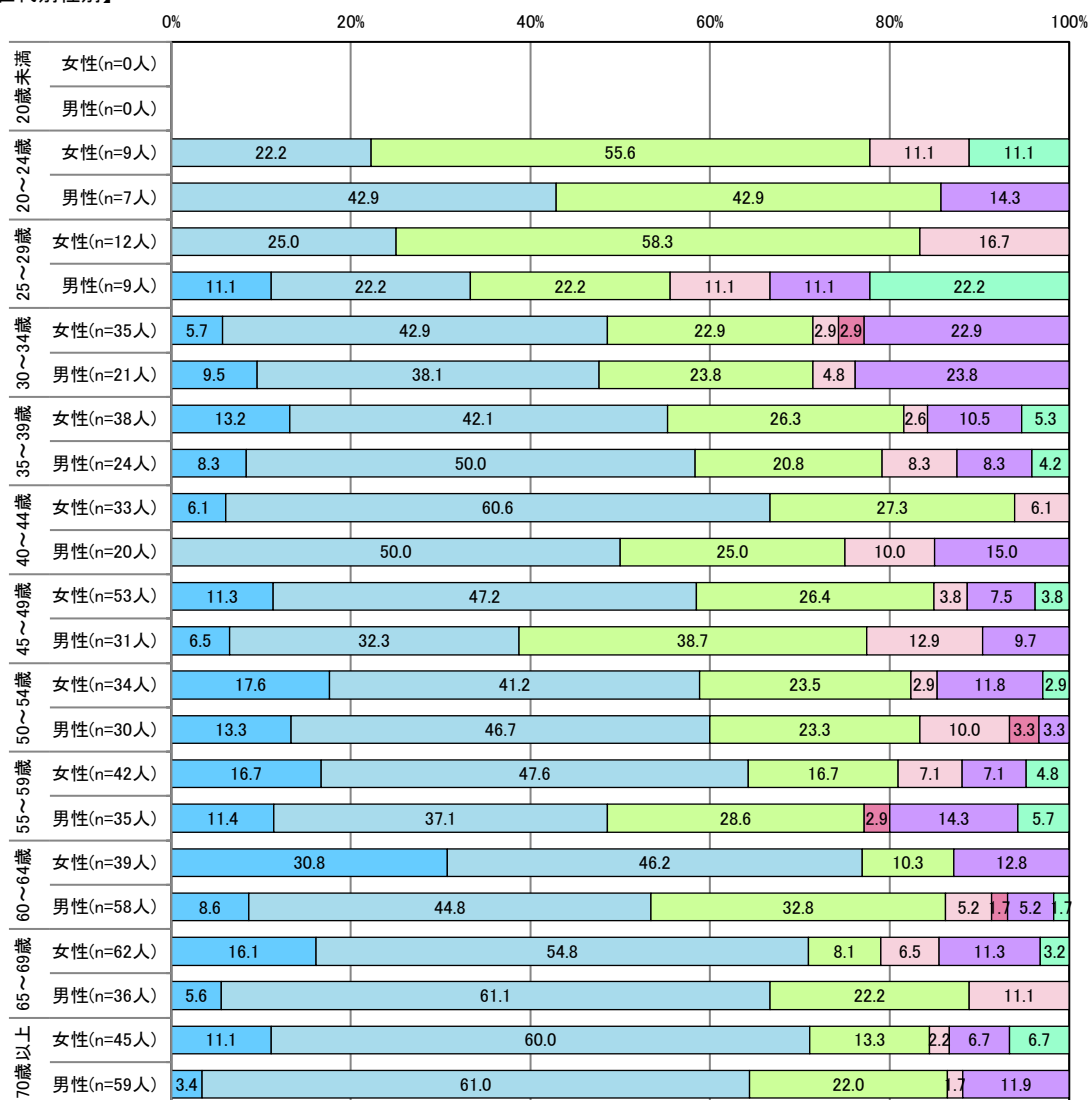
3 地域社会

- ・性別でみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、男性（47.3%）、女性（48.1%）とも約5割となっている。一方、「平等である」という回答は男性が約3割（27.0%）であるのに対し、女性は約2割（20.5%）となっている。
- ・世代別性別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答合計が6割以上となる世代は、40歳～44歳の女性、50歳～54歳の男性、55歳～59歳の女性、60歳～64歳の女性、65歳以上の男女となっている。

【性別】

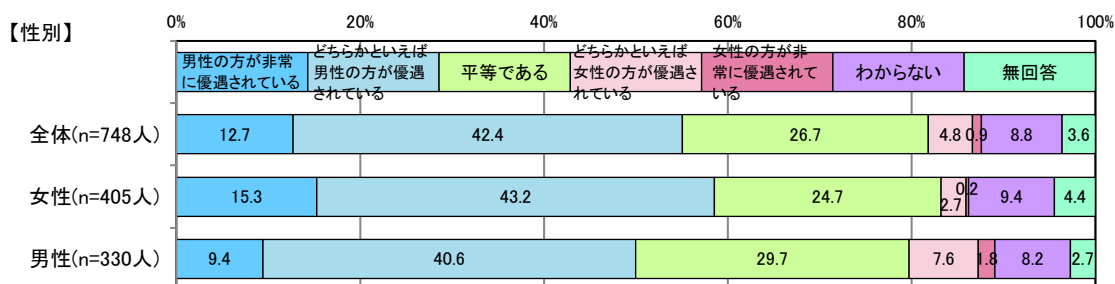


【世代別性別】

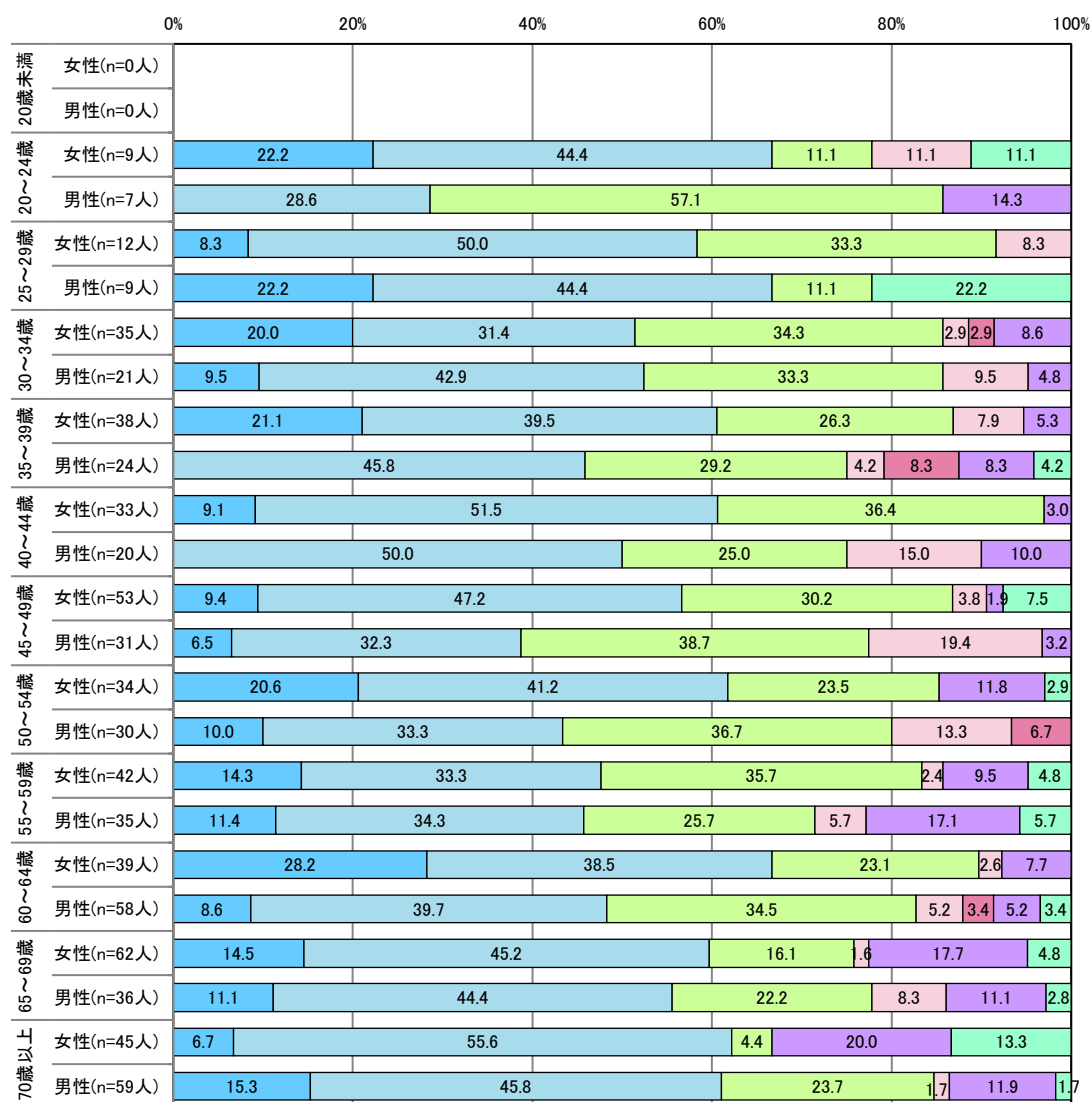


4 職場

- ・性別でみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、男性（40.6%）、女性（43.2%）とも約4割となっている。
- ・世代別性別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答合計が6割以上となる世代は、20歳～24歳の女性、25歳～29歳の男性、35歳～44歳の女性、50歳～54歳の女性、60歳～64歳の女性、70歳以上の男女となっている。

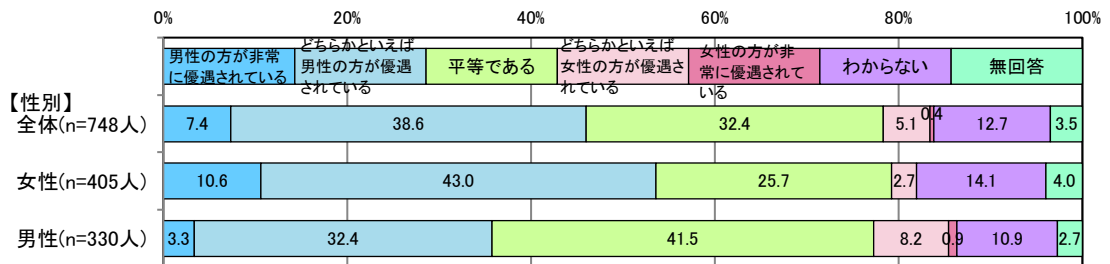


【世代別性別】

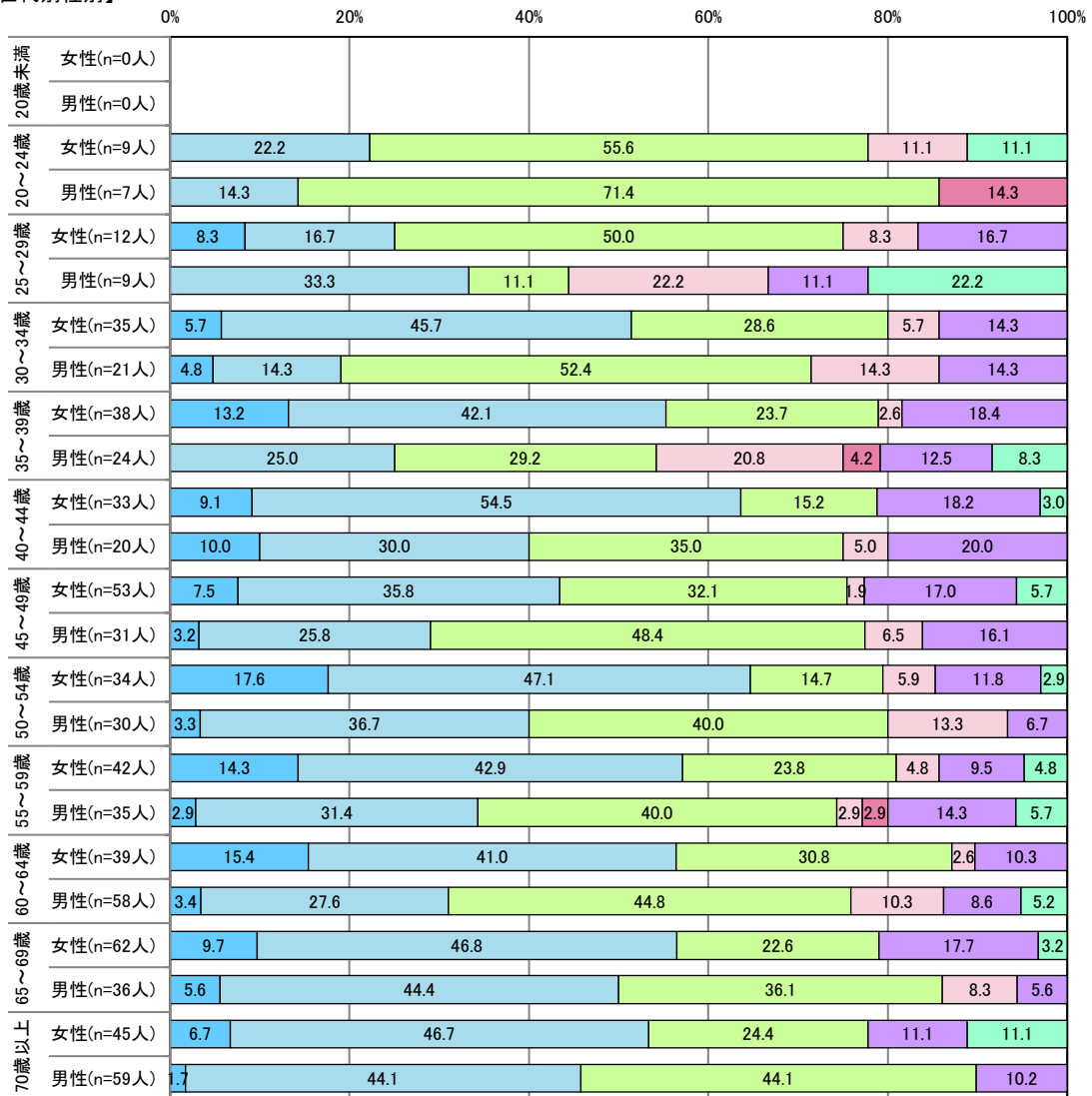


5 法律や制度の上

- ・性別でみると、男性では「平等である」という回答が最も多く、約4割（41.5%）となっている。一方、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（43.0%）という回答が最も多く、法律や制度については男女間で感じ方に差があると考えられる。
- ・世代別性別でみると、男性では、20歳～24歳、30歳～34歳の世代で、「平等である」という回答が5割以上となる。女性では、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答合計が6割以上となる世代は、40歳～44歳、50歳～54歳となっている。

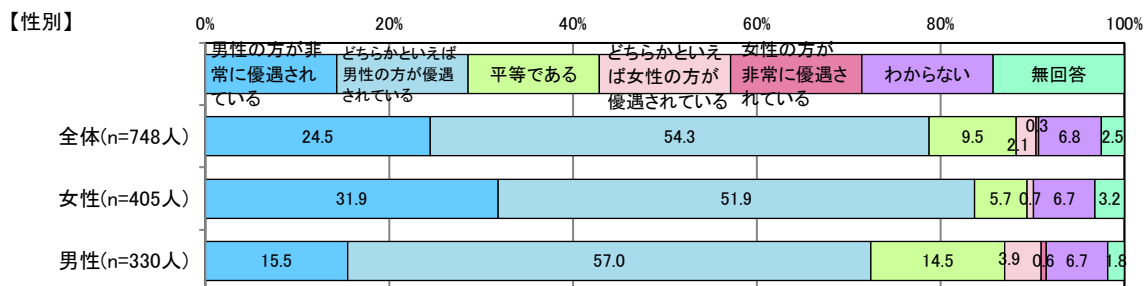


【世代別性別】

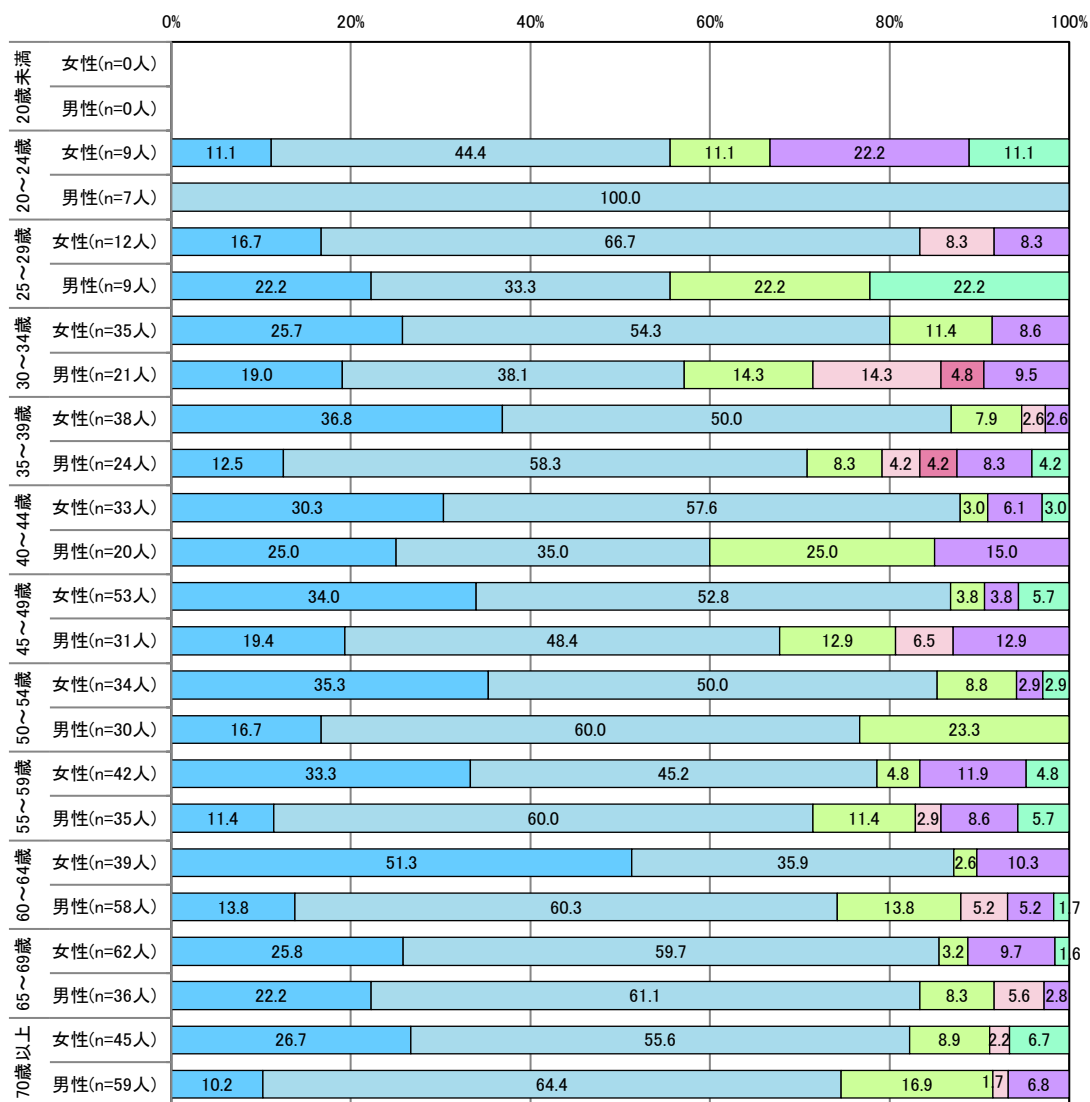


6 社会通念・慣習・しきたり

- ・性別でみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、男性（57.0%）、女性（51.9%）となっている。
- ・世代別性別でみると20歳～24歳の女性、25歳～34歳の男性の世代を除いて、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答合計が6割以上となっている。
- ・特に女性では、20歳～24歳、55歳～59歳を除いて、回答合計が8割以上となっている。



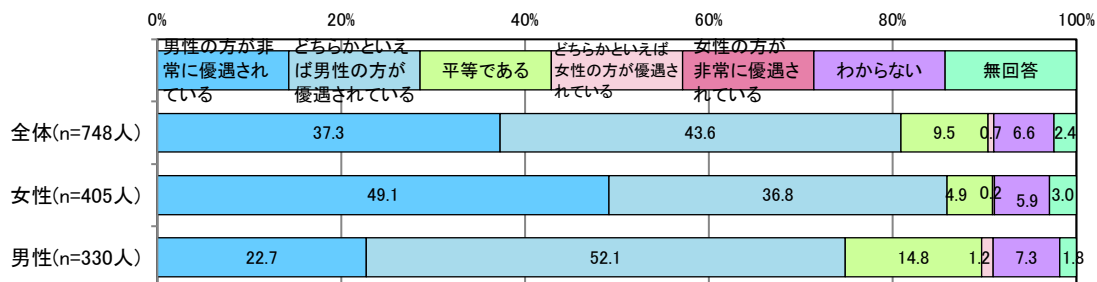
【世代別性別】



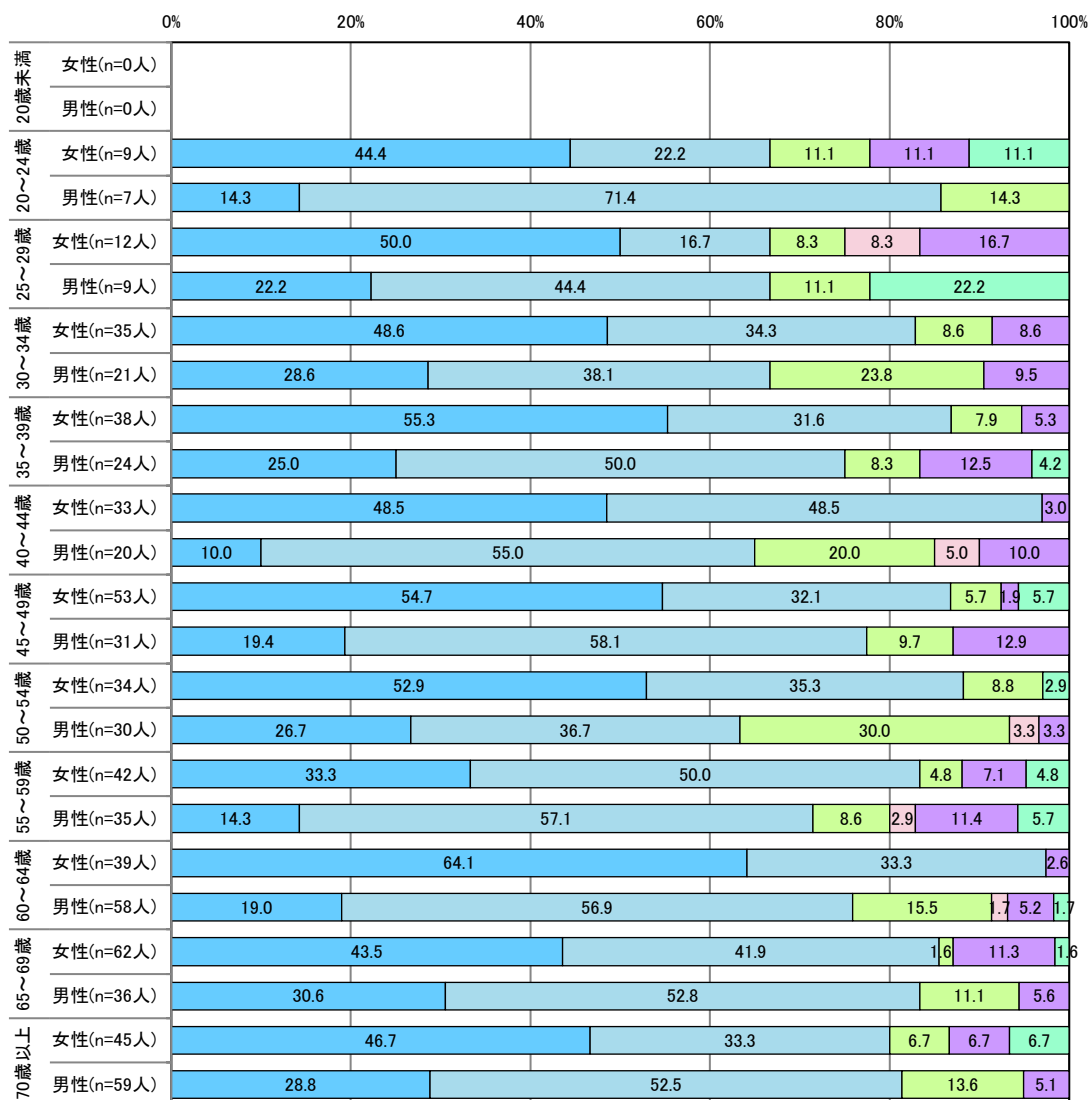
7 政治の場

- ・性別でみると、男性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が約5割（52.1%）、女性は「男性の方が非常に優遇されている」が約5割（49.1%）と最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代においても「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答合計が6割以上となっている。

【性別】

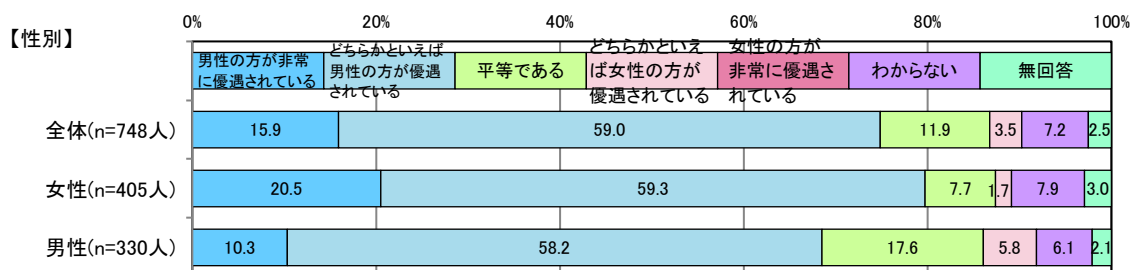


【世代別性別】

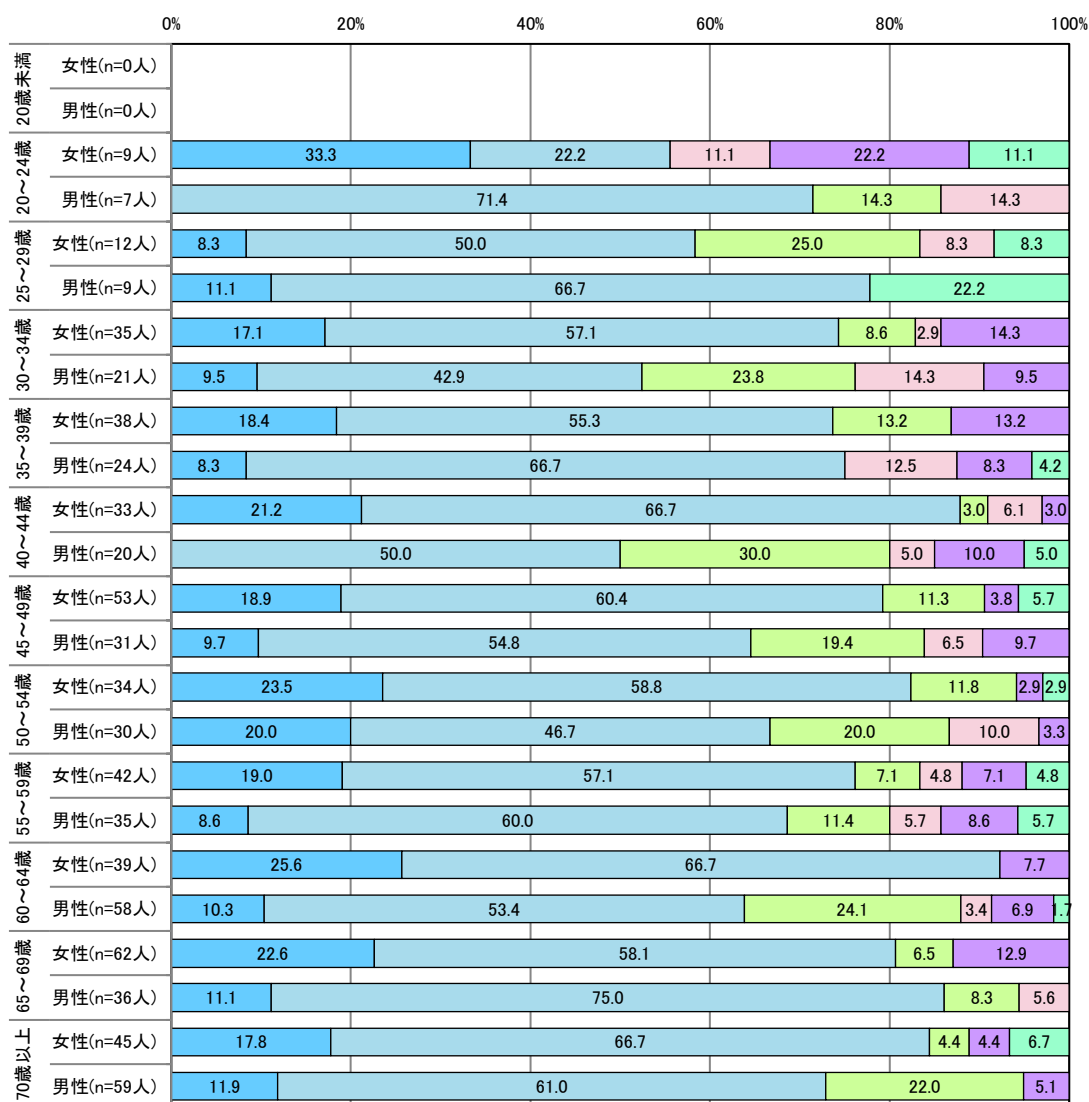


8 社会全体

- ・性別でみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、男性（58.2%）、女性（59.3%）とも約6割となっている。
- ・「平等である」という回答は、男性が約2割（17.6%）、女性が約1割（7.7%）となる。社会全体においても男性が優位であると感じている割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の女性、25歳～29歳の女性、30歳～34歳の男性、40歳～44歳の男性を除き、いずれの世代においても「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答合計が6割以上となっている。

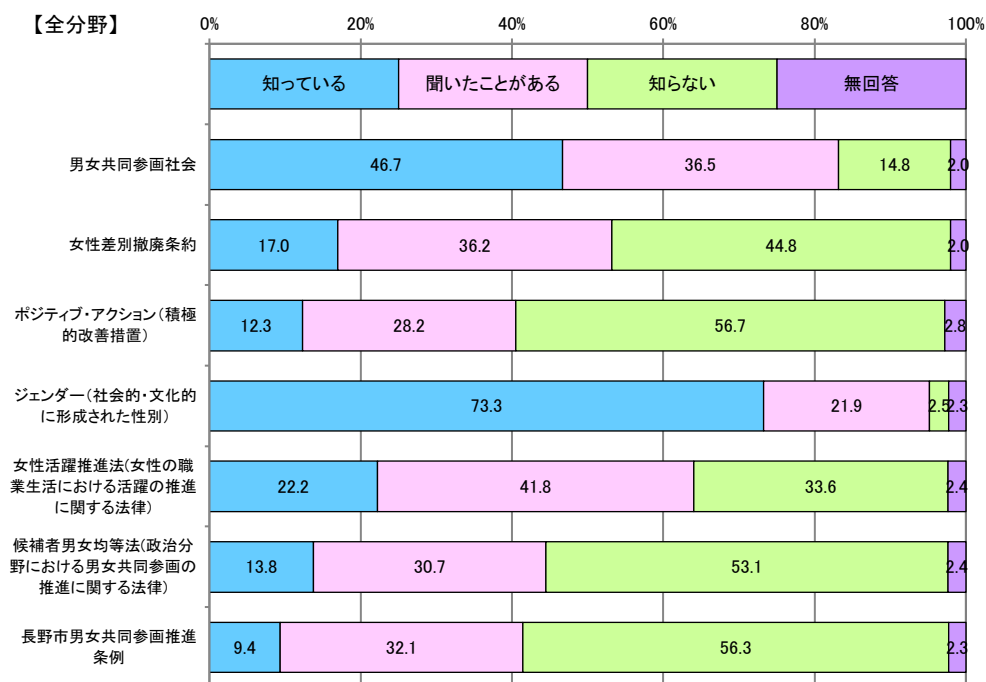


【世代別性別】



問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
 (それぞれ〇は1つ)

- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合を合計すると、「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」（95.2%）、「男女共同参画社会」（83.2%）が8割以上と認知度が高い。次に、「女性活躍推進法」（64.0%）、「女性差別撤廃条約」（53.2%）が5割以上、「候補者男女均等法」（44.5%）「長野市男女共同参画推進条例」（41.5%）が約4割となっている。

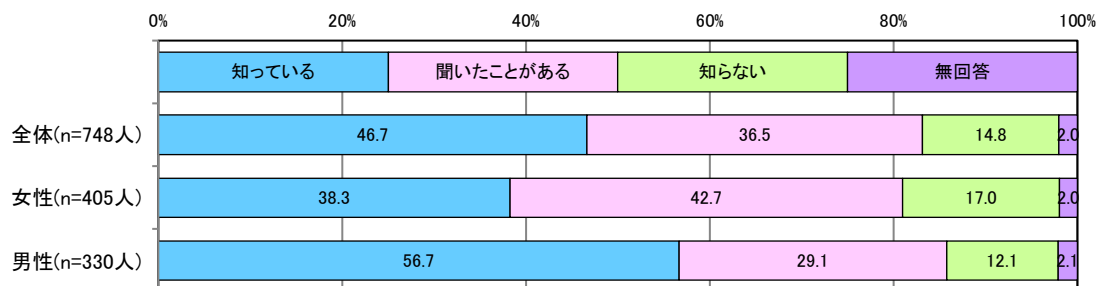


全体(n=748人)

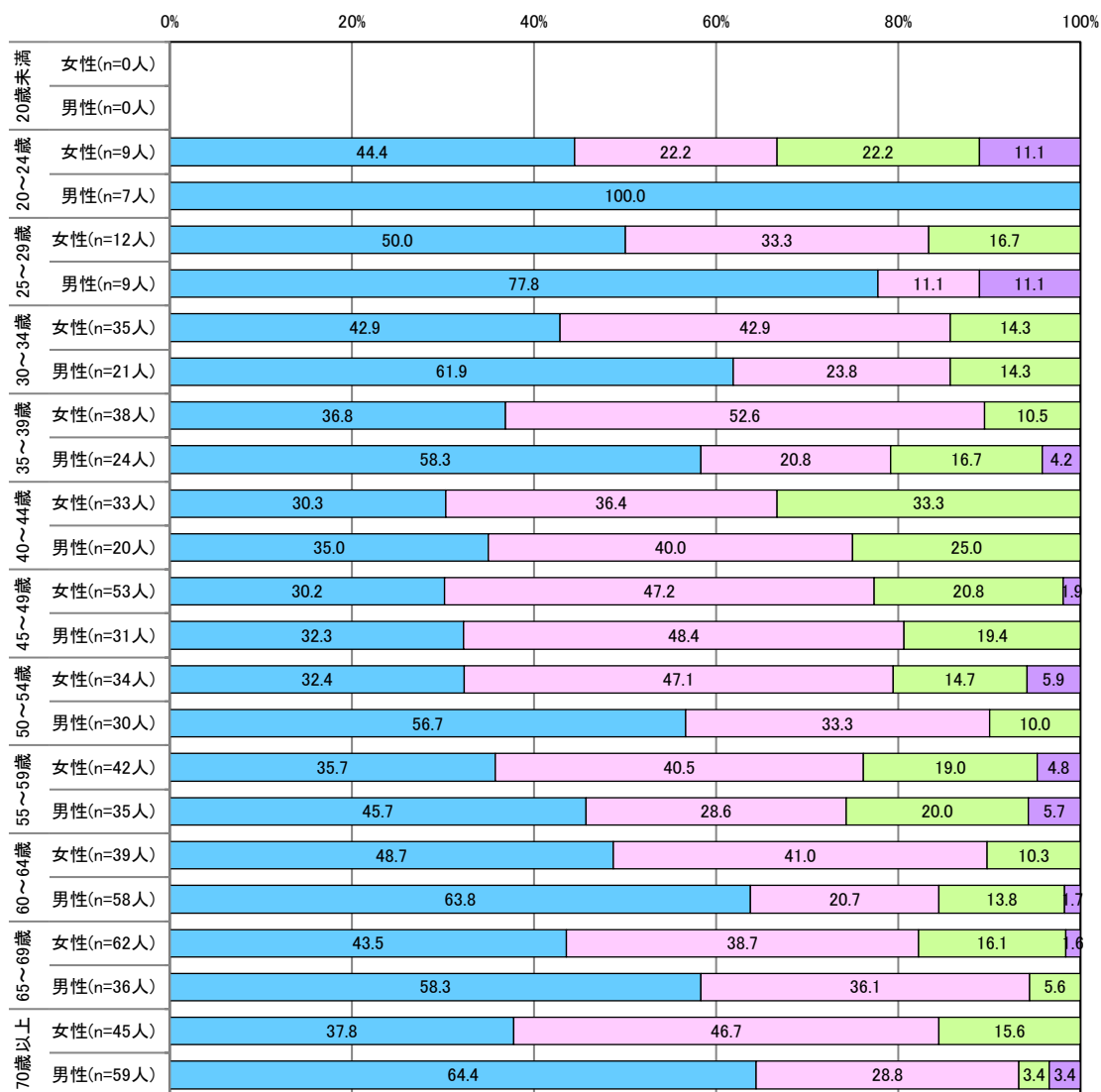
1 男女共同参画社会

- ・性別でみると、男女とも「知っている」及び「聞いたことがある」の回答割合の合計が、8割を超えている。
- ・世代別性別でみると、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が9割を超えているのは、男性では20歳～24歳、50歳～54歳、65歳以上となっている。一方、女性では40歳～44歳で、「知らない」という回答が、3割を超えている。

【性別】



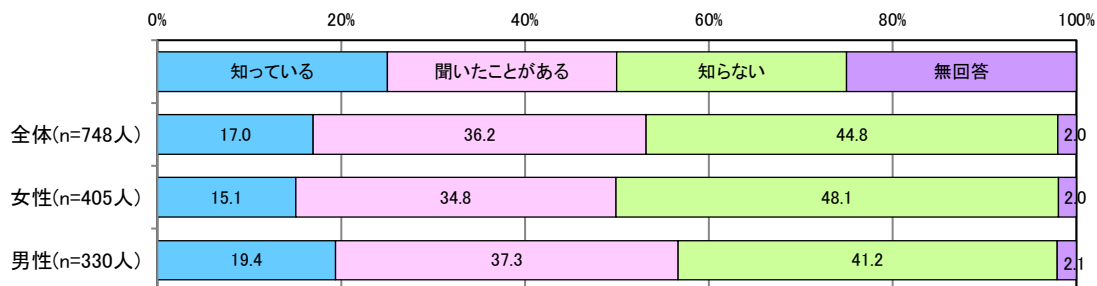
【世代別性別】



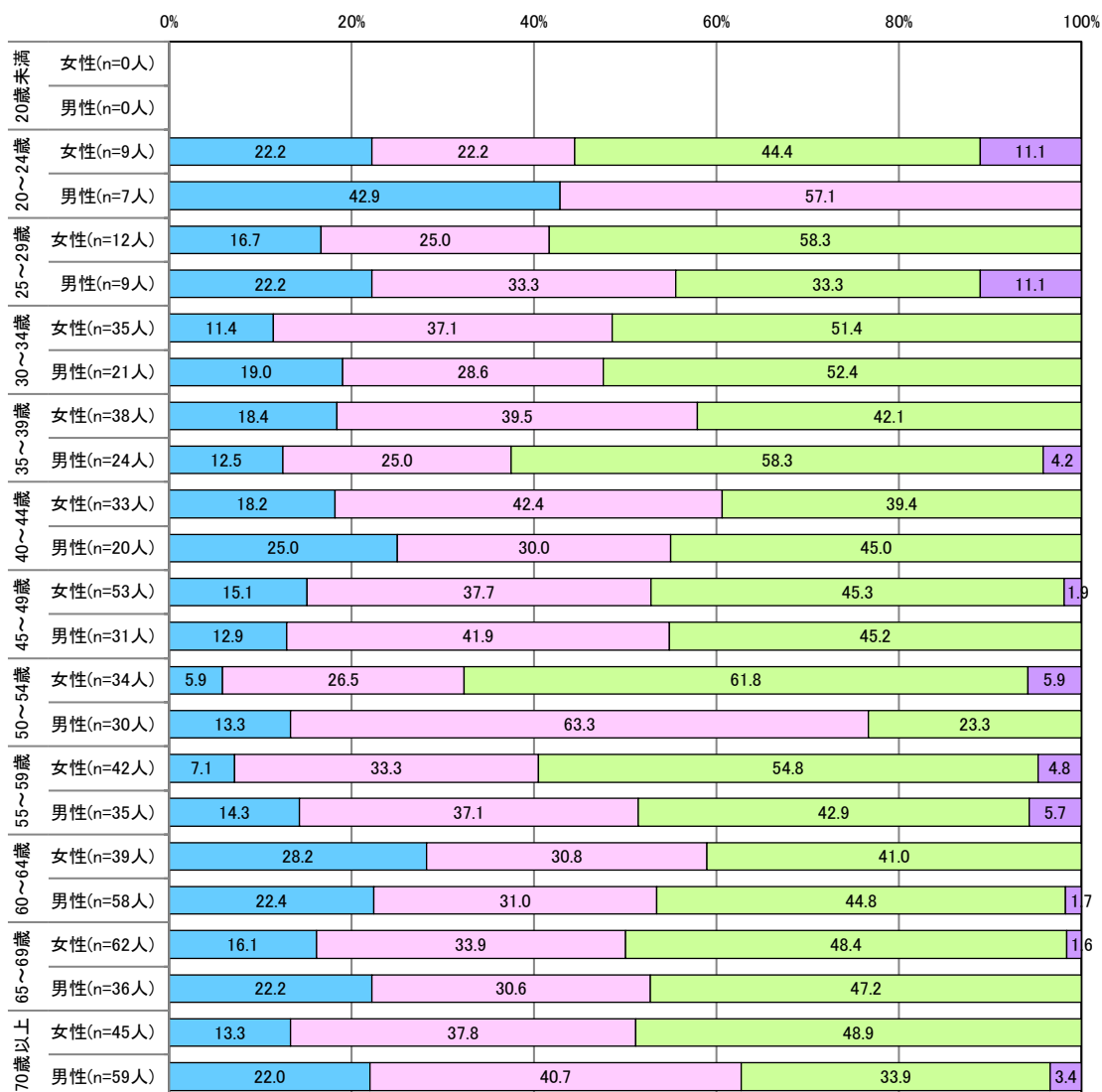
2 女性差別撤廃条約

- ・性別でみると、女性では「知らない」(48.1%)という回答が約5割と最も多い。一方、男性も「知らない」(41.2%)が4割と最も多くなっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、女性が49.9%、男性が56.7%、となっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～34歳の女性、30歳～39歳の男性、50歳～59歳の女性で、「知らない」という回答が5割以上となっている。

【性別】



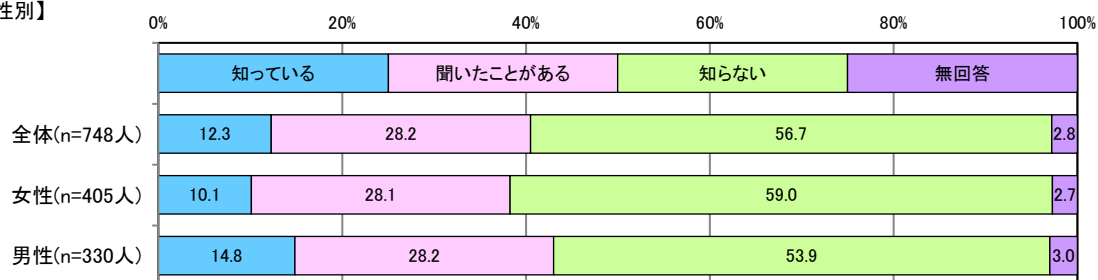
【世代別性別】



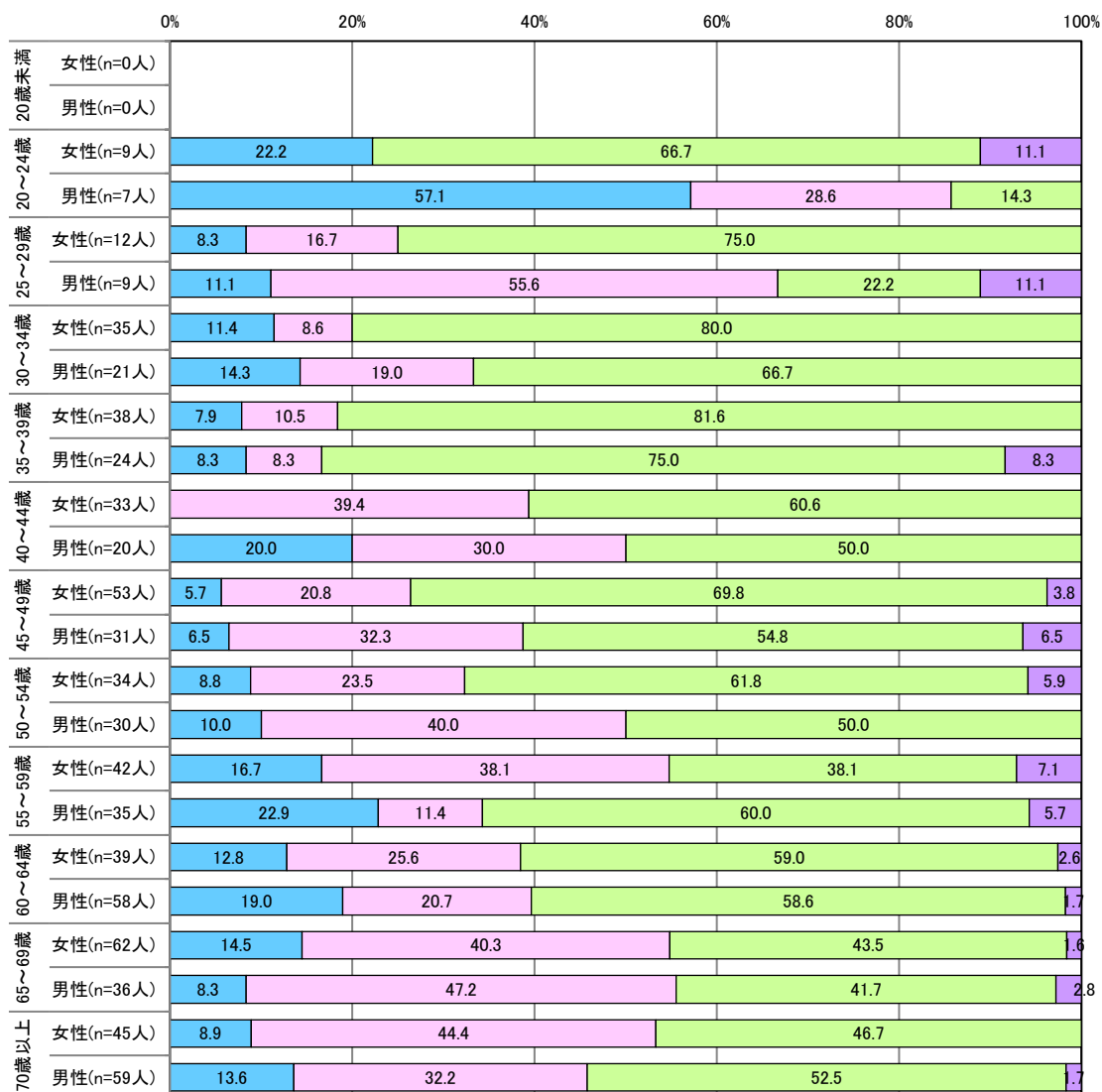
3 ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

- ・性別で見ると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が 53.9%、女性が 59.0%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が 43.0%、女性が 38.2%となっている。
- ・世代別性別で見ると、25 歳～39 歳の女性、35 歳～39 歳の男性の世代で、「知らない」という回答割合が 7 割以上となっている。「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が 4 割以上は、20 歳～29 歳の男性、40 歳～44 歳の男性、50 歳～54 歳の男性、55 歳～59 歳の女性、65 歳以上の男女となっている。

【性別】



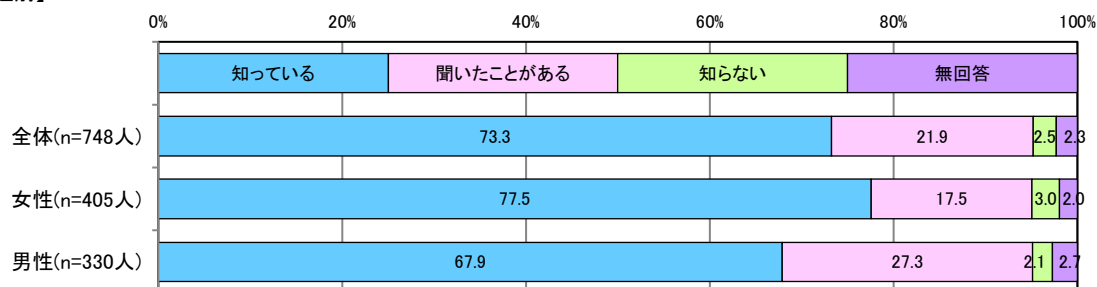
【世代別性別】



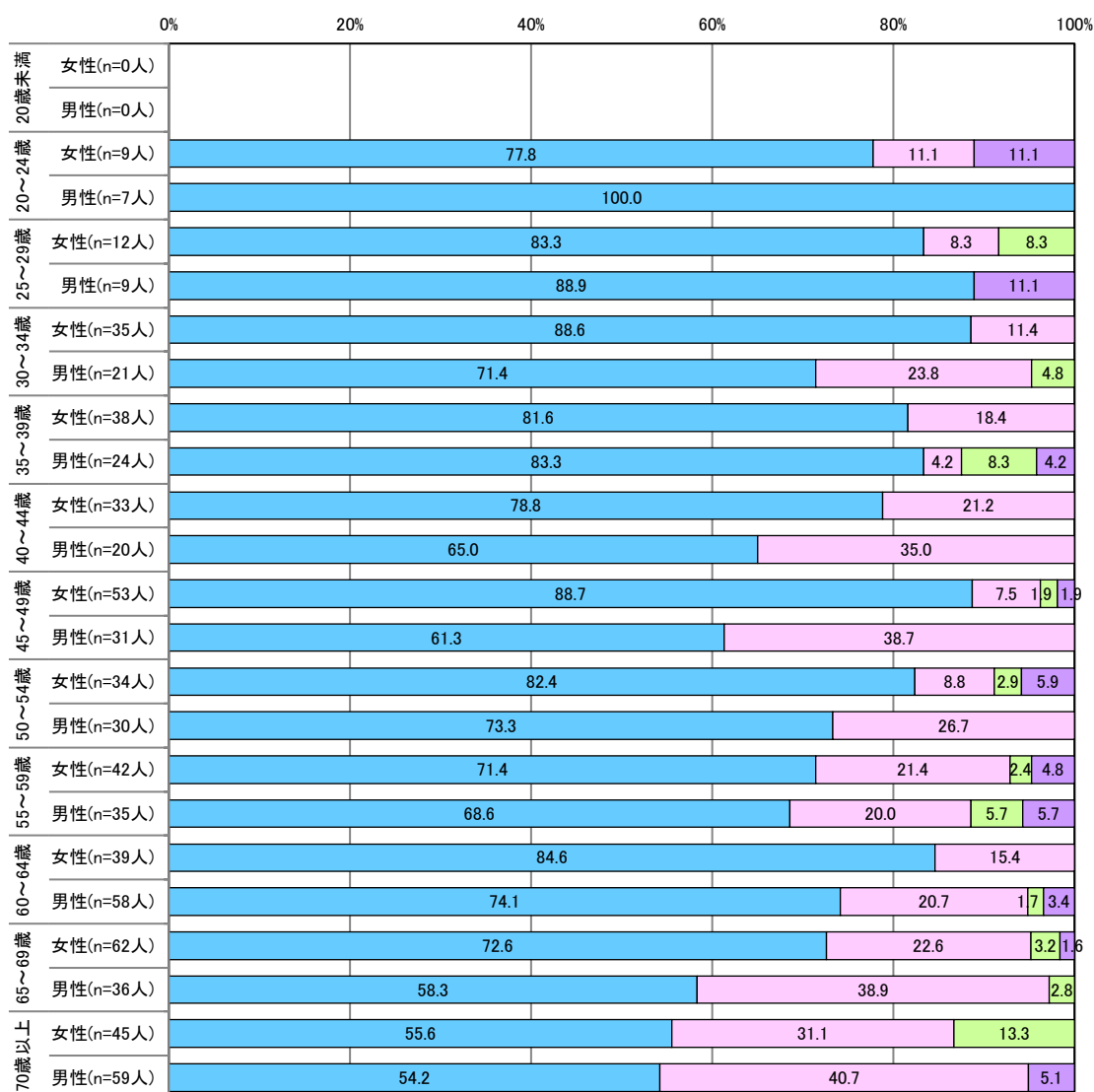
4 ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）

- ・性別で見ると、「知っている」という回答が男女とも最も多く、男性が 67.9%、女性が 77.5%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が 95.2%、女性が 95.0%となっている。
- ・世代別性別で見ると、「知っている」という回答割合が 8 割を超えているのは、20 歳～29 歳の男性、25 歳～34 歳の女性、35 歳～39 歳の男女、45 歳～54 歳の女性、60 歳～64 歳の女性となっている。

【性別】



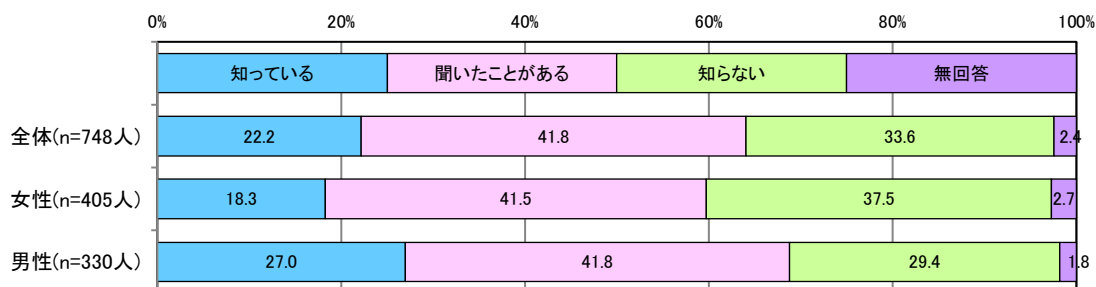
【世代別性別】



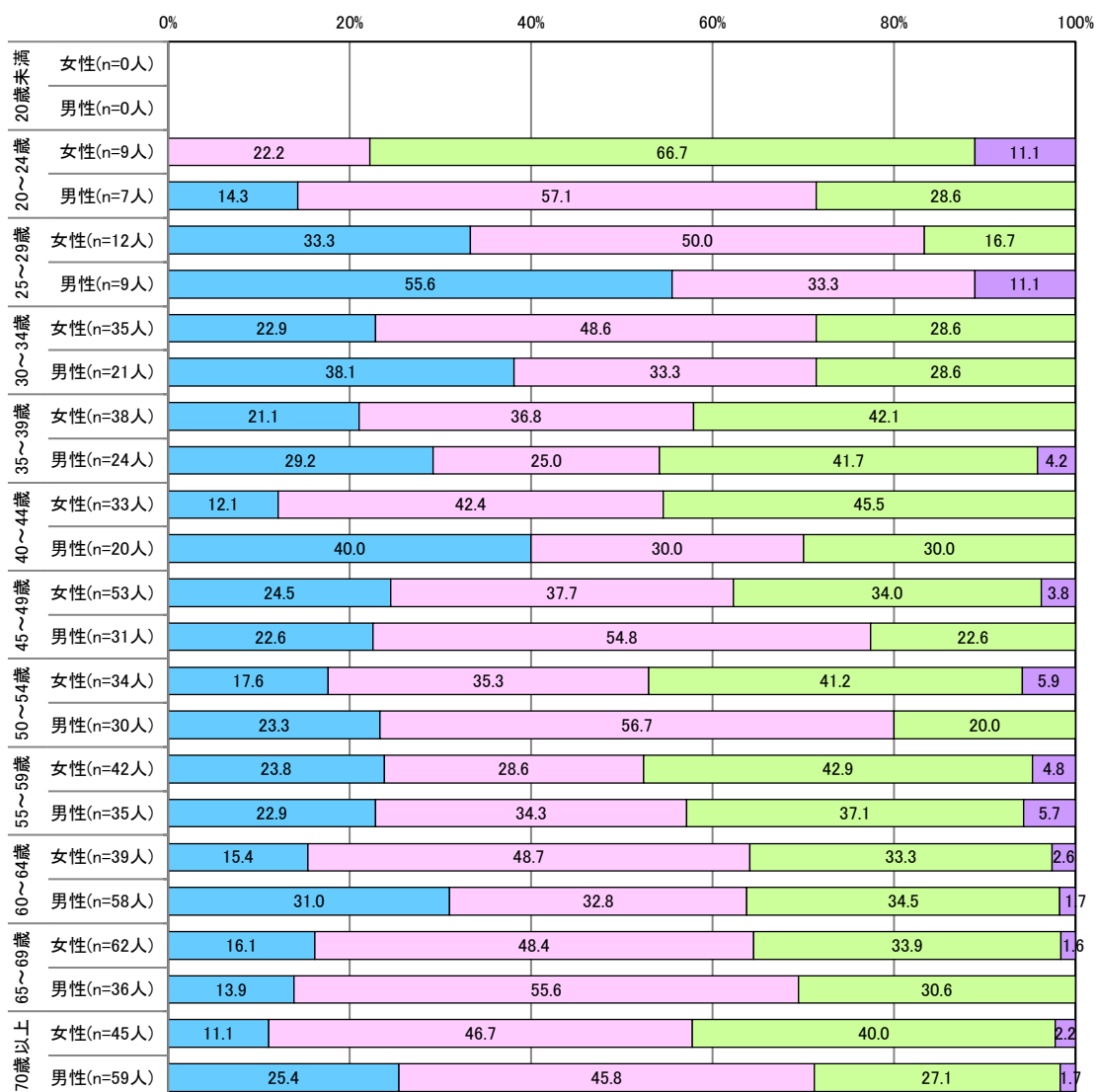
5 女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)

- ・性別でみると、男女とも「聞いたことがある」という回答が最も多く、男性は41.8%、女性は41.5%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が68.8%、女性が59.8%となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～34歳の男性、25歳～34歳の女性、40歳～54歳の男性、45歳～49歳の女性、60歳～69歳の男女、70歳以上の男性で、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が6割以上となっている。

【性別】



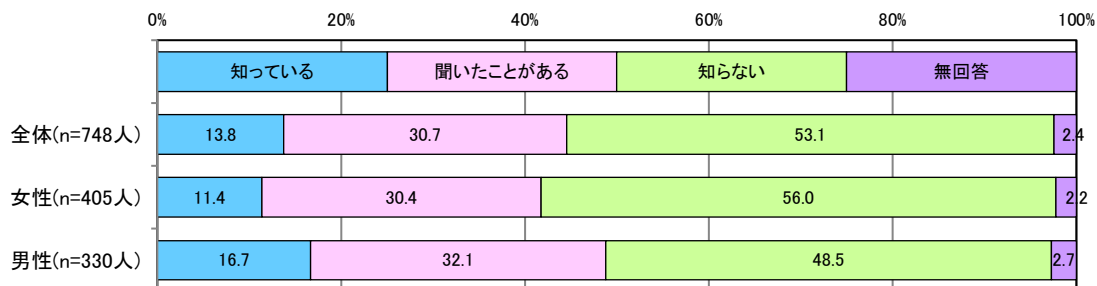
【世代別性別】



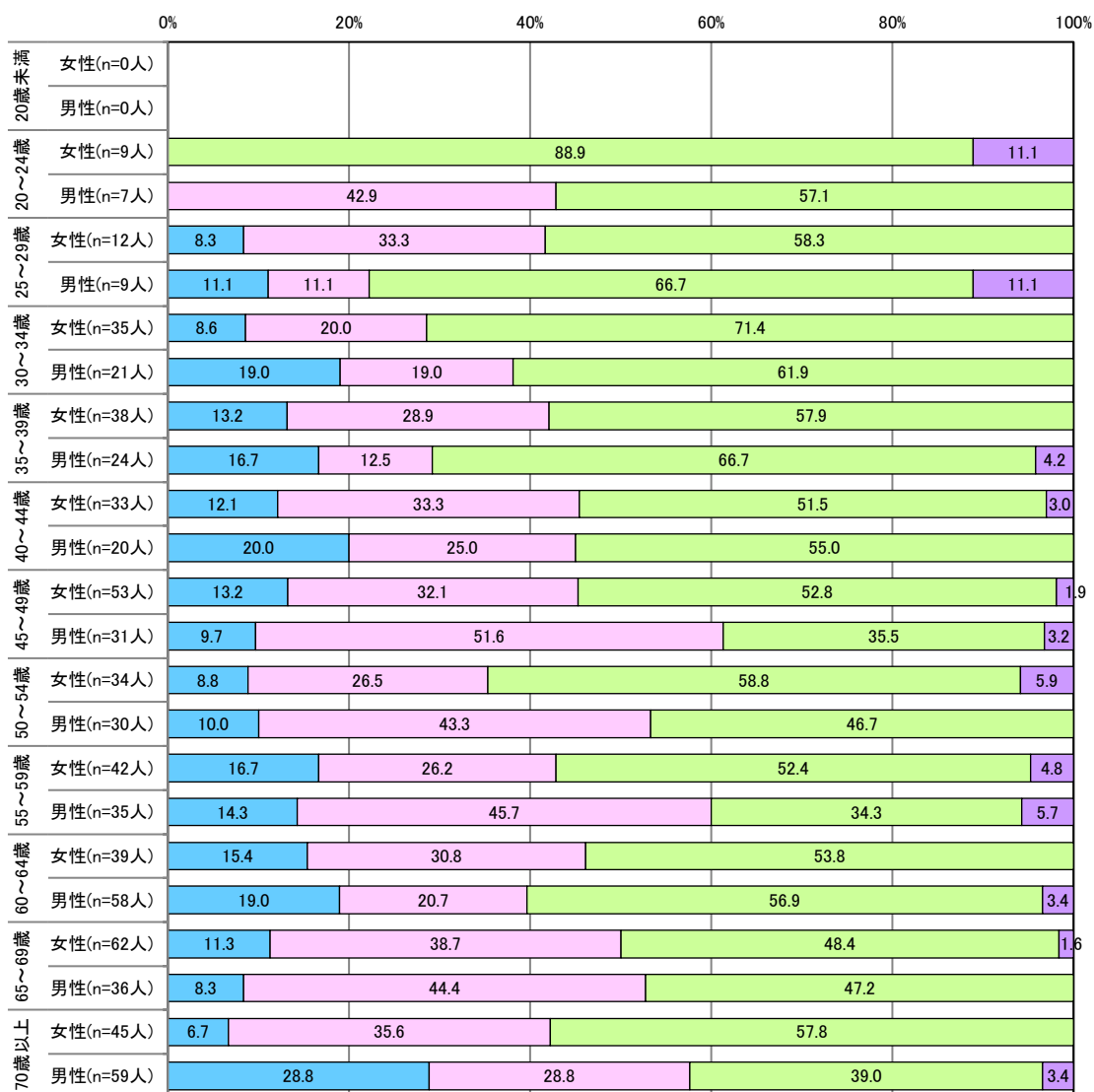
6 候補者男女均等法(政治分野における男女共同参画の推進に関する法律)

- ・性別でみると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、男性は 48.5%、女性は 56.0%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が 48.8%、女性が 41.8%となっている。
- ・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の女性、25 歳～39 歳の男性、30 歳～34 歳の女性で、「知らない」という回答が 6 割以上となっている。

【性別】



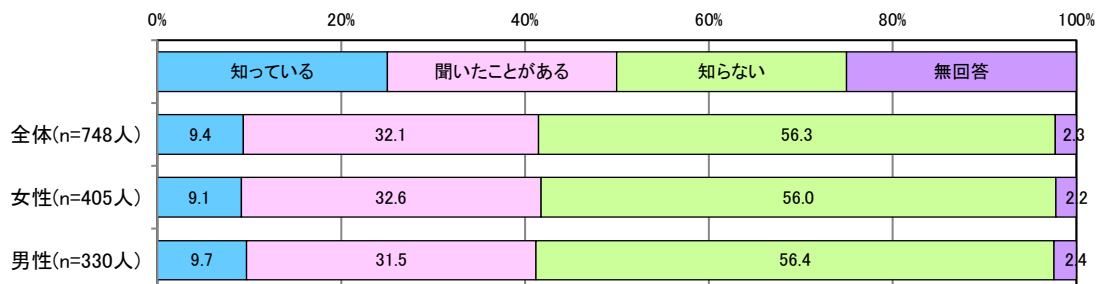
【世代別性別】



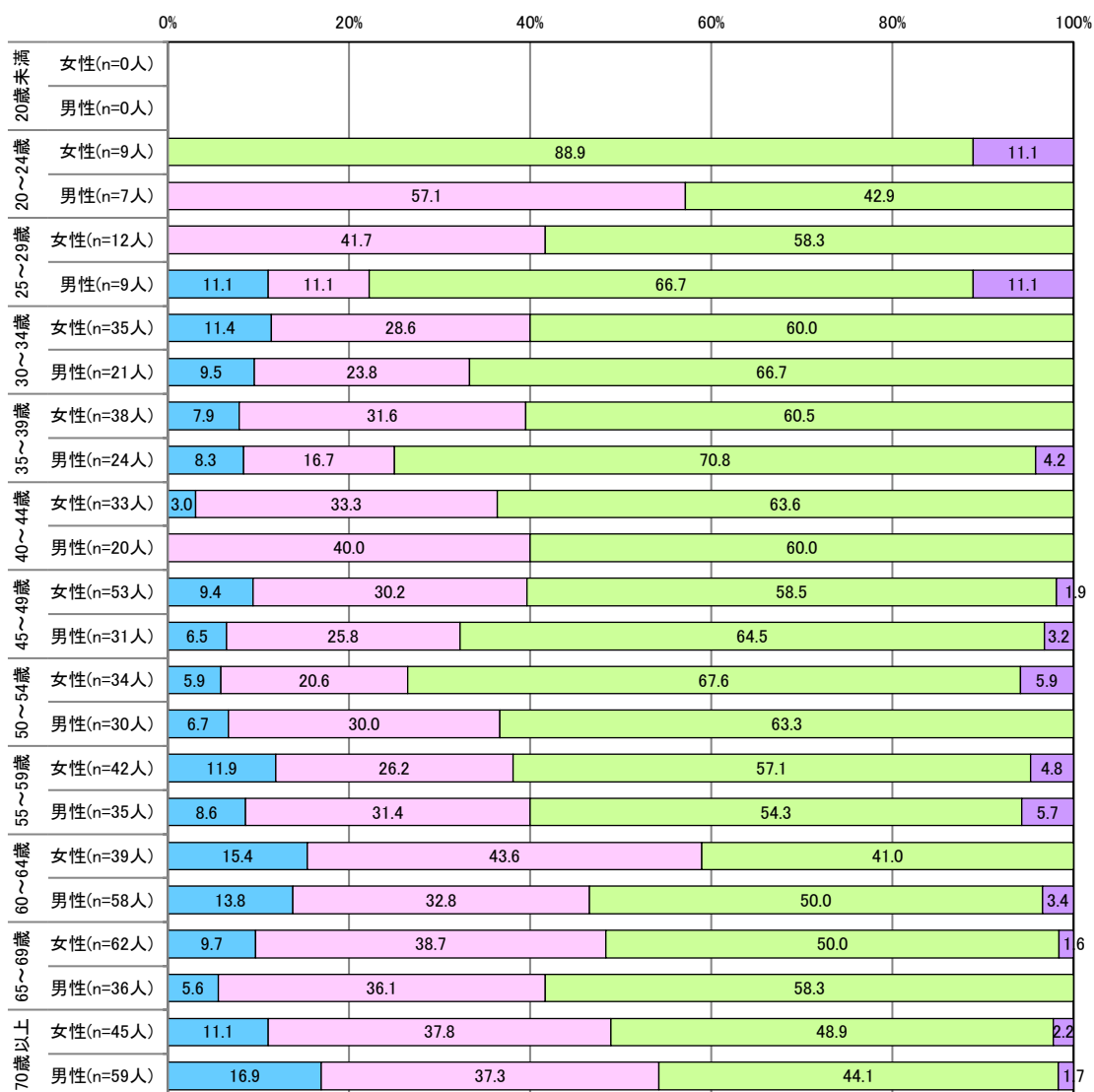
7 長野市男女共同参画推進条例

- ・性別でみると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、男性は 56.4%、女性は 56.0%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が 41.2%、女性が 41.7%となっている。
- ・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の女性、25 歳～54 歳の男性、30 歳～44 歳の女性、50 歳～54 歳の女性で、「知らない」という回答が 6 割以上となっている。

【性別】

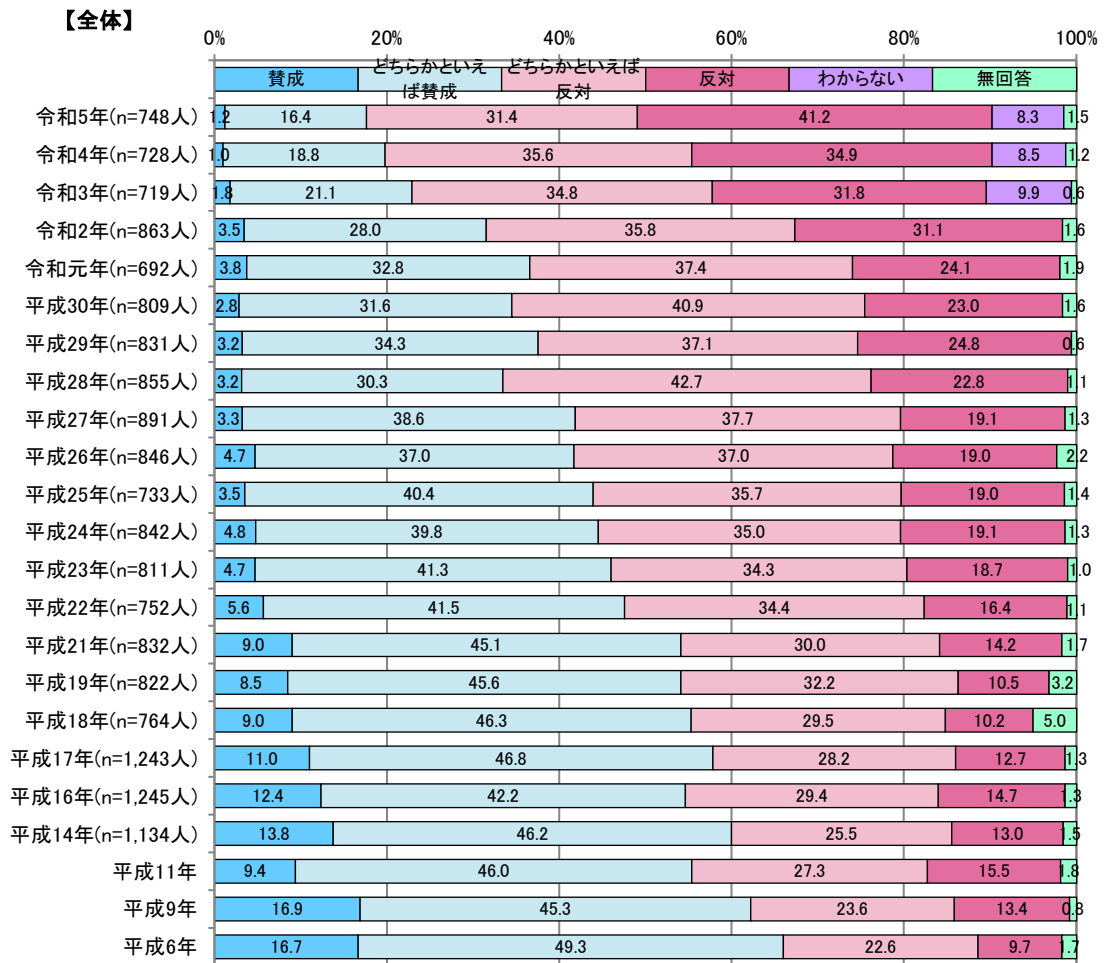


【世代別性別】

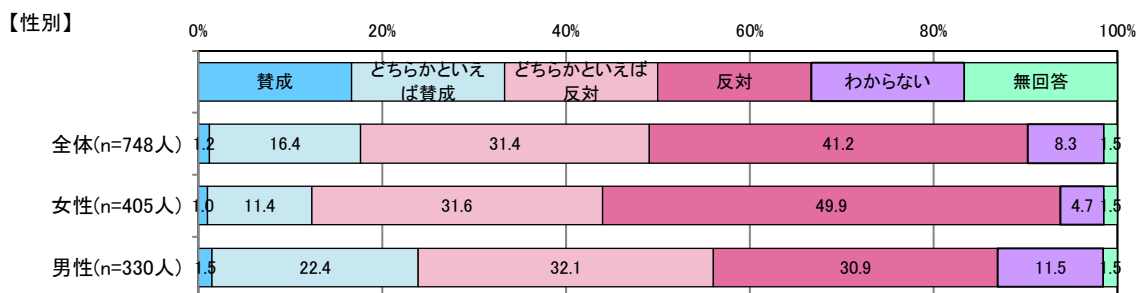


問3 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。(〇は1つ)

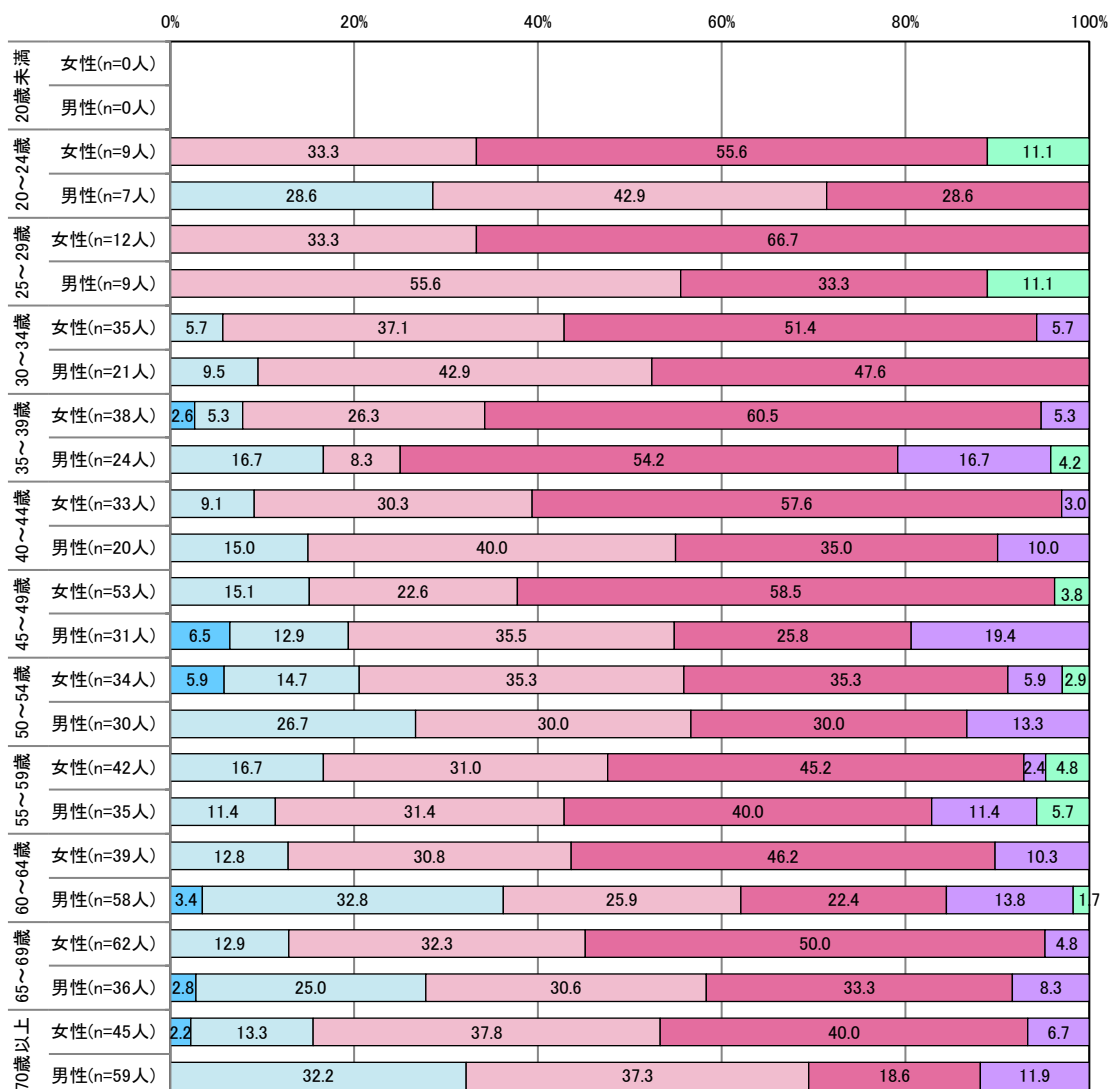
- ・令和5年の調査結果は、「賛成」が1.2%「どちらかといえば賛成」が16.4%、「どちらかといえば反対」が31.4%、「反対」が41.2%となった。
- ・経年的にみると、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は年々減少傾向にあり、平成28年以降は横ばい傾向となっていたものの、令和元年以降、再度減少傾向にある。令和5年は令和4年と比べて、「賛成」が0.2ポイント、「どちらかといえば賛成」は2.4ポイント、「どちらかといえば反対」は4.2ポイント減少となった。一方、「反対」は6.3ポイント増加となり、「わからない」が0.2ポイント減少となった。



- ・性別でみると、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は、男性が63.0%、女性が81.5%となっている。男性より女性の方が、性別によって役割を固定する考え方に否定的な方が多くなっている。
- ・世代別性別でみると、「どちらかといえば反対」及び「反対」の回答割合の合計は60歳～64歳の男性を除いて、いずれの年代も5割以上となっている。

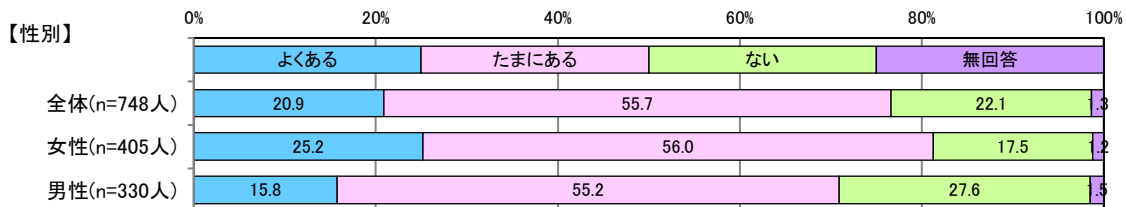


【世代別性別】

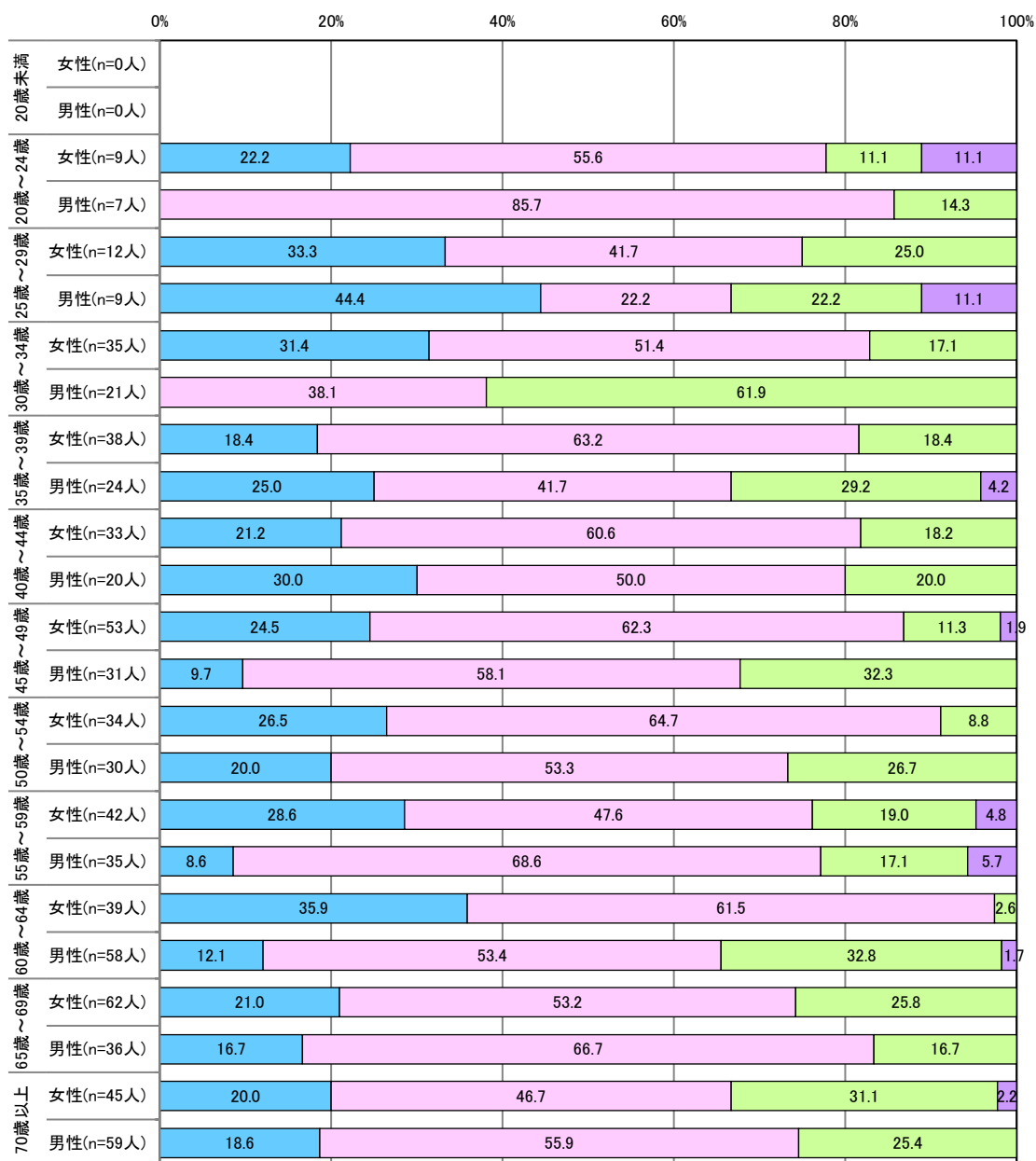


問 4 日常の生活で、「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などを言われたり、期待されたりすることはありますか。(〇は1つ)

- ・性別でみると、「たまにある」が約6割と最も多い。男性(55.2%)、女性(56.0%)とも、約6割となる。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の男性、40歳～44歳の男性、30歳～54歳の女性、60歳～64歳の女性、65歳～69歳の男性で、「よくある」、「たまにある」の合計が8割以上となっている。



【世代別性別】

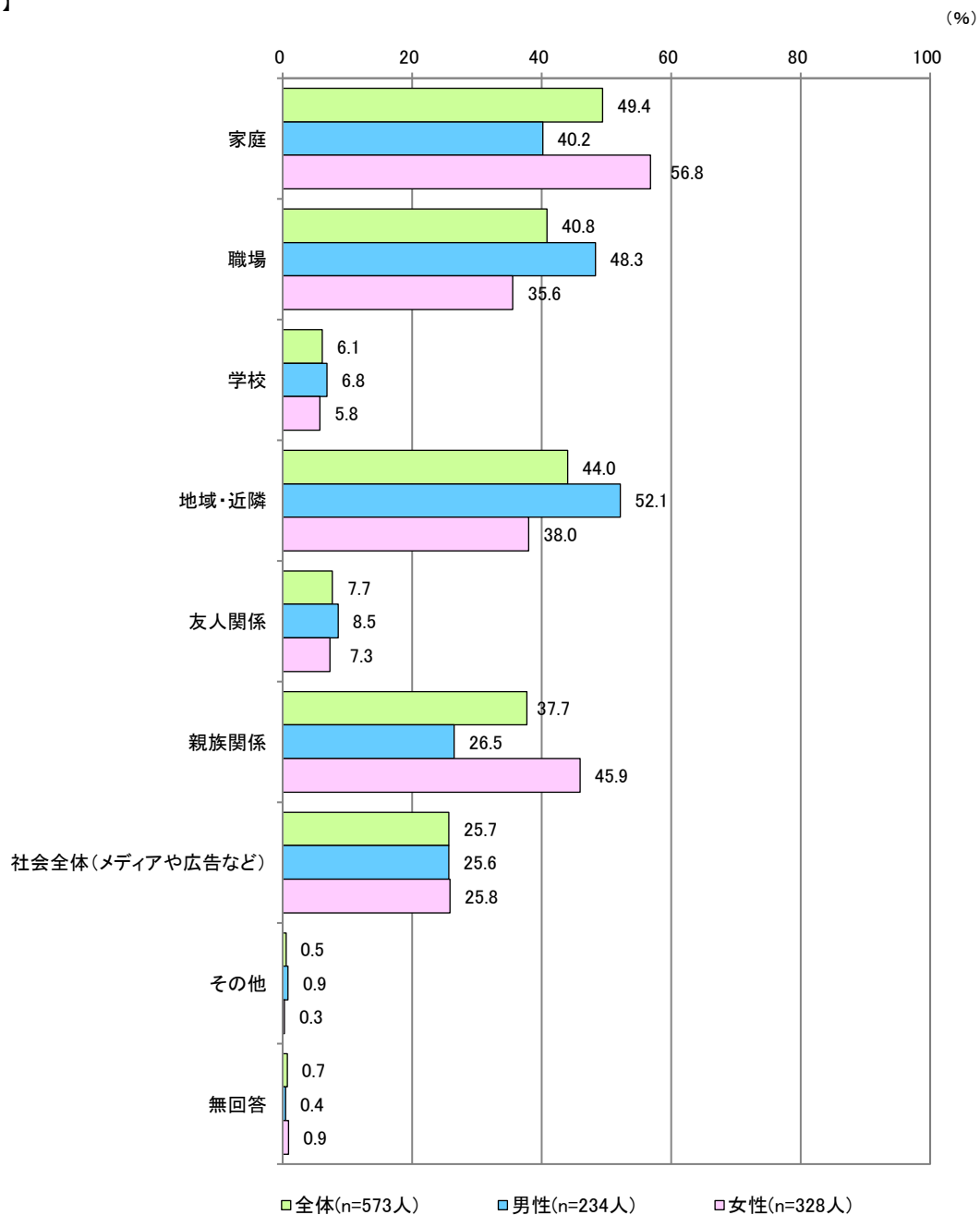


問 4 で「1. よくある」または「2. たまにある」を選ばれた方におたずねします。

問 5 どのような場で言われたり、期待されたりしますか。(〇はいくつでも)

- ・性別で見ると、女性では、「家庭」(56.8%)が5割を超え最も多く、次に、「親族関係」(45.9%)となる。一方、男性では、「地域・近隣」(52.1%)が5割を超え最も多く、次に、「職場」(48.3%)となっている。

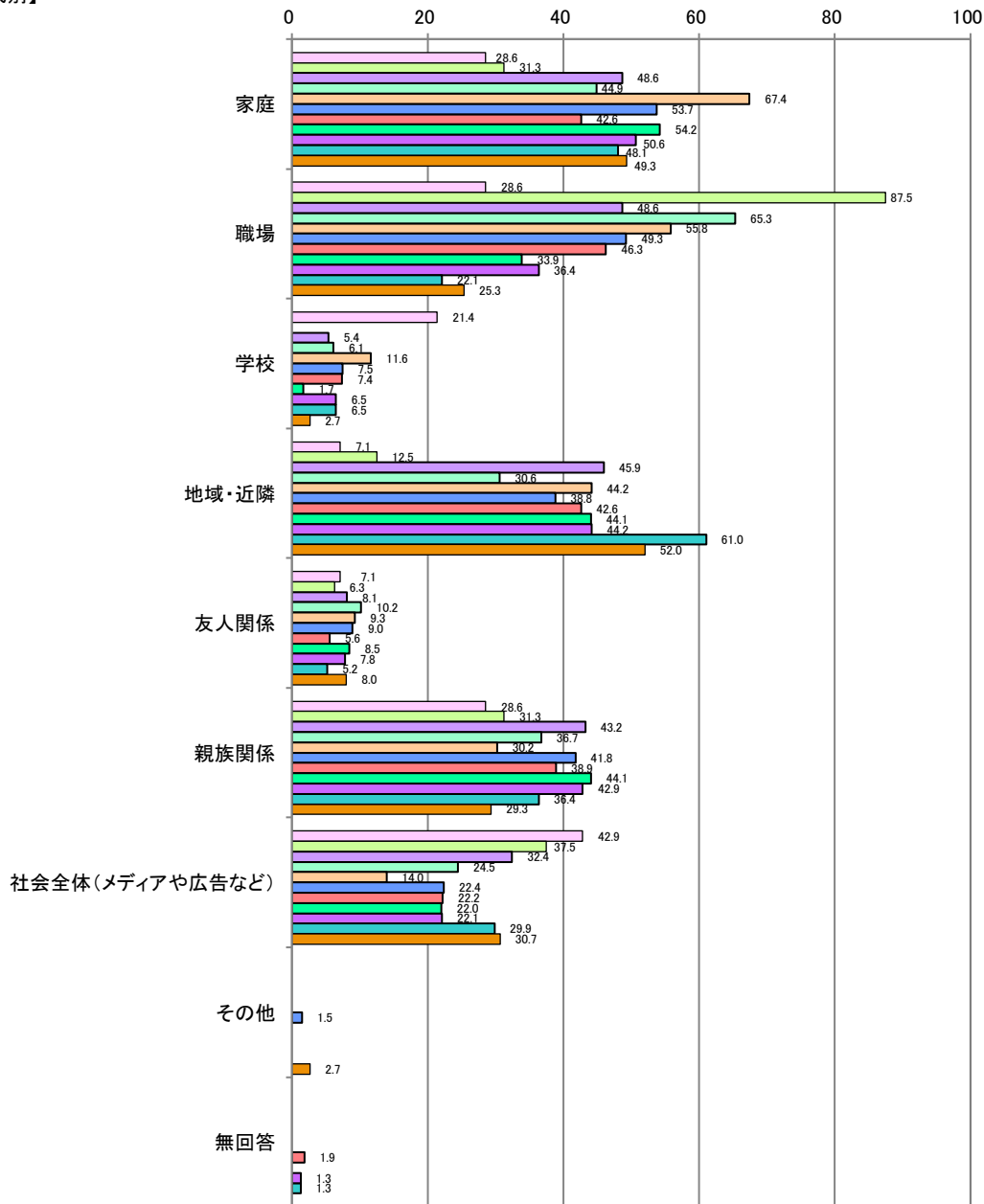
【性別】



・世代別でみると、25歳～29歳、35歳～39歳では、「職場」が7割以上と最も多い。40歳～49歳では、「家庭」が約7割と最も多く、65歳～69歳では、「地域・近隣」が最も多くなっている。

【世代別】

(%)

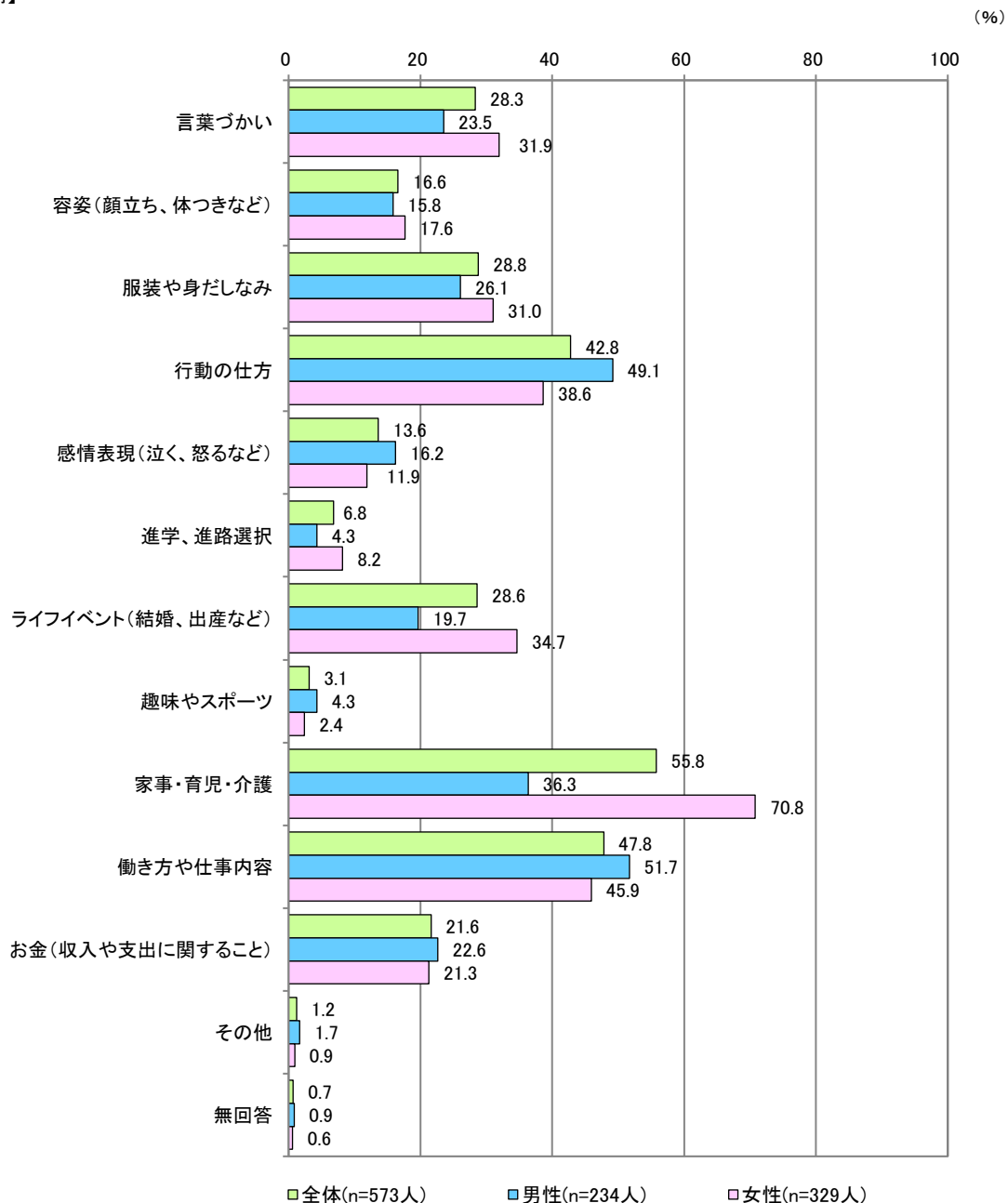


- 20歳未満(n=0人) □ 20歳～24歳(n=14人) □ 25歳～29歳(n=16人) □ 30歳～34歳(n=37人)
- 35歳～39歳(n=49人) □ 40歳～44歳(n=43人) □ 45歳～49歳(n=67人) □ 50歳～54歳(n=54人)
- 55歳～59歳(n=59人) □ 60歳～64歳(n=77人) □ 65歳～69歳(n=77人) □ 70歳以上(n=75人)

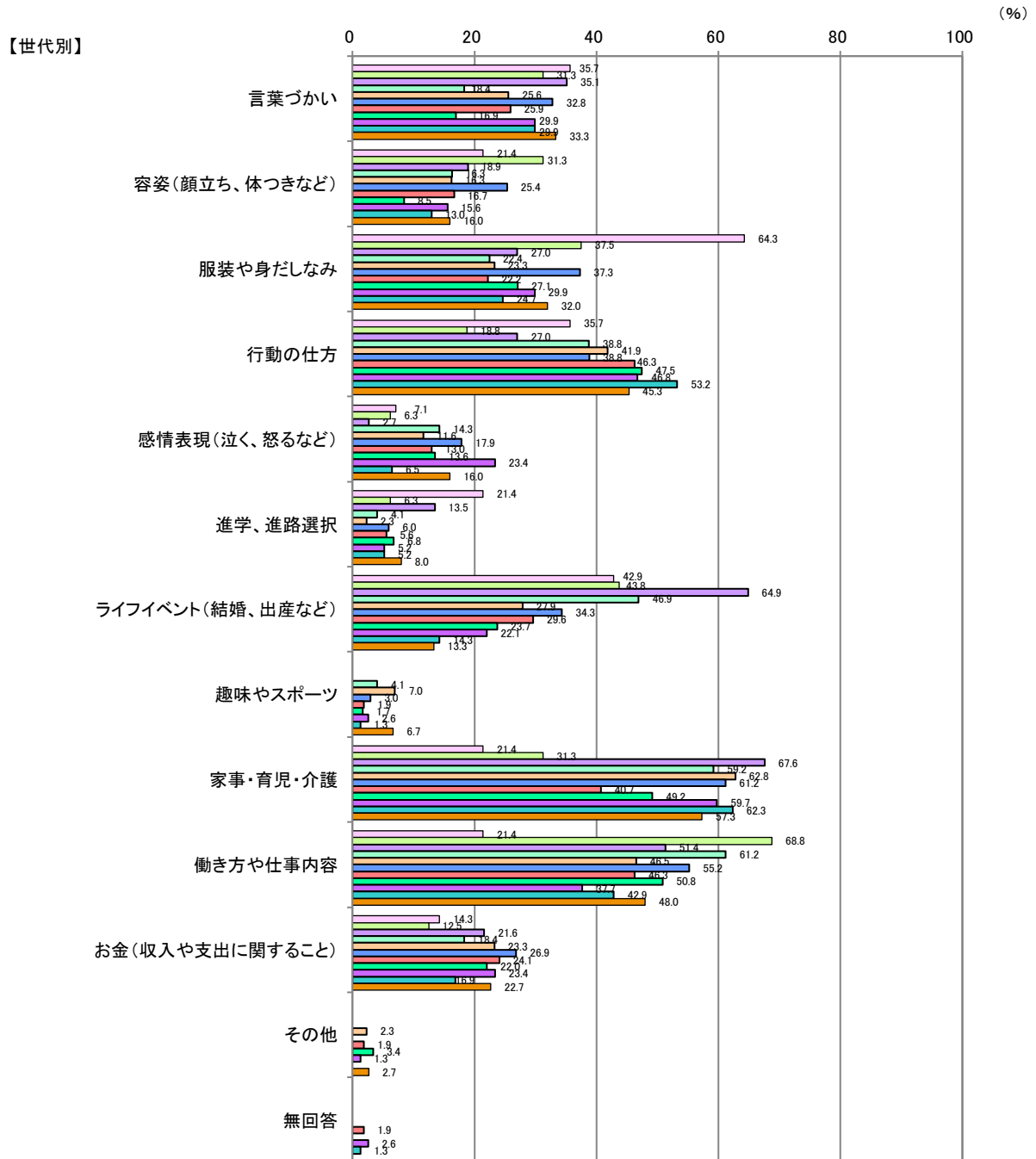
問6 それは、どのような内容に関することですか。(〇はいくつでも)

- ・性別でみると、男性では、「働き方や仕事内容」(51.7%)が約5割と最も多く、次に、「行動の仕方」(49.1%)となる。一方、女性では、「家事・育児・介護」(70.8%)が7割と最も多く、次に、「働き方や仕事内容」(51.7%)、「行動の仕方」(38.6%)となっている。
- ・「家事・育児・介護」、「ライフイベント(結婚、出産など)」、「言葉づかい」、「服装や身だしなみ」では、女性の回答割合が男性よりも高くなっている。

【性別】



・世代別でみると、「家事・育児・介護」が最も多い世代は、30歳～34歳、40歳～49歳、60歳以上となる。「働き方や仕事内容」では、25歳～29歳、35歳～39歳、50歳～59歳で、「行動の仕方」では、50歳～54歳、55歳～59歳、70歳以上で最も多い。「服装や身だしなみ」では、20歳～24歳で最も多い回答となる。

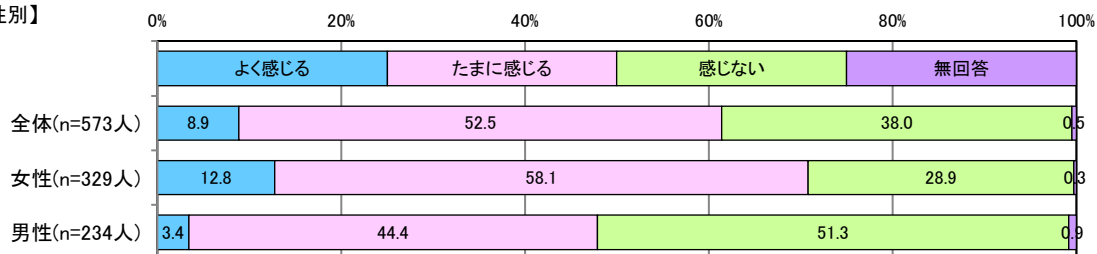


■20歳未満(n=0人) ■20歳～24歳(n=14人) ■25歳～29歳(n=16人) ■30歳～34歳(n=37人)
 ■35歳～39歳(n=49人) ■40歳～44歳(n=43人) ■45歳～49歳(n=67人) ■50歳～54歳(n=54人)
 ■55歳～59歳(n=59人) ■60歳～64歳(n=77人) ■65歳～69歳(n=77人) ■70歳以上(n=75人)

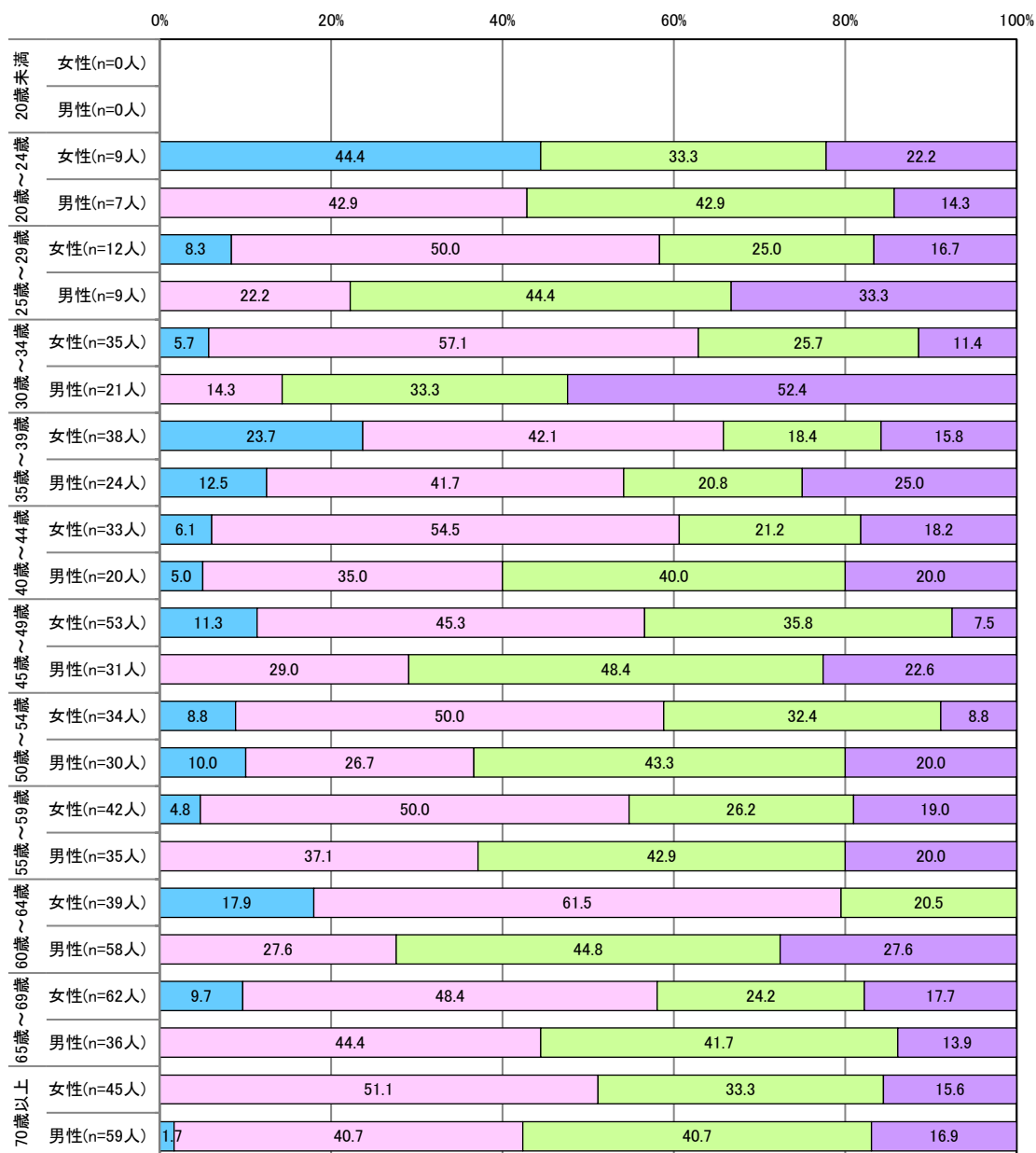
問 7 日常生活における「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などについて、不便さや不快感、生きづらさを感じますか。(〇は1つ)

- ・性別でみると、男性では、「感じない」(51.3%)が約5割と最も多い。一方、女性では、「たまに感じる」(58.1%)が約6割と最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、60歳～64歳の女性で、「たまに感じる」が6割以上となっている。

【性別】

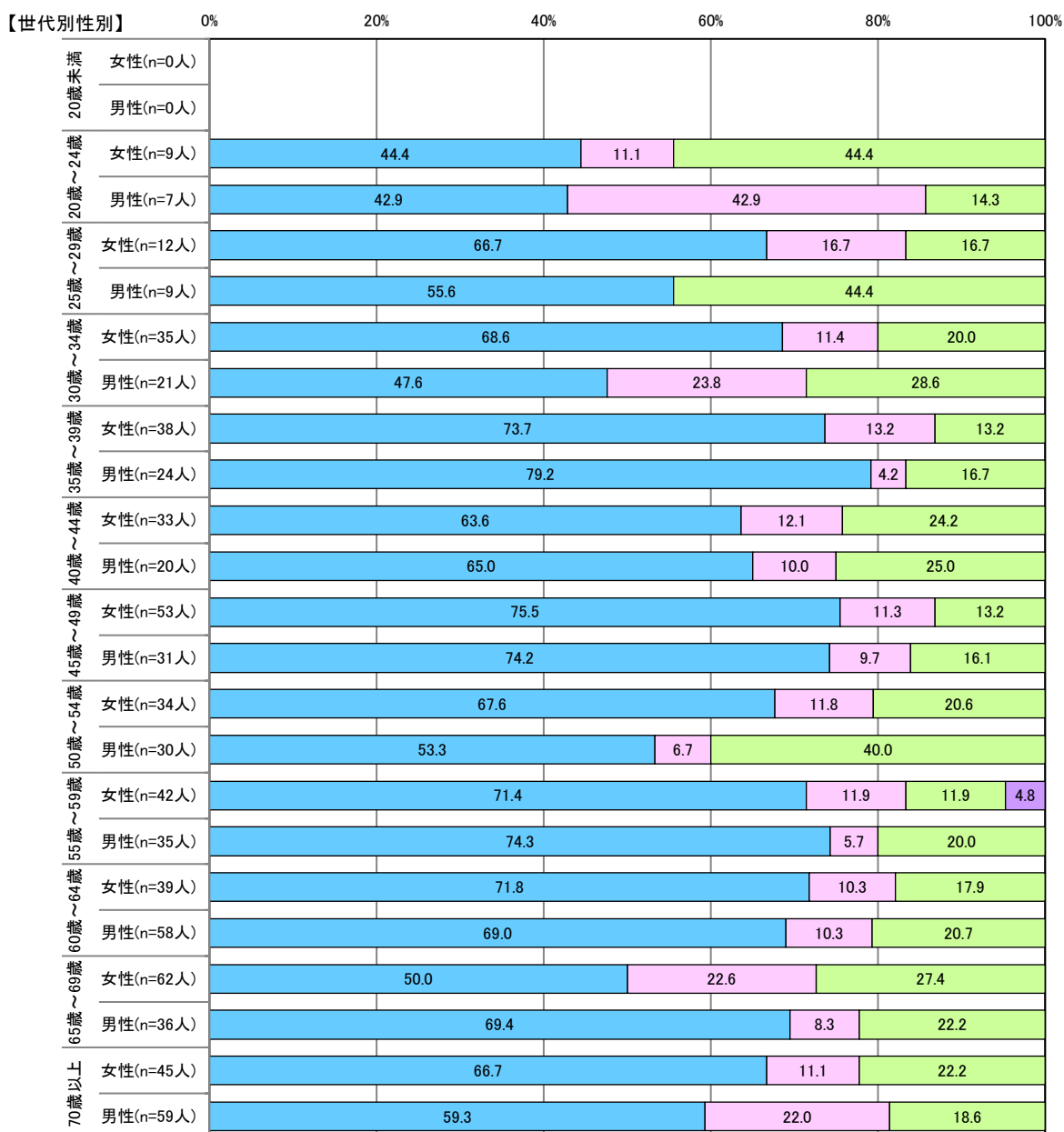
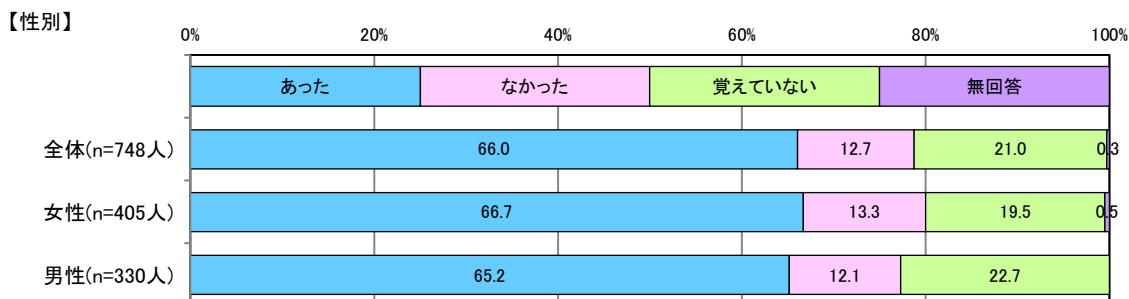


【世代別性別】



問8 子ども時代に「女の子／男の子だから〇〇しなさい」や「女の子らしく・男の子らしく」などと言われたことがありましたか。(〇は1つ)

- ・性別でみると、男女とも「あった」が6割を超え最も多い。
- ・世代別性別でみると、35歳～39歳の男女、45歳～49歳の男女、55歳～59歳の男女、60歳～64歳の女性で「あった」が7割以上となっている。

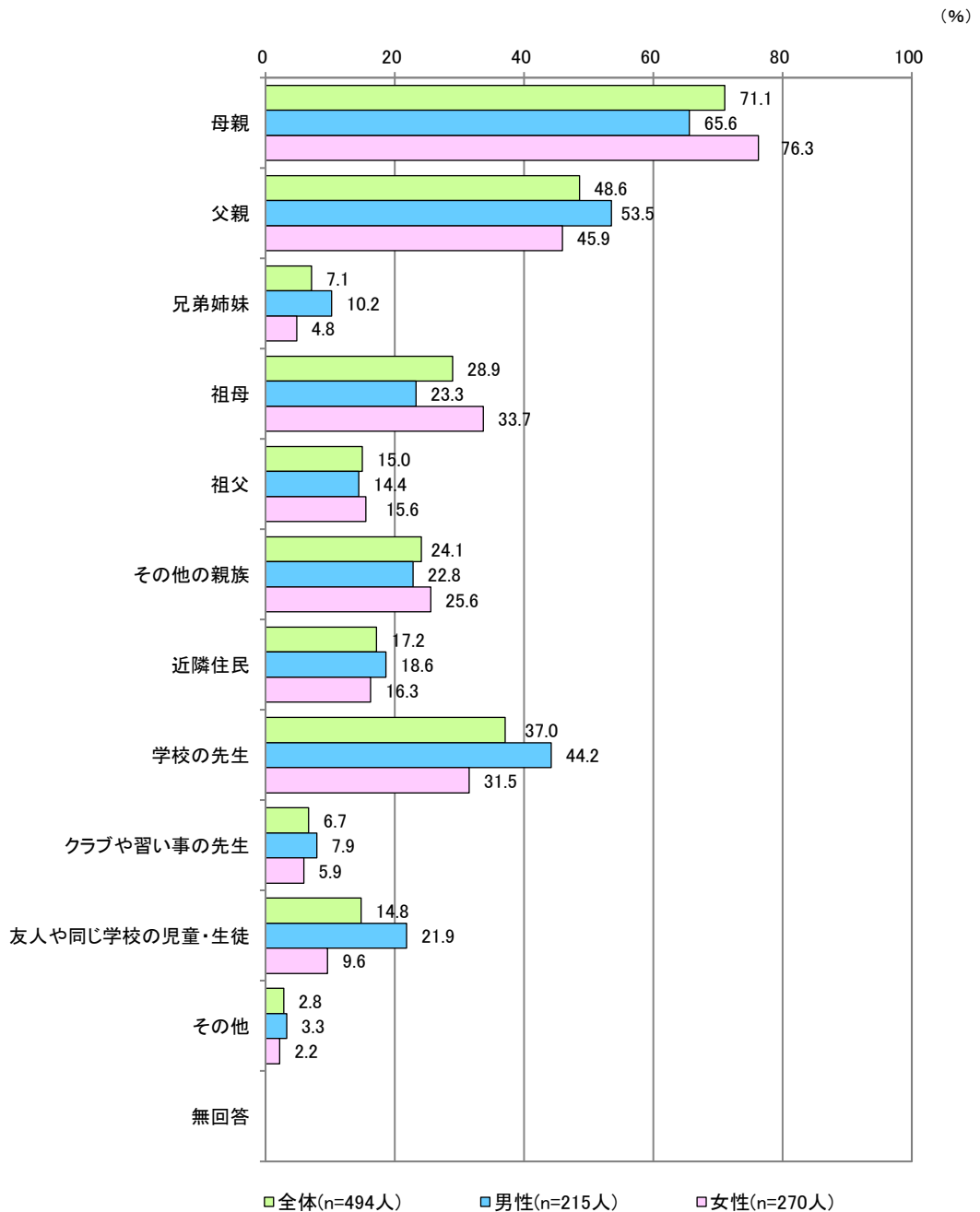


問 8 で「1. あった」を選ばれた方におたずねします。

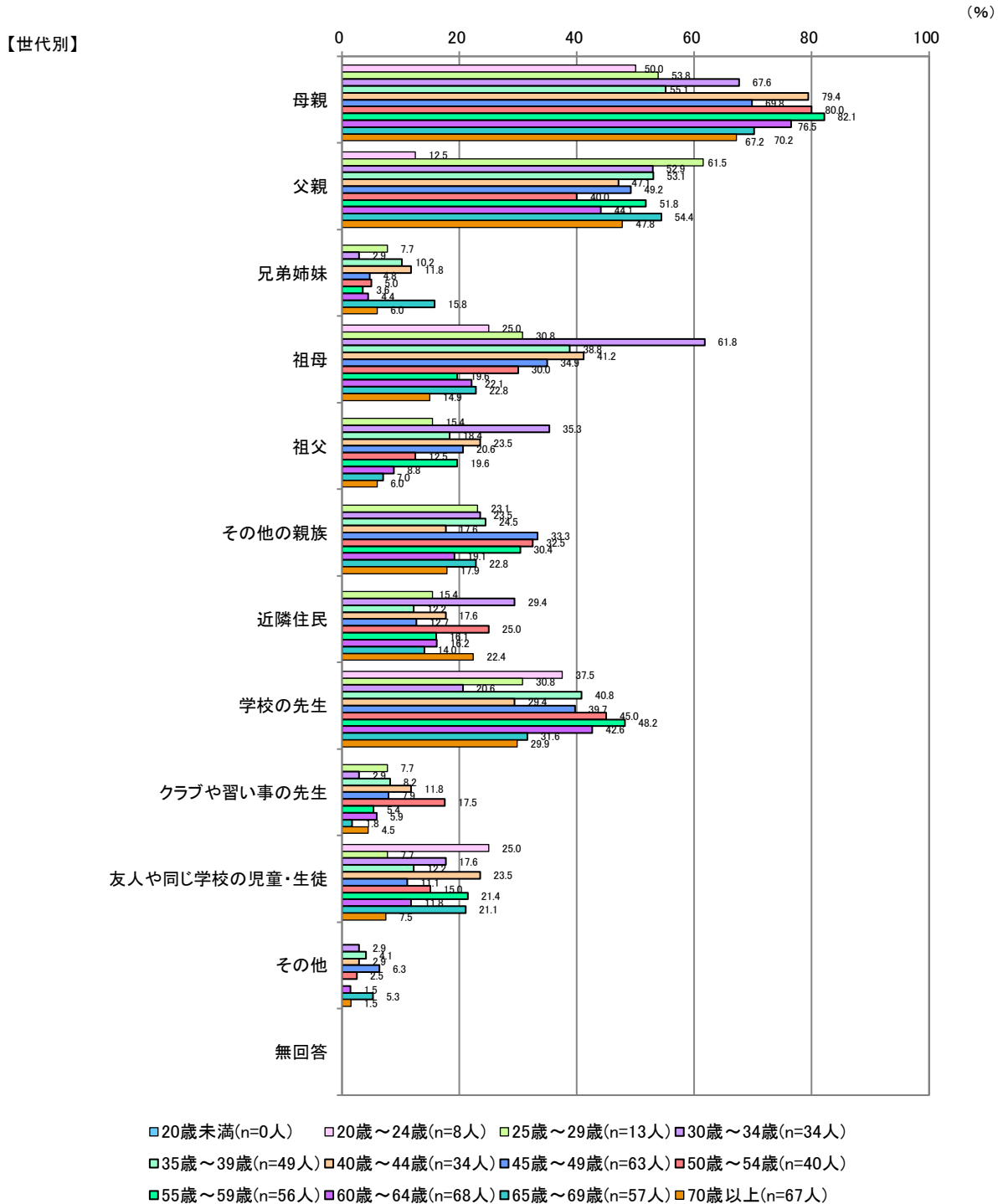
問 9 それは、誰に言われましたか。(〇はいくつでも)

- ・性別でみると、「母親」が女性では約8割、男性では約7割で最も多い。次に、「父親」となる。3番目に多い回答は、男性では「学校の先生」、女性では「祖母」となる。
- ・「母親」、「祖母」、「祖父」、「その他の親族」では、男性よりも女性の回答割合が高くなっている。

【性別】



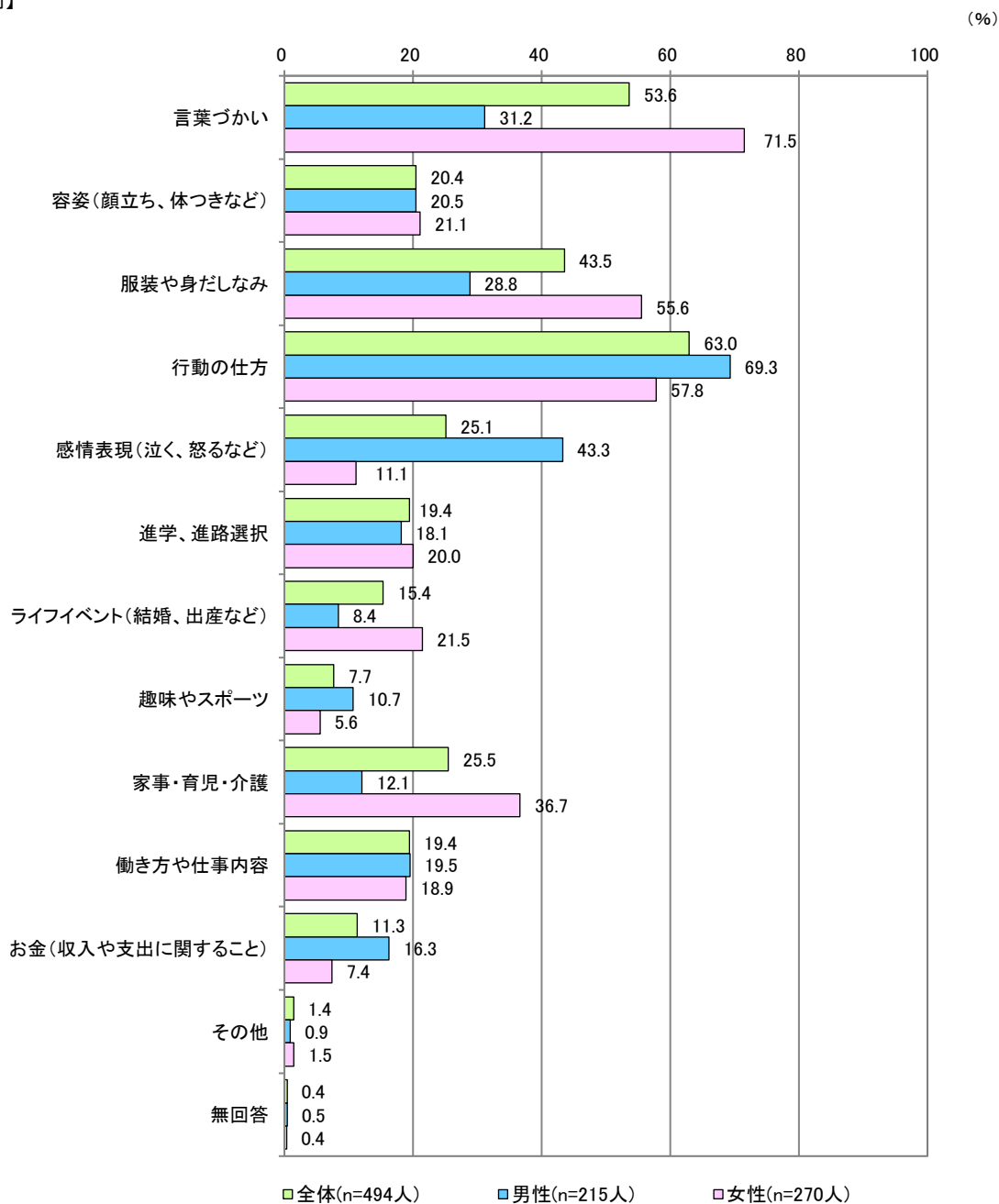
・世代別でみると、25歳～29歳では「父親」(61.5%)が最も多い。25歳～29歳を除く世代では、「母親」が最も多くなっている。



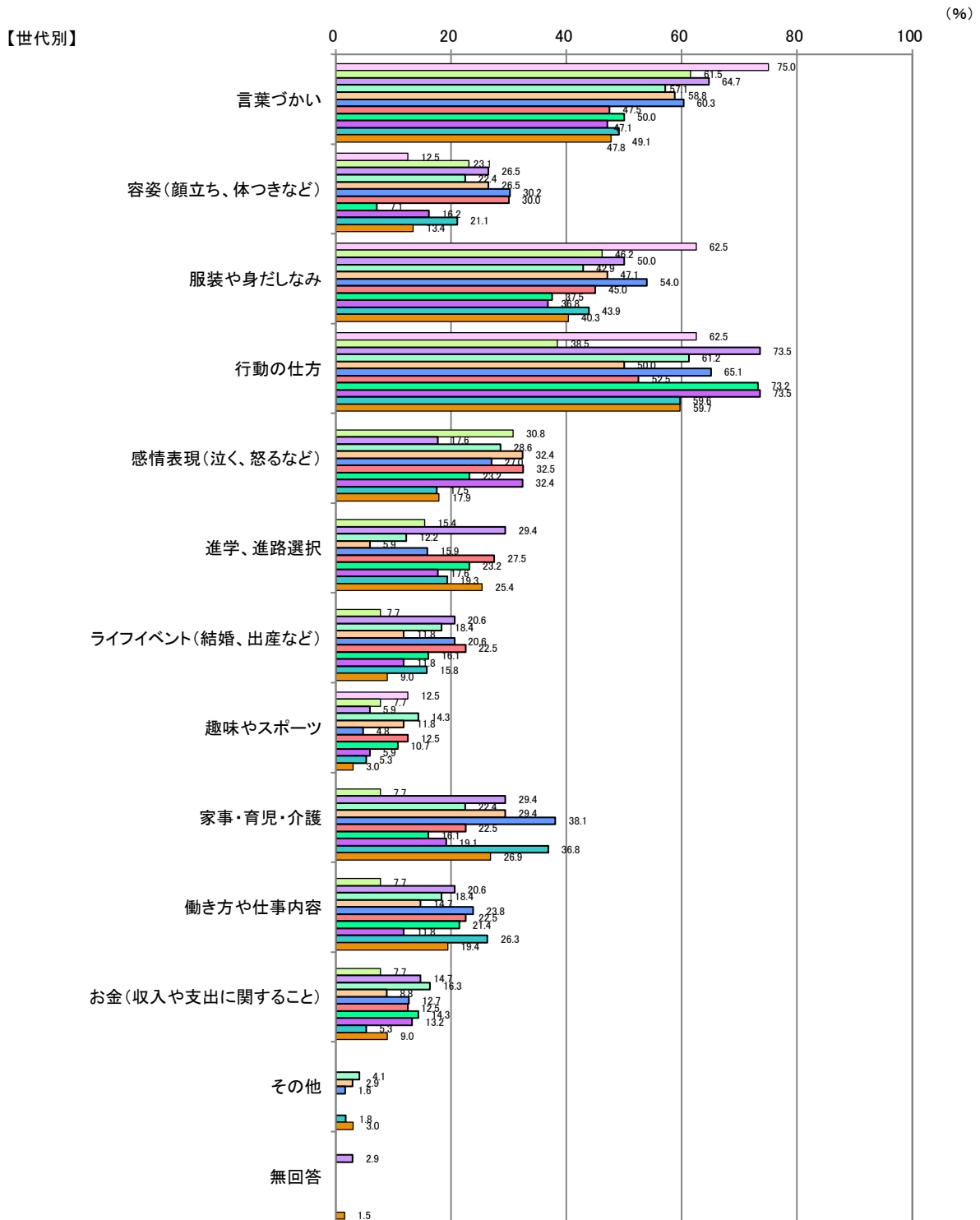
問 10 それは、どのような内容に関することですか。(〇はいくつでも)

- ・性別でみると、男性では、「行動の仕方」(69.3%)が約7割と最も多い。次に、「感情表現(泣く、怒るなど)」(43.3%)、「言葉づかい」(31.2%)と続いている。一方、女性では、「言葉づかい」(71.5%)が約7割と最も多い。次に、「行動の仕方」(57.8%)、「服装や身だしなみ」(55.6%)と続いている。

【性別】



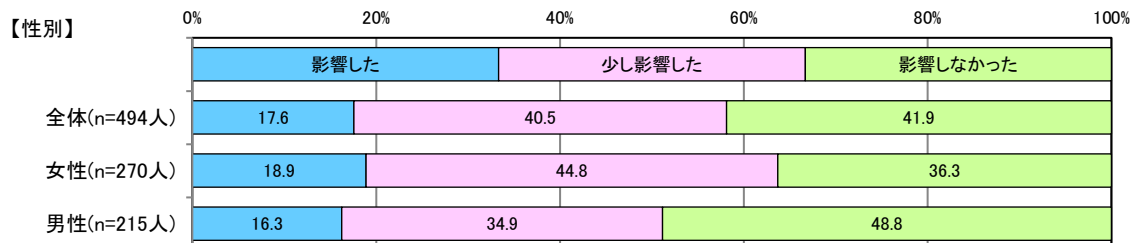
・世代別でみると、20歳～29歳、40歳～44歳を除いた世代で、「行動の仕方」が最も多くなっている。一方、20歳～29歳、40歳～44歳では「言葉づかい」が最も多くなる。



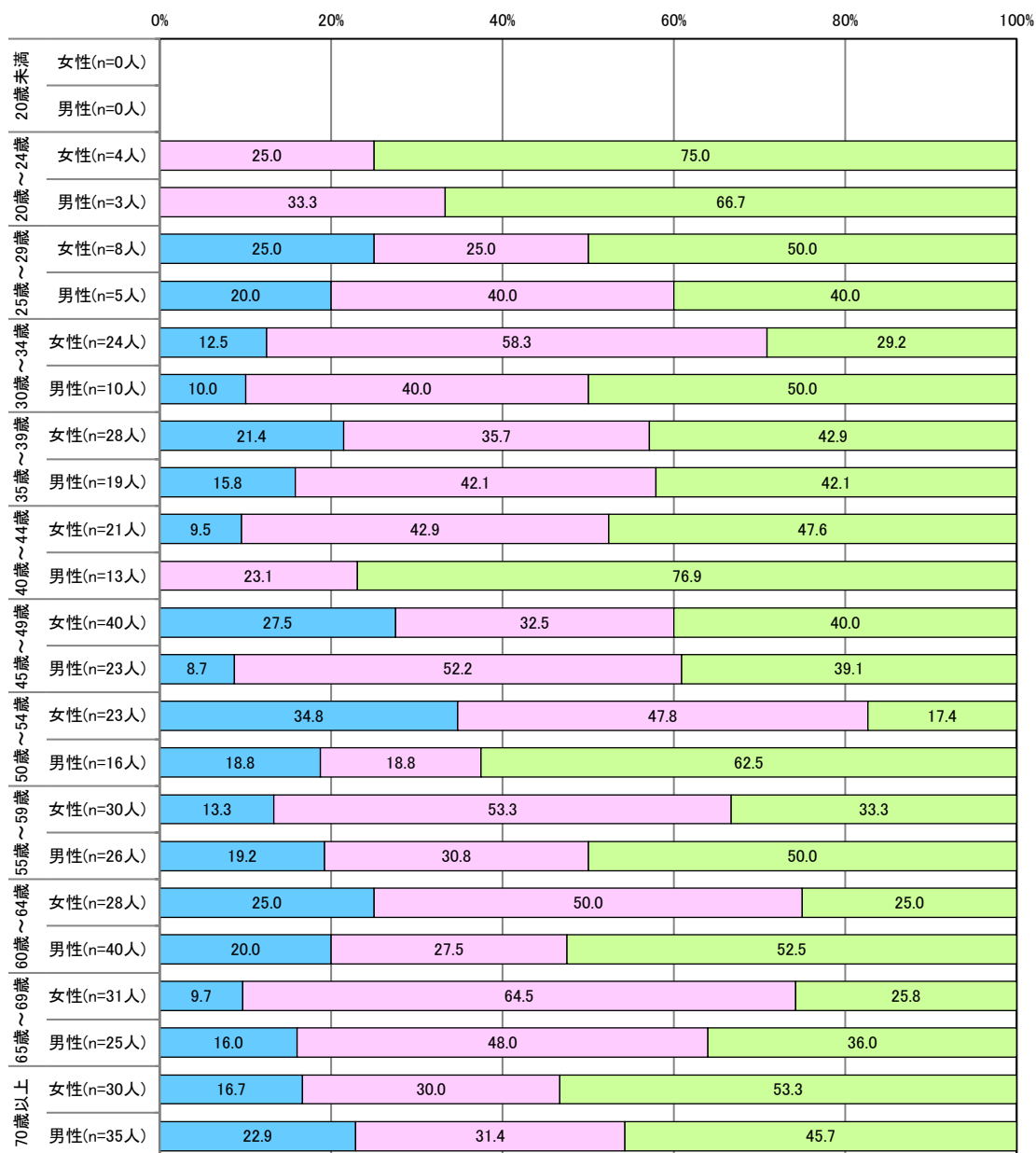
■20歳未満(n=0人) ■20歳～24歳(n=8人) ■25歳～29歳(n=13人) ■30歳～34歳(n=34人)
 ■35歳～39歳(n=49人) ■40歳～44歳(n=34人) ■45歳～49歳(n=63人) ■50歳～54歳(n=40人)
 ■55歳～59歳(n=56人) ■60歳～64歳(n=68人) ■65歳～69歳(n=57人) ■70歳以上(n=67人)

問 11 子ども時代に「女らしさ・男らしさ」を言われたことについて、あなたの生き方に影響したと思いますか。(〇は1つ)

- ・性別でみると、女性は「少し影響した」が4割を超え、最も多くなっている。一方、男性は「影響しなかった」が4割を超え、最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳の男性、30歳～34歳の女性、45歳～49歳の男女、50歳～64歳の女性、65歳～69歳の男女で「影響した」、「少し影響した」の合計が6割以上となっている。

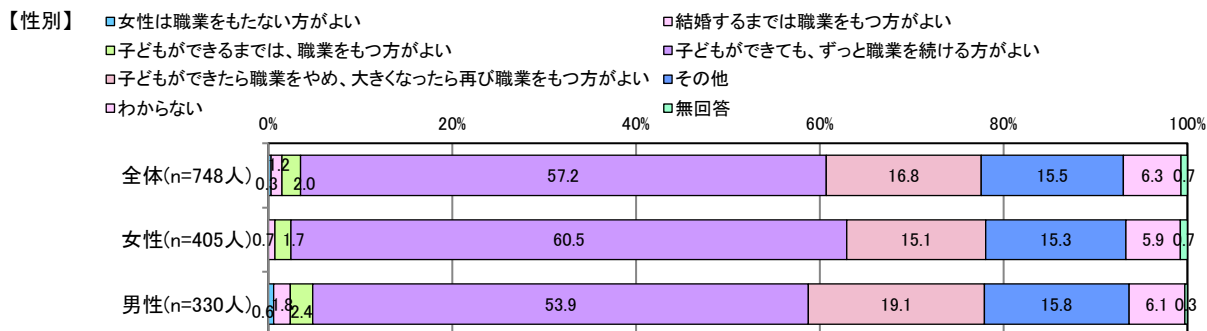


【世代別性別】

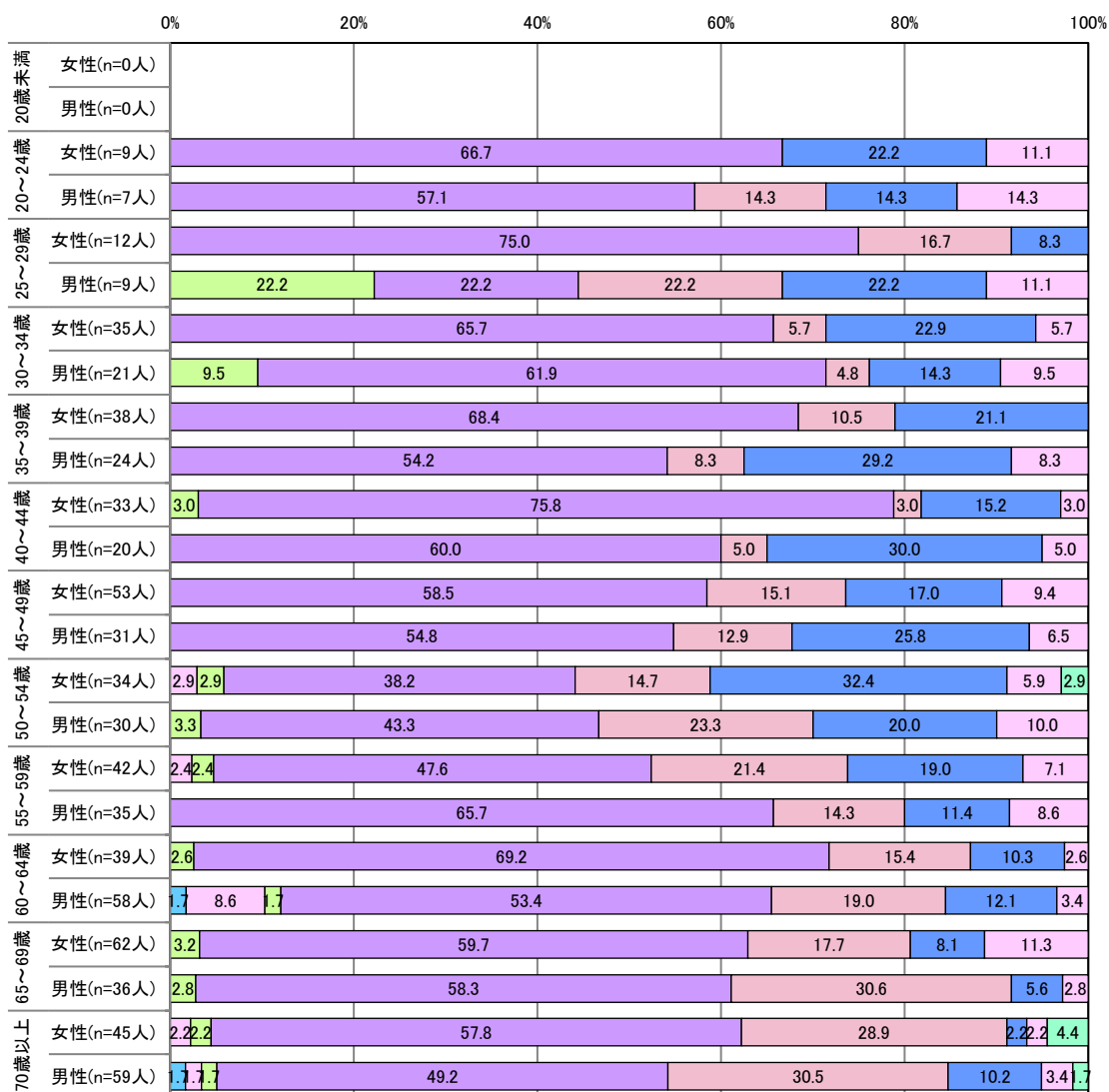


問 12 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。（〇は1つ）

- ・性別でみると、男女ともに、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が最も多く、次いで、男性は「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」となっている。
- ・世代別性別でみると、いずれも「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が一番多くなっている。



【世代別性別】

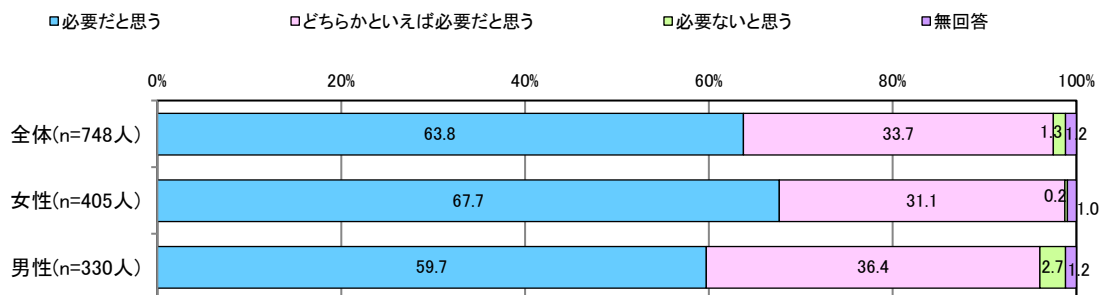


職場における「女性活躍と就労」に関することについて

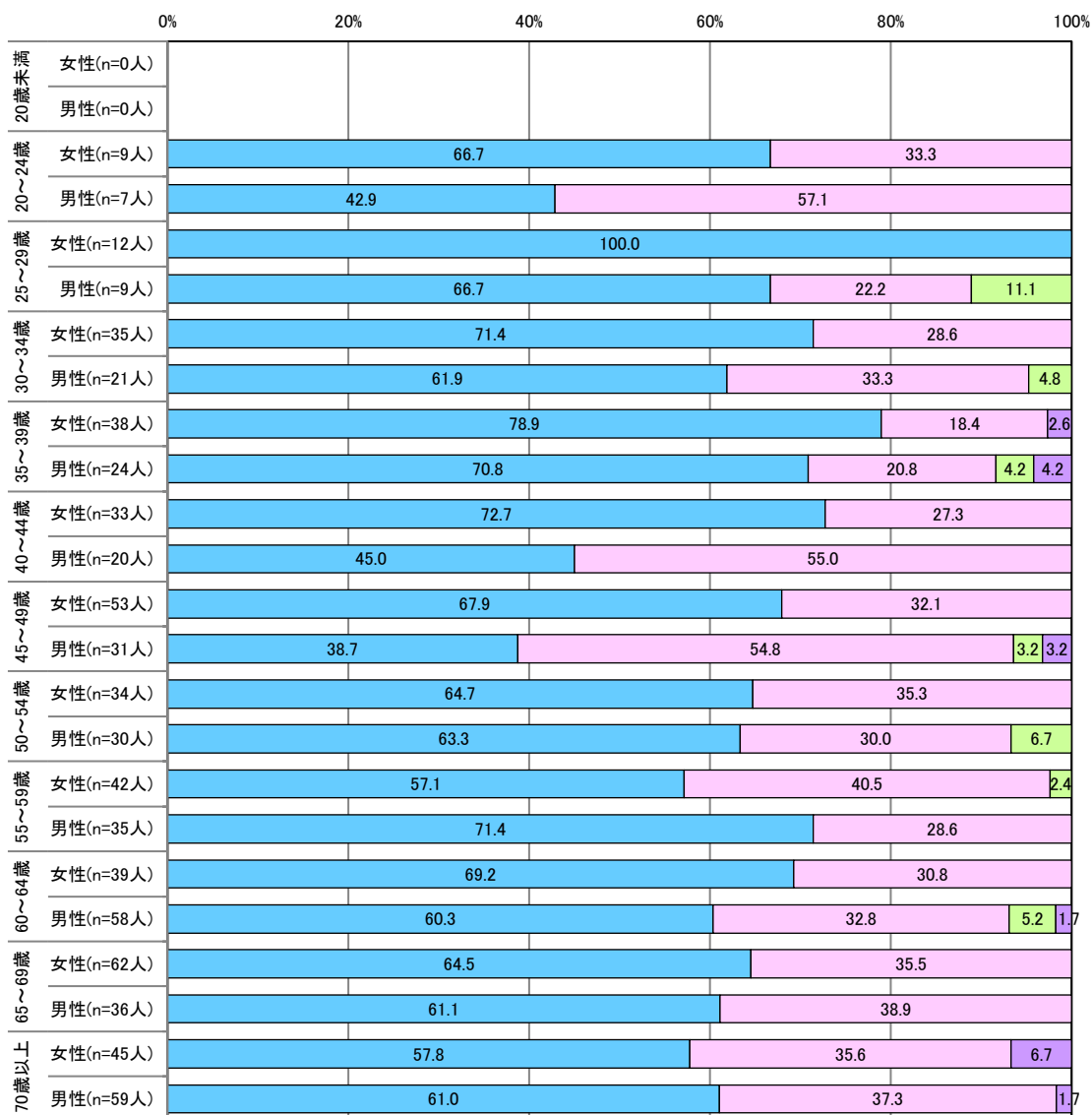
問13 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどうお考えですか。(〇は1つ)

- ・性別でみると、男女ともに、「必要だと思う」という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の男性、40歳～49歳の男性を除き、いずれの世代でも「必要だと思う」が最も多くなっている。

【性別】



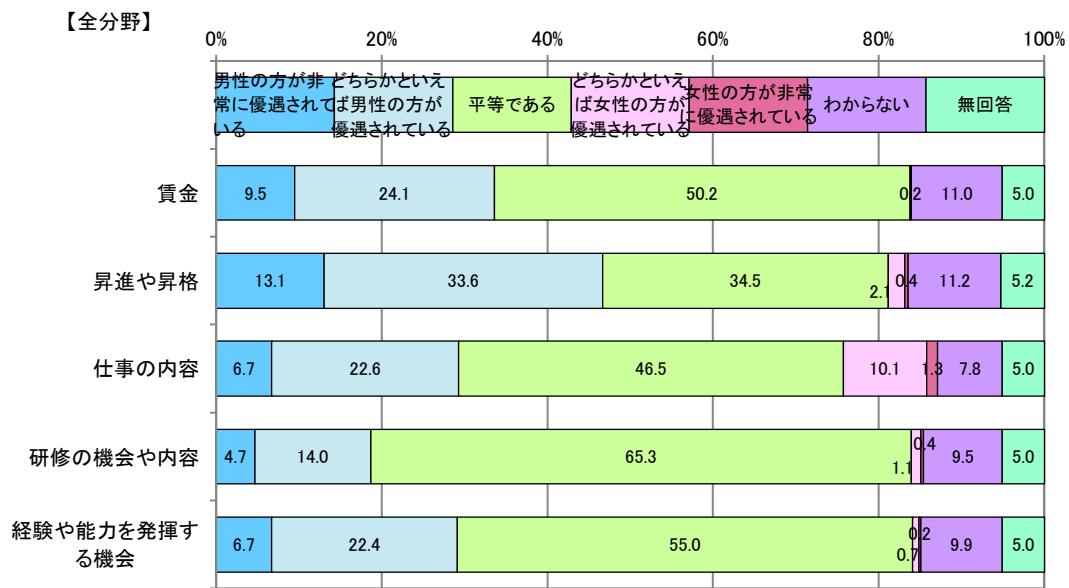
【世代別性別】



問 14 現在、職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか（次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか）。（それぞれ〇は1つ）

- ・「平等である」という回答が最も多くなっている。
- ・「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答合計でみると、「昇進や昇格」が約5割（46.7%）で、最も多くなっている。次いで、「賃金」（33.6%）、「仕事の内容」（29.3%）、「経験や能力を発揮する機会」（29.1%）、「研修の機会や内容」（18.7%）の順が続いている。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」という回答の割合は、「仕事の内容」が約1割（10.1%）となっている。それ以外の分野では、2.1%以下となっている。

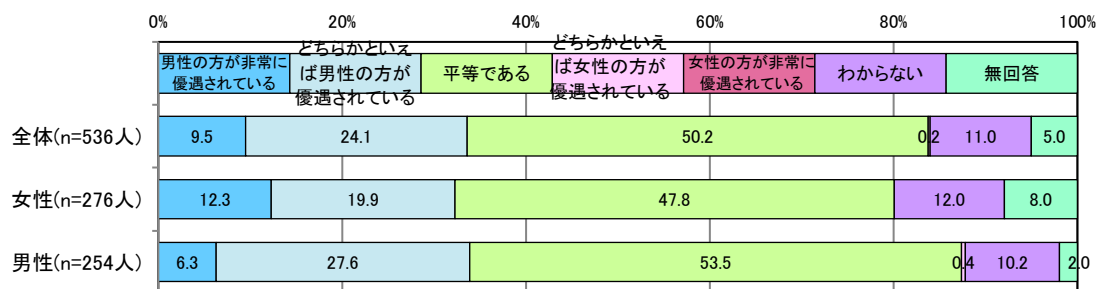


(全体 n=536 人)

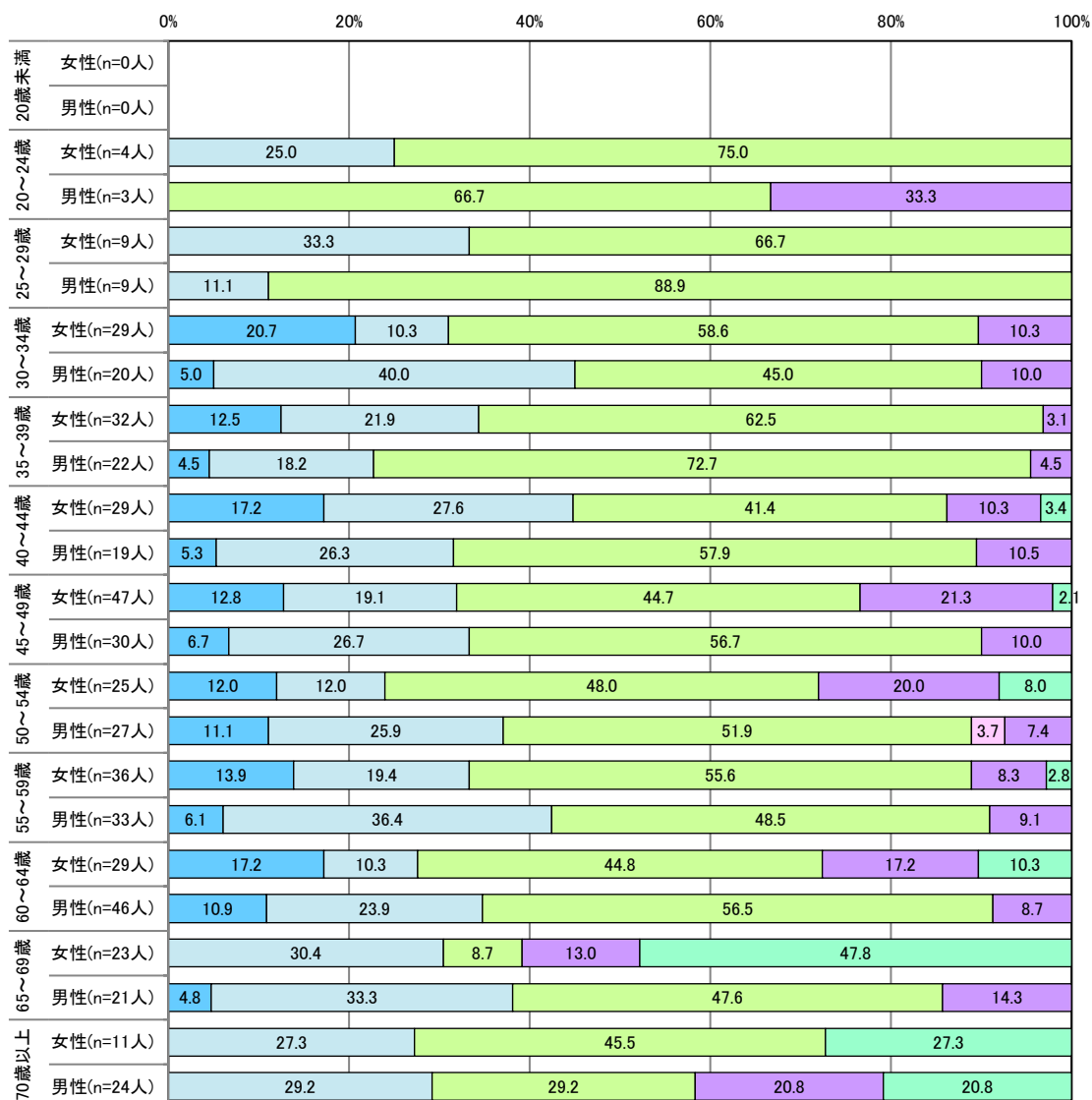
1 賃金

- ・性別でみると、男女ともに、「平等である」という回答が最も多く、男性は 53.5%で、女性は 47.8%となっている。
- ・「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答合計では、男性は 33.9%、女性は 32.2%となっている。
- ・世代別性別でみると、65歳以上の女性を除き、いずれも「平等である」という回答の割合が最も多くなっている。

【性別】



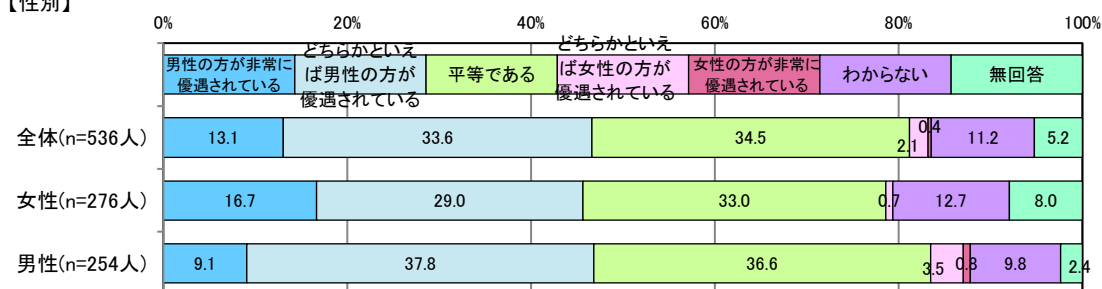
【世代別性別】



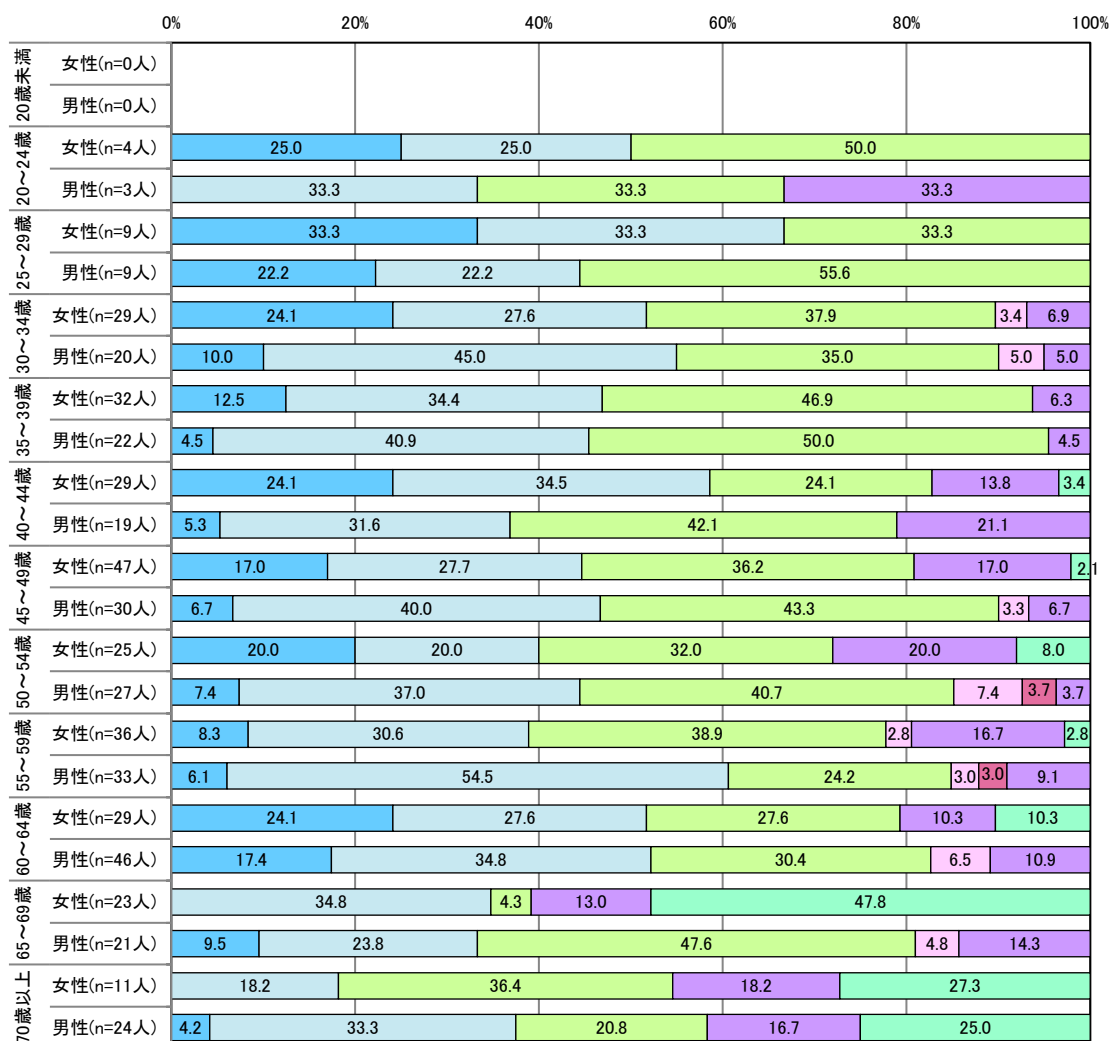
2 昇進や昇格

- ・性別でみると、男女とも、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と「平等である」が拮抗している。男性は、それぞれ約4割、女性はそれぞれ約3割となっている。
- ・「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答合計では、男性は46.9%、女性は45.7%となっている。
- ・世代別性別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の回答合計が5割以上となる世代は、20歳～29歳の女性、30歳～34歳の男女、40歳～44歳の女性、55歳～59歳の男性、60歳～64歳の男女となっている。一方、20歳～24歳の女性、25歳～29歳の男性、35歳～39歳の男性では、「平等である」が5割以上と、最も多くなっている。

【性別】

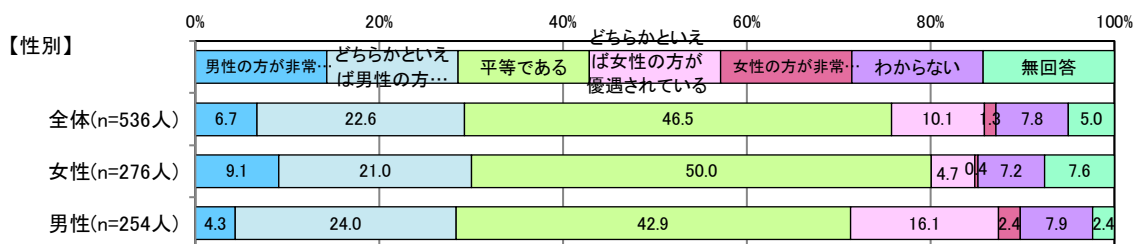


【世代別性別】

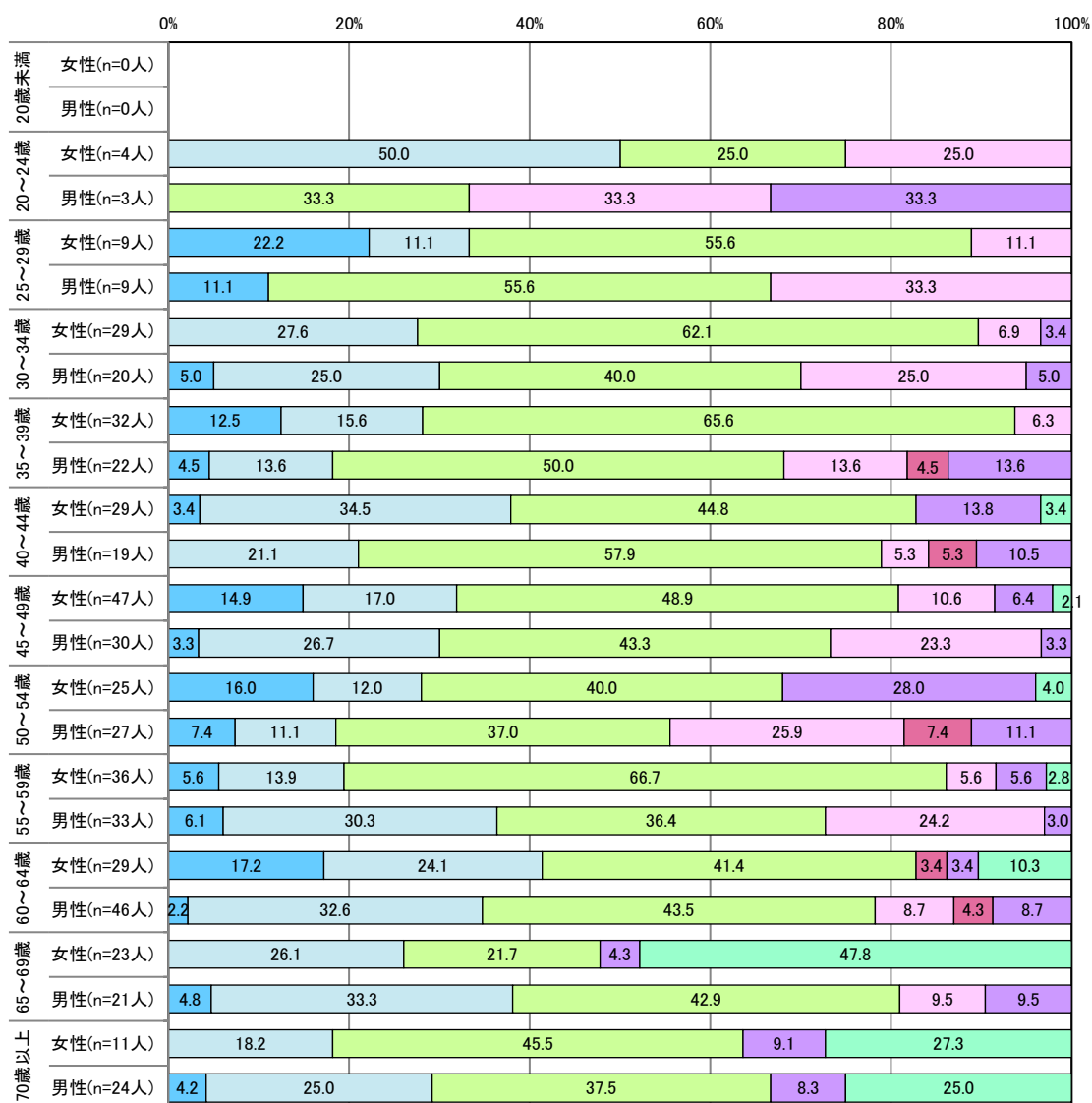


3 仕事の内容

- ・性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性が 42.9%、女性が 50.0%となっている。
- ・「どちらかといえば女性の方が優遇されている」という回答は、男性が 16.1%、女性が 4.7%で、男性の回答割合が高く、男女間に意識の差がみられる。
- ・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の男女、65 歳～69 歳の女性を除く、いずれの世代も、「平等である」という回答が最も多くなっている。一方、20 歳～29 歳の男性では、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が3割以上と、他の世代よりも高くなっている。

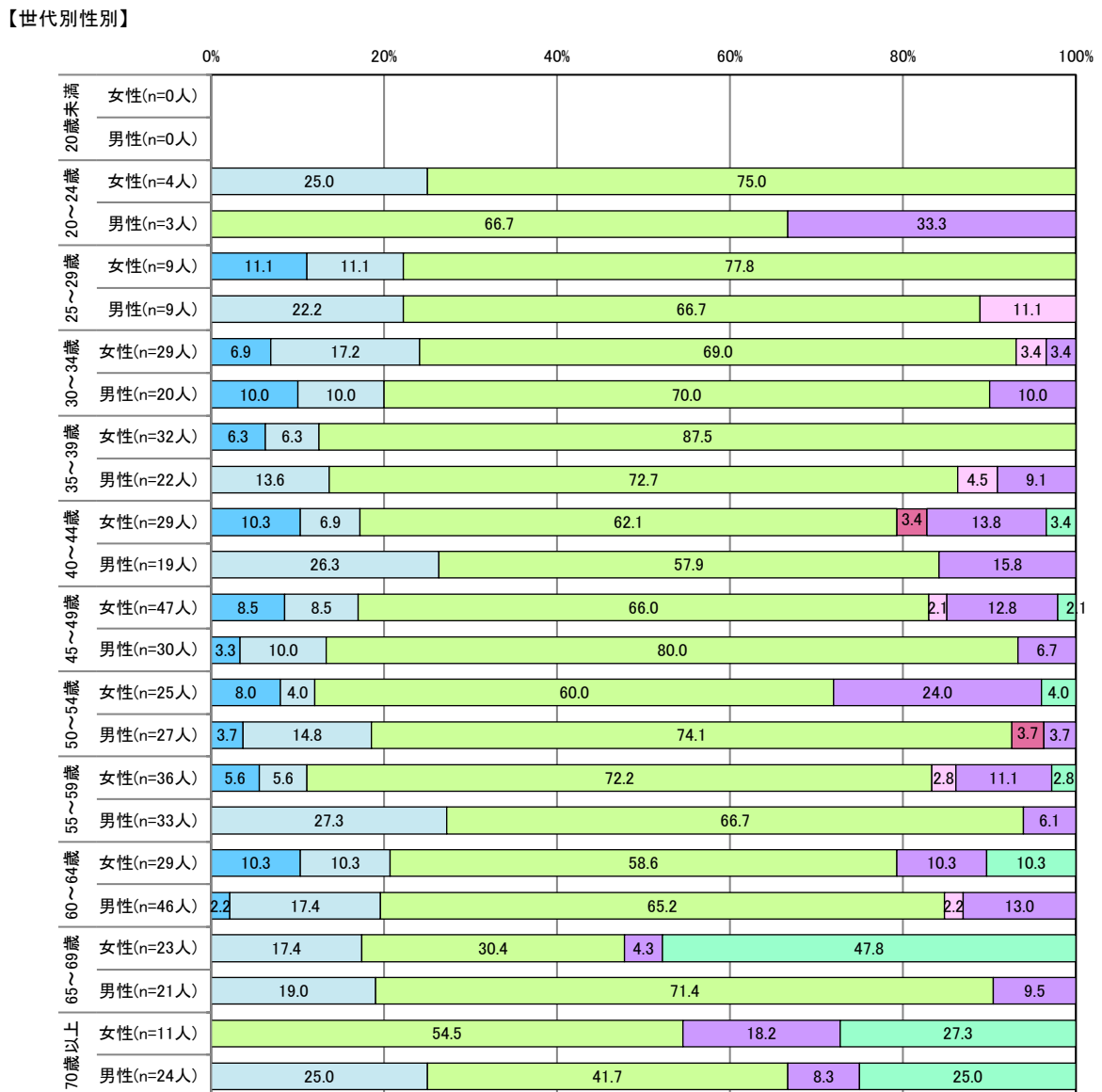
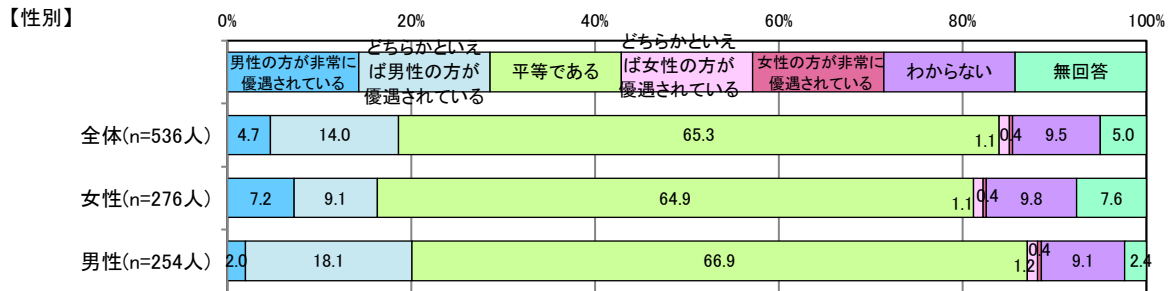


【世代別性別】



4 研修の機会や内容

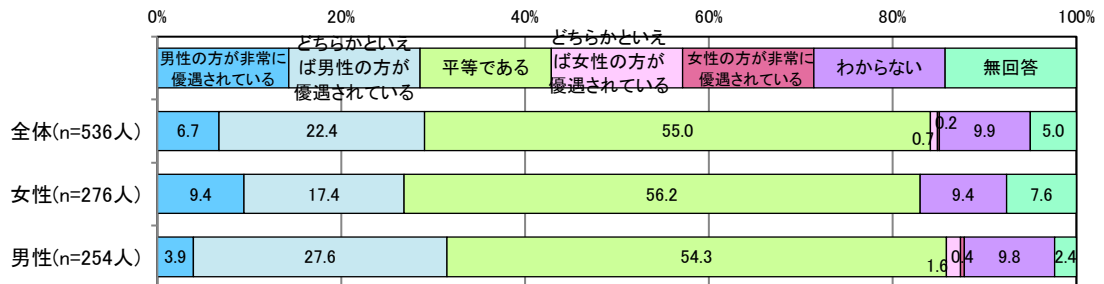
- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が66.9%、女性が64.9%となっている。
- ・世代別性別でみると、65歳～69歳の女性を除き、いずれの世代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。



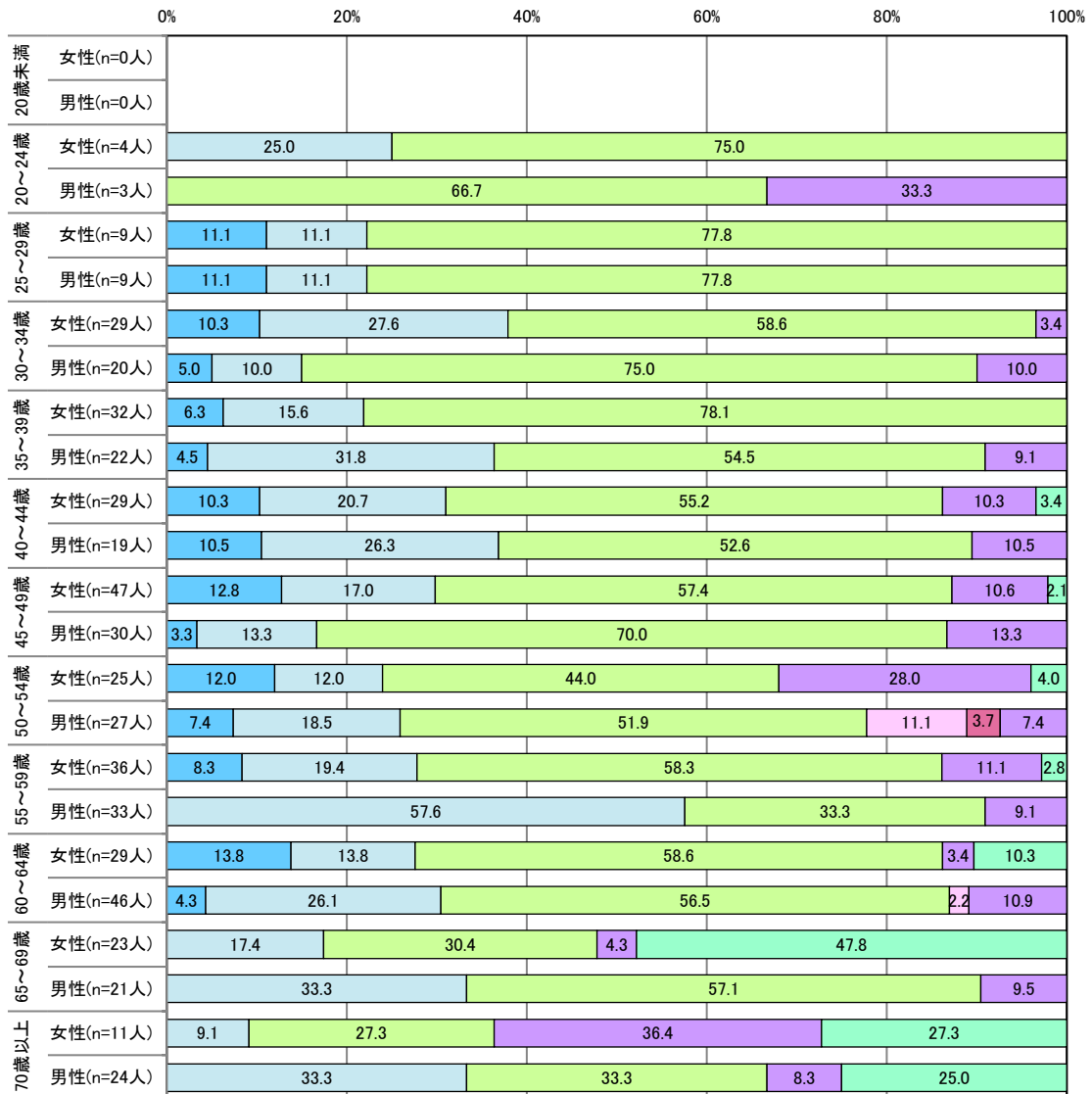
5 経験や能力を発揮する機会

- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が54.3%、女性が56.2%となっている。
- ・世代別性別でみると、55歳～59歳の男性、65歳～69歳の女性、70歳以上の男女を除く、いずれの年代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。

【性別】



【世代別性別】



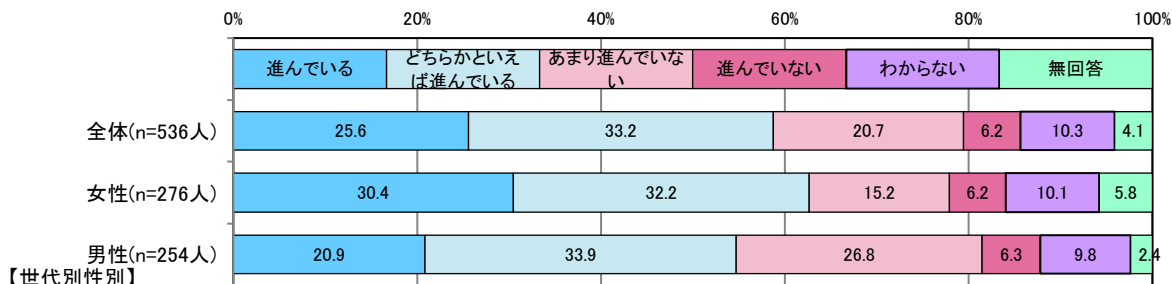
問 15 **現在、職業に就いていらっしゃる方におたずねします。**

あなたの職場では女性の雇用や登用は進んでいると思いますか。

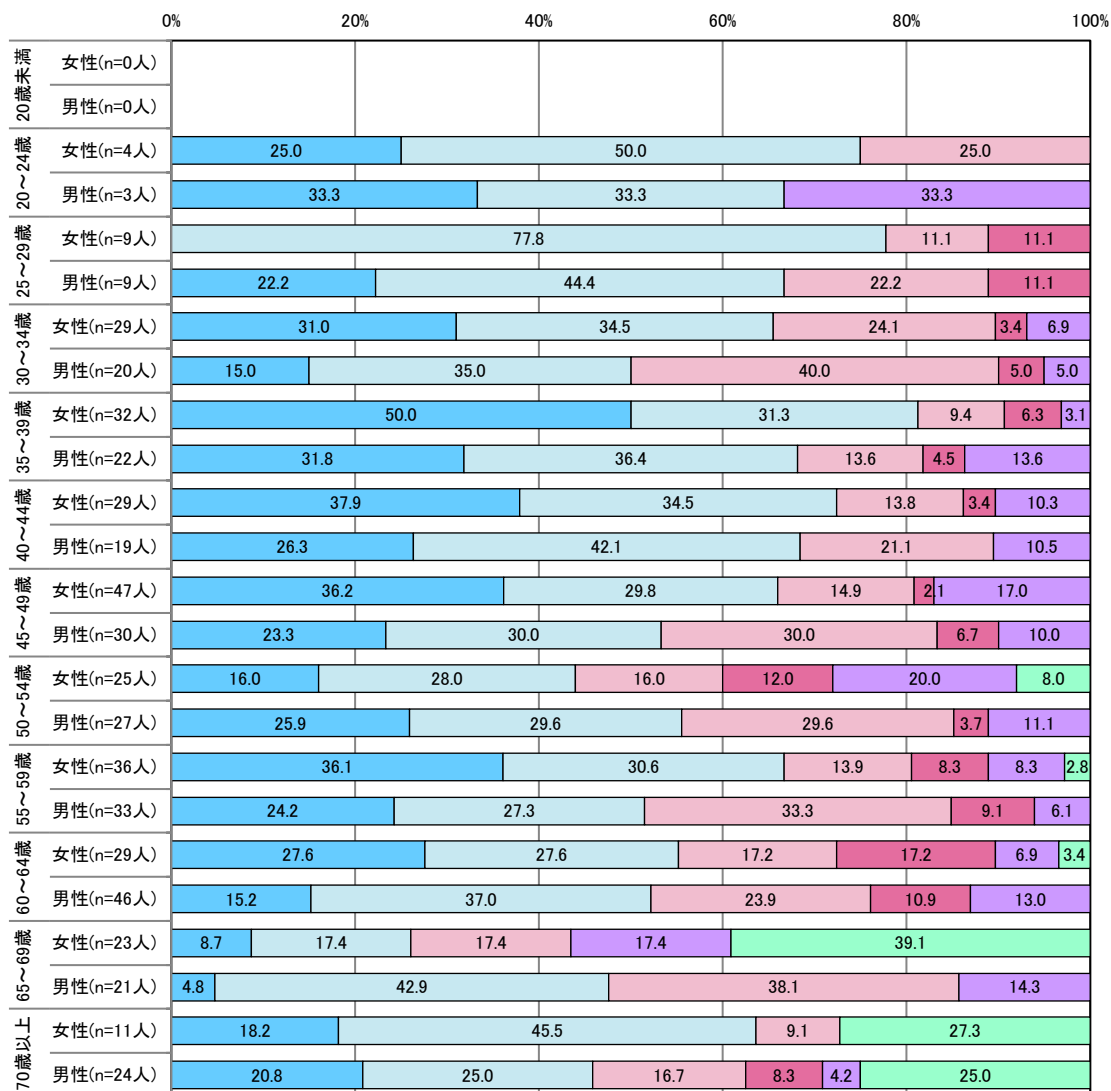
(○は 1 つ)

- ・性別でみると、男女ともに、「どちらかといえば進んでいる」という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20 歳～29 歳の男女、30 歳～34 歳の女性、35 歳～44 歳の男女、45 歳～49 歳の女性、55 歳～59 歳の女性、70 歳以上の女性では、「進んでいる」、「どちらかといえば進んでいる」の回答合計が 6 割以上となっている。

【性別】



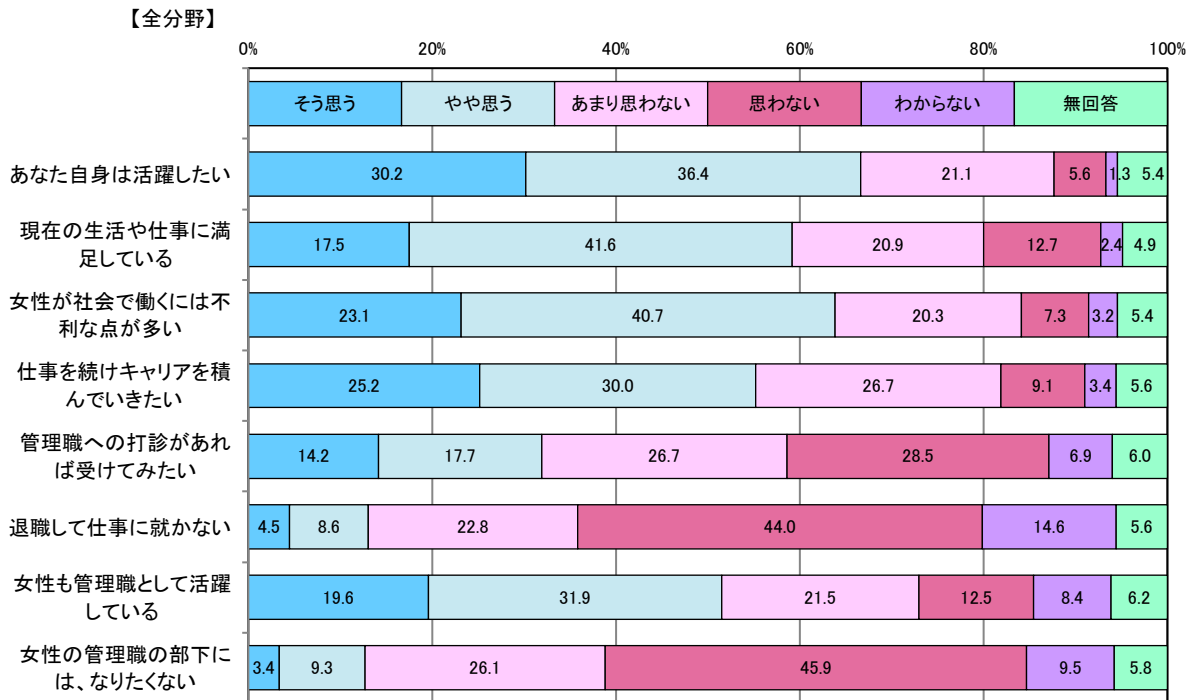
【世代別性別】



問 16 **現在、職業に就いていらっしゃる方におたずねします。**

今の職場について、あなたのお考えに近い番号をお選びください。（それぞれ〇は1つ）

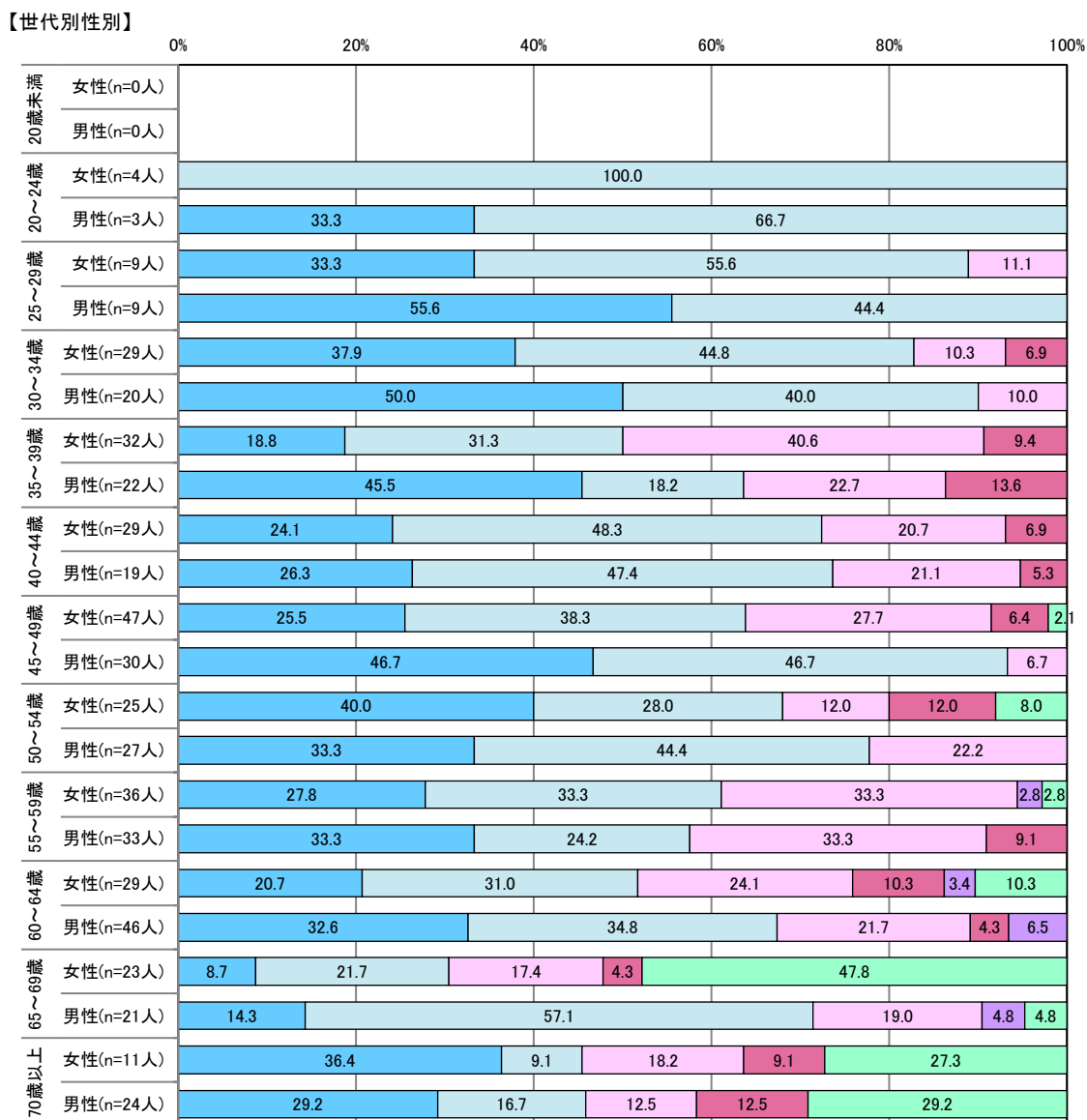
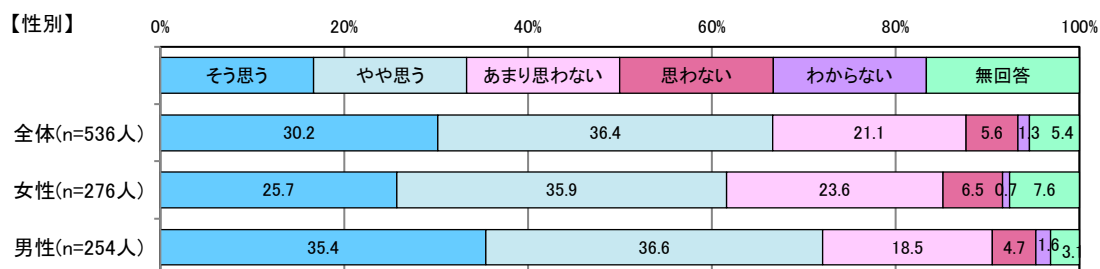
- ・「そう思う」という回答でみると、「あなた自身は活躍したい」（30.2%）が約3割で最も多くなっている。次いで、「仕事を続けキャリアを積んでいきたい」（25.2%）、「女性が社会で働くには不利な点が多い」（23.1%）、「女性も管理職として活躍している」（19.6%）、「現在の生活や仕事に満足している」（17.5%）の順が続いている。
- ・「思わない」という回答の割合は、「女性の管理職の部下には、なりたくない」（45.9%）が約5割と最も多くなっている。次いで、「退職して仕事に就かない」（44.0%）、「管理職への打診があれば受けてみたい」（28.5%）となっている。



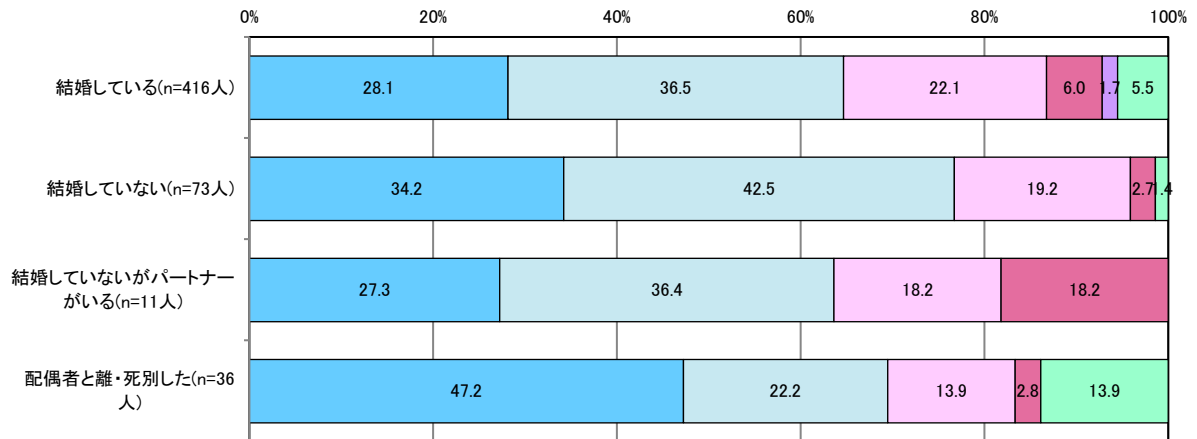
(全体 n=536人)

1 あなた自身は活躍したい

- ・全体でみると、「やや思う」という回答が最も多く、約4割（36.4%）となっている。
- ・性別でみると、男女ともに、「やや思う」が約4割と最も多く、「そう思う」、「やや思う」の回答割合合計は、6割を超えている。
- ・世代別性別でみると、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計では、20歳～34歳の男女、45歳～49歳の男性の世代で8割以上となる。
- ・配偶者の有無別でみると、いずれも「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が6割を超えている。



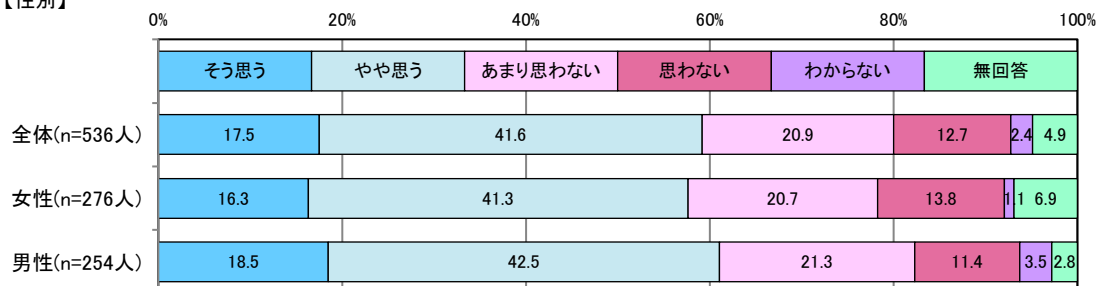
【配偶者の有無別】



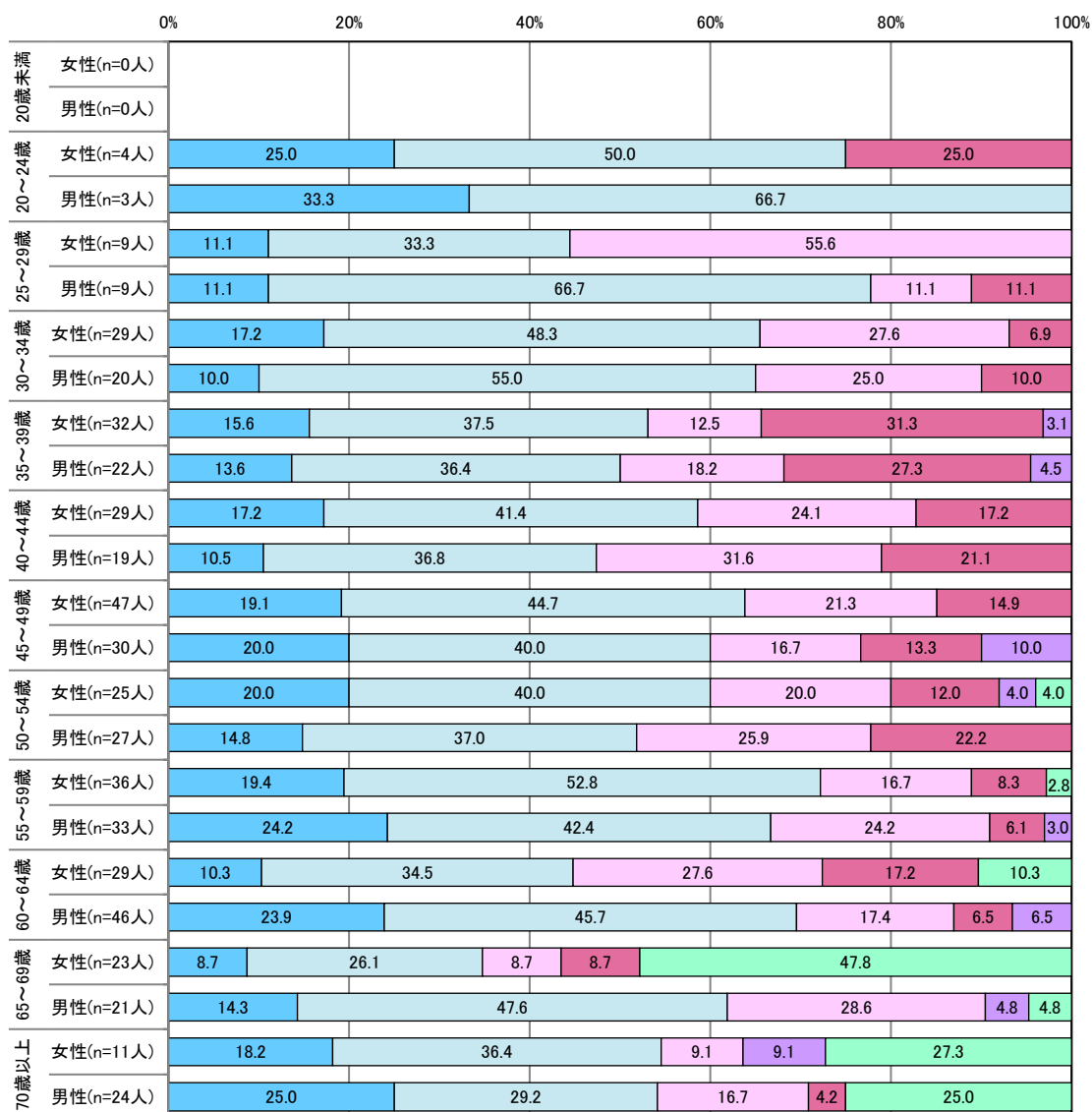
2 現在の生活や仕事に満足している

- ・全体でみると、「やや思う」という回答が最も多く、41.6%となっている。
- ・性別でみると、男女とも「やや思う」が4割を超え、最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の男女、25歳～29歳の男性、55歳～59歳の女性の世代で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が7割を超えている。
- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が6割を超えている。

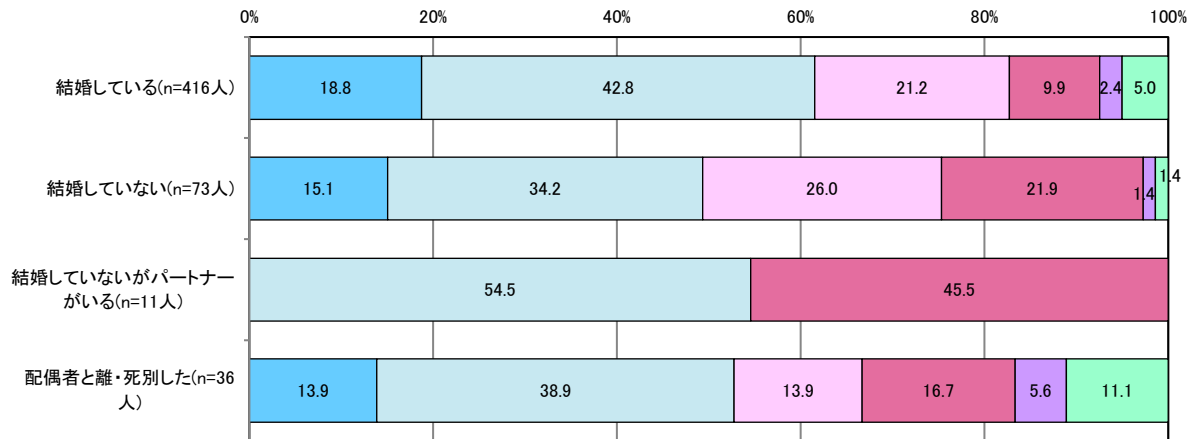
【性別】



【世代別性別】

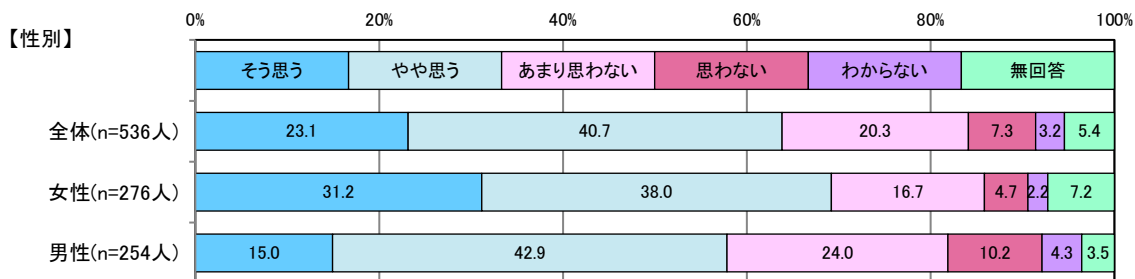


【配偶者の有無別】

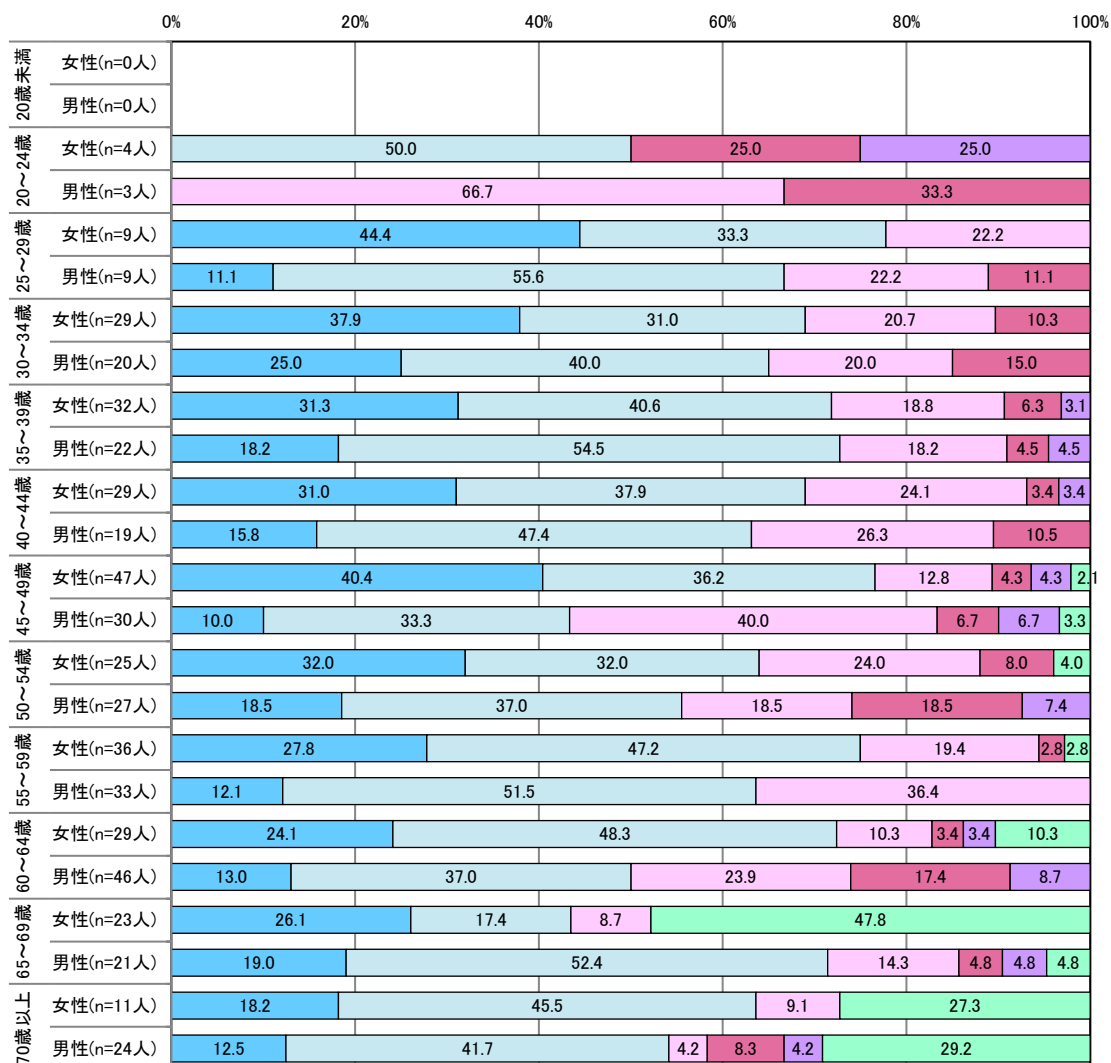


3 女性が社会で働くには不利な点が多い

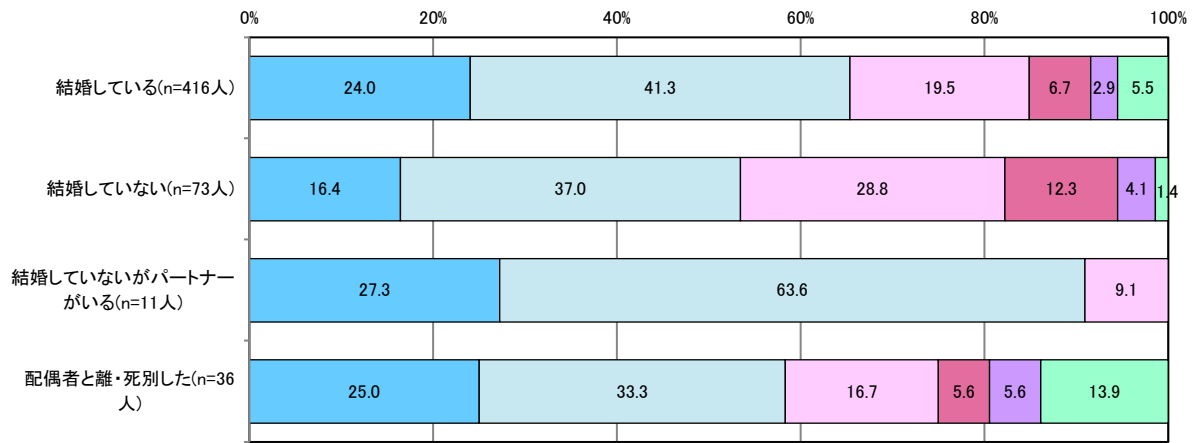
- ・全体でみると、「やや思う」が40.7%と最も多くなっている。
- ・性別でみると、男女とも「やや思う」が約4割と最も多い。「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計では、女性（69.2%）が男性（57.9%）よりもやや高くなる。
- ・世代別性別では、25～29歳の女性、35～39歳の男女、45歳～49歳の女性、55歳～64歳の女性、65歳～69歳の男性の世代で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が、7割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計は、「結婚している」、「結婚していないがパートナーがいる」で、6割以上となっている。



【世代別性別】

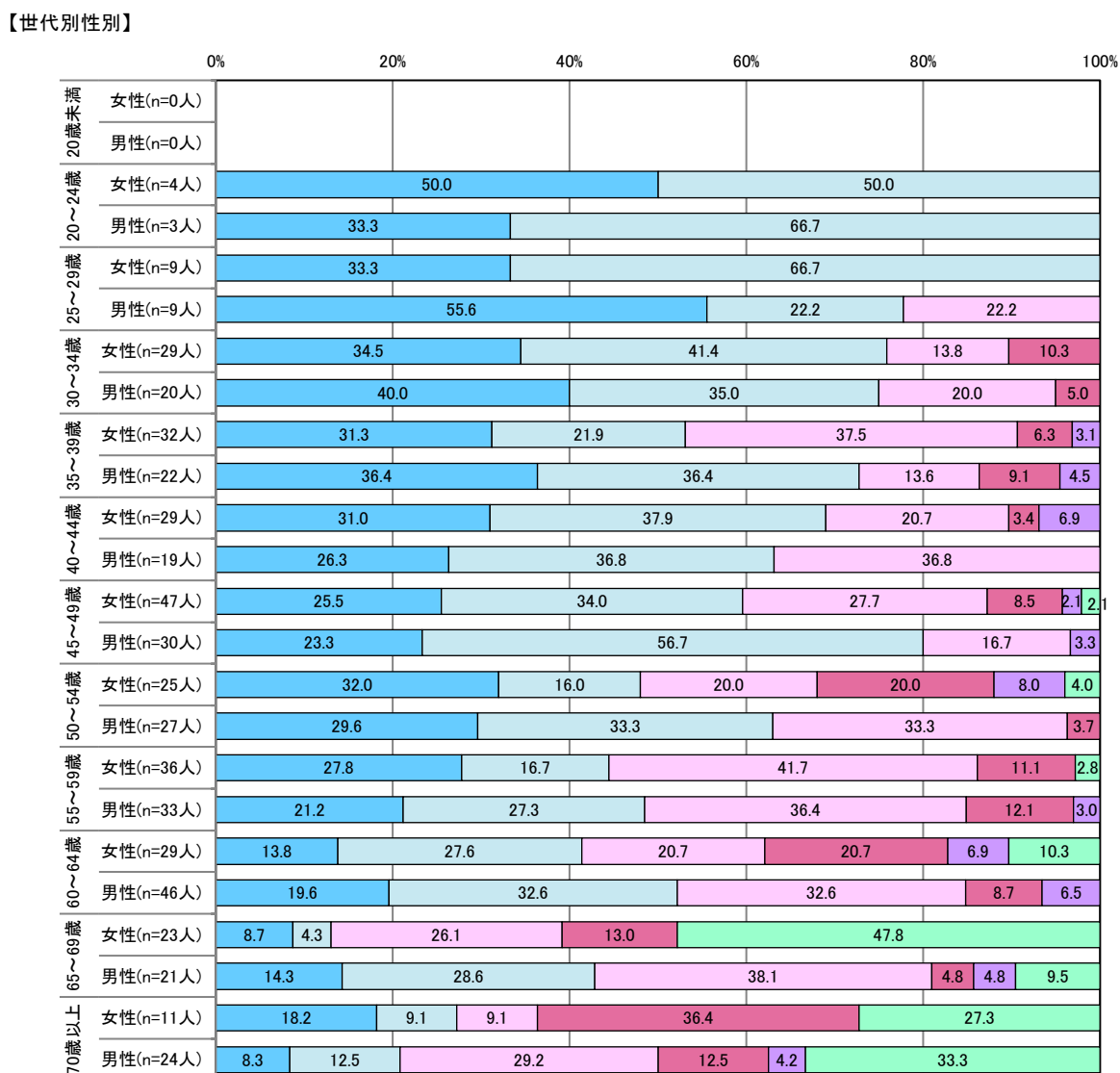
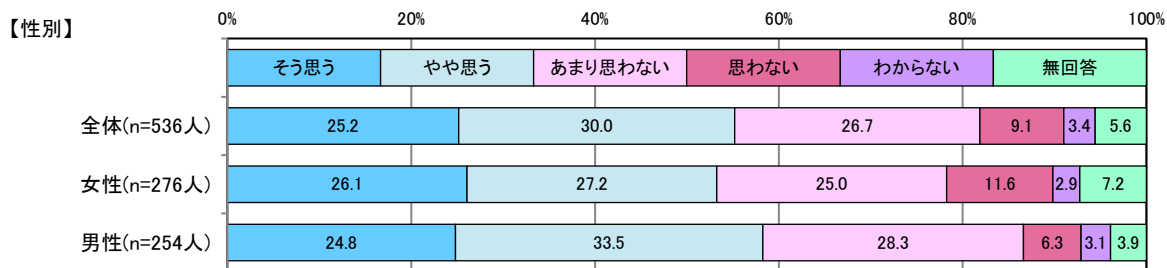


【配偶者の有無別】

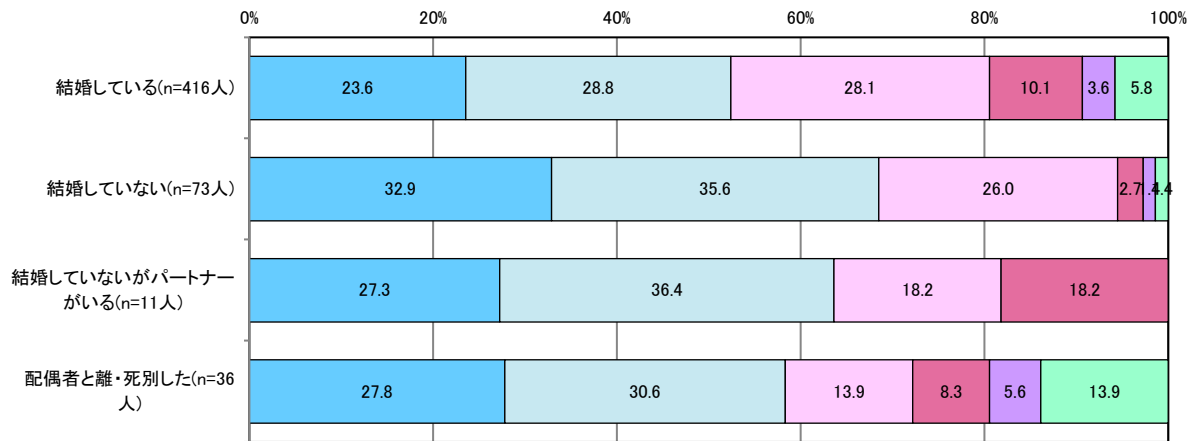


4 仕事を続けキャリアを積んでいきたい

- ・全体でみると、「やや思う」という回答が 30.0%で最も多く、次いで「あまり思わない」が 26.7%となっている。
- ・性別でみると、男女とも「やや思う」が約3割と最も多い。一方、女性では「そう思う」(26.1%)が、男性では「あまり思わない」(28.3%)が続いている。
- ・世代別性別でみると、20歳～34歳の男女、35歳～39歳の男性、40歳～44歳の男女、45歳～54歳の男性の世代で、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計が6割を超えている。
- ・配偶者の有無別でみると、「結婚していない」、「結婚していないがパートナーがいる」で、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計が、6割以上となっている。

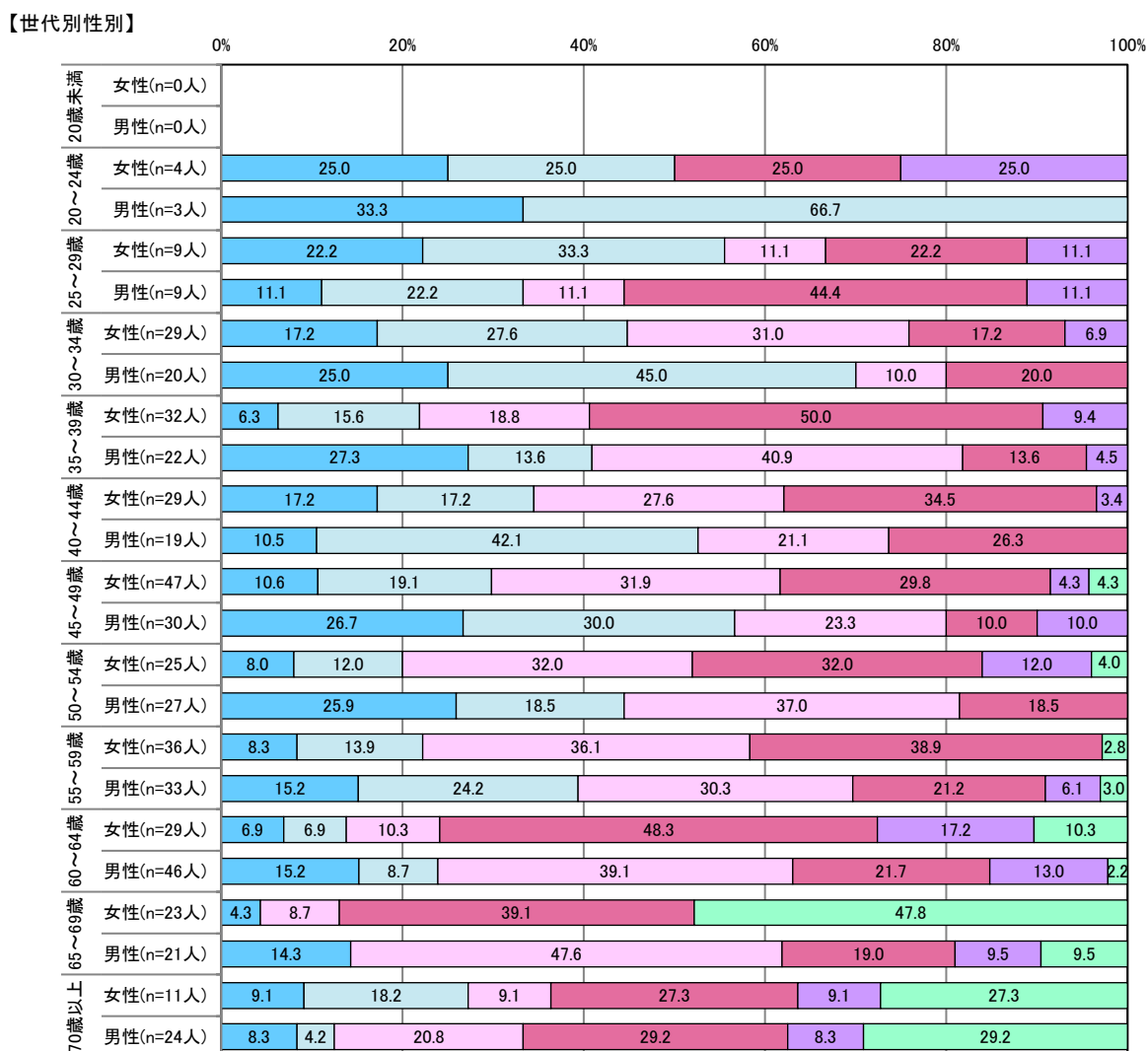
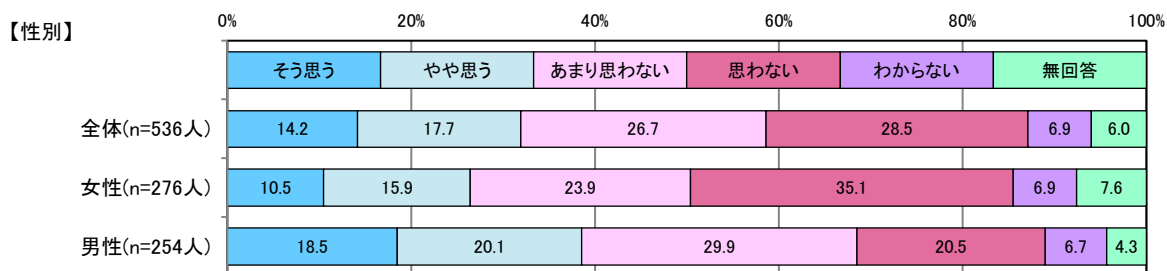


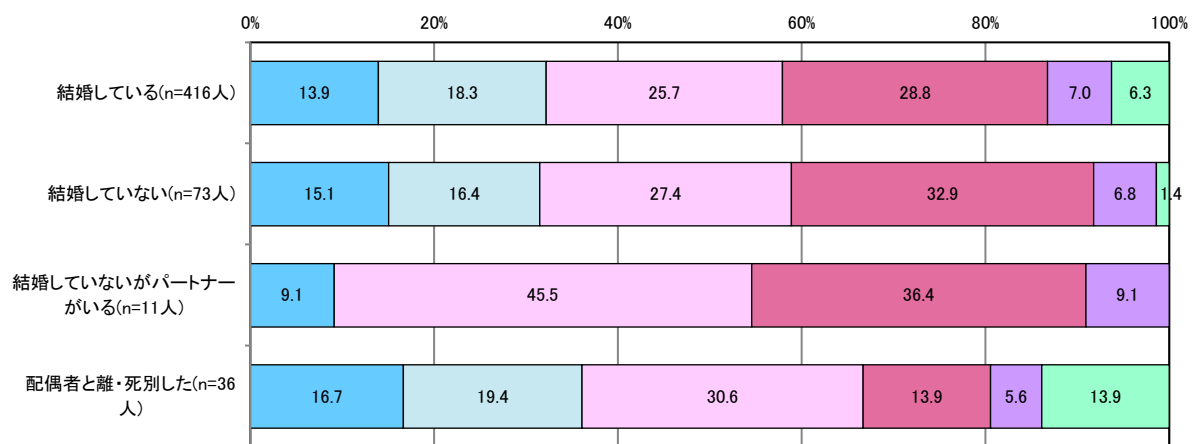
【配偶者の有無別】



5 管理職への打診があれば受けてみたい

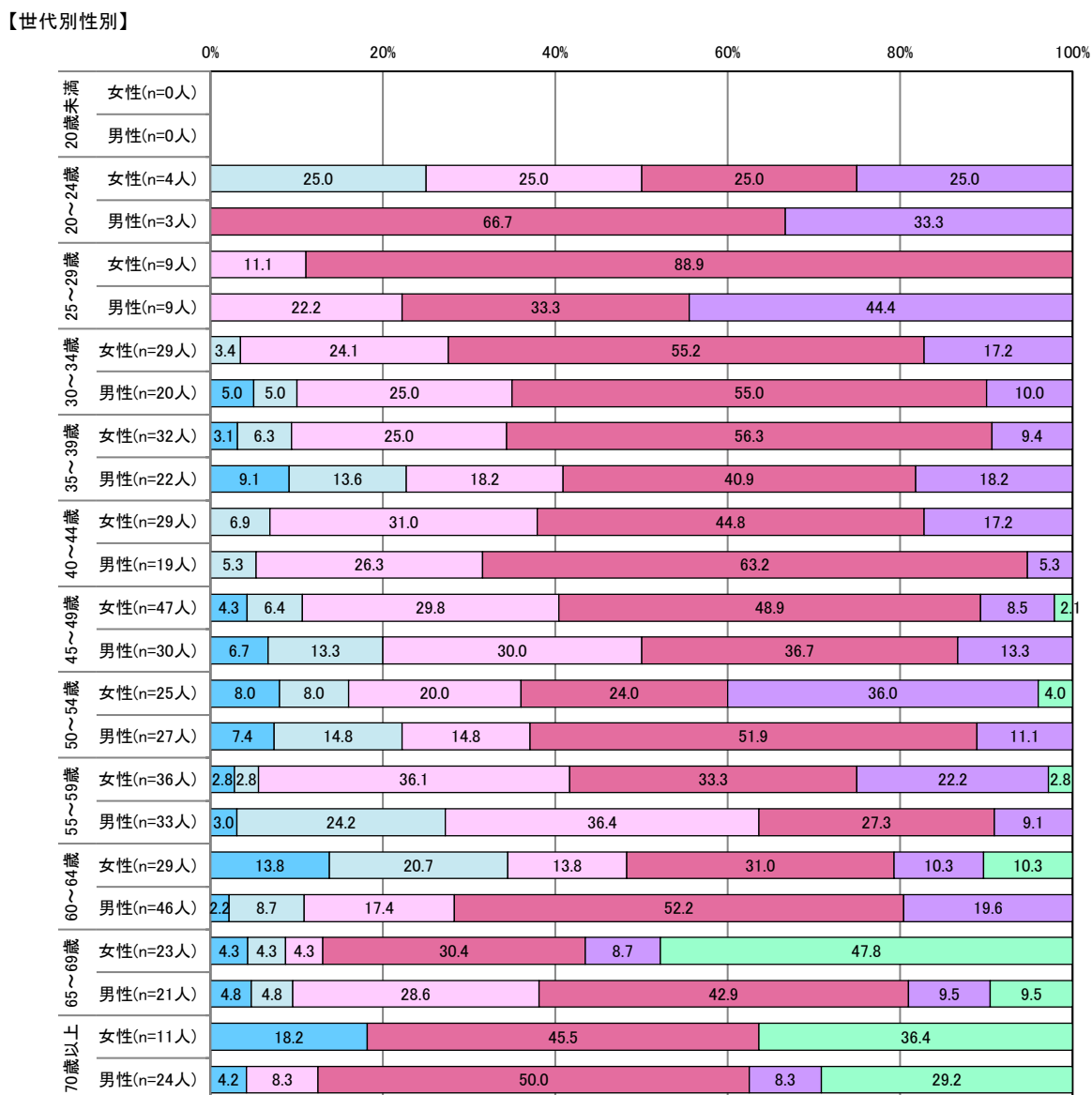
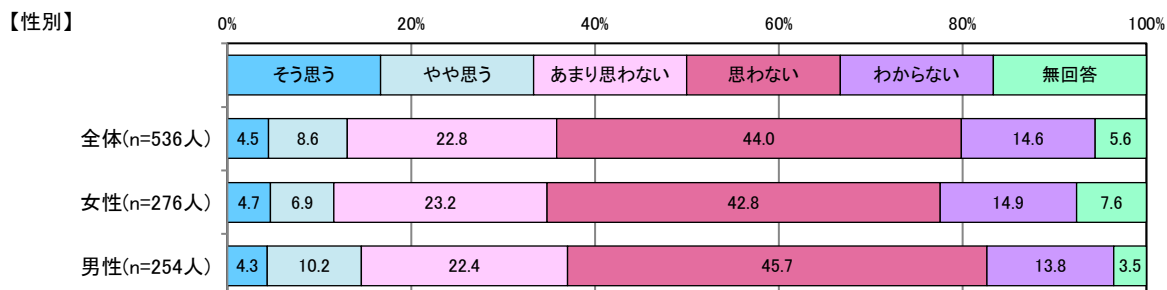
- ・全体でみると、「思わない」という回答が28.5%で最も多くなっている。
- ・性別でみると、「思わない」、「あまり思わない」の回答割合の合計では、女性（59.0%）、男性（50.4%）となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の男性、30歳～34歳の男性の世代で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が6割以上となっている。一方、25歳～29歳の男性、35歳～39歳の男女、40歳～49歳の女性、50歳～64歳の男女、65歳以上の男性では、「思わない」、「あまり思わない」の回答割合の合計が、5割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、「配偶者と離・死別した」を除く、いずれも「思わない」「あまり思わない」という回答割合の合計が5割を超えている。



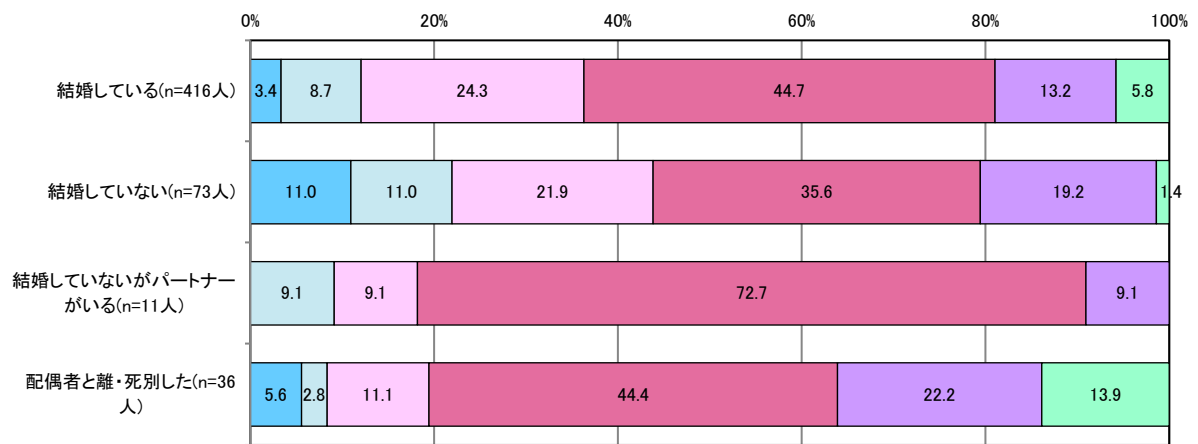


6 退職して仕事に就かない

- ・全体でみると、「思わない」という回答が44.0%と4割を超えている。
- ・性別でみると、男女とも「思わない」が4割以上と最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、50歳～54歳の女性、60歳以上の女性の年代を除き、いずれの年代においても「思わない」、「あまり思わない」の回答割合の合計が5割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、いずれも「思わない」、「あまり思わない」の回答割合の合計が5割以上となっている

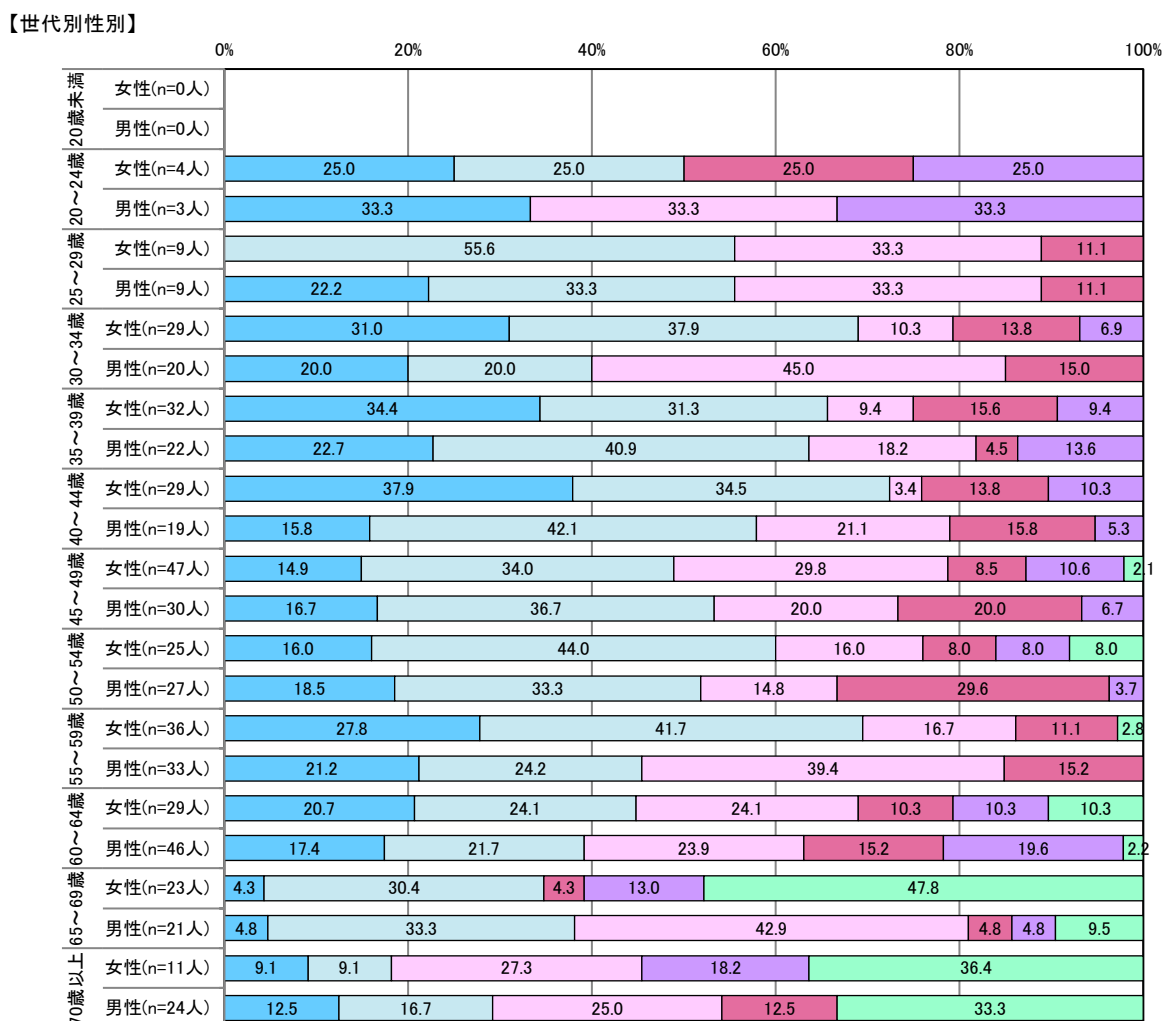
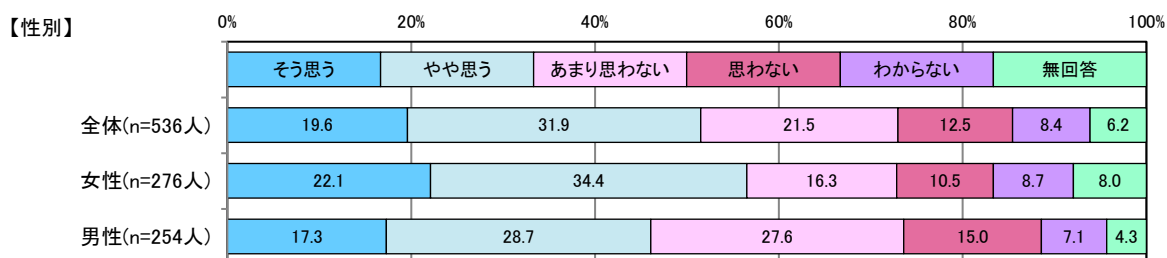


【配偶者の有無別】

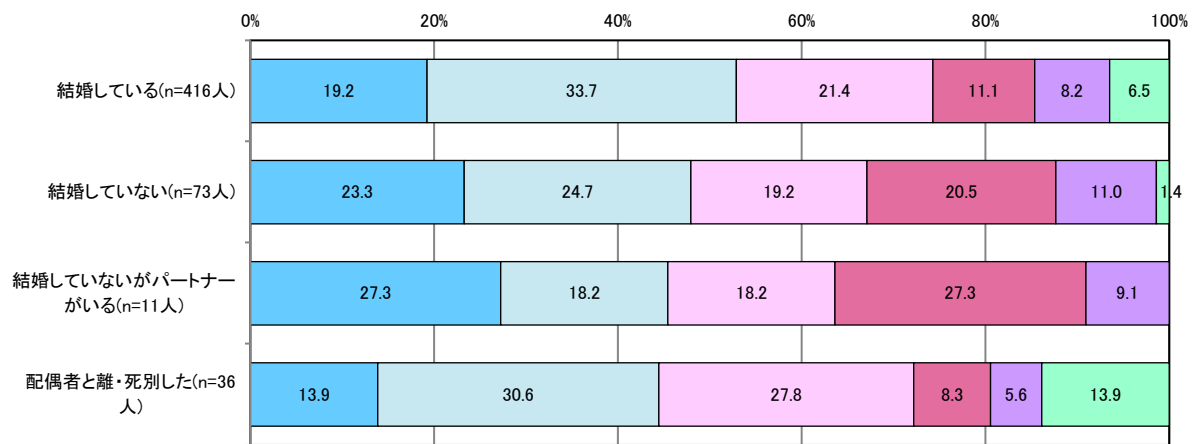


7 女性も管理職として活躍している

- ・全体でみると、「やや思う」という回答が 31.9%と最も多く、次いで「あまり思わない」が 21.5%と続いている。
- ・性別でみると、男女とも「やや思う」が最も多い。次いで、女性は「そう思う」と続き、一方、男性は「あまり思わない」と続き、女性よりもやや高い回答割合となっている。
- ・世代別性別でみると、30 歳～44 歳の女性、35 歳～39 歳の男性、55 歳～59 歳の女性で、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計が、6 割を超えている。一方、30 歳～34 歳の男性、55 歳～59 歳の男性の世代で、「思わない」、「あまり思わない」という回答割合の合計が 5 割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」で、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計が、5 割を超えている。一方、「結婚していないがパートナーがいる」で、「思わない」、「あまり思わない」という回答割合の合計が、4 割を超えている。



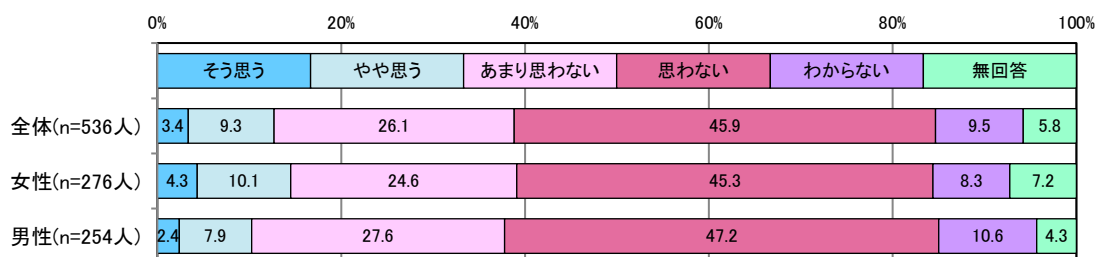
【配偶者の有無別】



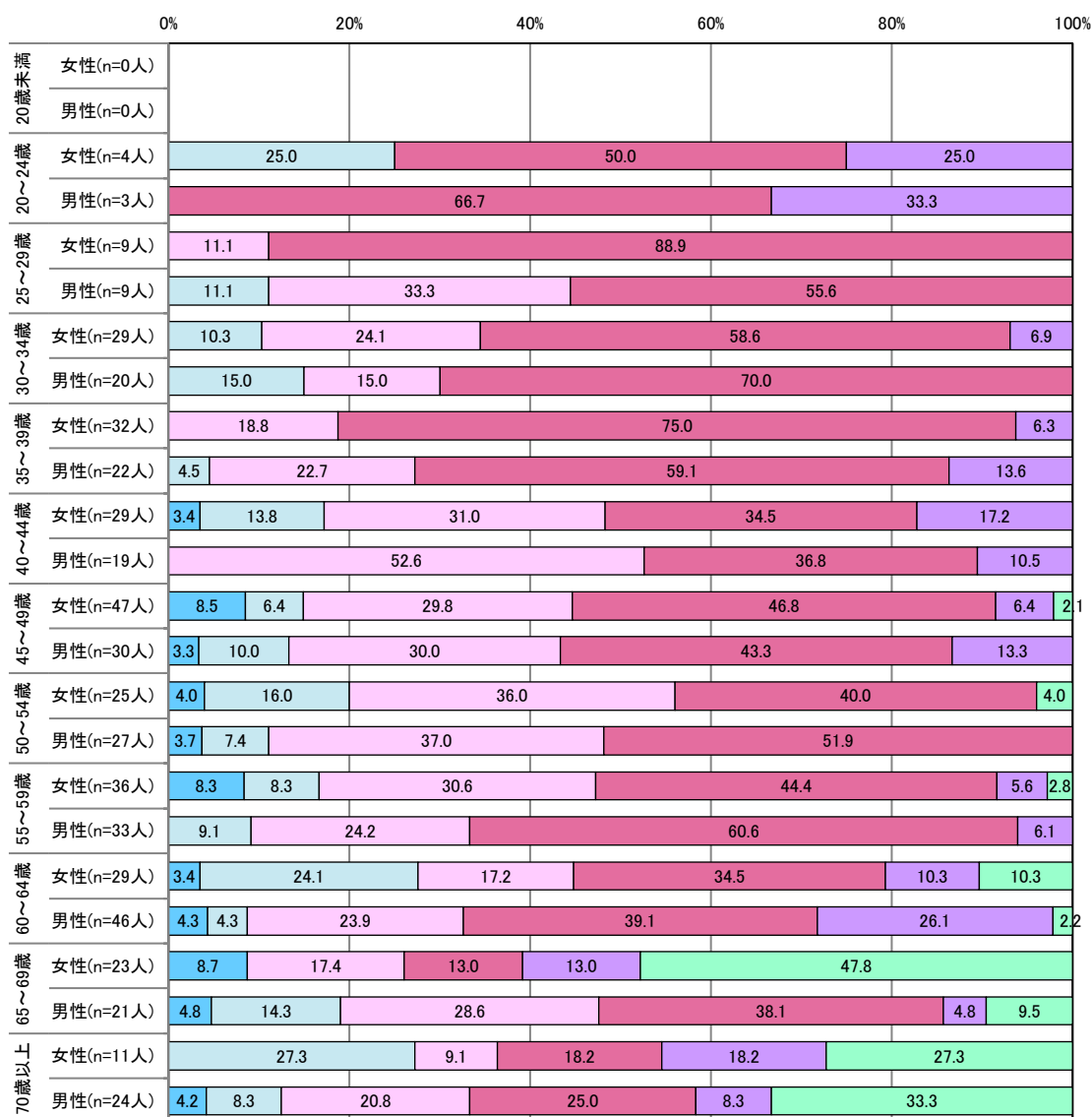
8 女性の管理職の部下には、なりたくない

- ・全体でみると、「思わない」という回答が45.9%と約5割となっている。
- ・性別でみると、男女とも「思わない」が約5割と最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、65歳以上の女性、70歳以上の男性の年代を除き、いずれの世代でも、「思わない」、「あまり思わない」という回答割合の合計が5割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、いずれも「思わない」、「あまり思わない」という回答割合の合計が6割以上となっている。

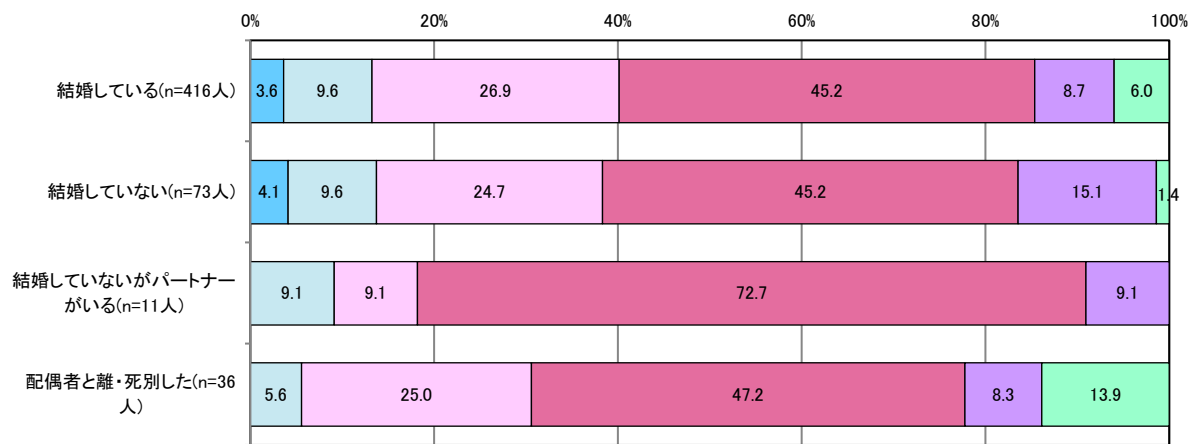
【性別】



【世代別性別】



【配偶者の有無別】

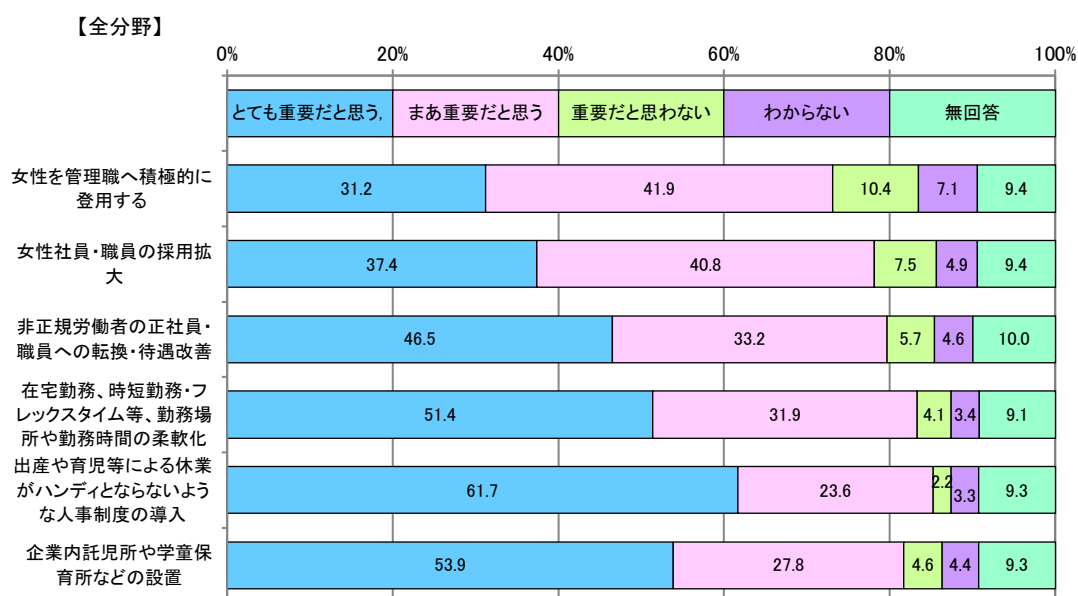


現在、職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。

問 17 女性が活躍するために企業が取り組むべきことは何だと思いませんか。

(それぞれ〇は1つ)

- ・「女性を管理職へ積極的に登用する」、「女性社員・職員の採用拡大」以外で、「とても重要だと思う」という回答が最も多くなっている。
- ・「とても重要だと思う」という回答でみると、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入」(61.7%)が約6割と最も多くなっている。次いで、「企業内託児所や学童保育所などの設置」(53.9%)、「在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化」(51.4%)、「非正規労働者の正社員・職員への転換・待遇改善」(46.5%)と続いている。一方、「まあ重要だと思う」という回答は、「女性を管理職へ積極的に登用する」(41.9%)、「女性社員・職員の採用拡大」(40.8%)で、4割を超えている。

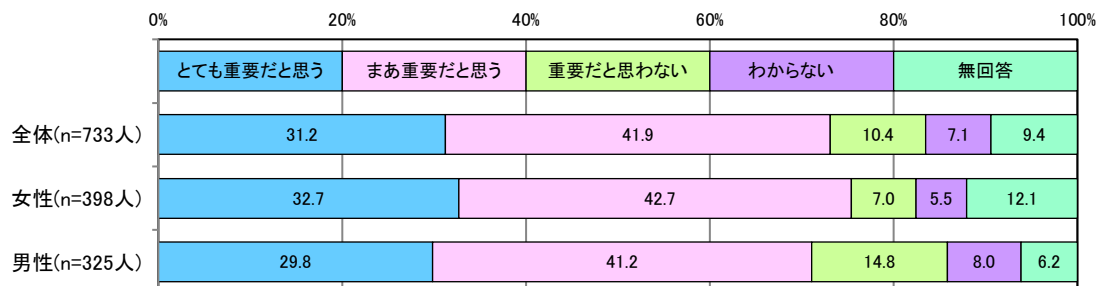


(全体 n=733 人)

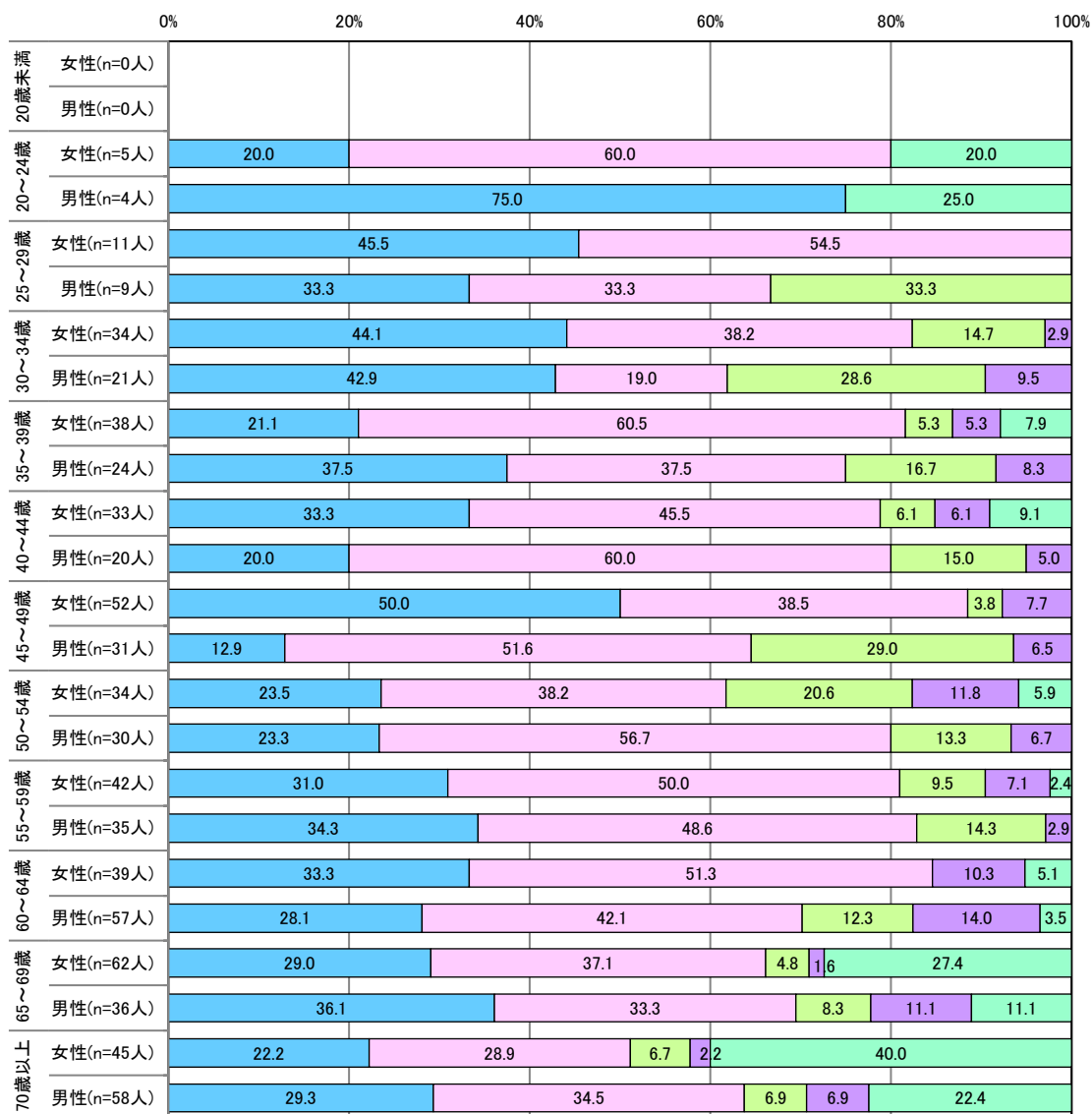
1 女性を管理職へ積極的に登用する

- ・性別でみると、男女ともに、「まあ重要だと思う」という回答が最も多く、男性は 41.2% で、女性は 42.7% となっている。
- ・世代別性別でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、20 歳～39 歳の女性、40 歳～44 歳の男性、45 歳～49 歳の女性、50 歳～59 歳の男性、55 歳～64 歳の女性の世代では 8 割以上と、他の世代に比べて高くなっている。

【性別】

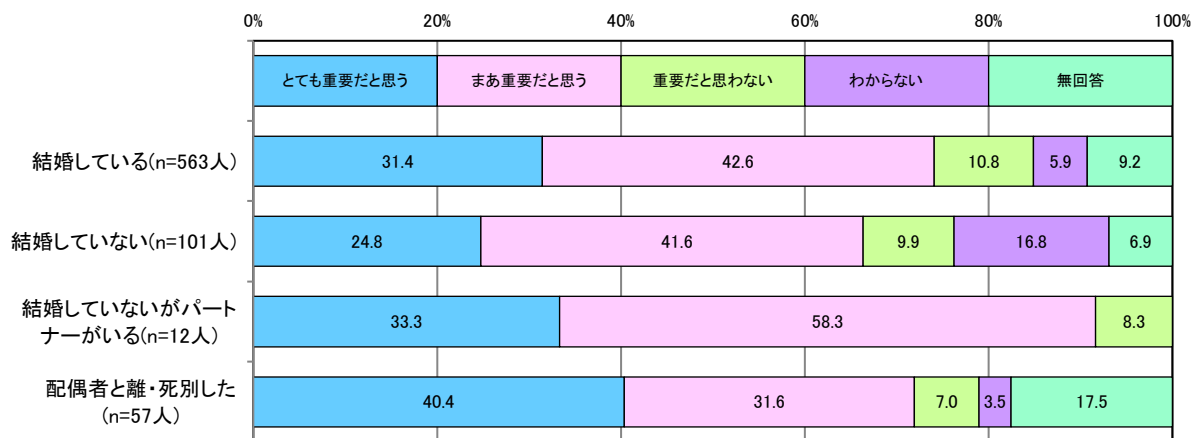


【世代別性別】



・配偶者の有無別でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、「結婚していないがパートナーがいる」で8割以上となっている。一方、「結婚している」、「結婚していない」、「配偶者と離・死別した」で約7割となっている。

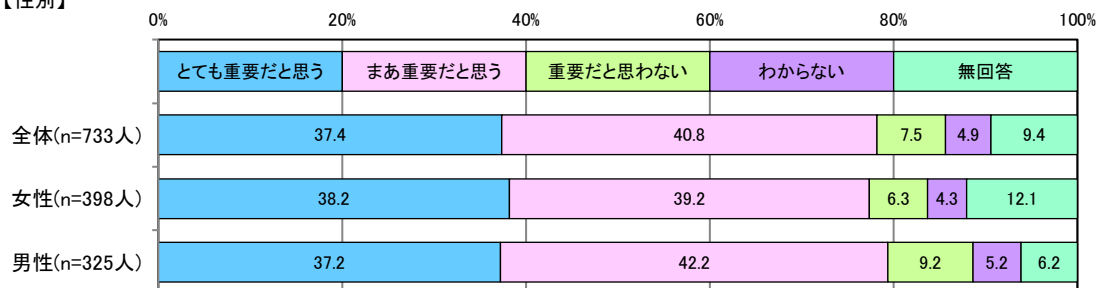
【配偶者の有無別】



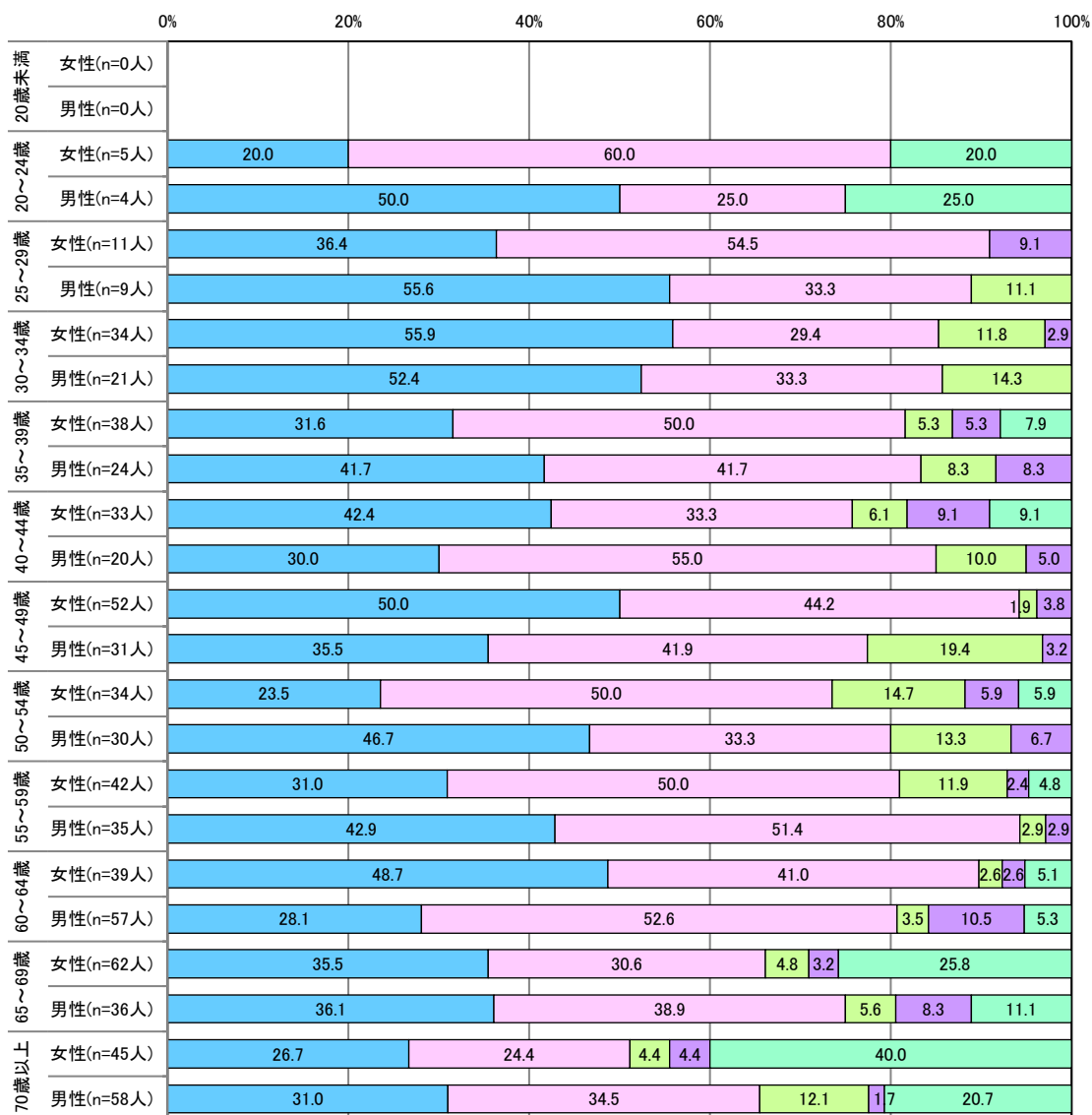
2 女性社員・職員の採用拡大

- ・性別でみると、男女ともに、「まあ重要だと思う」という回答が最も多く、男性は 42.2% で、女性は 39.2% となっている。
- ・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の女性、25 歳～39 歳の男女、40 歳～44 歳の男性、45 歳～49 歳の女性、50 歳～64 歳の男性、55 歳～64 歳の女性の世代で、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、8 割を超えている。

【性別】

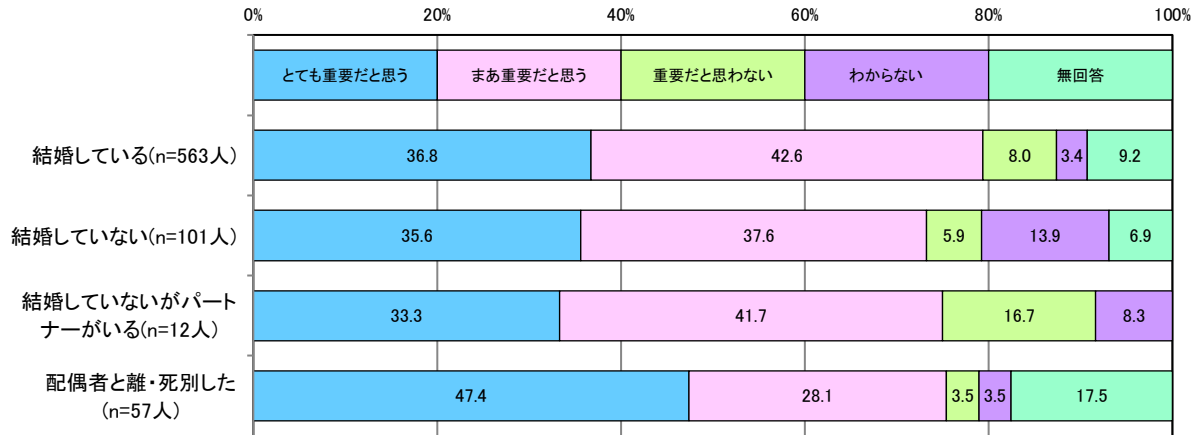


【世代別性別】



- ・配偶者の有無別でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、「結婚していない」を除き、いずれも約8割となっている。

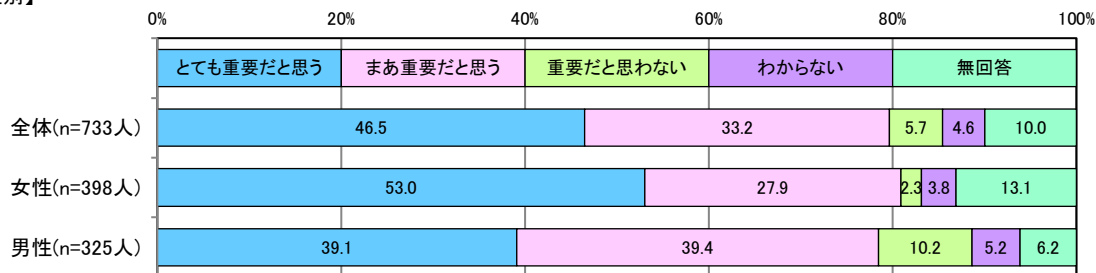
【配偶者の有無別】



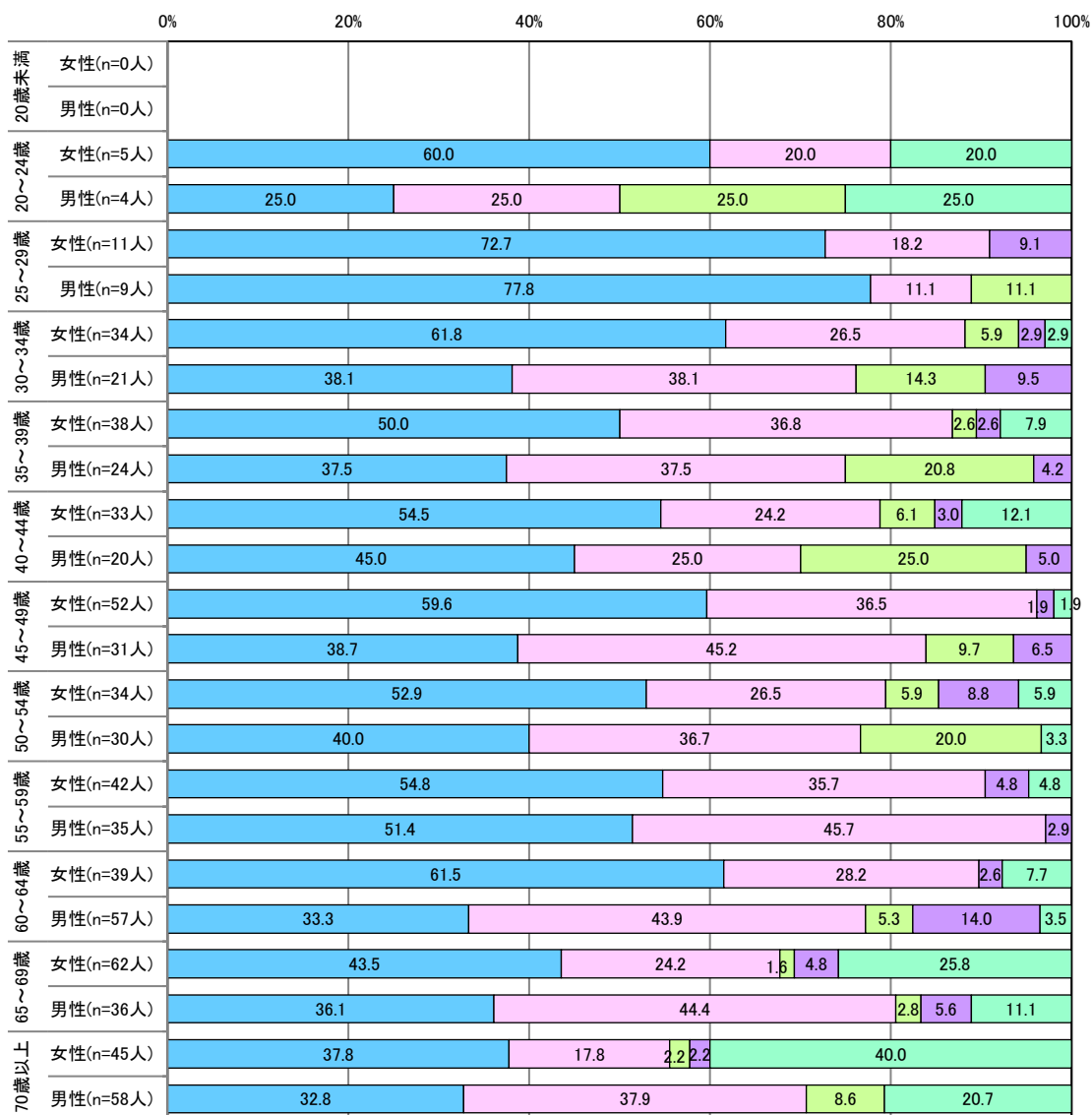
3 非正規労働者の正社員・職員への転換・待遇改善

- ・性別でみると、女性では「とても重要だと思う」という回答が最も多く、女性が53.0%となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の男性、70歳以上の女性を除いて、いずれの年代でも、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、6割を超えている。

【性別】

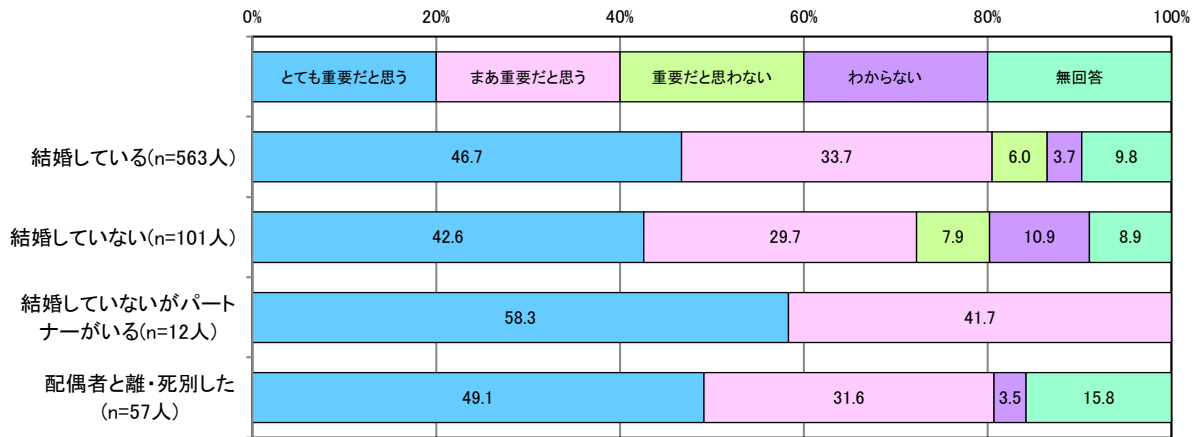


【世代別性別】



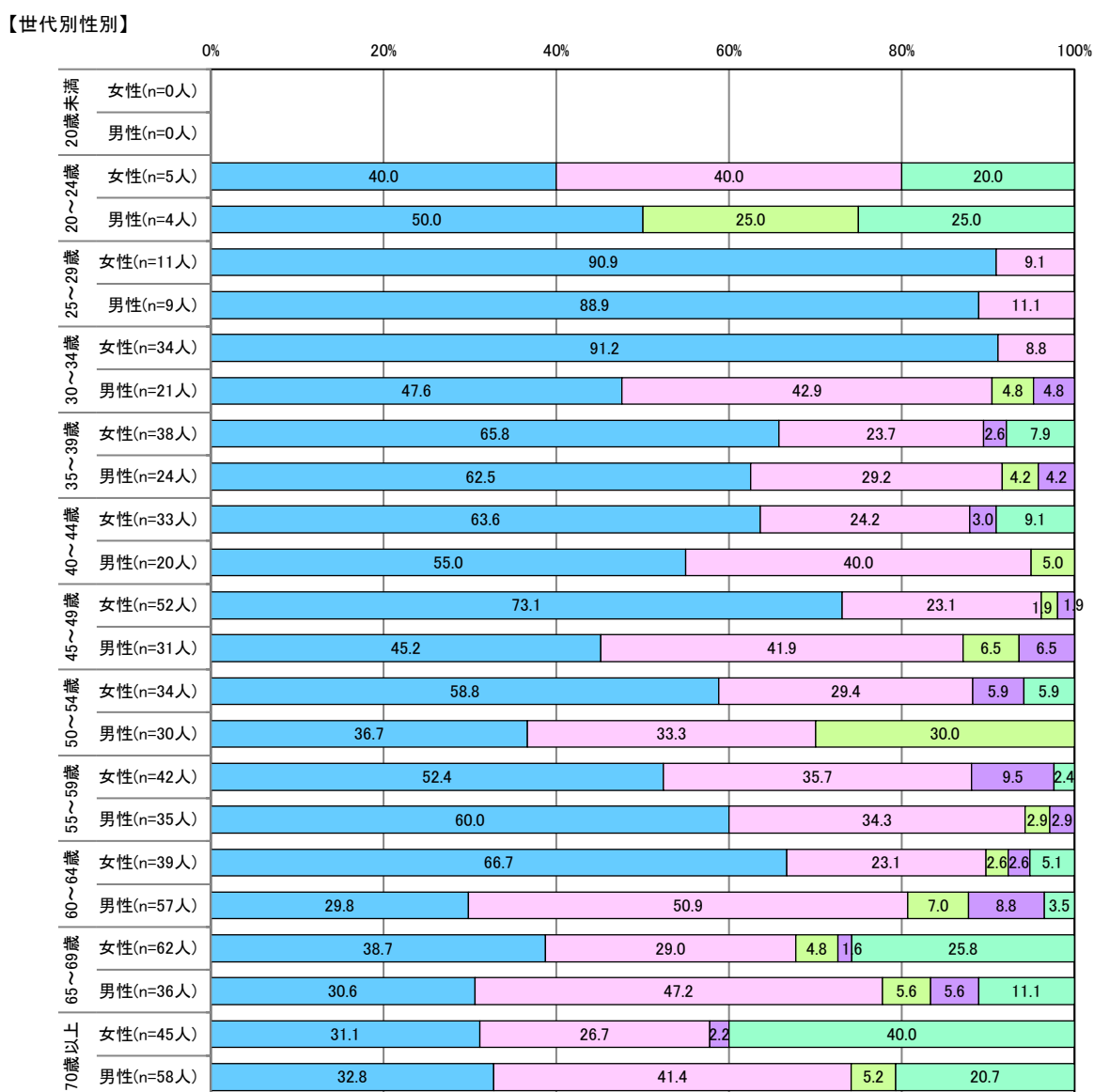
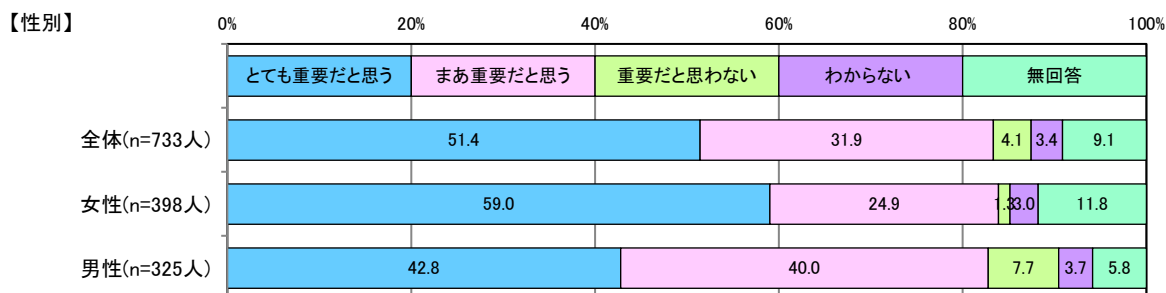
- ・配偶者の有無別でみると、いずれも「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、7割を超えている。

【配偶者の有無別】



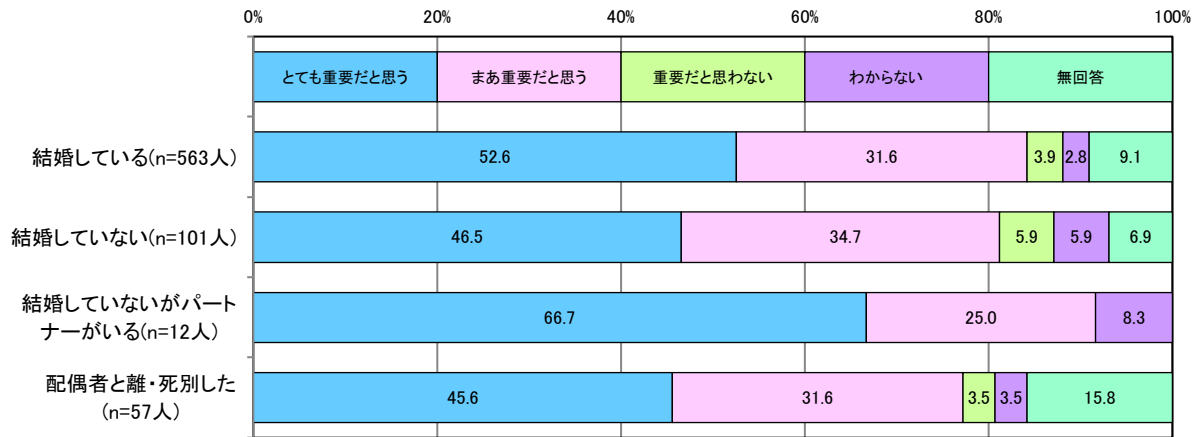
4 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化

- ・性別でみると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が42.8%、女性が59.0%となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の男性、70歳以上の女性を除き、いずれの年代でも「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が7割を超えている。



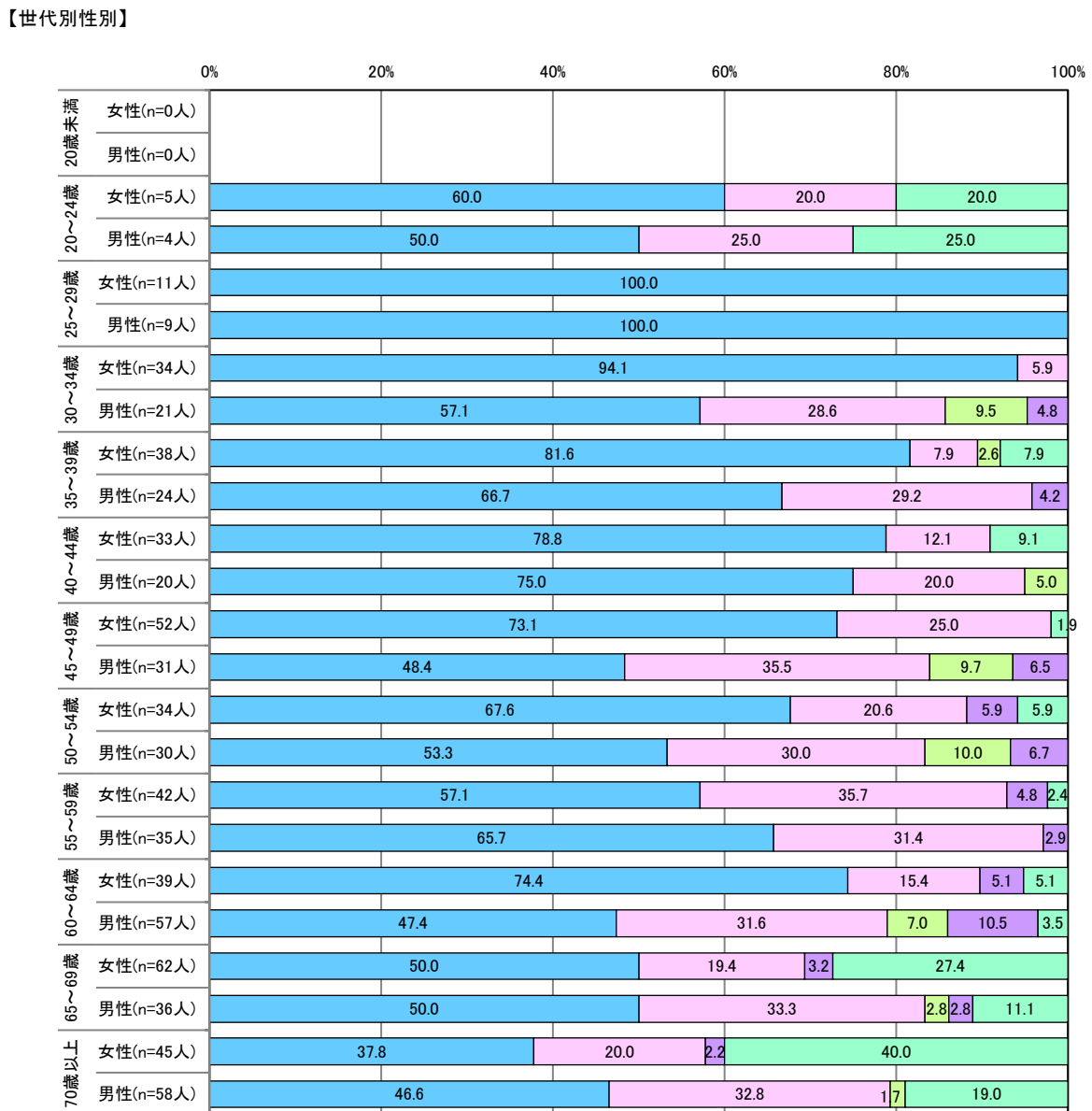
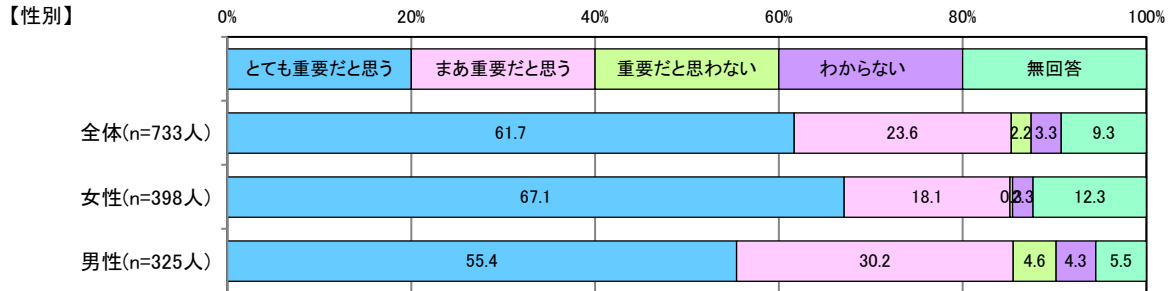
- ・配偶者の有無別でみると、いずれも、「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が7割以上となっている。

【配偶者の有無別】



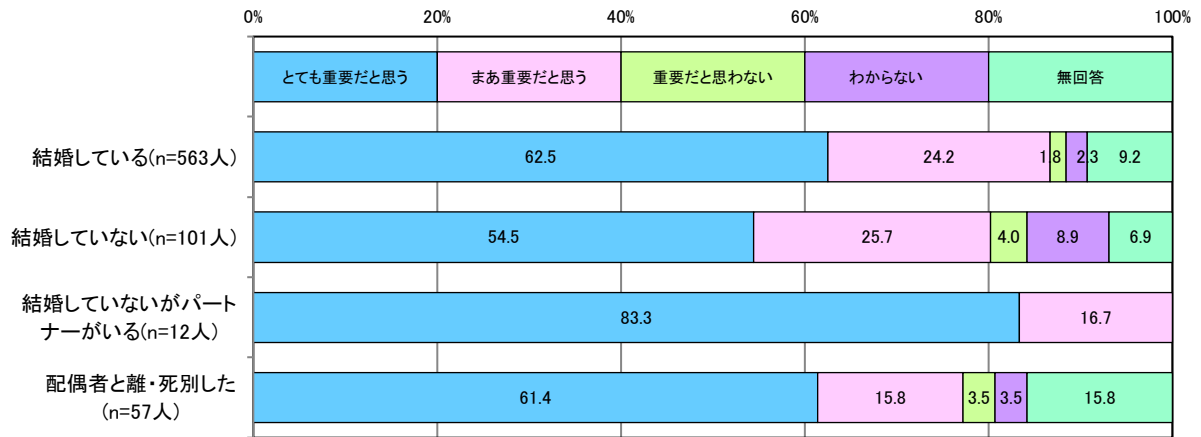
5 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入

- ・性別でみると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が55.4%、女性が67.1%となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の男性、60歳～69歳の男性、65歳以上の女性を除き、いずれの年代で「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が8割以上となっている。



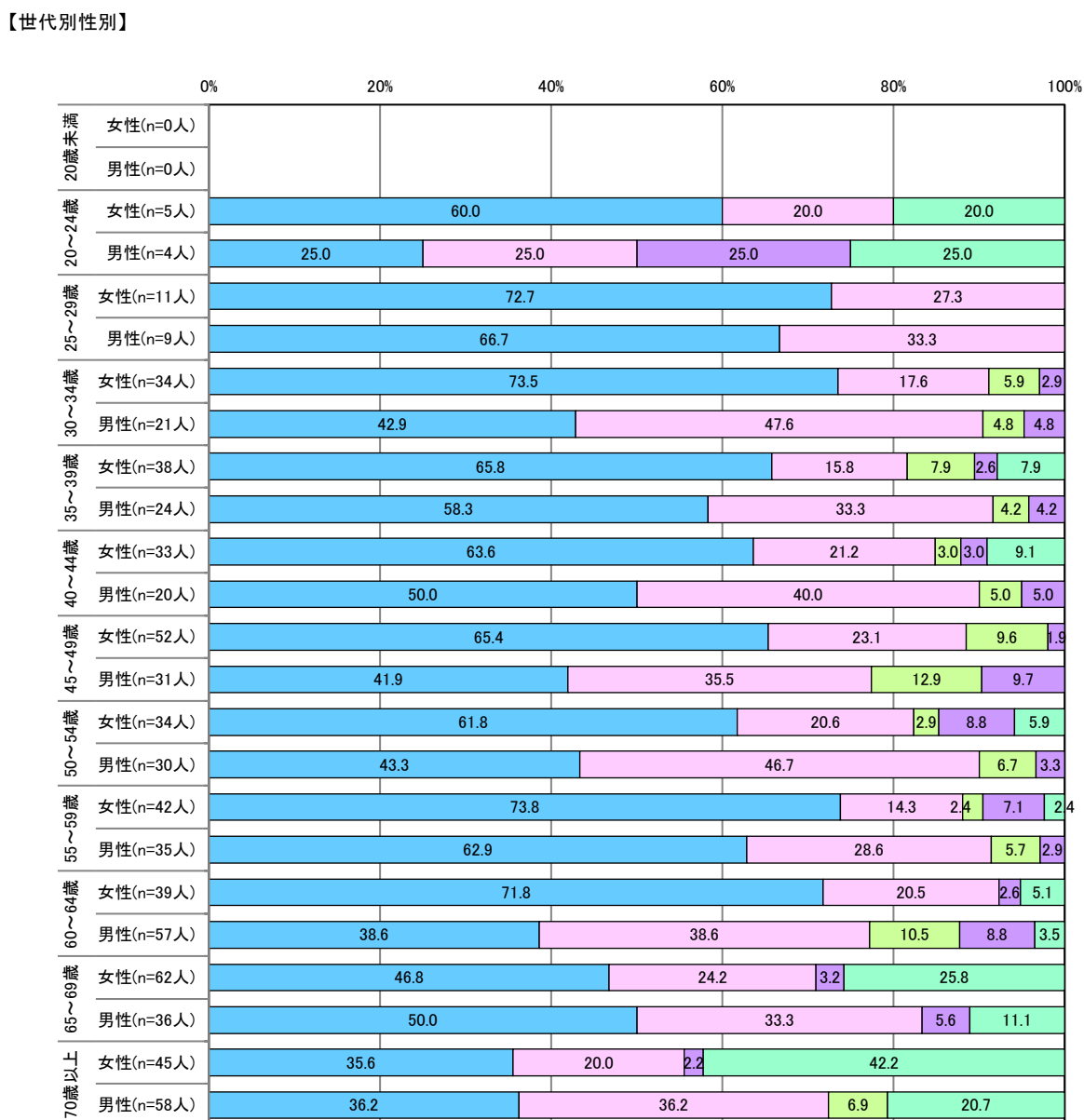
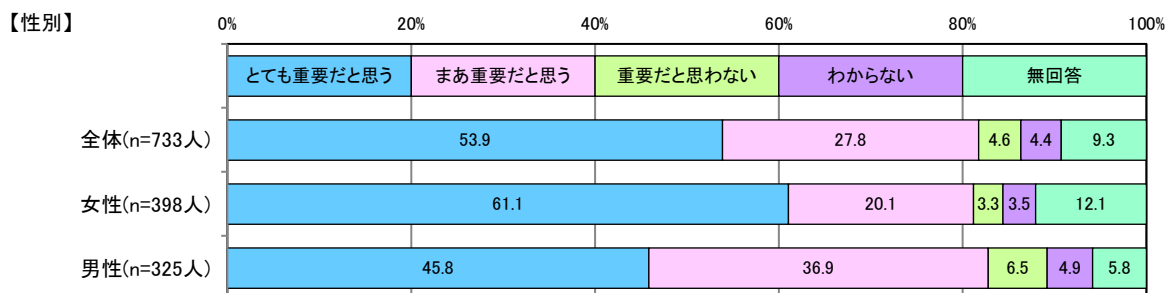
・配偶者の有無別で見ると、いずれも「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が7割以上となっている。

【配偶者の有無別】



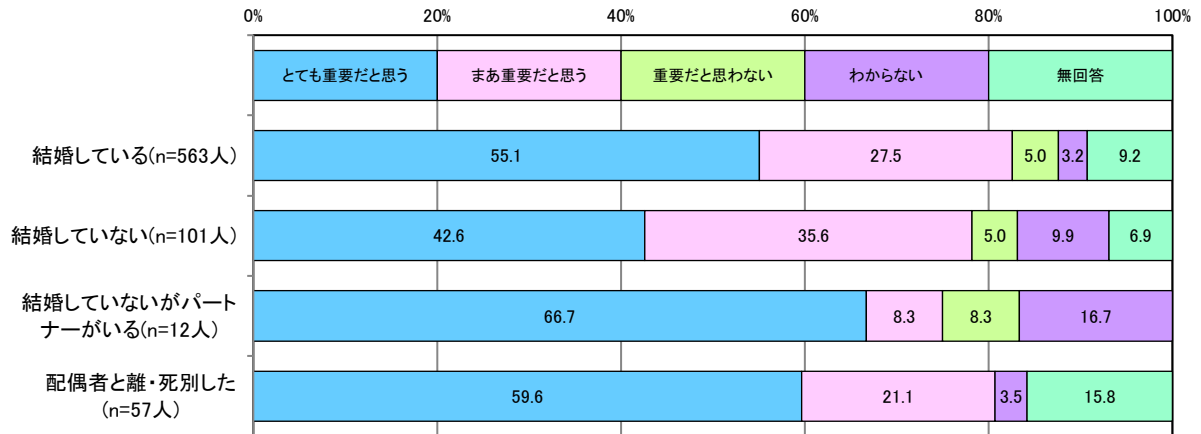
6 企業内託児所や学童保育所などの設置

- ・性別でみると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が45.8%、女性が61.1%となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の男性、70歳以上の女性を除き、いずれの年代においても「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が7割以上となっている。



- ・配偶者の有無別で見ると、いずれも「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が7割以上となっている。

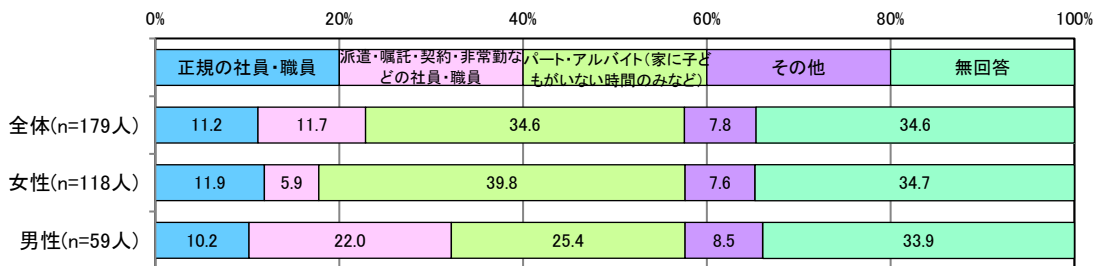
【配偶者の有無別】



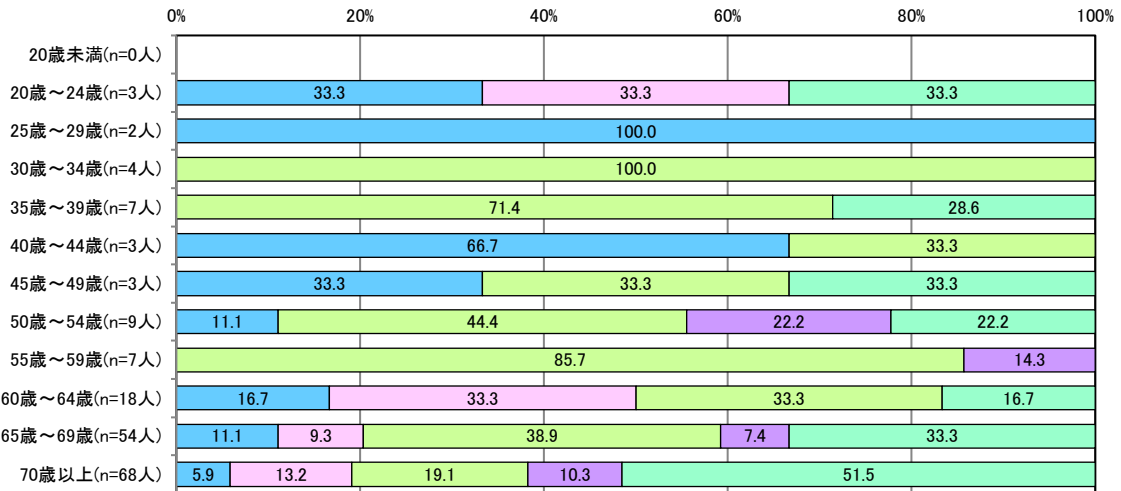
離職されている方におたずねします。

問 18 再就職される場合の雇用形態について希望されるものをお選びください。(〇は1つ)

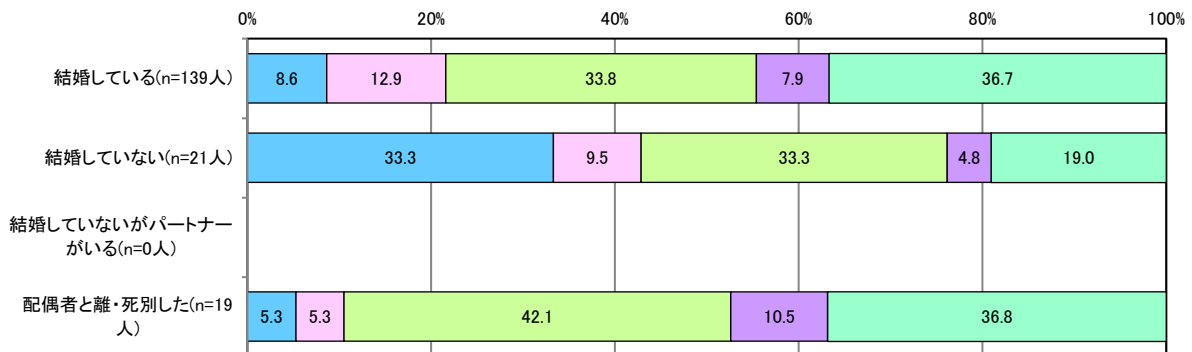
- ・全体でみると、「パート・アルバイト（家に子どもがいない時間のみなど）」(34.6%) という回答が約3割と最も多く、次いで、「派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員」(11.7%) となっている。
- ・性別でみると、男女ともに「パート・アルバイト（家に子どもがいない時間のみなど）」が最も多くなっている。
- ・世代別でみると、20歳～29歳、40歳～49歳では、「正規の社員・職員」という回答が3割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、「正規の社員・職員」という回答が、「結婚していない」では33.3%と3割以上となっている。



【世代別】

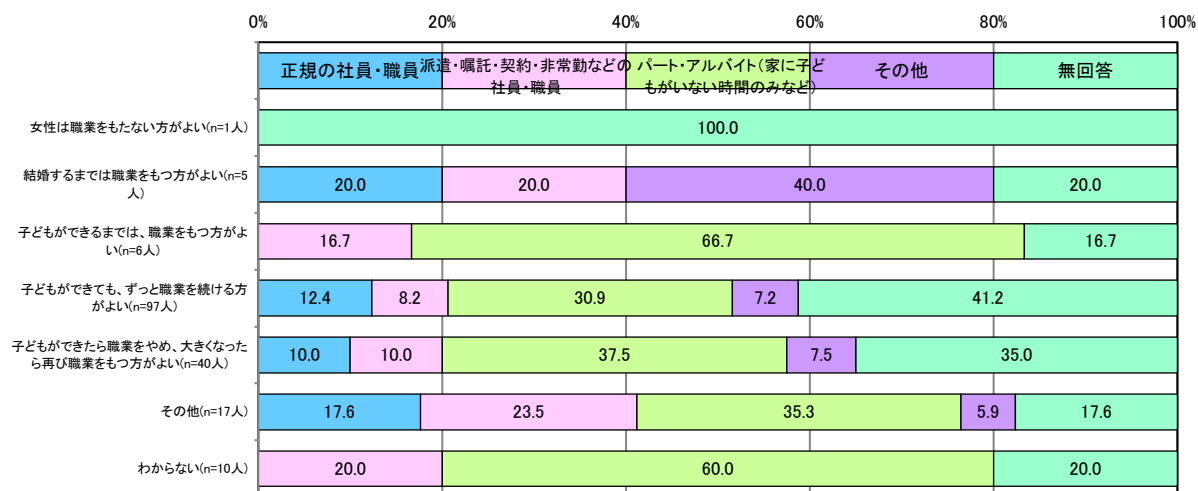


【配偶者の有無別】



- ・女性が職業を持つことについてみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」では、「正規の社員・職員」という回答が12.4%となっている。一方、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」では、「正規の社員・職員」という回答は10.0%となっている。

【女性が職業を持つことについて】

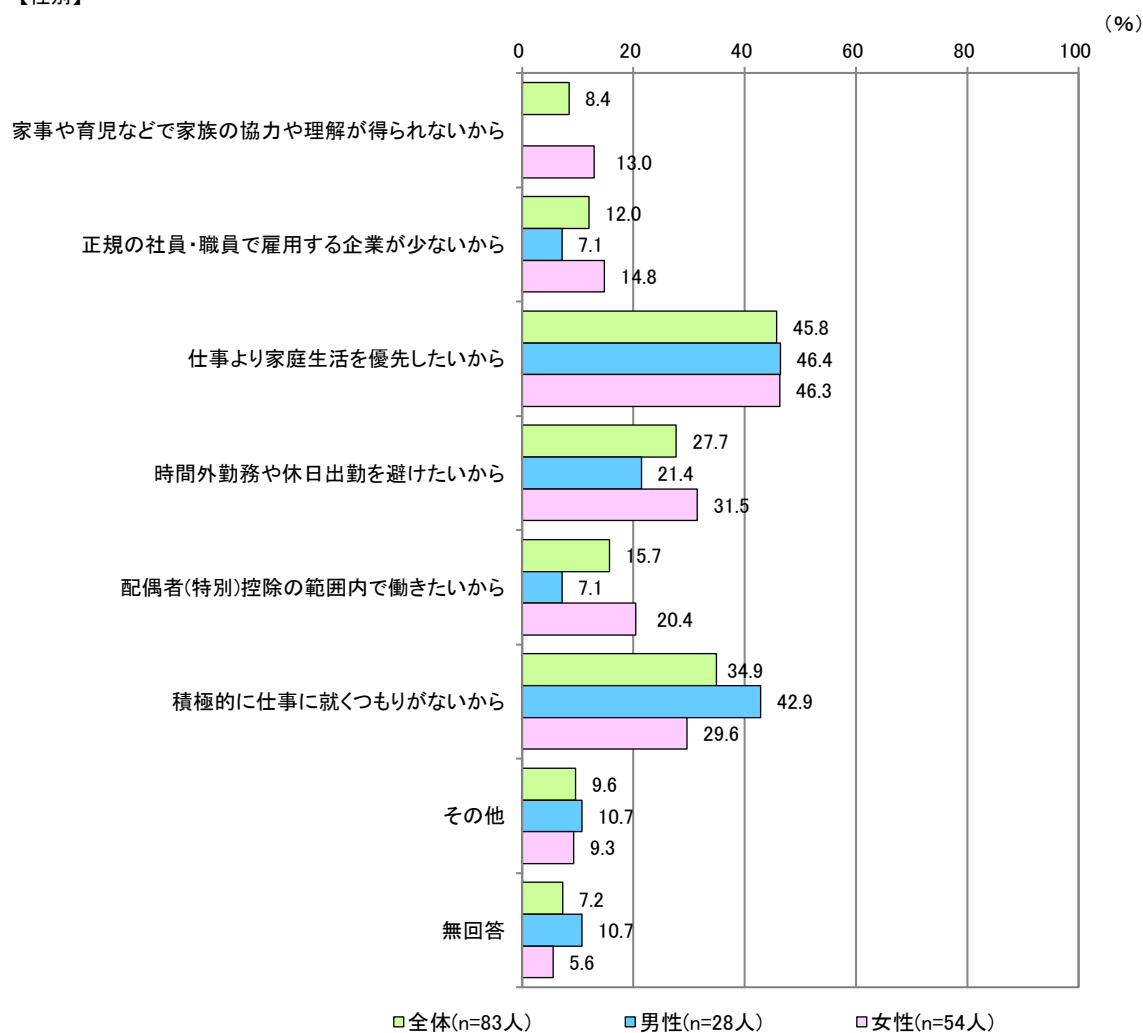


問 18 で「2. 派遣・嘱託などの社員・職員」または「3. パート・アルバイト」を選ばれた方におたずねします。

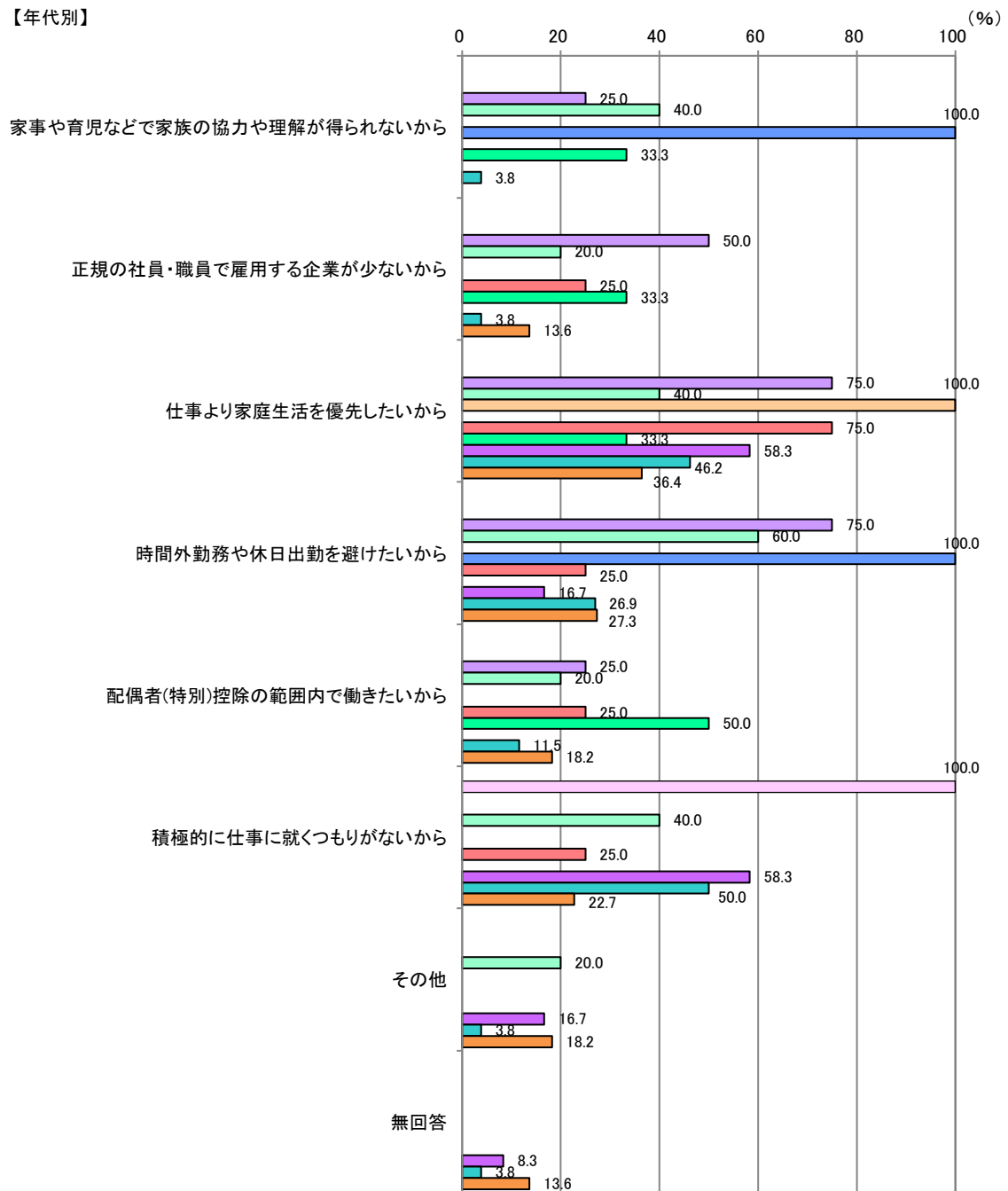
問 19 その理由を次の中から、あなたのお考えに近いものをお選びください。（〇は3つまで）

- ・全体でみると、「仕事より家庭生活を優先したいから」（45.8%）が最も多い回答となっている。次いで、「積極的に仕事に就くつもりがないから」（34.9%）、「時間外勤務や休日出勤を避けたいから」（27.7%）、「配偶者（特別）控除の範囲内で働きたいから」（15.7%）の順で続いている。
- ・性別でみると、男女ともに「仕事より家庭生活を優先したいから」が最も多く、4割以上となっている。
- ・年代別でみると、いずれも「仕事より家庭生活を優先したいから」という回答が多い傾向となっている。

【性別】



【年代別】



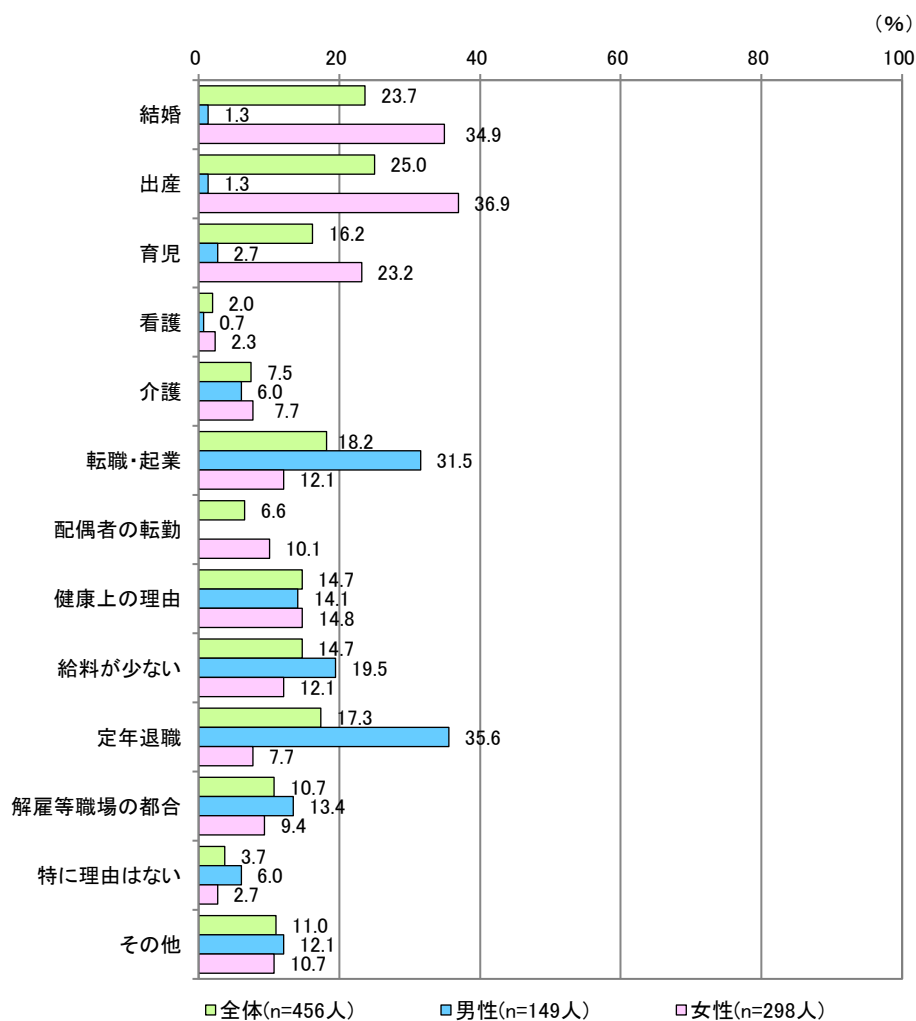
■ 20歳未満(n=0人) ■ 20歳～24歳(n=1人) ■ 25歳～29歳(n=0人) ■ 30歳～34歳(n=4人)
 ■ 35歳～39歳(n=5人) ■ 40歳～44歳(n=1人) ■ 45歳～49歳(n=1人) ■ 50歳～54歳(n=4人)
 ■ 55歳～59歳(n=6人) ■ 60歳～64歳(n=12人) ■ 65歳～69歳(n=26人) ■ 70歳以上(n=22人)

離職経験のある方におたずねします。

問 20 離職の原因（理由）としてあてはまるものをお選びください。（〇は3つまで）

- ・全体で見ると、「出産」(25.0%)が最も多い回答となっている。次いで、「結婚」(23.7%)、「転職・起業」(18.2%)、「定年退職」(17.3%)の順が続いている。
- ・性別で見ると、男性は、「定年退職」(35.6%)が最も多い。次いで、「転職・起業」(31.5%)、「給料が少ない」(19.5%)、「健康上の理由」(14.1%)の順となっている。女性は、「出産」(36.9%)、「結婚」(34.9%)、「育児」(23.2%)の順となっている。
(※無回答は、離職経験のない方として集計している)。

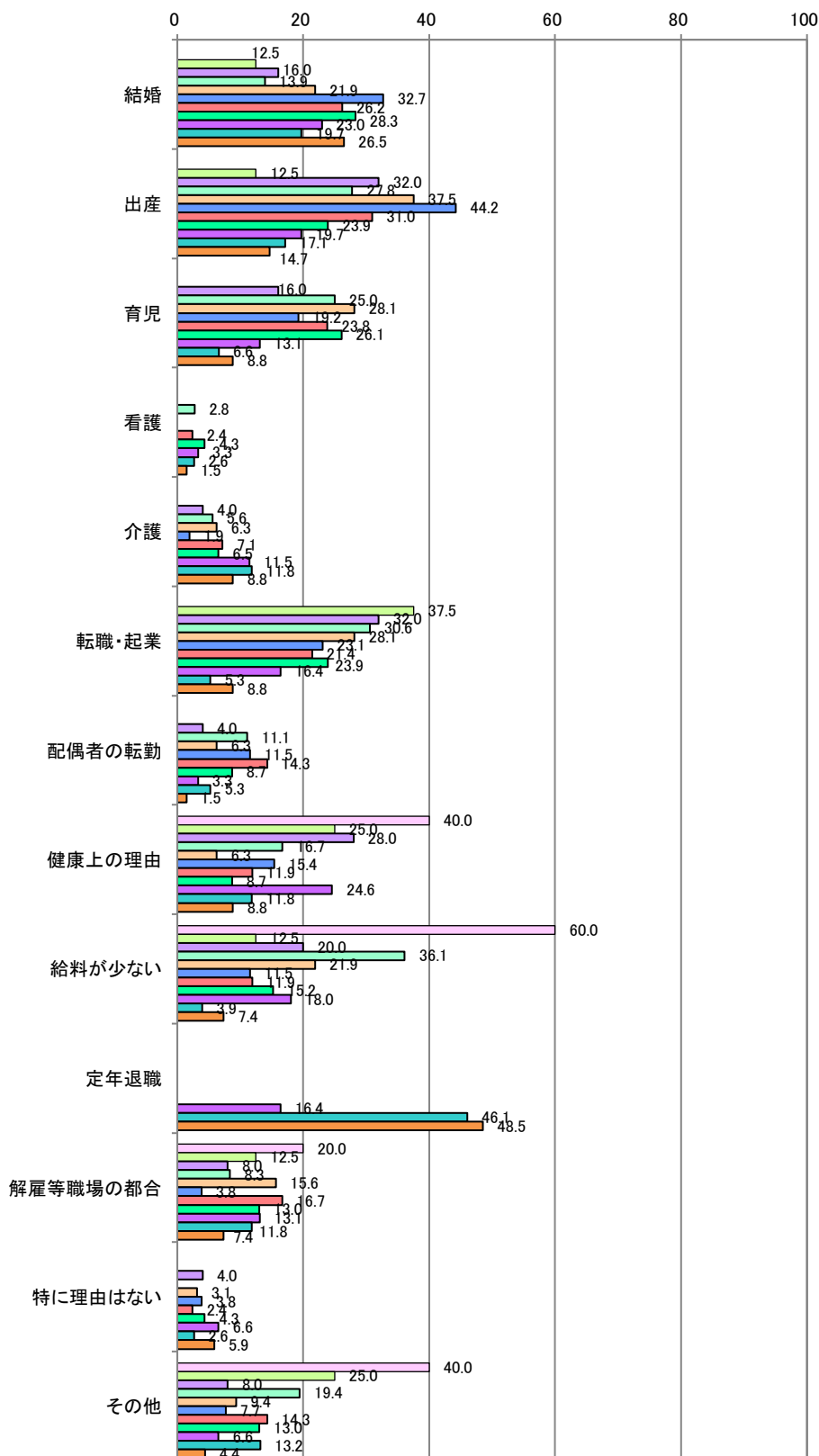
【性別】



・年代別でみると、いずれの回答でも、年代による増減の波がみられる。

【年代別】

(%)

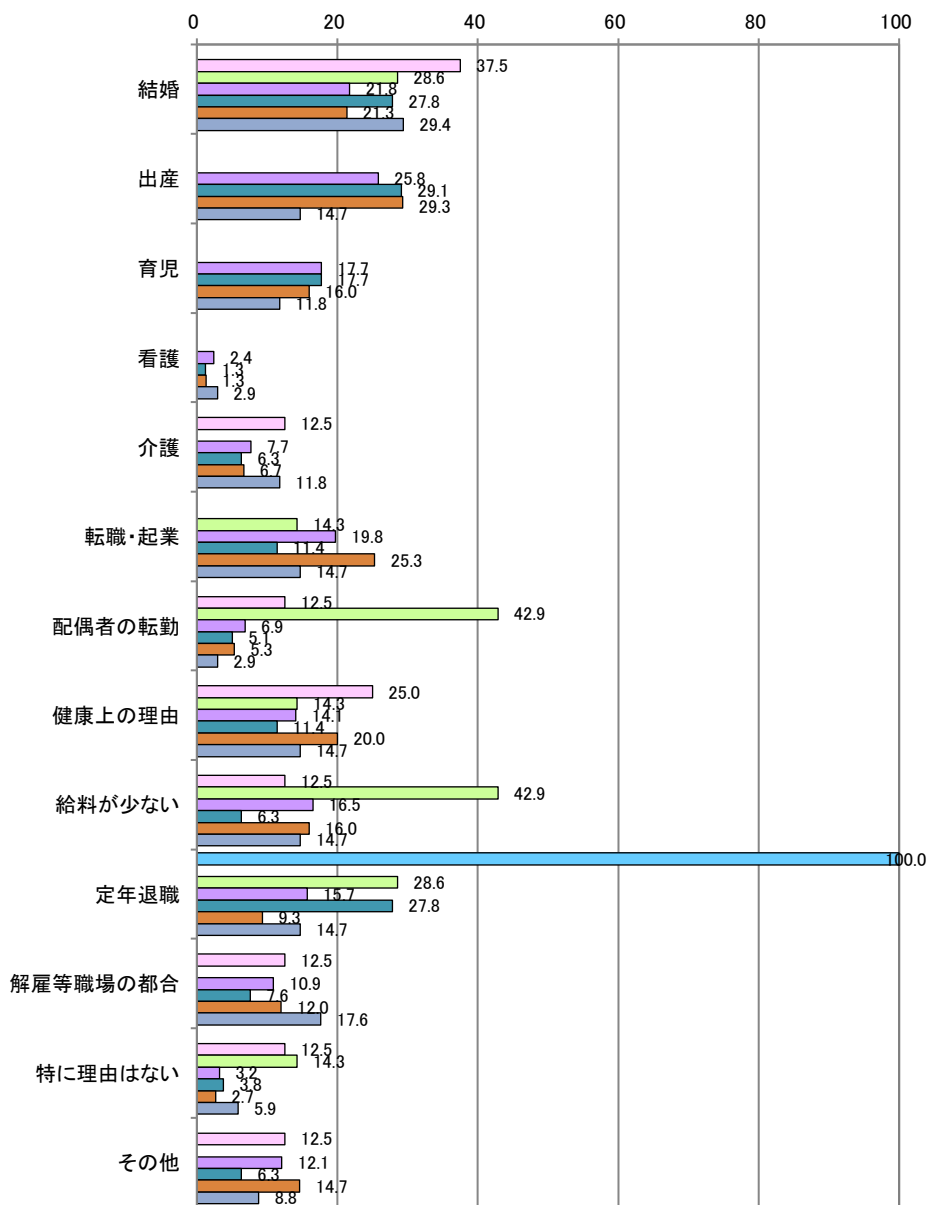


■20歳未満(n=0人) ■20歳～24歳(n=5人) ■25歳～29歳(n=8人) ■30歳～34歳(n=25人)
 ■35歳～39歳(n=36人) ■40歳～44歳(n=32人) ■45歳～49歳(n=52人) ■50歳～54歳(n=42人)
 ■55歳～59歳(n=46人) ■60歳～64歳(n=61人) ■65歳～69歳(n=76人) ■70歳以上(n=68人)

- ・女性が職業を持つことについてみると、「出産」という回答では、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」は25.8%、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は29.1%となっている。

【女性が職業をもつことについて】

(%)

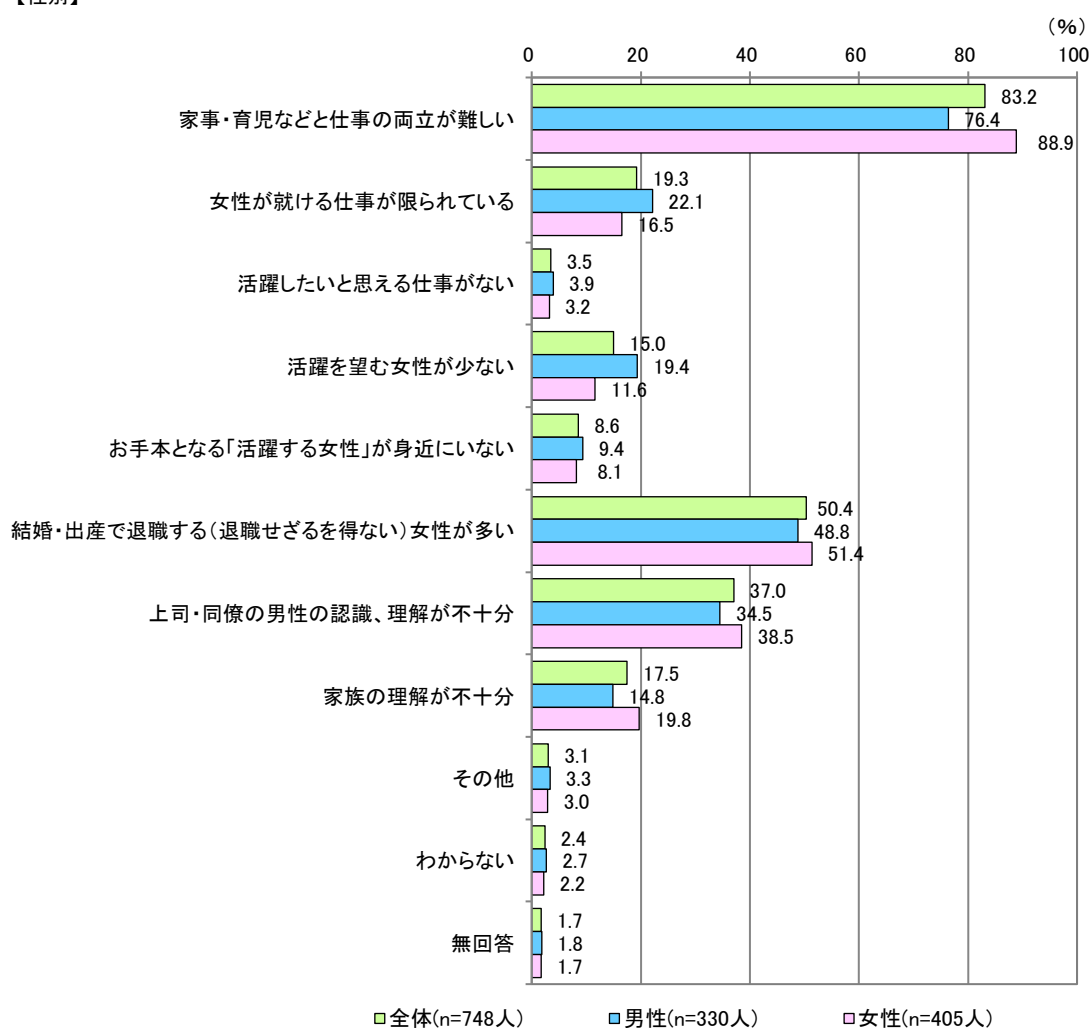


- 女性はやめたい方がよい(n=1人)
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい(n=8人)
- 子どもができては、職業をもつ方がよい(n=7人)
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい(n=248人)
- 子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい(n=79人)
- その他(n=75人)
- わからない(n=34人)

問 21 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。（〇は3つまで）

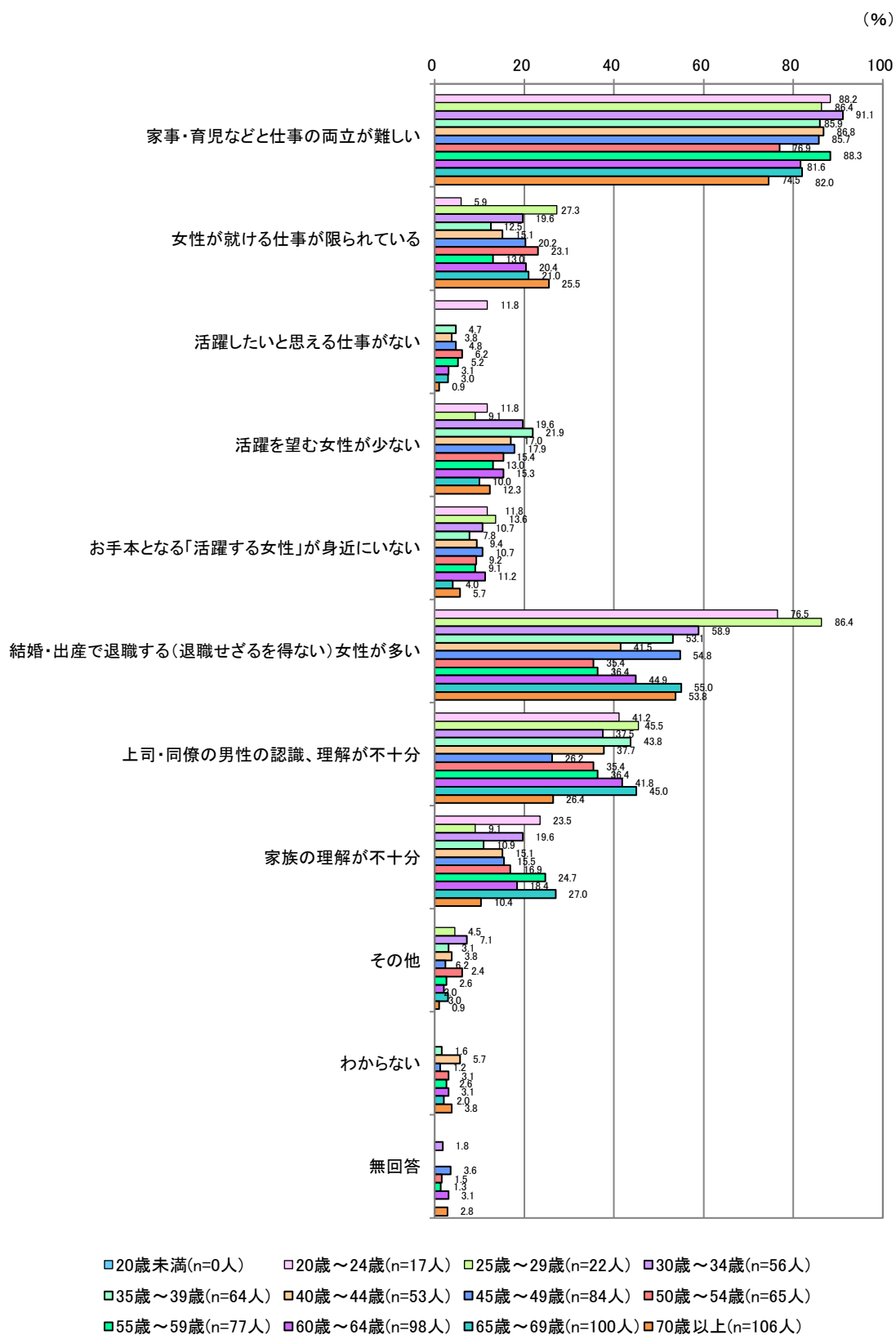
- ・全体でみると、「家事・育児などと仕事の両立が難しい」（83.2%）が最も多い回答となっている。次いで、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」（50.4%）、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」（37.0%）の順が続いている。
- ・性別でみると、男性は、「家事・育児などと仕事の両立が難しい」（76.4%）、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」（48.8%）、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」（34.5%）、「女性が就ける仕事に限られている」（22.1%）、「家族の理解が不十分」（14.8%）の順となっている。女性も、「家事・育児などと仕事の両立が難しい」（88.9%）、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」（51.4%）、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」（38.5%）、「家族の理解が不十分」（19.8%）の順となっている。

【性別】

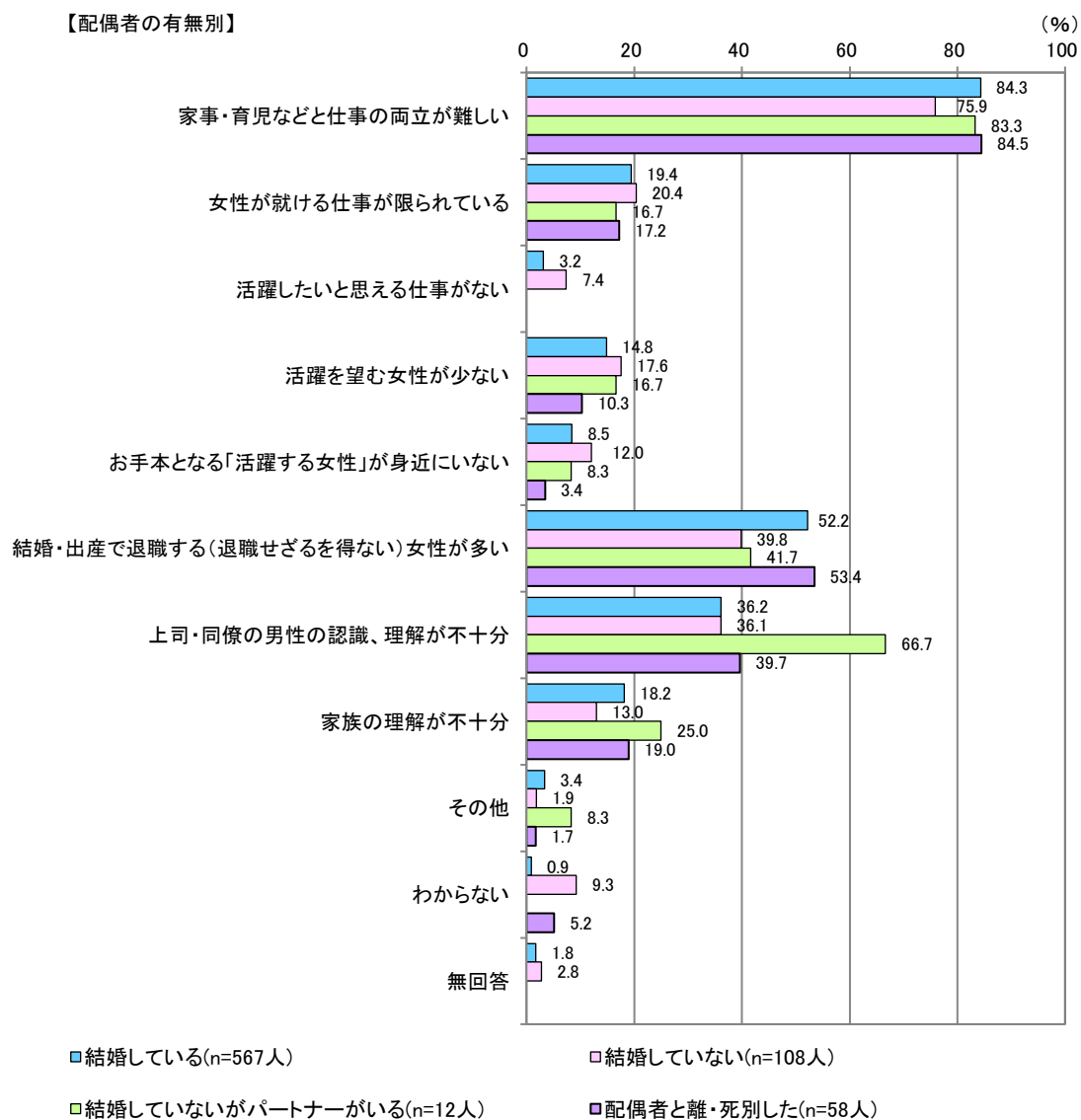


・年代別でみると、いずれの年代も「家事・育児などと仕事の両立が難しい」という回答が最も多くなっている。次いで、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」と続いている。

【年代別】



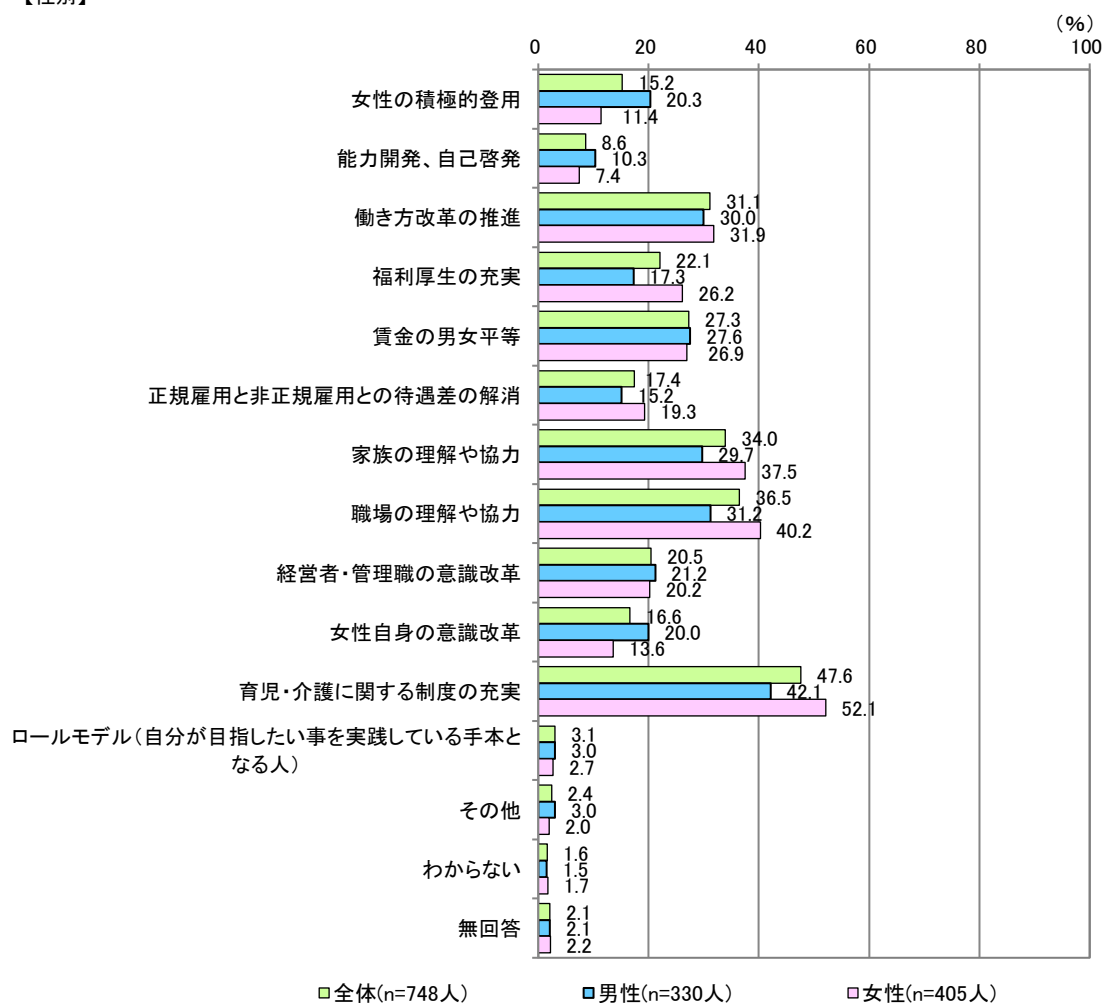
・配偶者の有無別でみると、いずれも「家事・育児などと仕事の両立が難しい」が約8割となり、最も多くなっている。次いで、結婚していないがパートナーがいるを除き、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」と続いている。結婚していないがパートナーがいるでは、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」が2番目となっている。



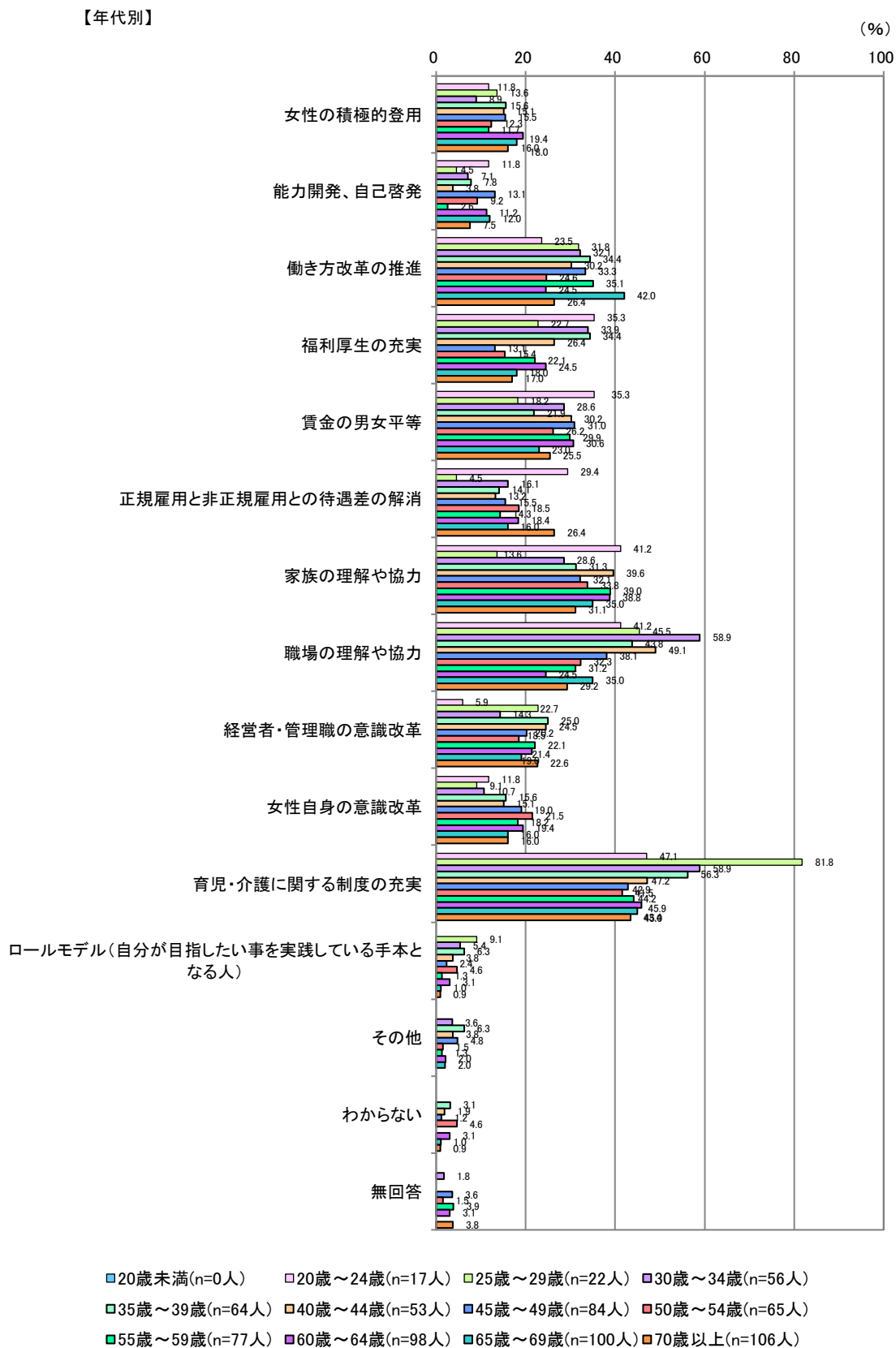
問 22 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

- ・全体でみると、「育児・介護に関する制度の充実」（47.6%）が最も多い回答となっている。次いで、「職場の理解や協力」（36.5%）、「家族の理解や協力」（34.0%）、「働き方改革の推進」（31.1%）の順で続いている。
- ・性別でみると、男女とも、「育児・介護に関する制度の充実」が最も多くなっている。次いで、男性では、「職場の理解や協力」（31.2%）と「働き方改革の推進」（30.0%）が続いている。一方、女性では、「職場の理解や協力」（40.2%）、「家族の理解や協力」（37.5%）、「働き方改革の推進」（31.9%）と続いている。

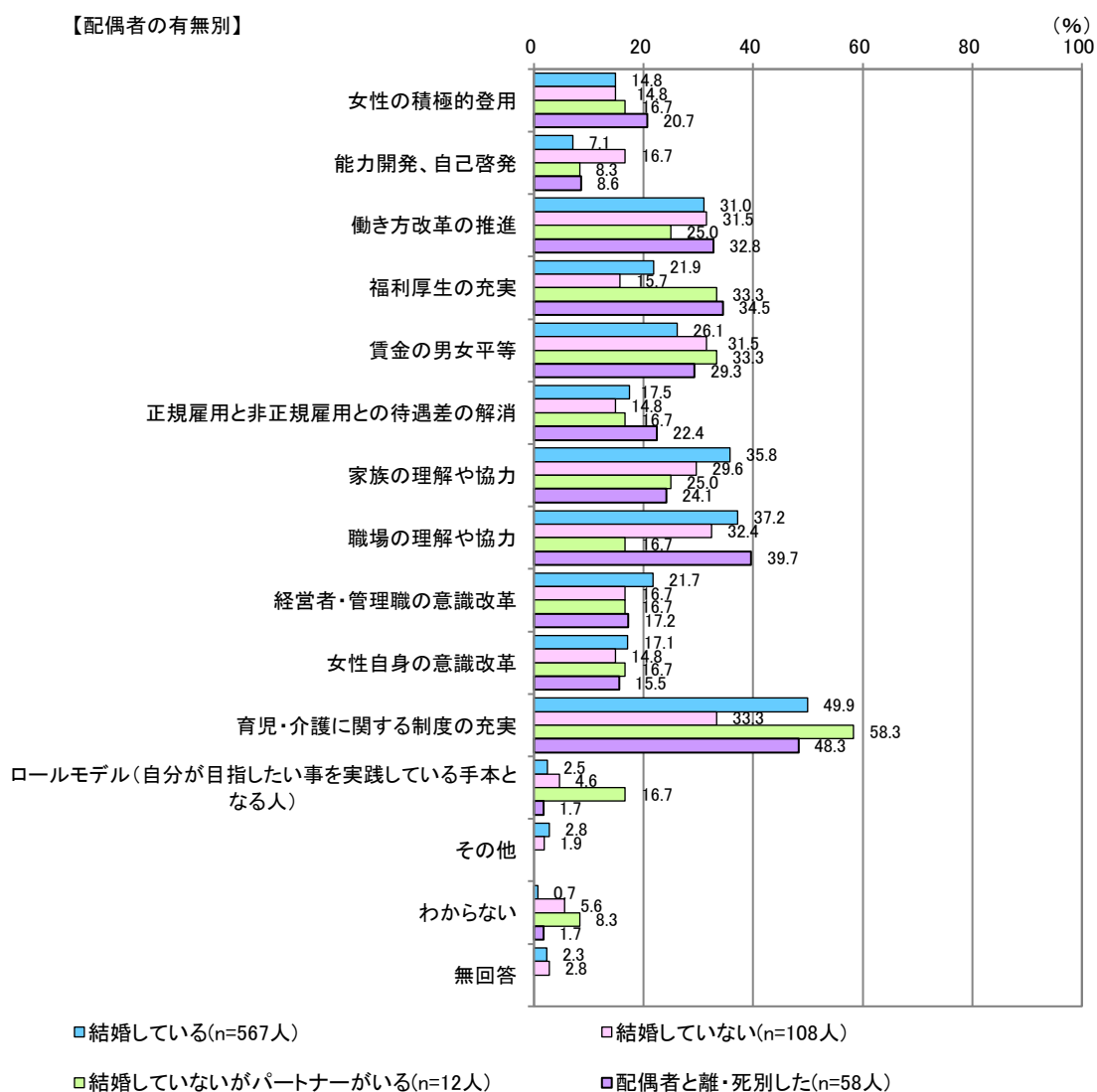
【性別】



- ・年代別で見ると、30歳～34歳、40歳～44歳を除き、いずれの年代でも、「育児・介護に関する制度の充実」が最も多くなっている。一方、30歳～34歳、40歳～44歳では、「職場の理解や協力」が最も多くなっている。



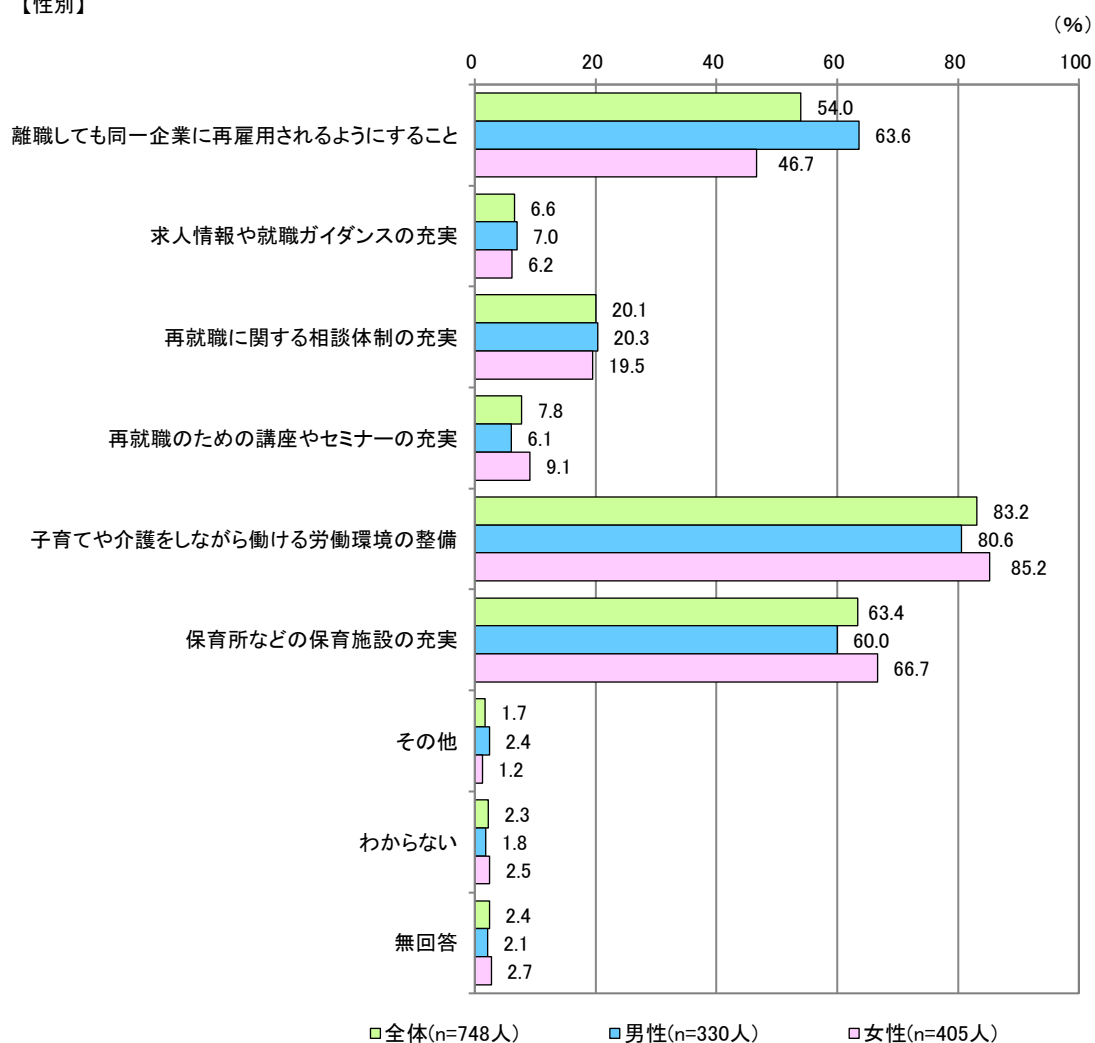
・配偶者の有無別でみると、「結婚している」、「結婚していない」、「結婚していないがパートナーがいる」、「配偶者と離・死別した」では、「育児・介護に関する制度の充実」が最も多くなっている。



問 23 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

- ・全体で見ると、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」（83.2%）が最も多い回答となっている。次いで、「保育所などの保育施設の充実」（63.4%）、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」（54.0%）の順が続いている。
- ・性別で見ると、男女とも、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」が最も多くなっている。次いで、「保育所などの保育施設の充実」、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」と続いている。

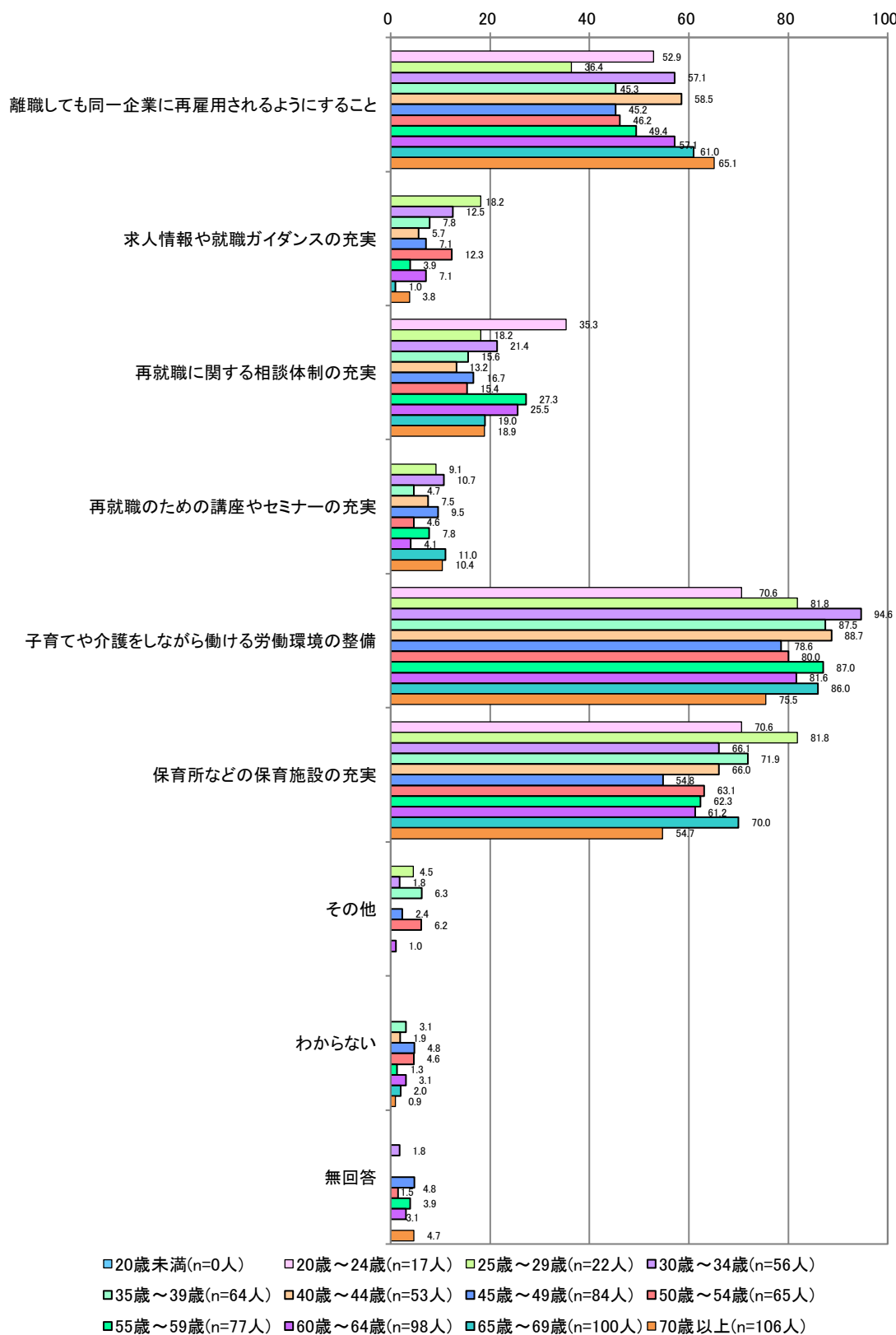
【性別】



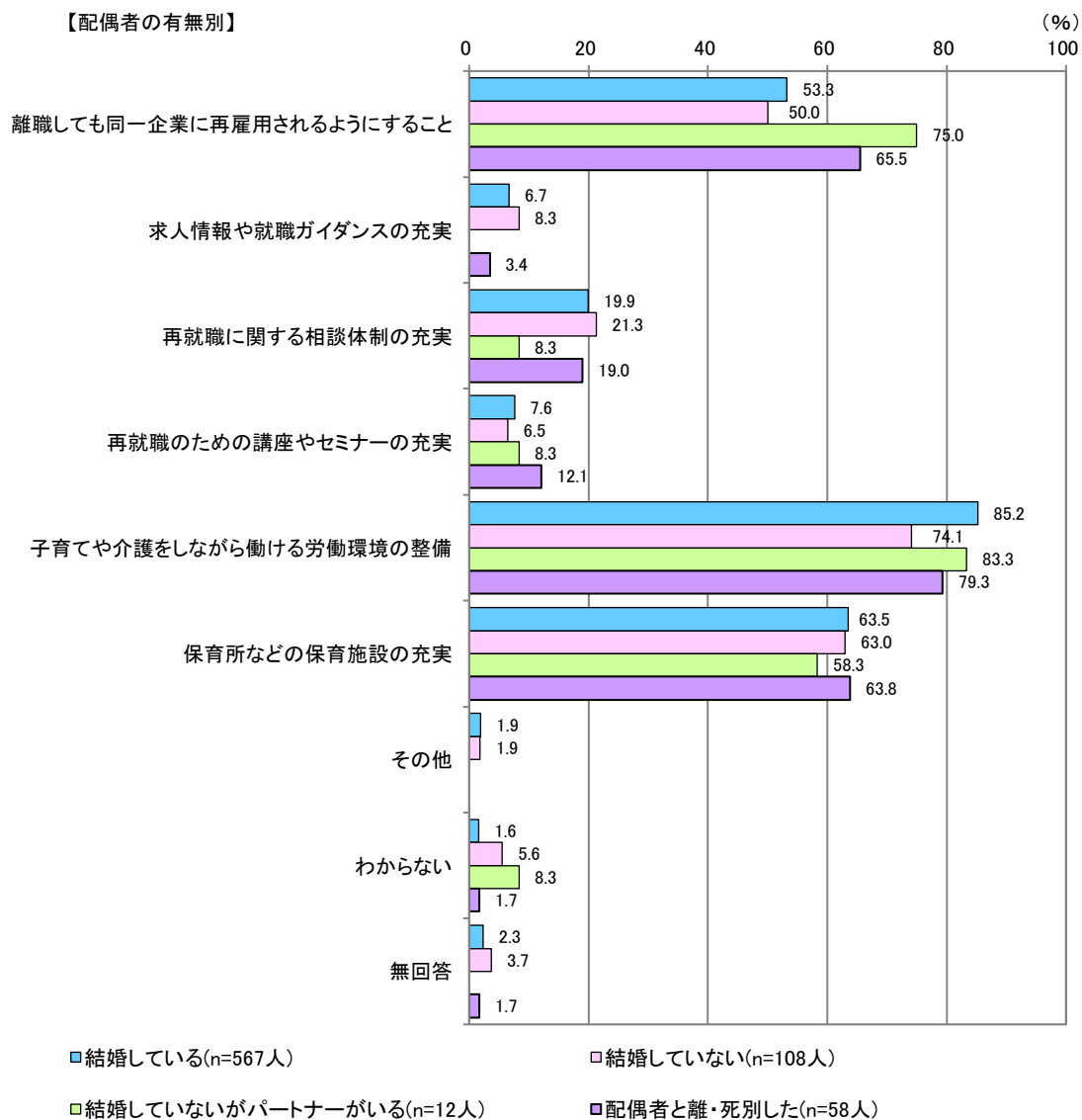
・年代別でみると、いずれの年代でも、上位3項目は一致している。「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」という回答では、いずれの年代でも回答割合が7割を超えている。また、「保育所などの保育施設の充実」という回答では、30歳～34歳で9割となっている。

【年代別】

(%)



- ・配偶者の有無別でみると、いずれも「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」が7割以上と、最も多くなっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」が次いで多く、「保育所などの保育施設の充実」と続いている。

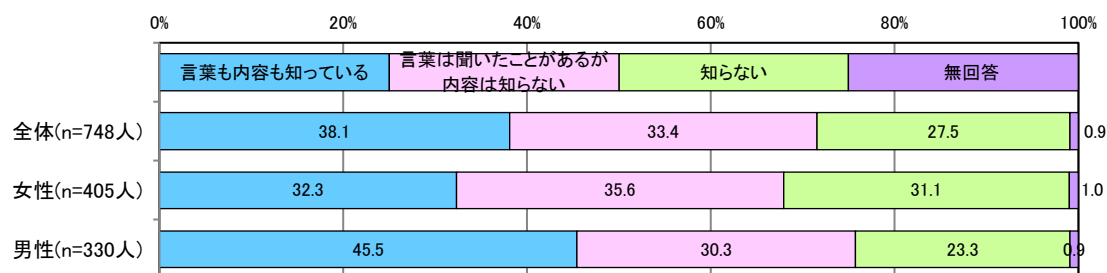


仕事と生活の調和に関することについて

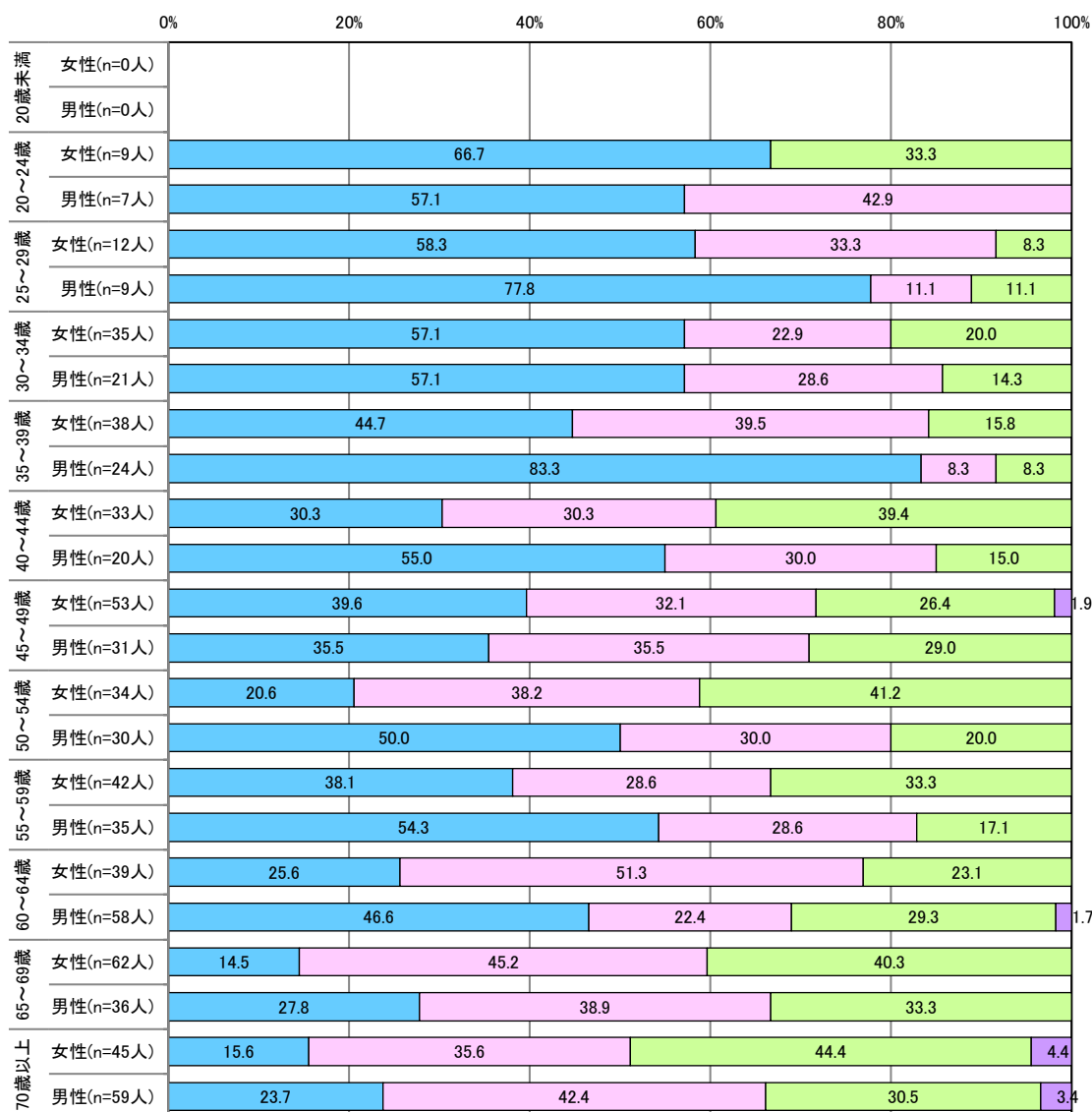
問 24 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。（〇は 1 つ）

- ・性別でみると、男性では、「言葉も内容も知っている」という回答が最も多く、約 5 割（45.5%）であるのに対し、女性では「言葉も内容も知っている」、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」、「知らない」がいずれも約 3 割となっている。
- ・世代別性別でみると、「言葉も内容も知っている」という回答割合が 5 割以上は、20 歳～34 歳の男女、35 歳～44 歳の男性、50 歳～59 歳の男性となっている。

【性別】

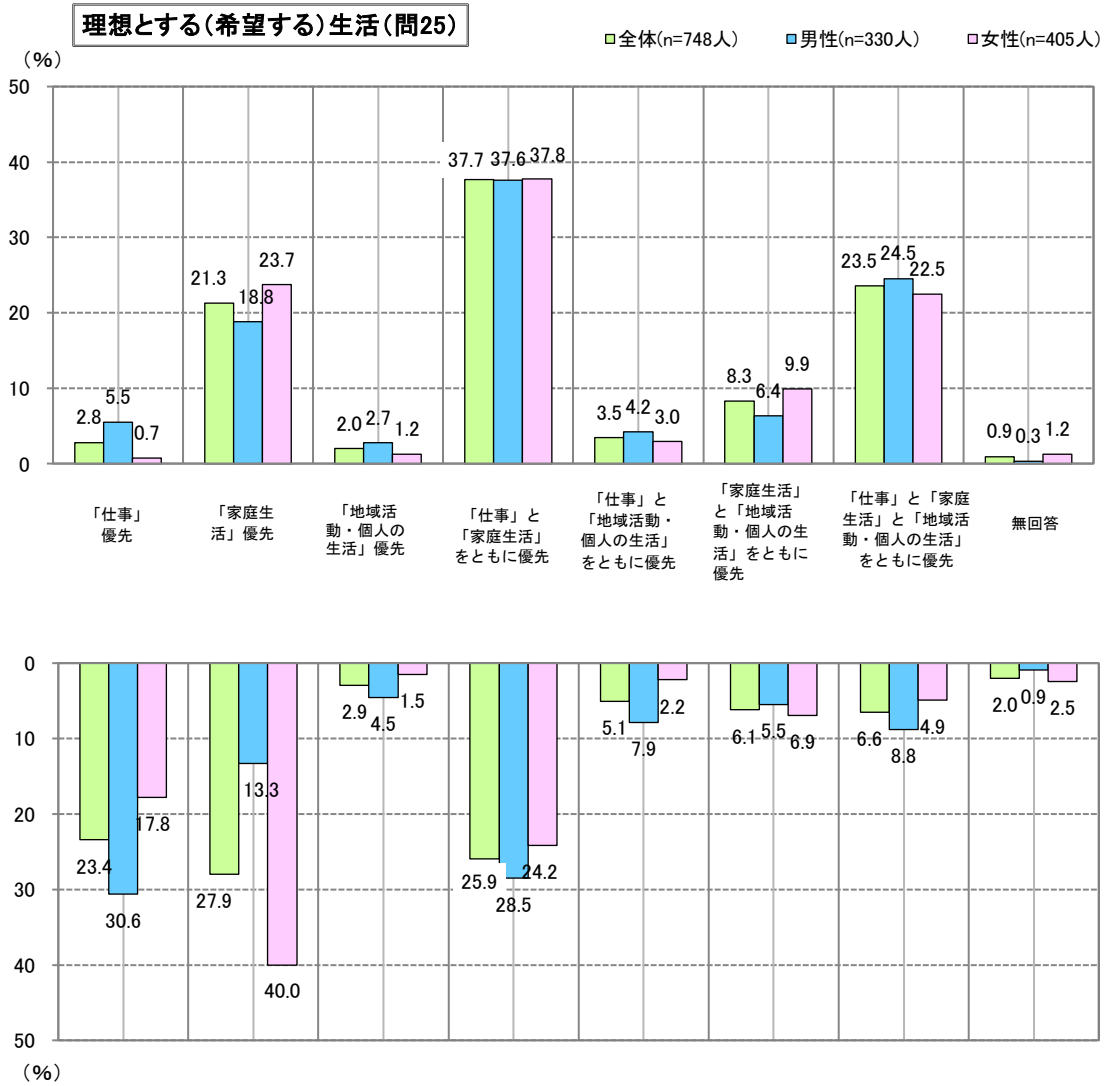


【世代別性別】



問 25 理想とする（希望する）生活

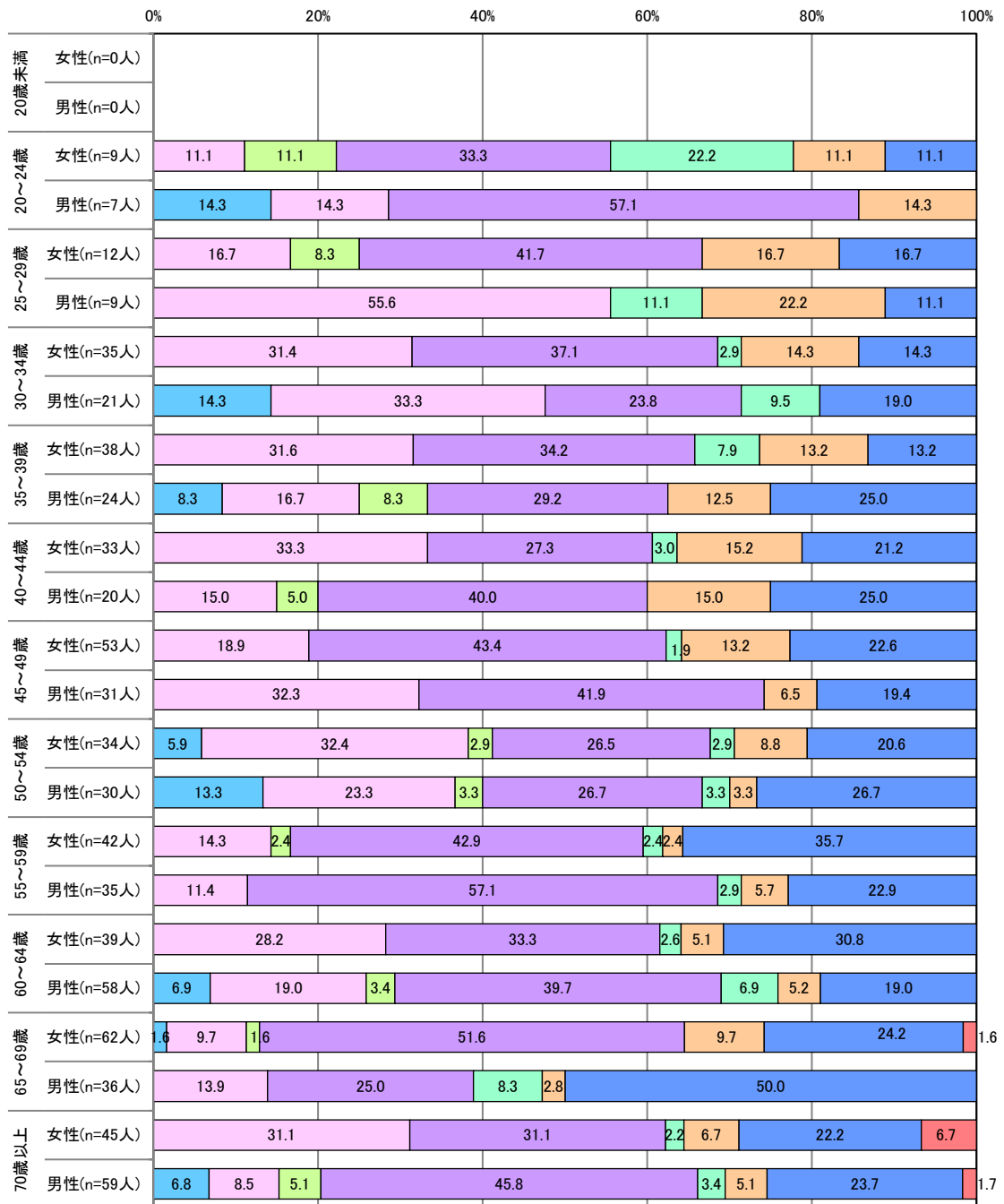
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の男性、55歳～59歳の男性、65歳～69歳の女性の年代で、「『仕事』と『家庭生活』ともに優先」という回答が5割を超えている。一方、25歳～34歳の男性、30歳～44歳の女性、40歳～44歳の女性、50歳～54歳の女性、70歳以上の女性では、「『家庭生活』優先」という回答が3割を超え、最も多くなっている。



現実(現状)の生活(問26)

- 「仕事」優先
- 「地域活動・個人の生活」優先
- 「仕事」と「地域活動・個人の生活」とともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」とともに優先
- 「家庭生活」優先
- 「仕事」と「家庭生活」とともに優先
- 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」とともに優先
- 無回答

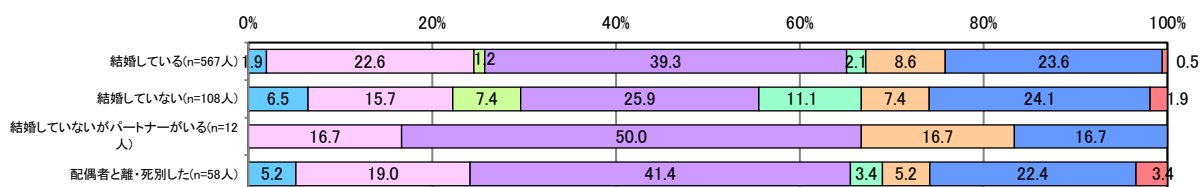
【世代別性別】



- ・配偶者の有無別でみると、いずれも「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となっている。次いで、「結婚していないがパートナーがいる」を除く、いずれも「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」、「『家庭生活』優先」となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「『家庭生活』優先」と「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」、「『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」が同率となっている。
- ・子の有無別でみると、いずれも「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となっている。次いで、「いる」では、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」、「『家庭生活』優先」が同率となっている。一方、「いない」では、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」「『家庭生活』優先」となっている。

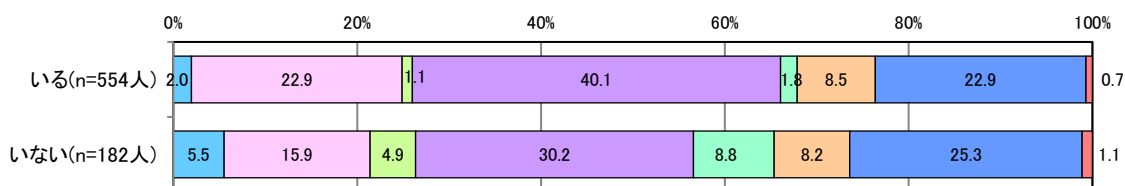
【配偶者の有無別】

- 「仕事」優先
- 「家庭生活」優先
- 「地域活動・個人の生活」優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 無回答



【子の有無別】

- 「仕事」優先
- 「家庭生活」優先
- 「地域活動・個人の生活」優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 無回答

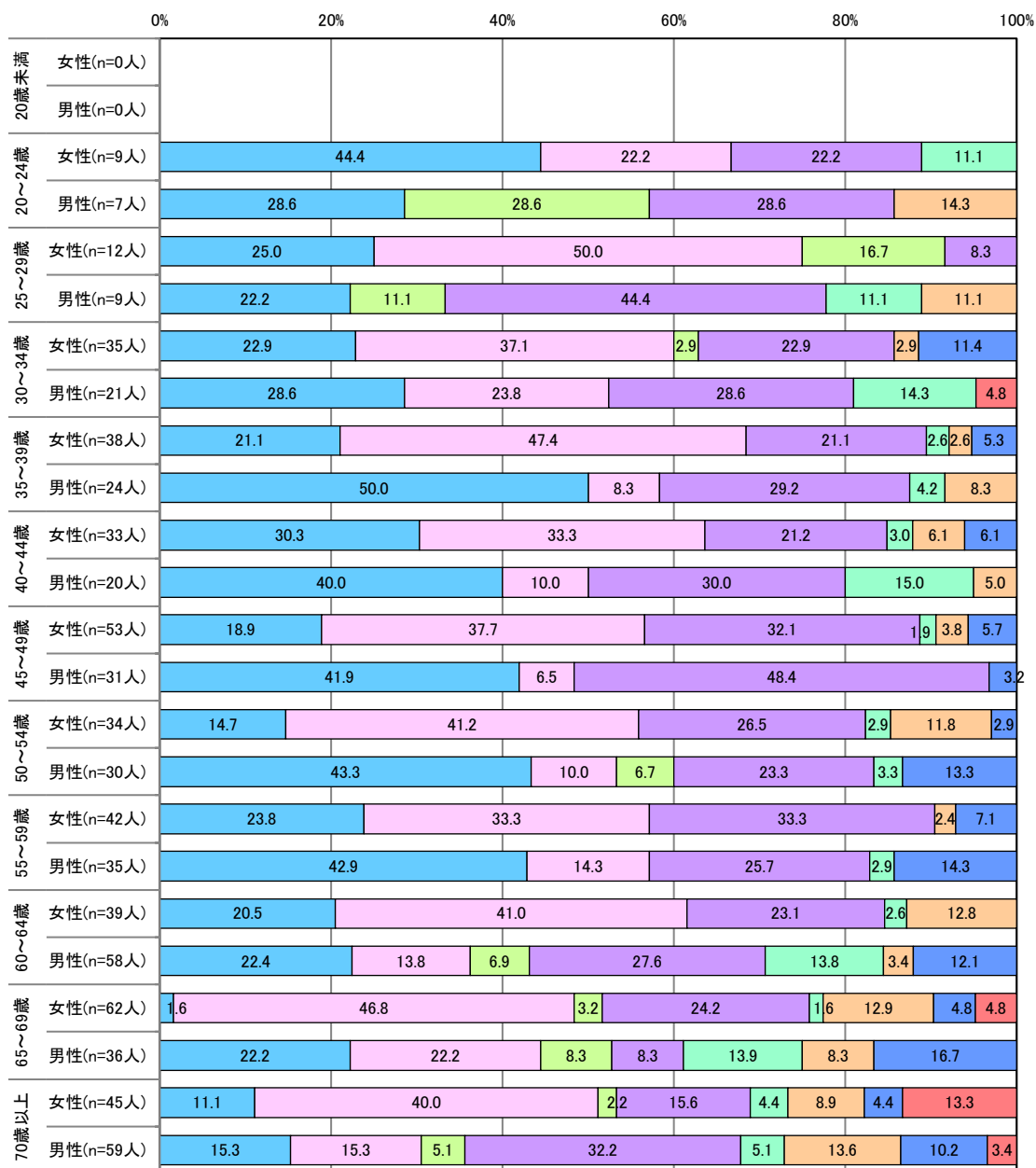


問 26 現実（現状）の生活

- ・ 世代別性別でみると、20 歳～24 歳の女性、35 歳～59 歳の男性では、「『仕事』優先」という回答が 4 割を超えている。一方、25 歳～29 歳の女性、35 歳～39 歳の女性、50 歳～54 歳の女性、60 歳以上の女性で「『家庭生活』優先」という回答が 4 割以上となっている。
- ・ 「『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答は、20 歳～24 歳の女性、25 歳～34 歳の男性、40 歳～44 歳の男性、60 歳～69 歳の男性で 1 割を超えている。

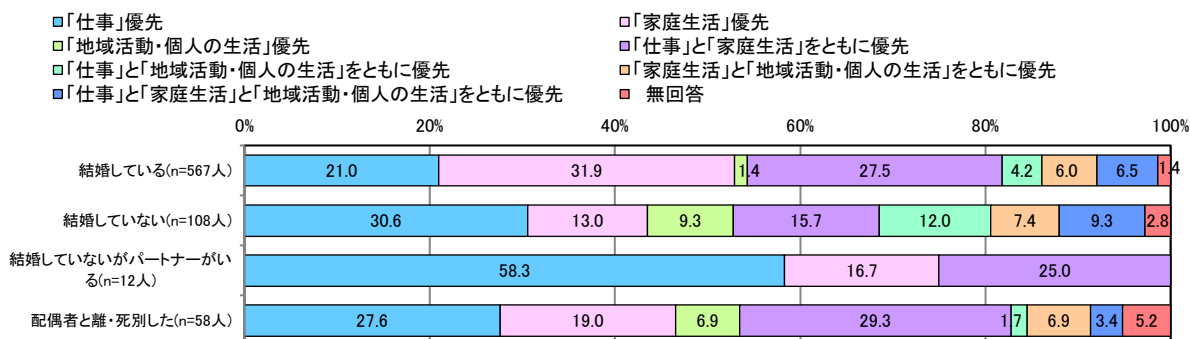
【世代別性別】

- 「仕事」優先
- 「地域活動・個人の生活」優先
- 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 無回答

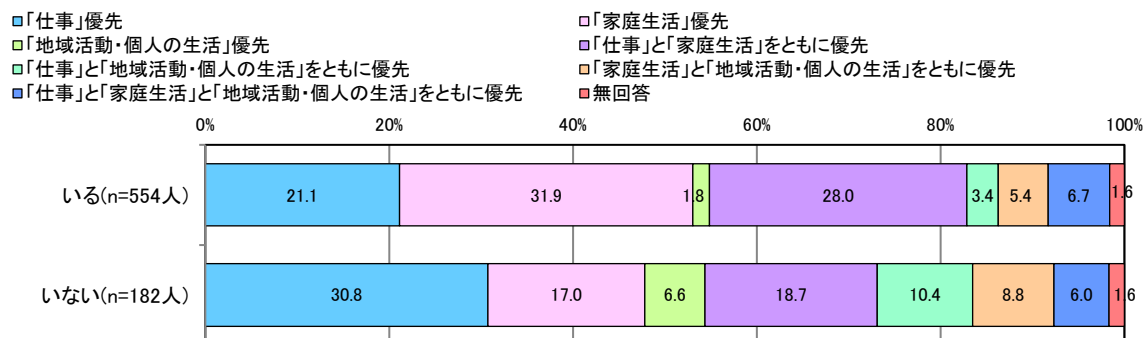


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「『家庭生活』優先」（31.9％）が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（27.5％）、「『仕事』優先」（21.0％）となっている。「結婚していない」では、「『仕事』優先」（30.6％）が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（15.7％）、「『家庭生活』優先」（13.0％）となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「『仕事』優先」（58.3％）が最も多い回答となっている。「配偶者と離・死別した」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（29.3％）が最も多い回答となっており、次いで、「『仕事』優先」（27.6％）、「『家庭生活』優先」（19.0％）となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「『家庭生活』優先」（31.9％）が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（28.0％）、「『仕事』優先」（21.1％）となっている。「いない」では、「『仕事』優先」（30.8％）が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（18.7％）、「『家庭生活』優先」（17.0％）となっている。

【配偶者の有無別】



【子の有無別】



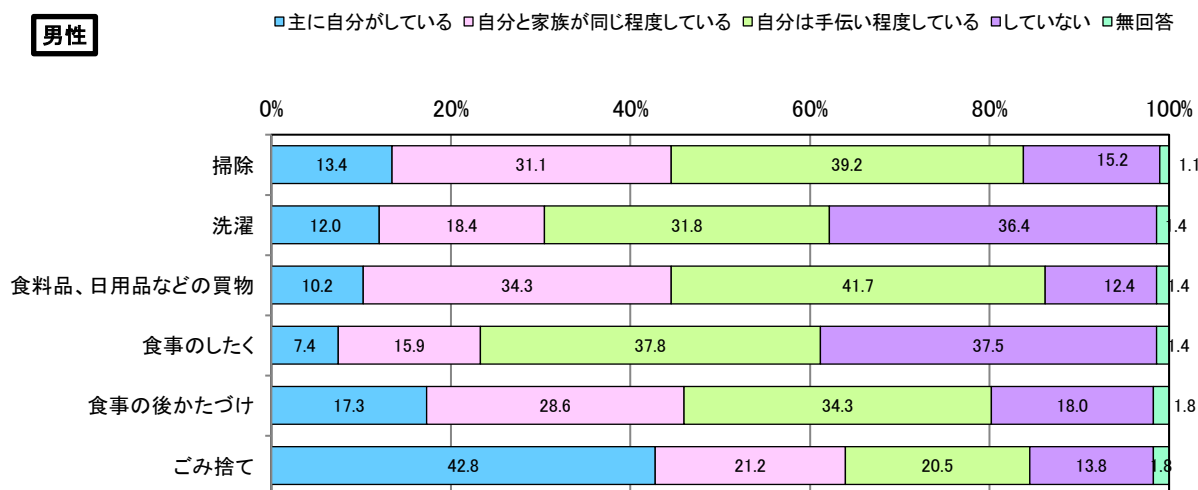
問 27 あなたは次にあげる家事をしていますか。（それぞれ〇は1つ）

（※集計対象は世帯構成で、「単身世帯」、「その他」、「無回答」を除く 645 人とする）

- ・全分野では、男性は、「主に自分がしている」という回答は、「ごみ捨て」が最も多く、約 4 割（42.8%）となっている。次いで、「食事の後かたづけ」（17.3%）、「掃除」（13.4%）と続いている。
- ・女性は、「主に自分がしている」という回答は、「食事のしたく」が最も多く、約 8 割（79.8%）となっている。次いで、「洗濯」（77.0%）、「掃除」（69.9%）となっている。

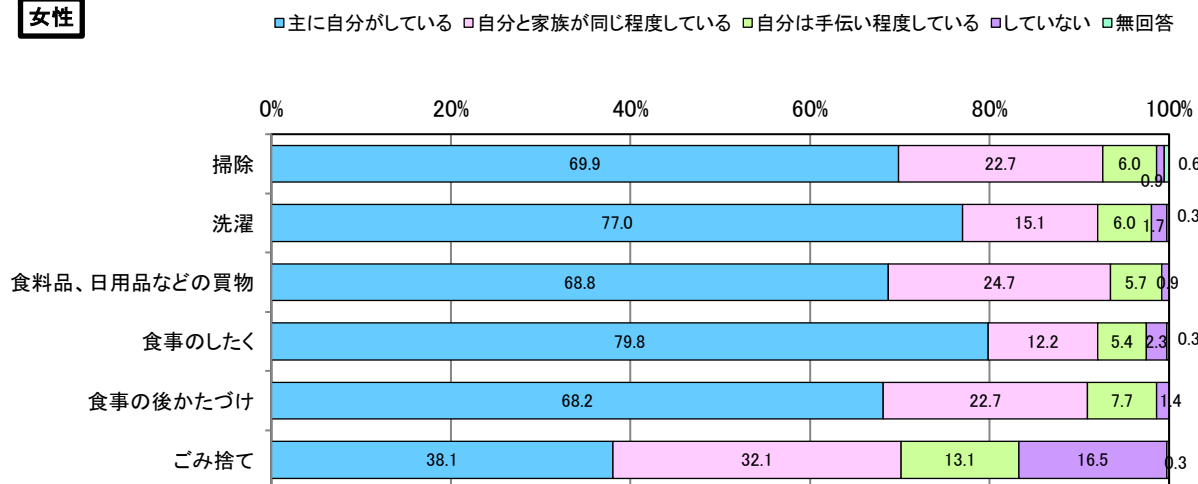
【性別】

男性



男性 (n=283 人)

女性



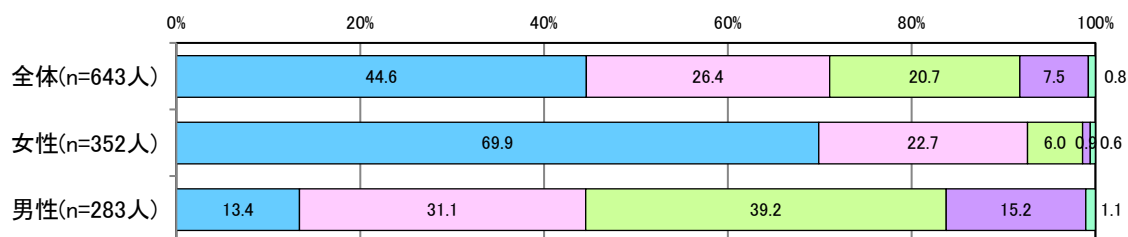
女性 (n=352 人)

1 掃除

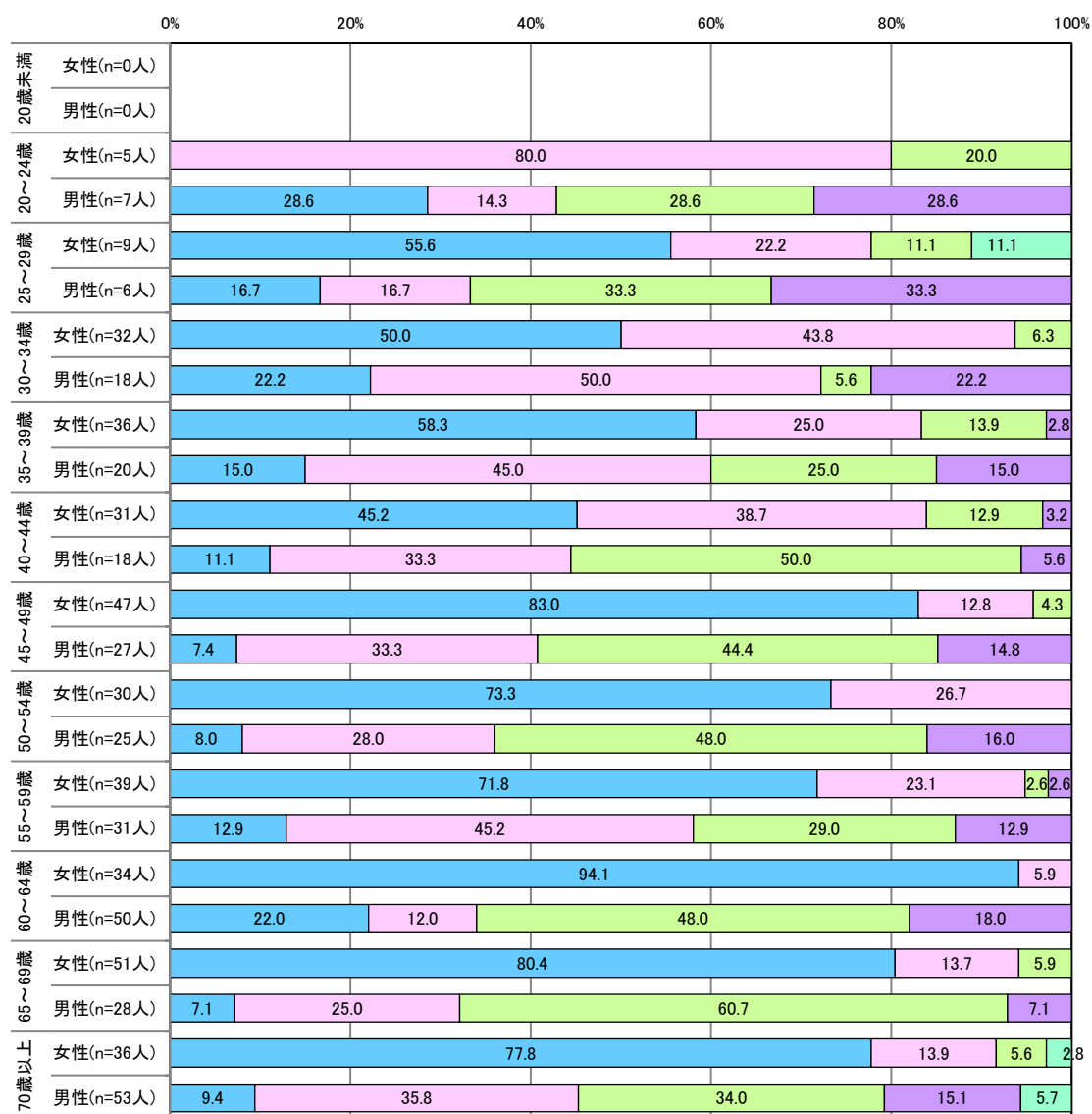
- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(69.9%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(39.2%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、「していない」という回答が2割以上となる世代は、20歳～34歳の男性となっている。

【性別】

■主に自分がしている □自分と家族が同じ程度している □自分は手伝い程度している □していない □無回答

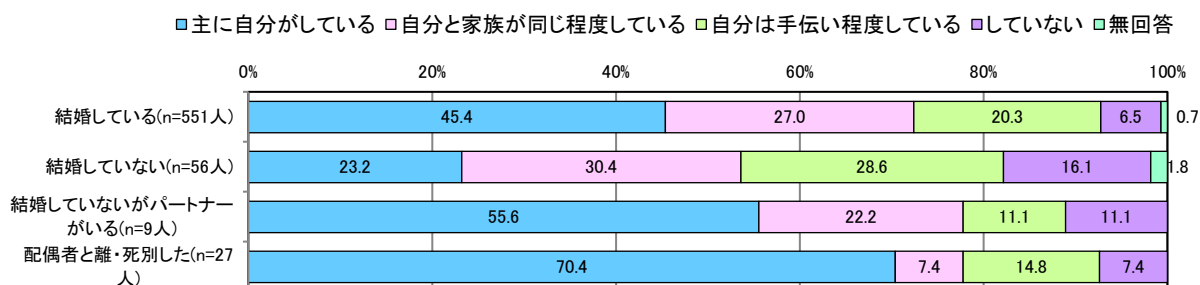


【世代別性別】

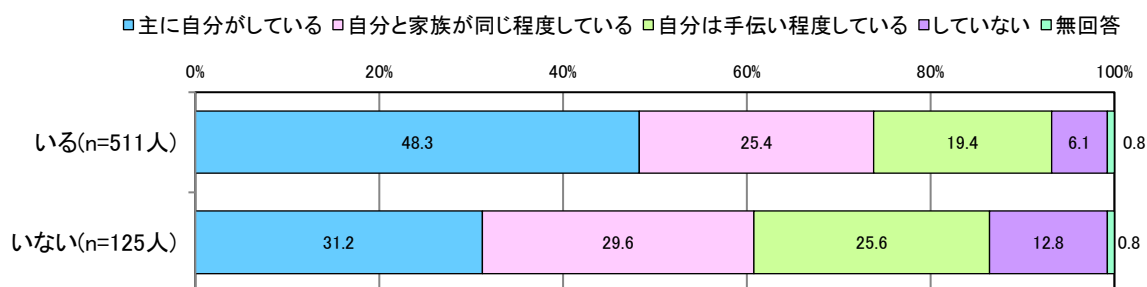


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(45.4%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(27.0%)、「自分は手伝い程度している」(20.3%)となっている。「結婚していない」では、「自分と家族が同じ程度している」(30.4%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(28.6%)、「主に自分がしている」(23.2%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」、「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」が5割以上で、最も多くなっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(48.3%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(25.4%)と「自分は手伝い程度している」(19.4%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(31.2%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(29.6%)、「自分は手伝い程度している」(25.6%)となっている。

【配偶者の有無別】



【子の有無別】

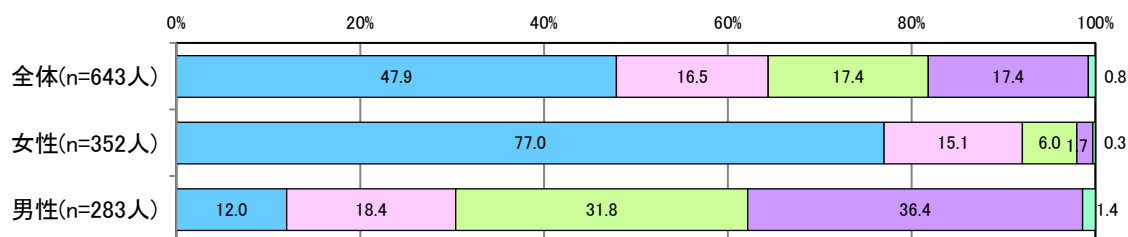


2 洗濯

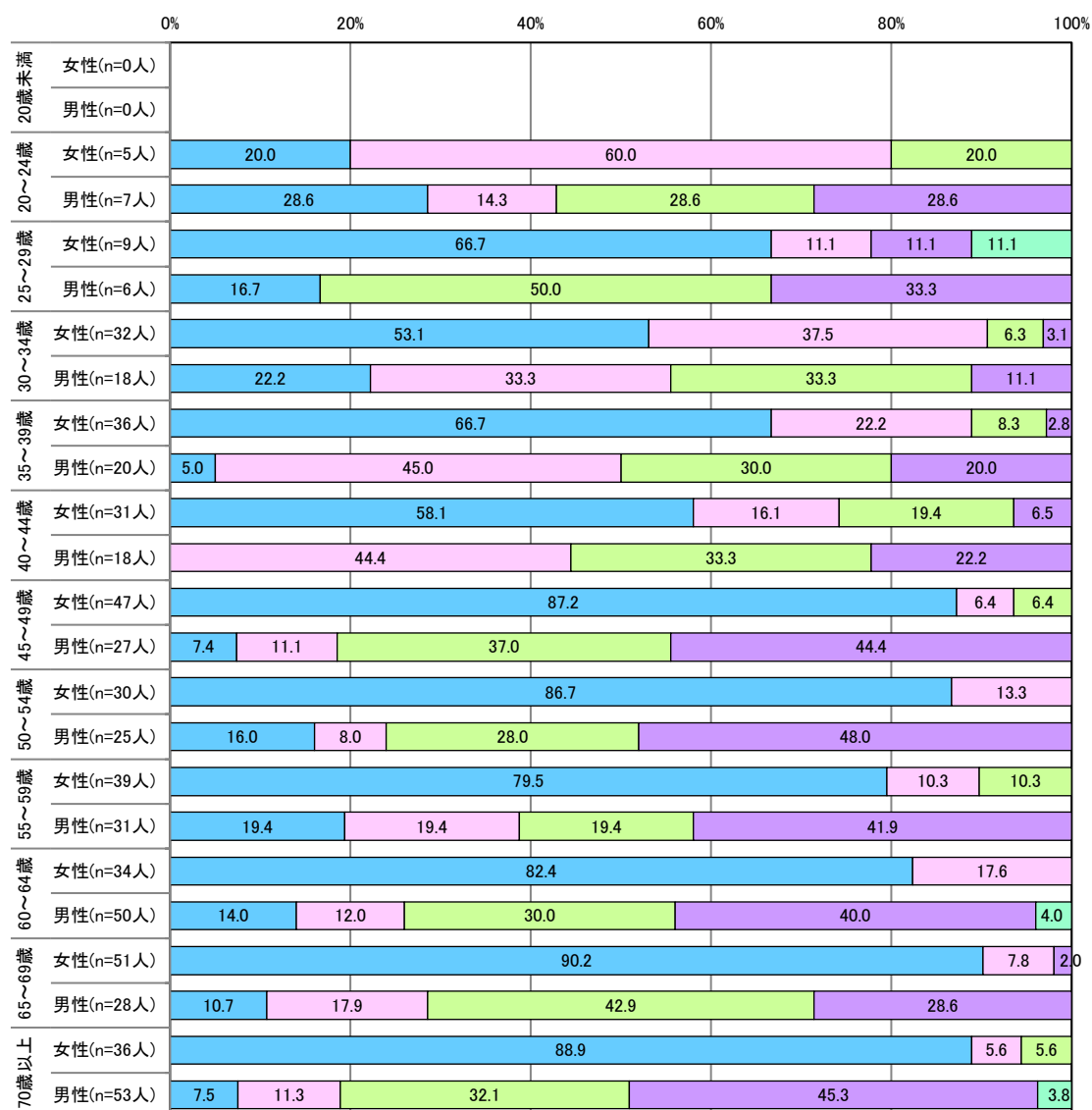
- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(77.0%)という回答が最も多く、男性は「していない」(36.4%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、45歳～64歳の男性、70歳以上の男性では、「していない」という回答割合が4割以上となっている。

【性別】

■主に自分がしている □自分と家族が同じ程度している ■自分は手伝い程度している □していない □無回答



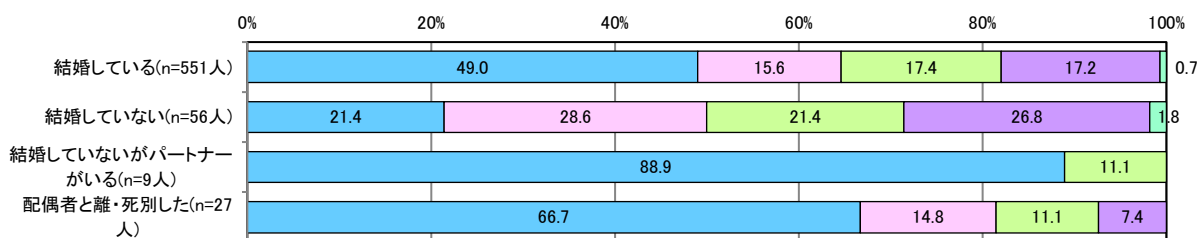
【世代別性別】



- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(49.0%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(17.4%)、「していない」(17.2%)と続いている。「結婚していない」では、「自分と家族が同じ程度している」(28.6%)という回答が最も多く、次いで「主に自分がしている」(21.4%)、「自分は手伝い程度している」(21.4%)が同率となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「主に自分がしている」(88.9%)という回答が最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(66.7%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(14.8%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(50.9%)という回答が最も多く、次いで「していない」(16.6%)、「自分は手伝い程度している」(16.2%)、「自分と家族が同じ程度している」(15.5%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(36.0%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(22.4%)、「自分と家族が同じ程度している」(21.6%)、「していない」(19.2%)となっている。

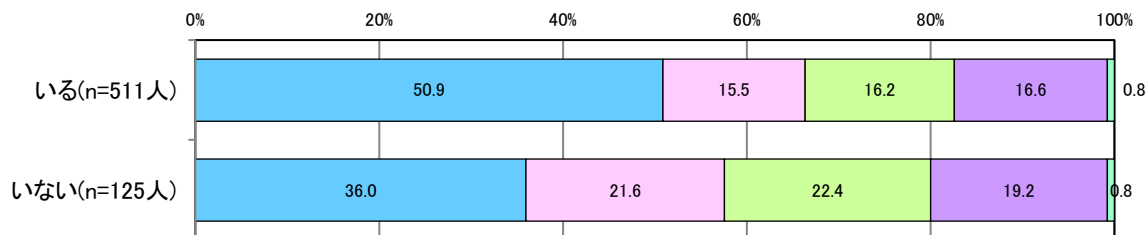
【配偶者の有無別】

■主に自分がしている □自分と家族が同じ程度している ■自分は手伝い程度している ■していない ■無回答



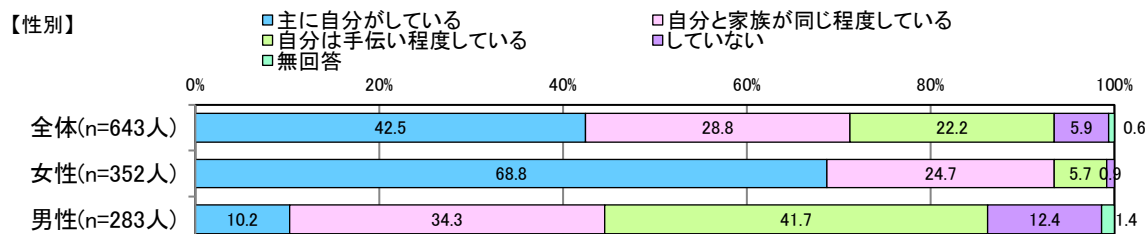
【子の有無別】

■主に自分がしている □自分と家族が同じ程度している ■自分は手伝い程度している ■していない ■無回答

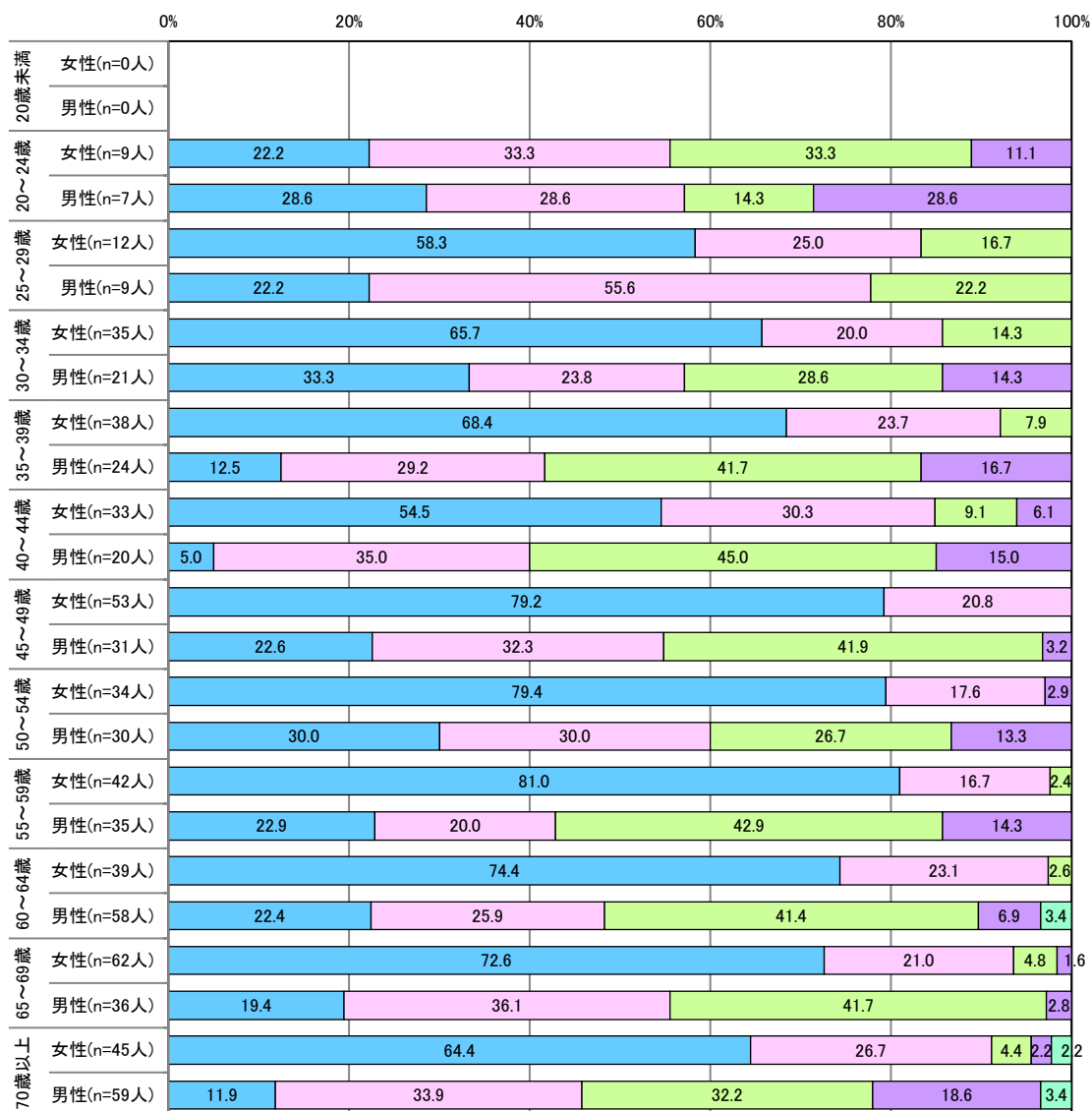


3 食料品、日用品などの買物

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(68.8%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(41.7%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、40歳～44歳の男性では、「自分は手伝い程度している」という回答が5割となっている。一方、25歳以上の女性では、「主に自分がしている」という回答が最も多く、5割以上となっている。

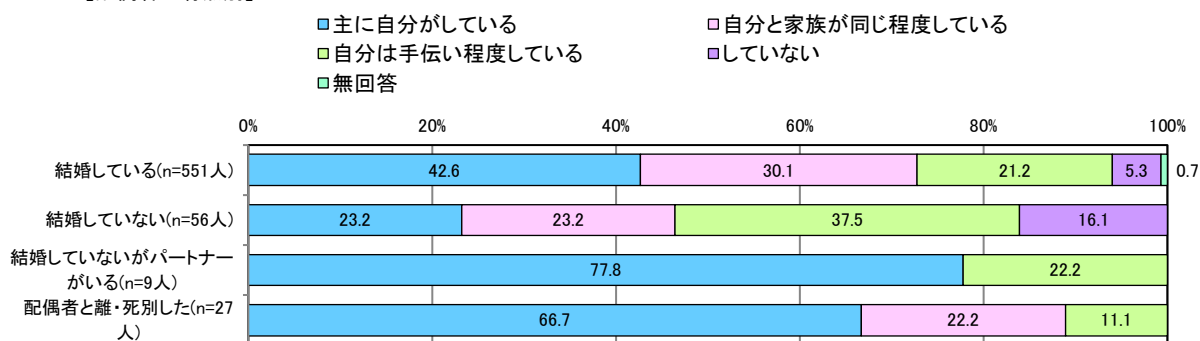


【世代別性別】

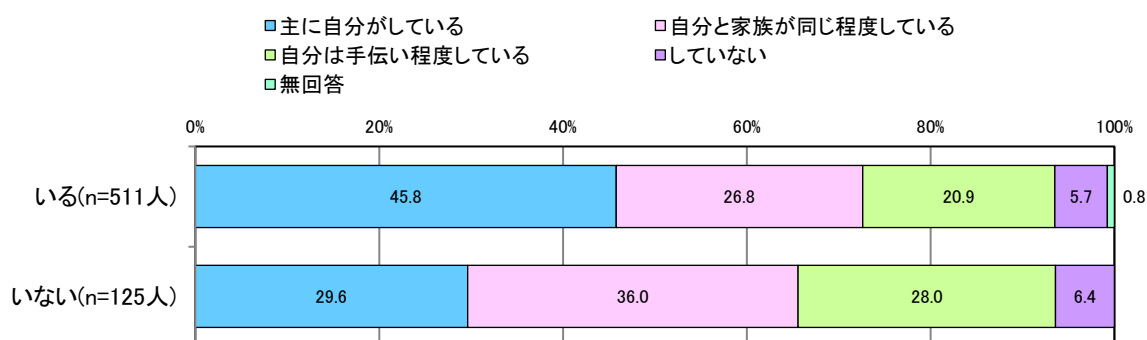


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(42.6%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(30.1%)、「自分は手伝い程度している」(21.2%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(37.5%)という回答が最も多く、次いで「主に自分がしている」(23.2%)、「自分と家族が同じ程度している」(23.2%)、「していない」(16.1%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「主に自分がしている」(77.8%)が最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(66.7%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(22.2%)、「自分は手伝い程度している」(11.1%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(45.8%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(26.8%)、「自分は手伝い程度している」(20.9%)となっている。「いない」では、「自分と家族が同じ程度している」(36.0%)という回答が最も多く、次いで「主に自分がしている」(29.6%)、「自分は手伝い程度している」(28.0%)となっている。

【配偶者の有無別】

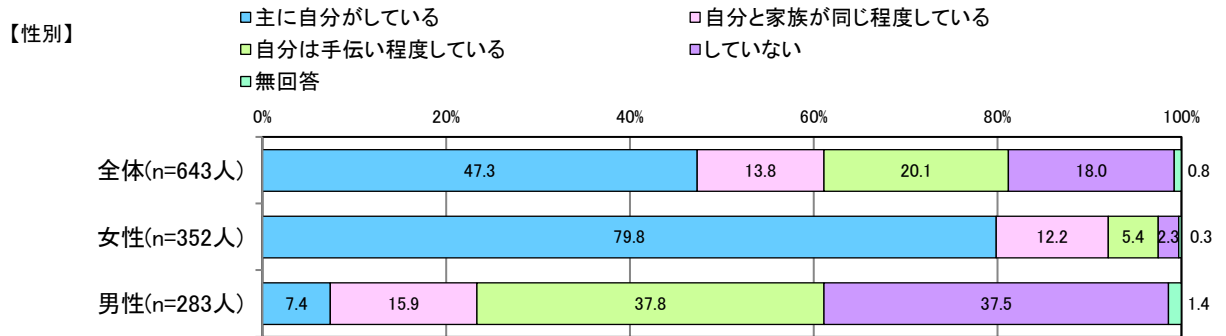


【子の有無別】

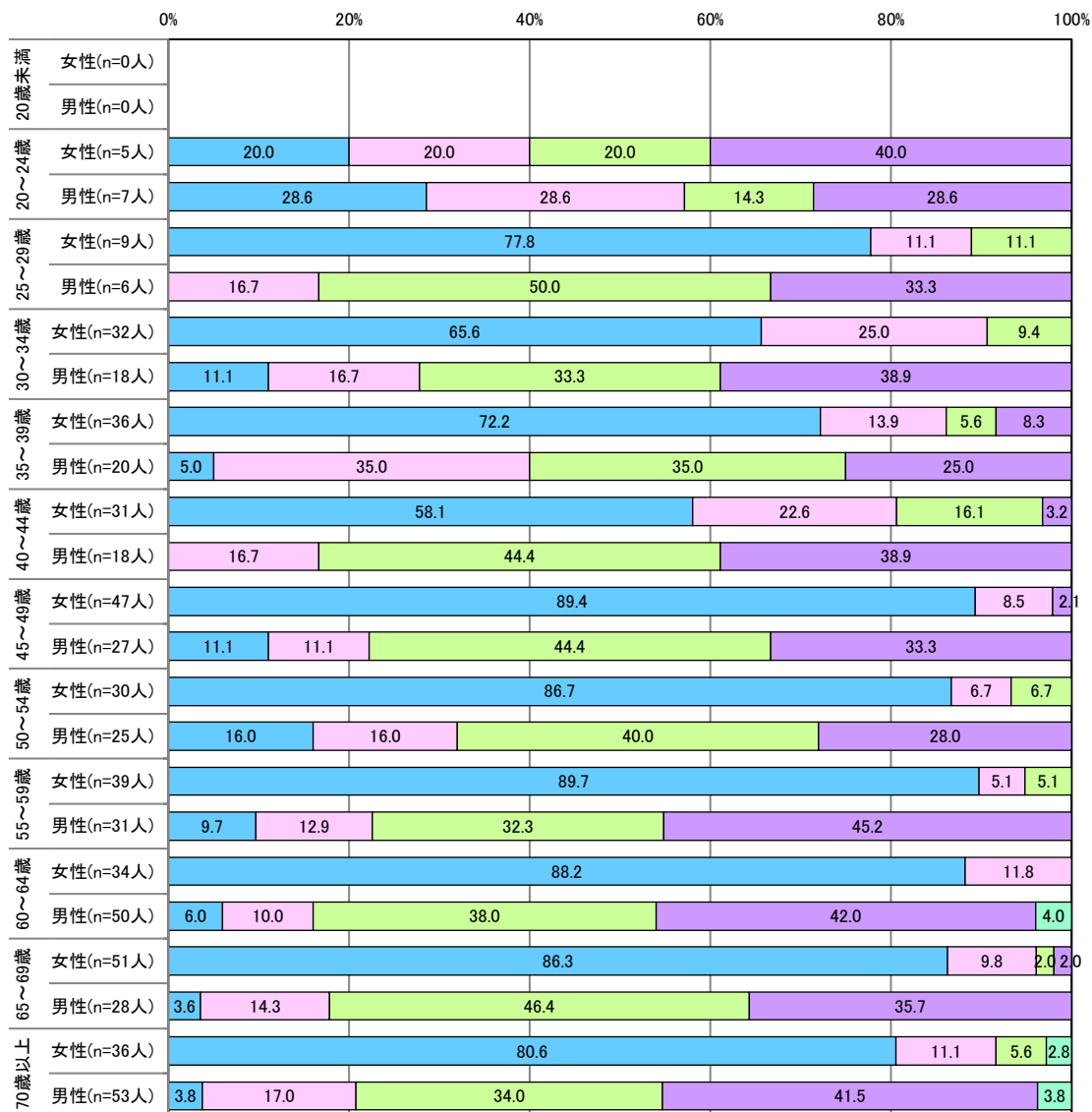


4 食事のしたく

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(79.8%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(37.8%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の女性、55歳～64歳の男性、70歳以上の男性で、「していない」という回答が、4割以上となっている。

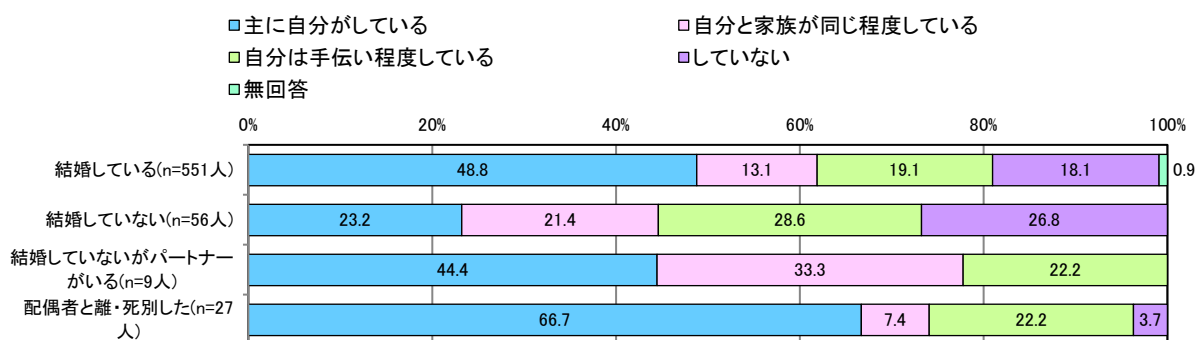


【世代別性別】

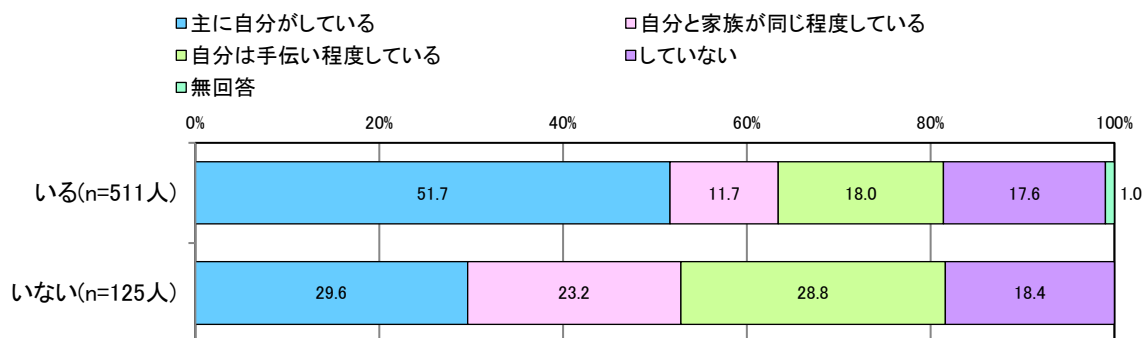


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(48.8%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(19.1%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(28.6%)という回答が最も多く、次いで、「していない」(26.8%)、「主に自分がしている」(23.2%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」、「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」が4割を超え、最も多くなっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(51.7%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(18.0%)、「していない」(17.6%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(29.6%)という回答が最も多く、次いで、「自分は手伝い程度している」(28.8%)、「自分と家族が同じ程度している」(23.2%)となっている。

【配偶者の有無別】



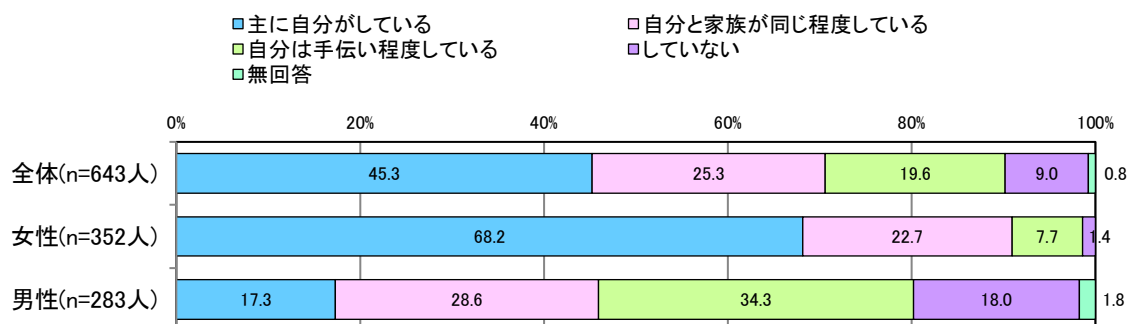
【子の有無別】



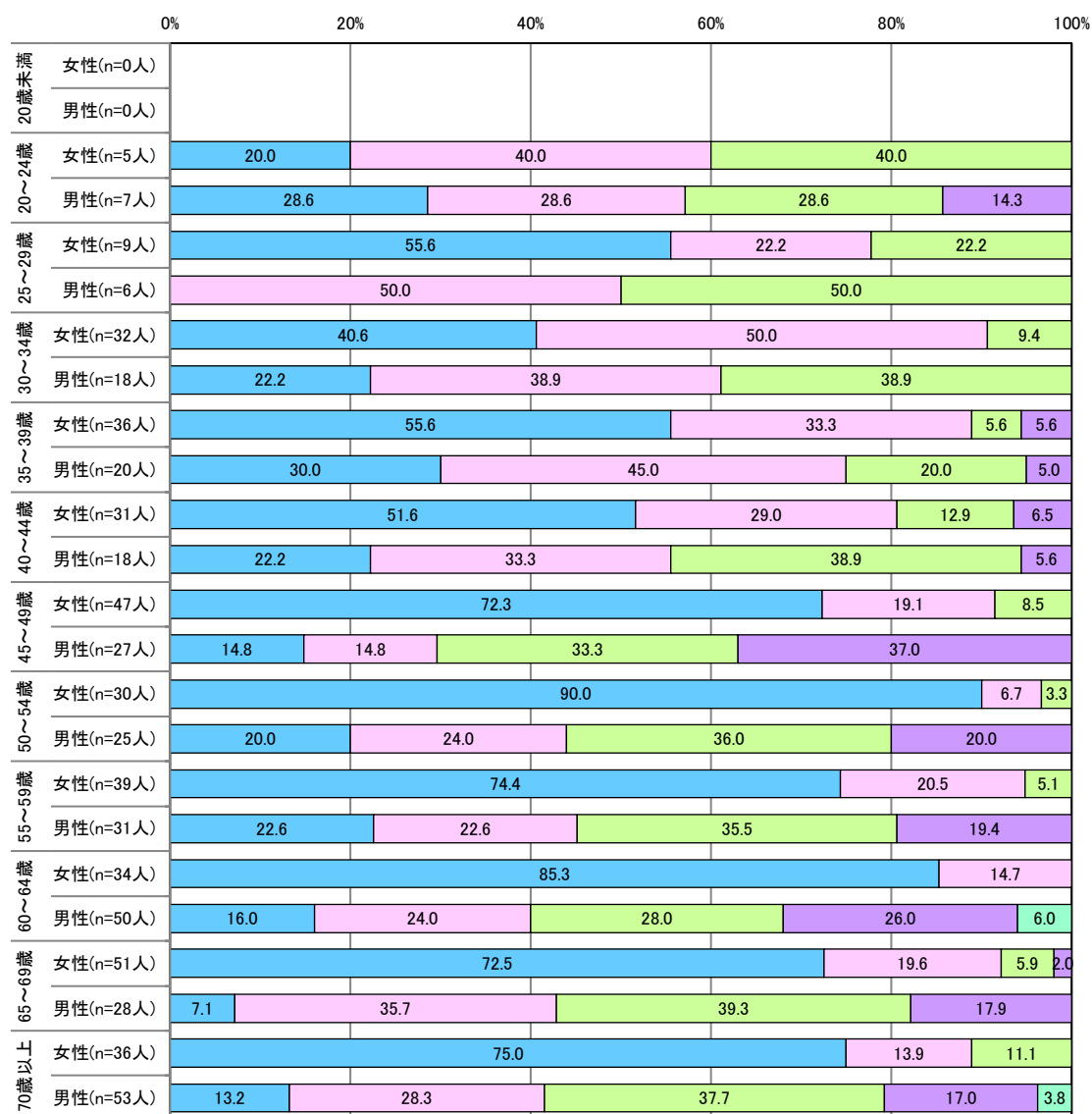
5 食事の後かたづけ

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(68.2%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(34.3%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、45歳～49歳の男性で「していない」という回答が約4割となっている。

【性別】

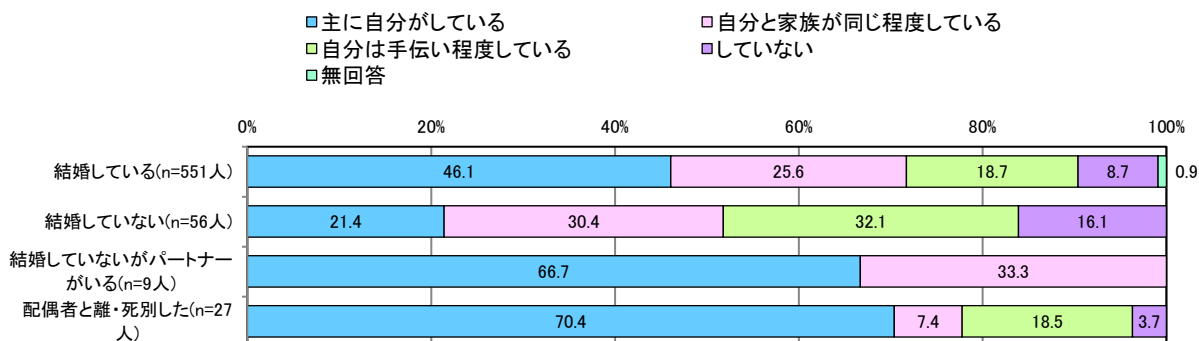


【世代別性別】

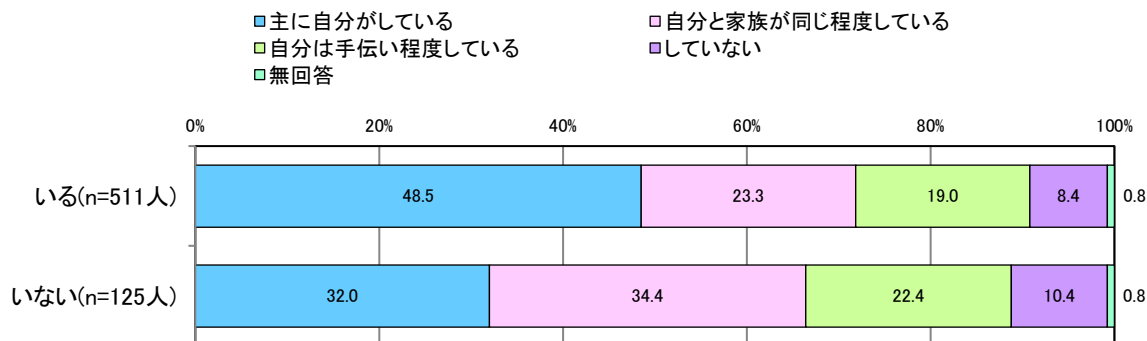


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(46.1%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(25.6%)、「自分は手伝い程度している」(18.7%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(32.1%)という回答が最も多く、次いで、「自分と家族が同じ程度している」(30.4%)、「していない」(16.1%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」、「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」が約7割と最も多くなっている。次いで「結婚していないがパートナーがいる」では、「自分と家族が同じ程度している」(33.3%)となっている。一方で「配偶者と離・死別した」では、「自分は手伝い程度している」(18.5%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(48.5%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(23.3%)、「自分は手伝い程度している」(19.0%)となっている。「いない」では、「自分と家族が同じ程度している」(34.4%)、という回答が最も多く、次いで、「主に自分がしている」(32.0%)、「自分は手伝い程度している」(22.4%)、「していない」(10.4%)となっている。

【配偶者の有無別】



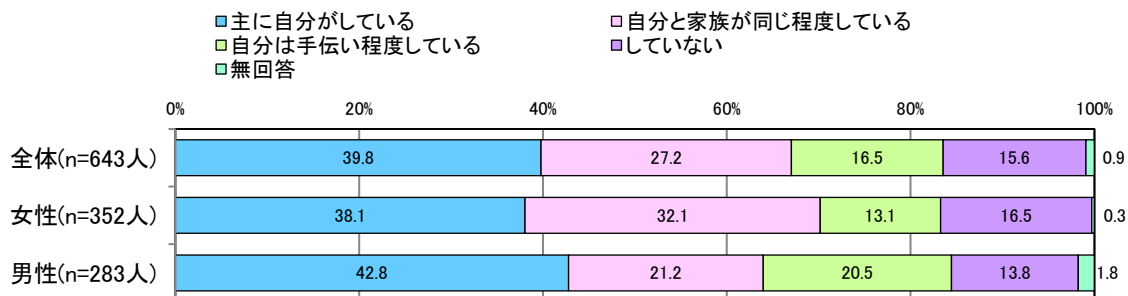
【子の有無別】



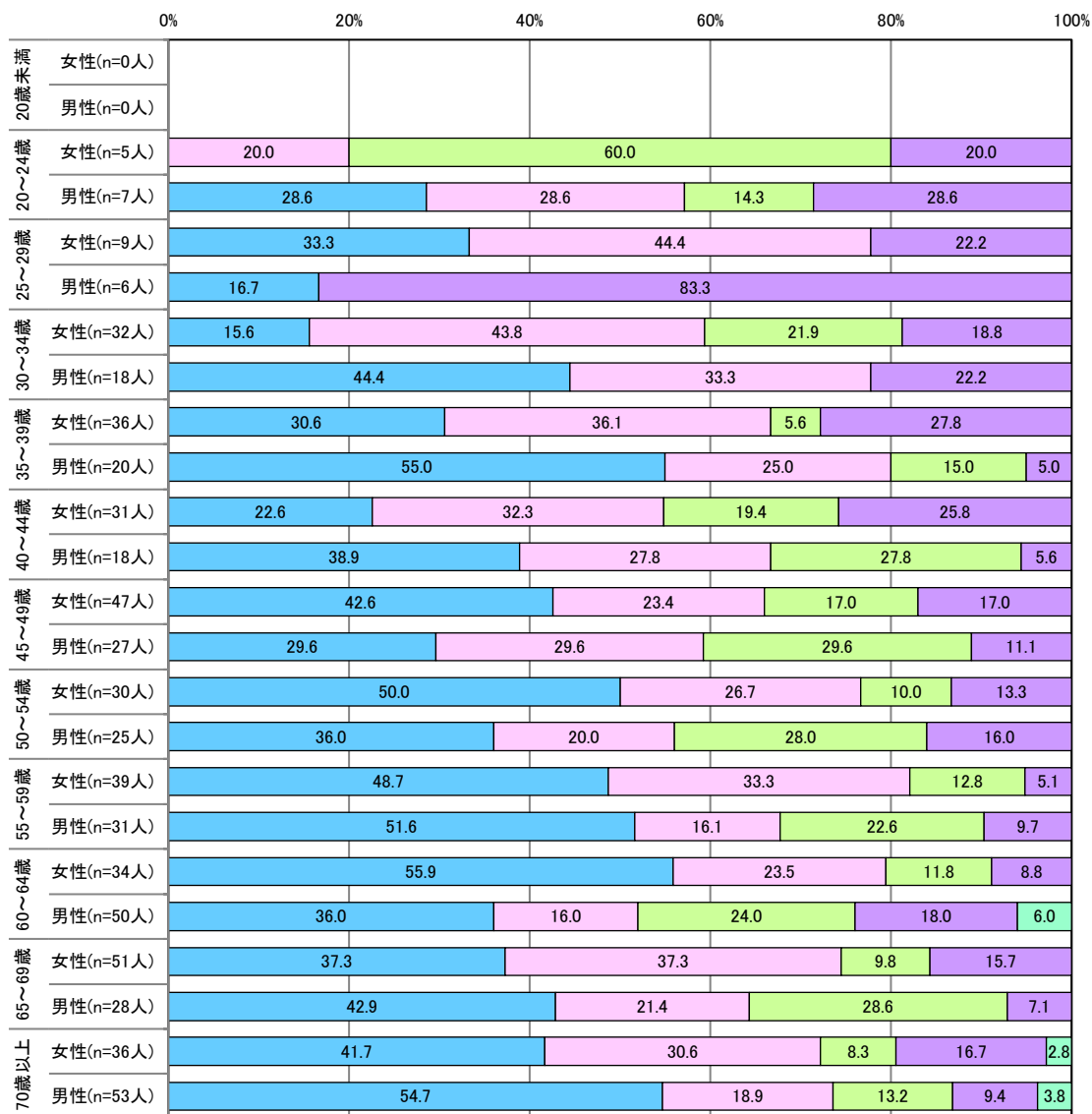
6 ごみ捨て

- ・性別でみると、男女ともに「主に自分がしている」という回答が最も多く、女性は38.1%、男性は42.8%となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～29歳の男性、30歳～34歳の女性、40歳～44歳の女性、45歳～49歳の男性では、「主に自分がしている」という回答が3割未満と、他よりも少ない傾向にある。

【性別】

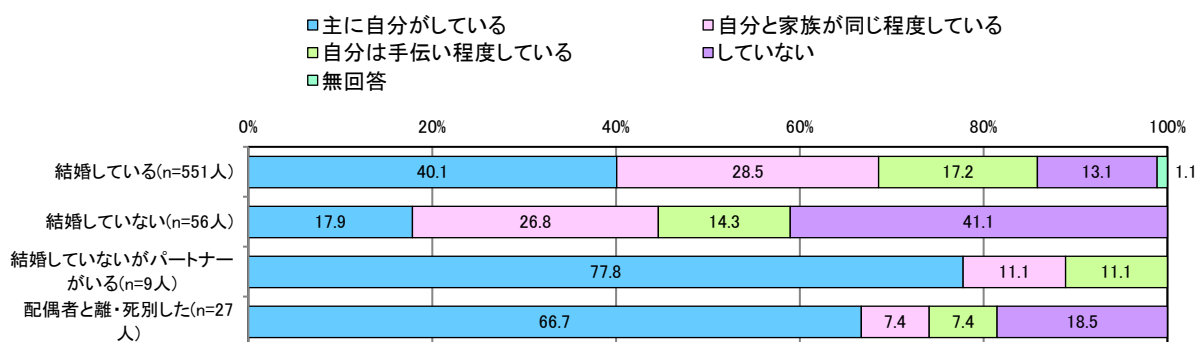


【世代別性別】

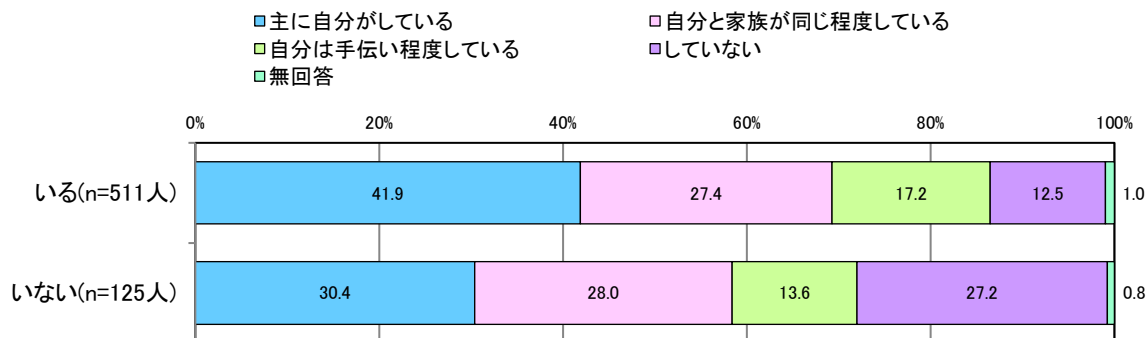


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(40.1%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(28.5%)、「自分は手伝い程度している」(17.2%)となっている。「結婚していない」では、「していない」(41.1%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(26.8%)、「主に自分がしている」(17.9%)、「自分は手伝い程度している」(14.3%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」、「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」がそれぞれ約8割、約7割と回答が最も多くなっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(41.9%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(27.4%)、「自分は手伝い程度している」(17.2%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(30.4%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(28.0%)、「していない」(27.2%)、「自分は手伝い程度している」(13.6%)となっている。

【配偶者の有無別】



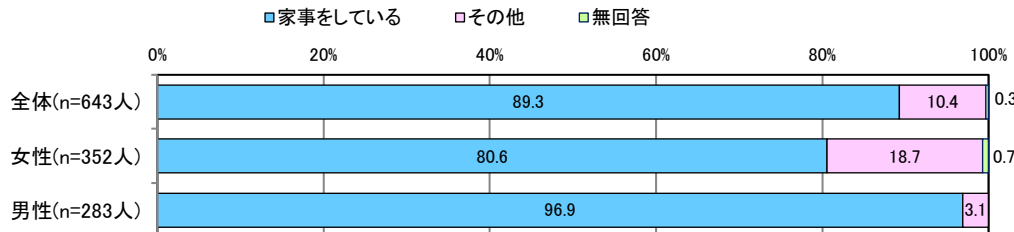
【子の有無別】



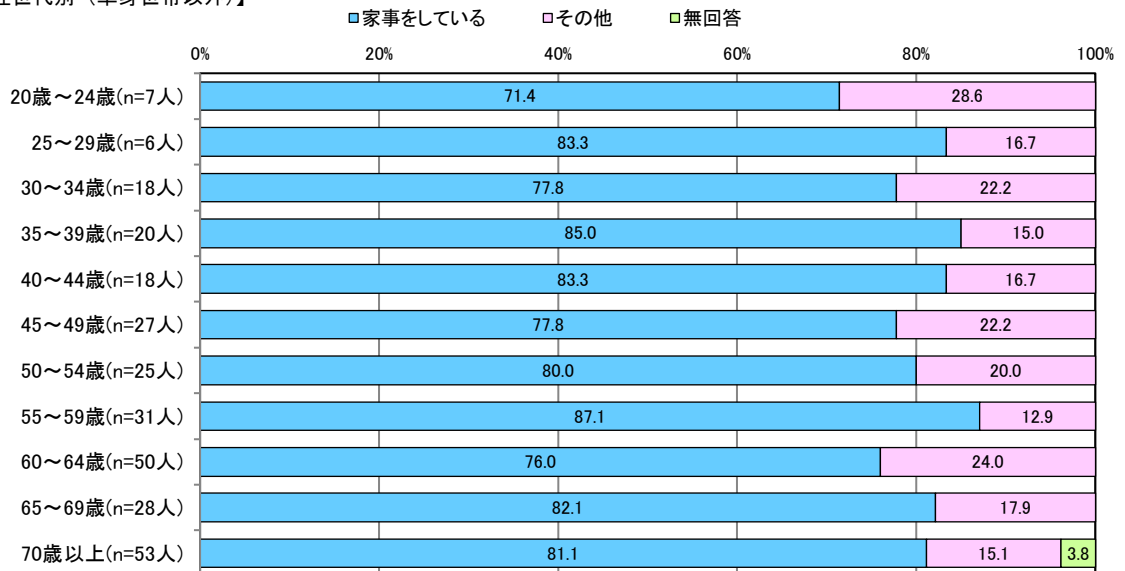
<家事への参画度>

- ・問 27 の 1～6 の家事について、いずれか1つでも「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」と回答した方を「家事をしている」とすると、全体の 89.3%がいずれかの「家事をしている」となっている。
- ・性別でみると、男性では 96.9%、女性は 80.6%の方が「家事をしている」となっており、女性は男性よりも「家事をしている」の回答割合が約 1 割低くなっている。

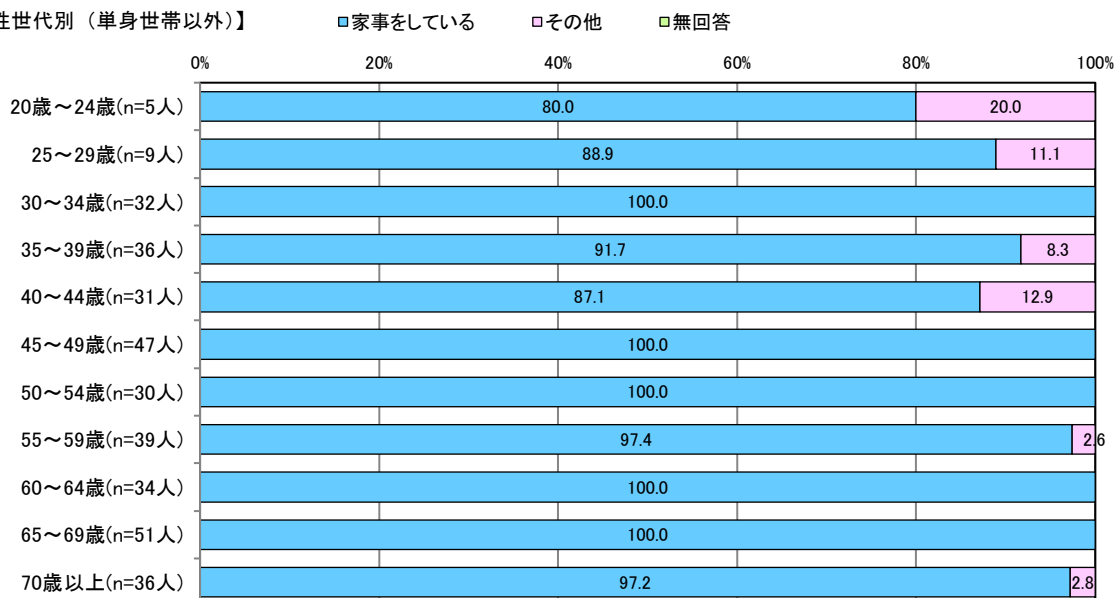
【性別】



【男性世代別（単身世帯以外）】



【女性世代別（単身世帯以外）】

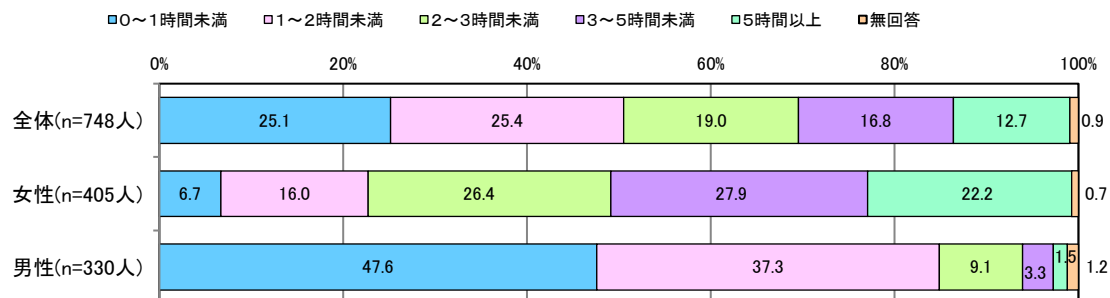


問 28 あなたの平日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。

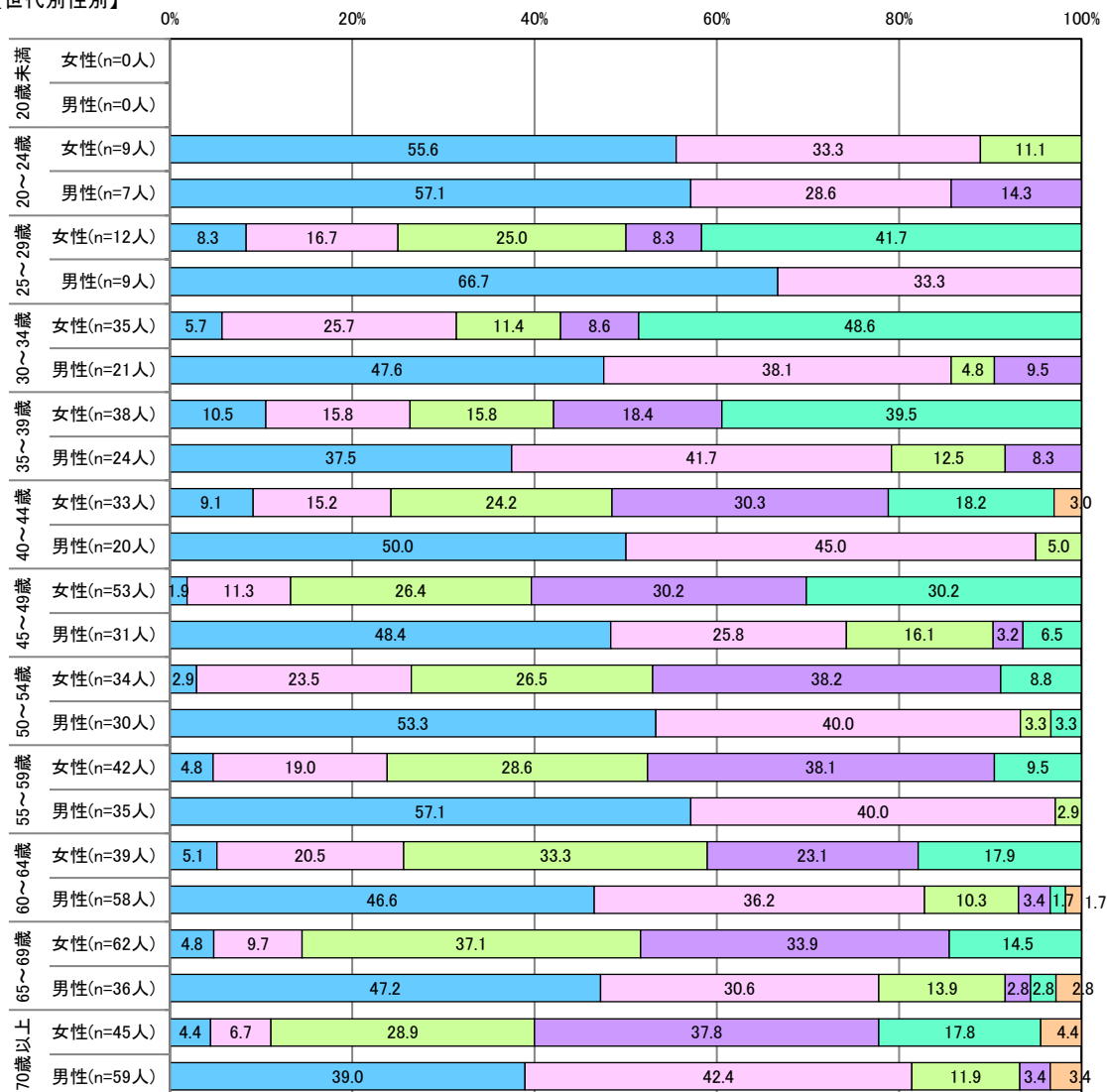
（○は1つ）

- ・性別でみると、男性は「0～1時間未満」（47.6%）という回答が最も多くなっている。一方、女性の「0～1時間未満」という回答は6.7%となっており、男女で大きな差がある。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の女性、20歳～34歳の男性、40歳～69歳の男性の世代で「0～1時間未満」という回答が4割を超えている。

【性別】

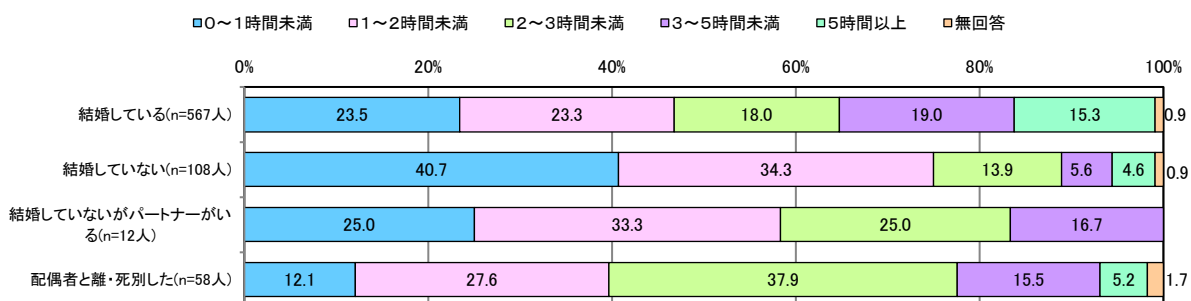


【世代別性別】

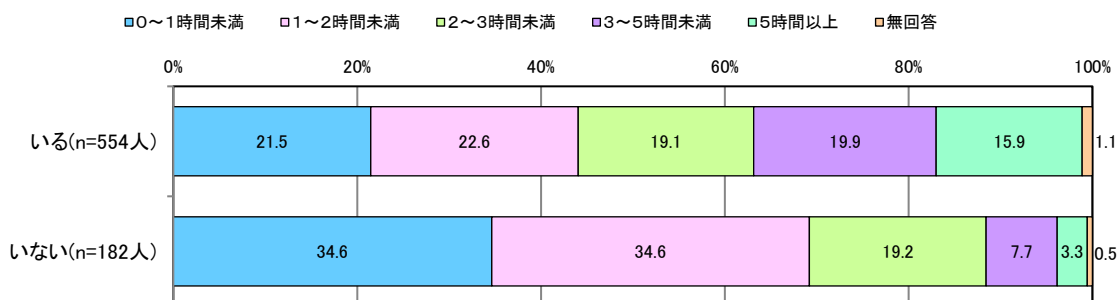


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「0～1時間未満」(23.5%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(23.3%)、「3～5時間未満」(19.0%)となっている。「結婚していない」では、「0～1時間未満」(40.7%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(34.3%)、「2～3時間未満」(13.9%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「1～2時間未満」(33.3%)が最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「2～3時間未満」(37.9%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(27.6%)、「3～5時間未満」(15.5%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「1～2時間未満」(22.6%)という回答が最も多く、次いで「0～1時間未満」(21.5%)、「3～5時間未満」(19.9%)、「2～3時間未満」(19.1%)となっている。「いない」では、「0～1時間未満」(34.6%)、「1～2時間未満」(34.6%)という回答が同率で最も多く、次いで、「2～3時間未満」(19.2%)となっている。

【配偶者の有無別】



【子の有無別】

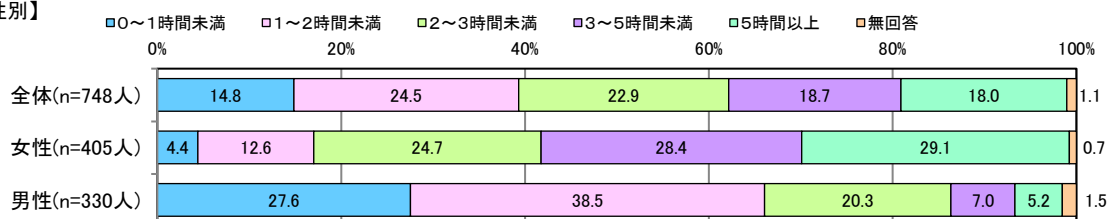


問 29 あなたの休日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。

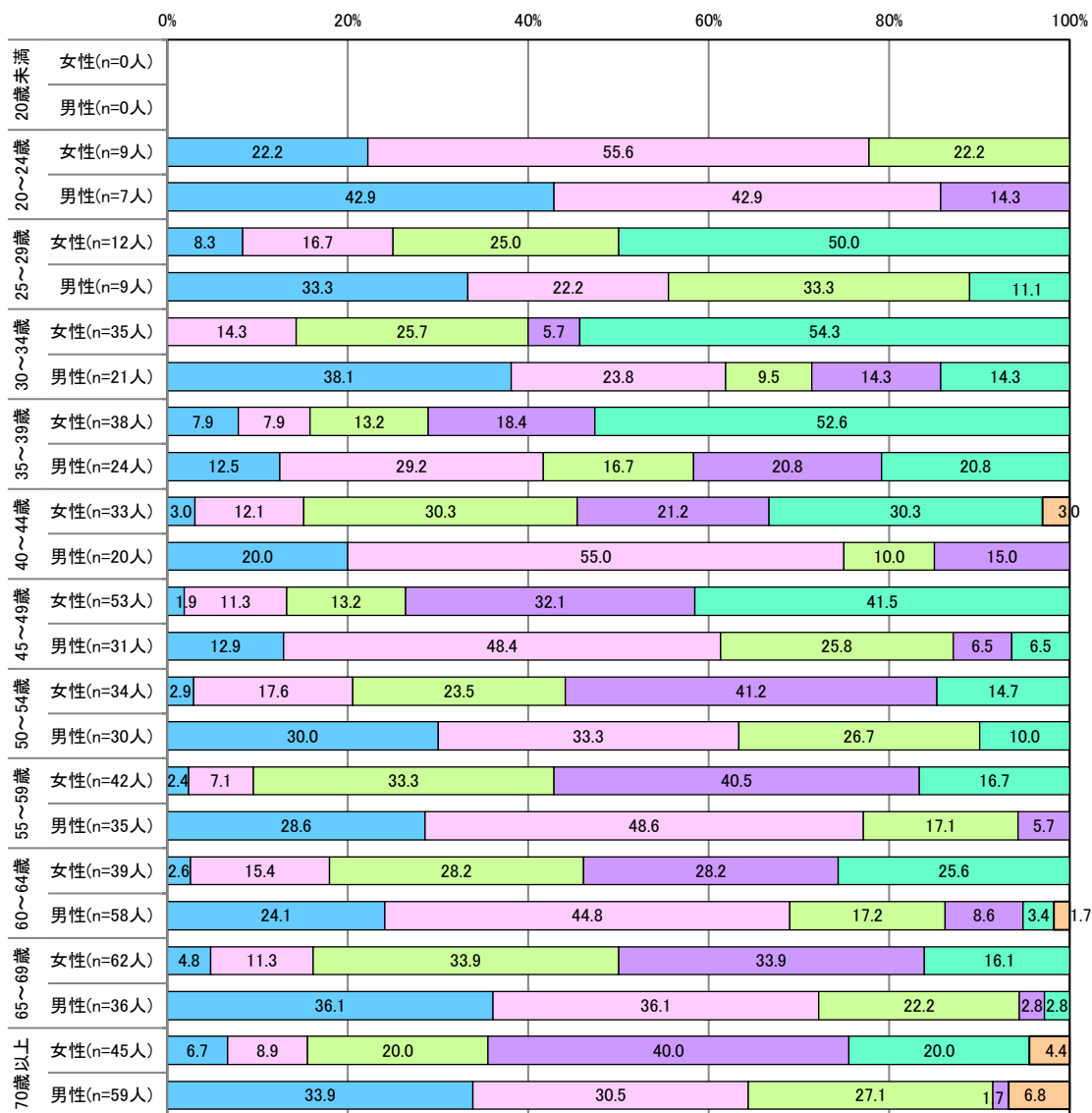
（〇は1つ）

- ・性別で見ると、男性は「1～2時間未満」（38.5%）という回答が最も多く、次に「0～1時間未満」（27.6%）となっている。女性は「5時間以上」（29.1%）で最も多く、次いで、「3～5時間未満」（28.4%）、「2～3時間未満」（24.7%）となっている。
- ・世代別性別で見ると、20歳～24歳の男性で、「0～1時間未満」という回答が4割を超えている。一方、25歳～49歳の女性で、「5時間以上」という回答が3割を超えている。

【性別】

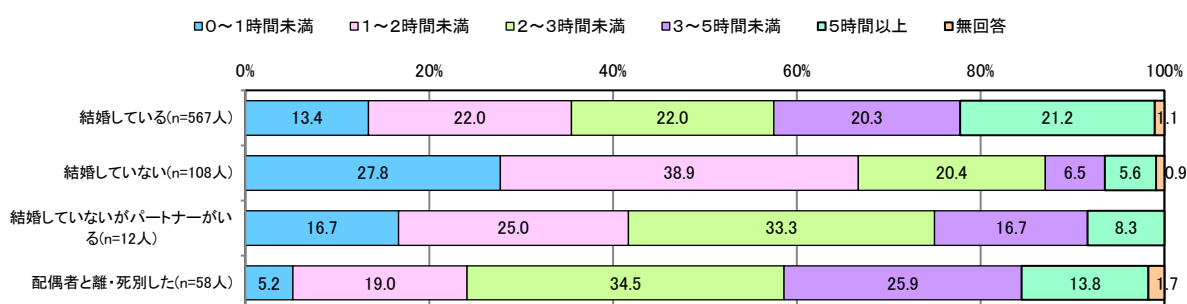


【世代別性別】

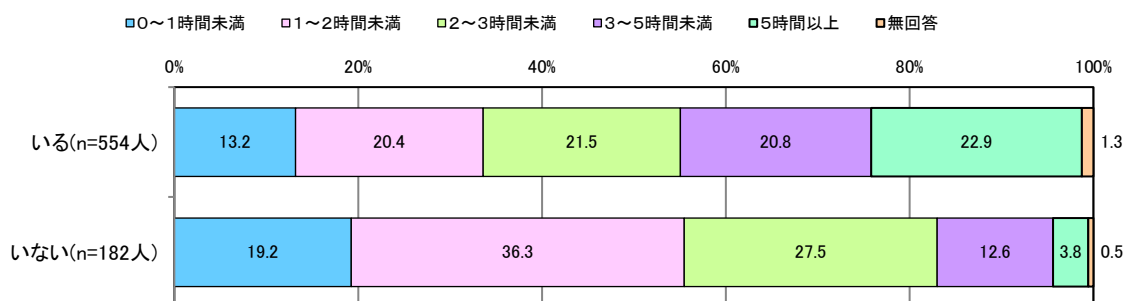


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「1～2時間未満」(22.0%)、「2～3時間未満」(22.0%)が同率で最も多く、次いで「5時間以上」(21.2%)となっている。「結婚していない」では、「1～2時間未満」(38.9%)という回答が最も多く、次いで「0～1時間未満」(27.8%)、「2～3時間未満」(20.4%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「2～3時間未満」(33.3%)という回答が最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「2～3時間未満」(34.5%)という回答が最も多く、次いで「3～5時間未満」(25.9%)、「1～2時間未満」(19.0%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「5時間以上」(22.9%)という回答が最も多く、次いで、「2～3時間未満」(21.5%)、「3～5時間未満」(20.8%)、「1～2時間未満」(20.4%)となっている。「いない」では、「1～2時間未満」(36.3%)という回答が最も多く、次いで、「2～3時間未満」(27.5%)、「0～1時間未満」(19.2%)となっている。

【配偶者の有無別】



【子の有無別】

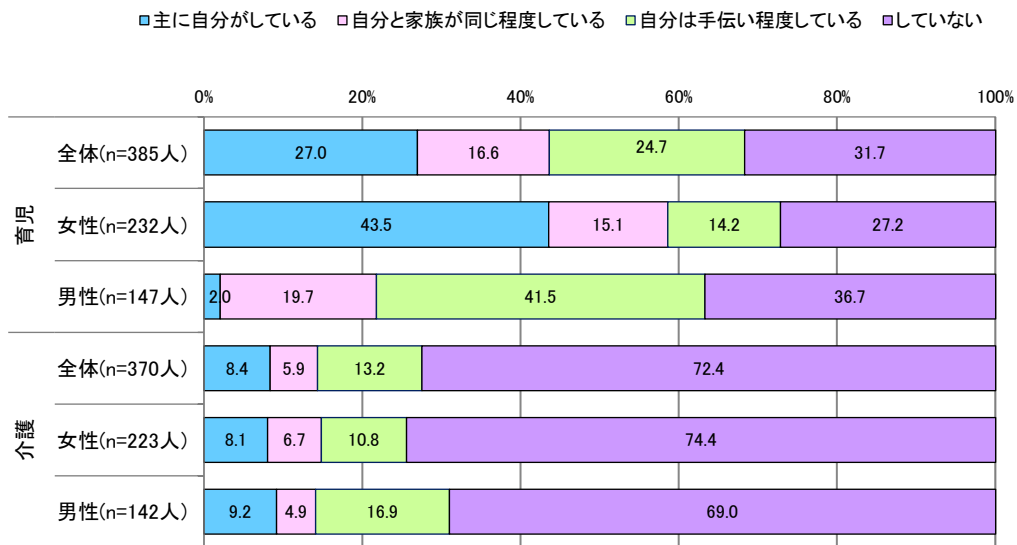


身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

問 30 あなたは育児または介護をどの程度していますか。（それぞれ〇は1つ）

- ・育児では、「主に自分がしている」という女性の回答が約4割（43.5%）で、男性の2.0%と比べ大きな差がある。
 - ・介護では、男女ともに、「していない」が約7割と最も多くなっている。次いで、「自分は手伝い程度している」、「自分が主にしている」、「自分と家族が同じ程度している」となっている。
- （※無回答は、育児、介護の必要な家族がいない方として集計している）。

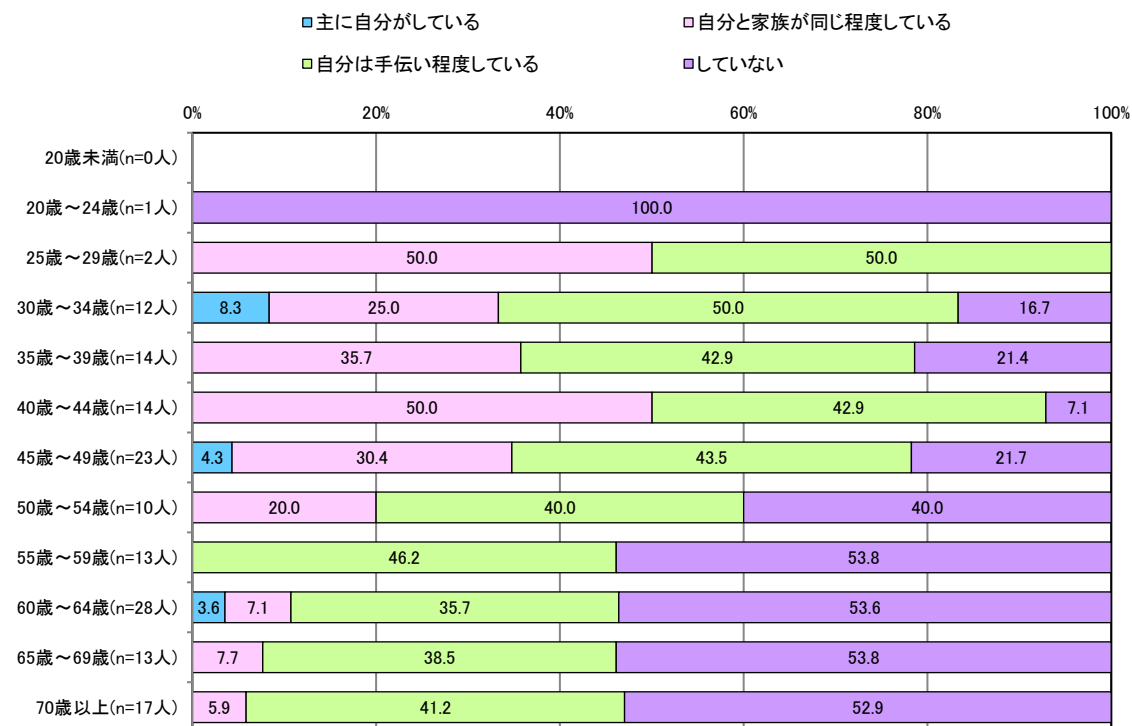
【全分野】



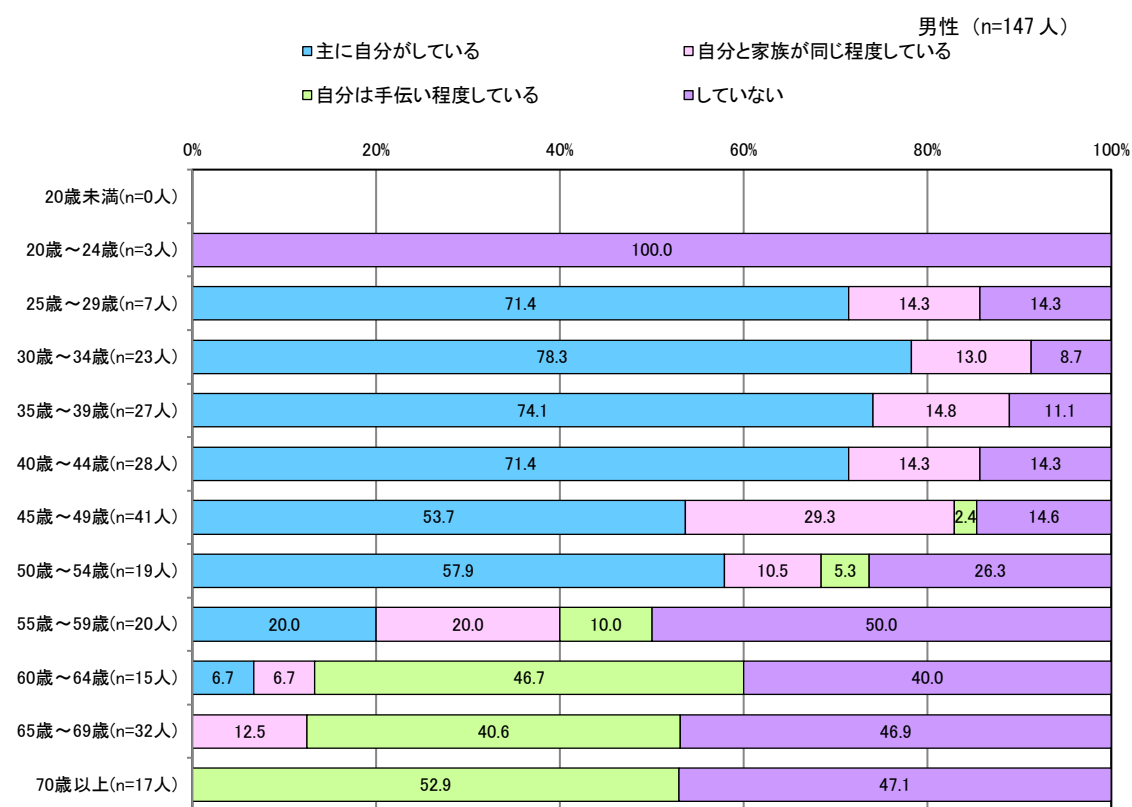
1 育児（お孫さんを含む）

- ・男性では「自分と家族が同じ程度している」という回答割合が、25歳～29歳、40歳～44歳で5割を超えている。
- ・一方、女性では25歳～44歳で、「主に自分がしている」という回答割合が7割を超えている。

【男性世代別】

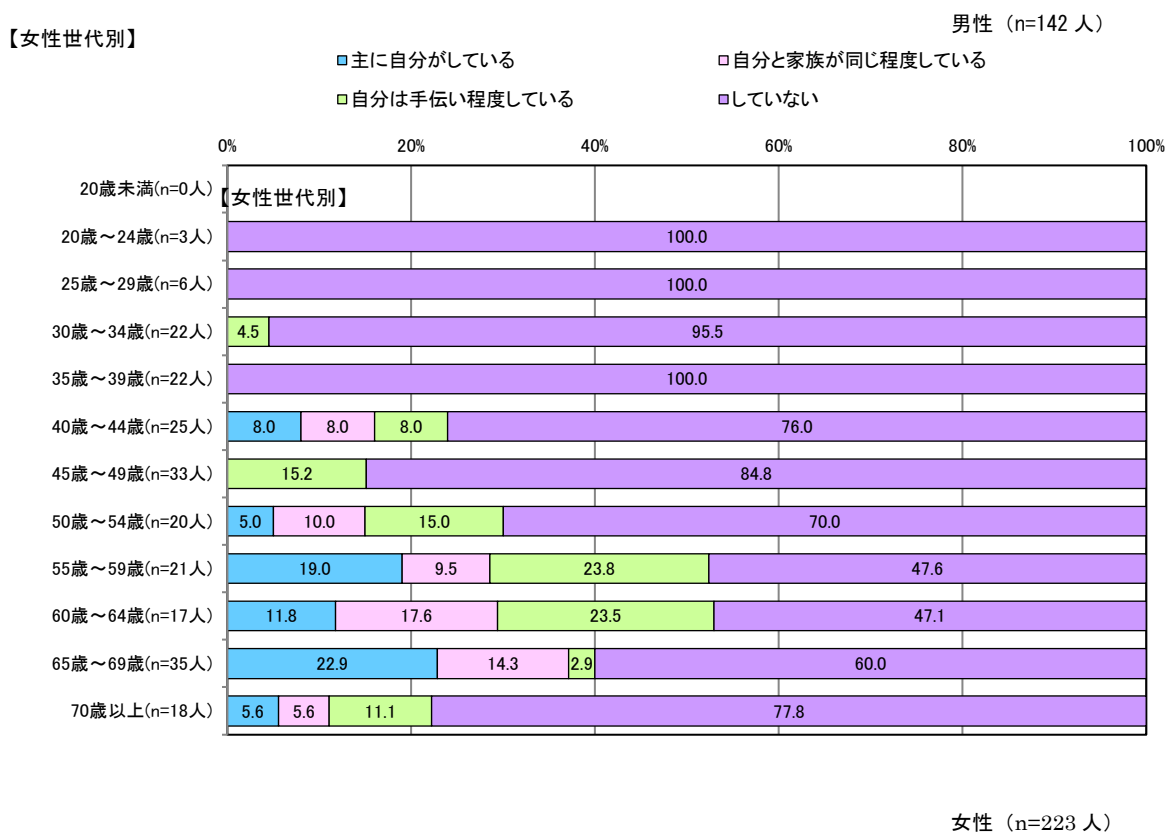
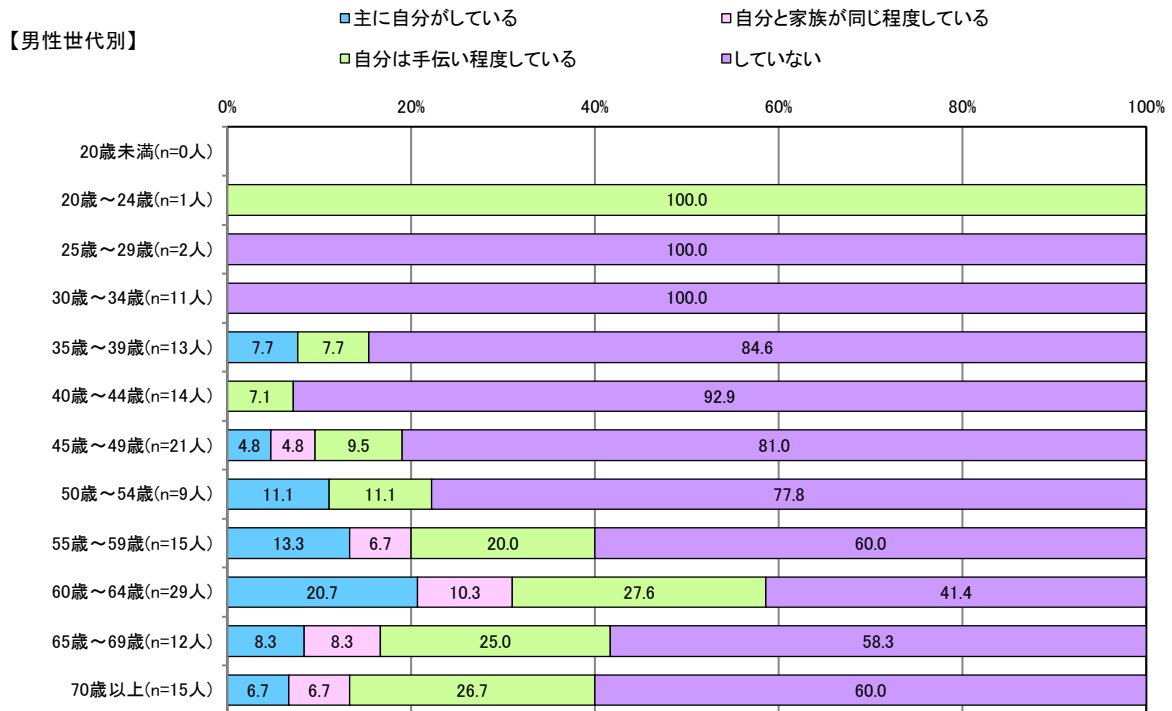


【女性世代別】



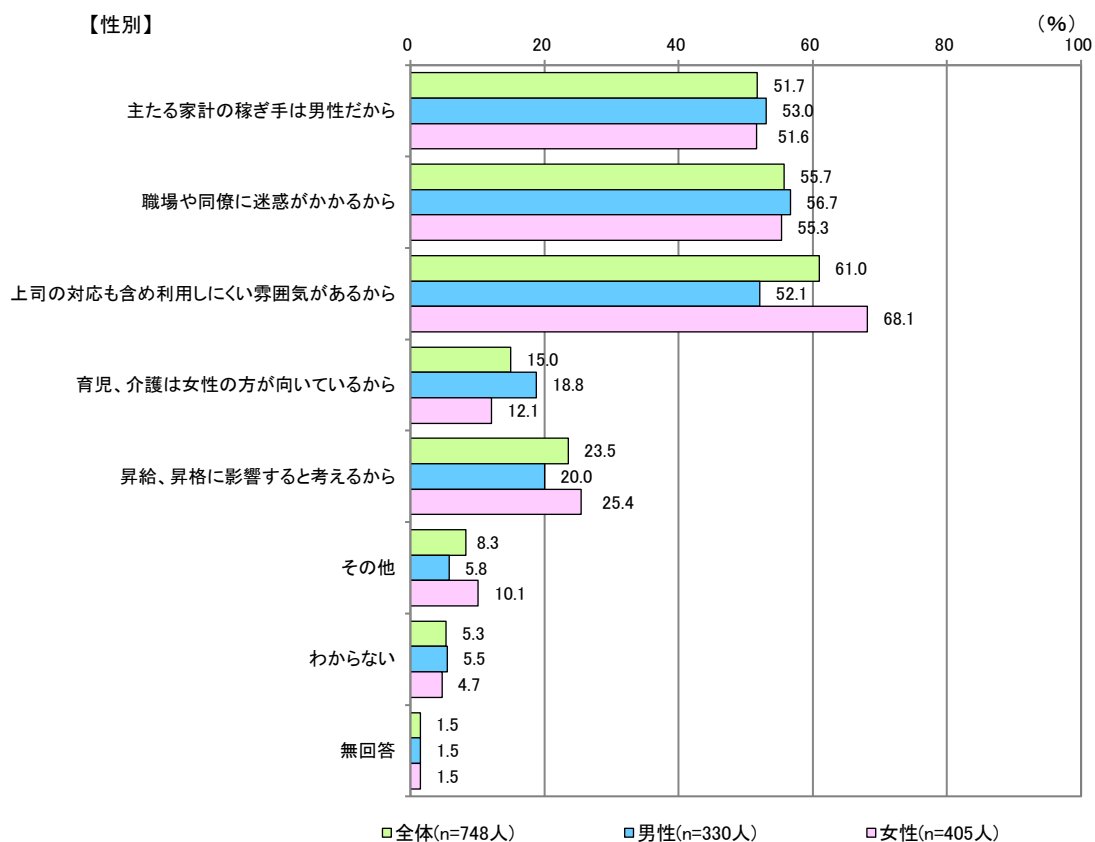
2 介護

- ・性別でみると、男性では、20歳～24歳を除き、35歳以上で介護に関わっている。
- ・女性では、30歳～34歳、40歳以上で介護に関わっている。特に、55歳～64歳で介護に関わる人の割合が5割以上となっている。
- ・「主に自分がしている」という回答は、55歳～59歳の女性、65歳～69歳の女性で約2割となっている。



問 31 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。（〇は3つまで）

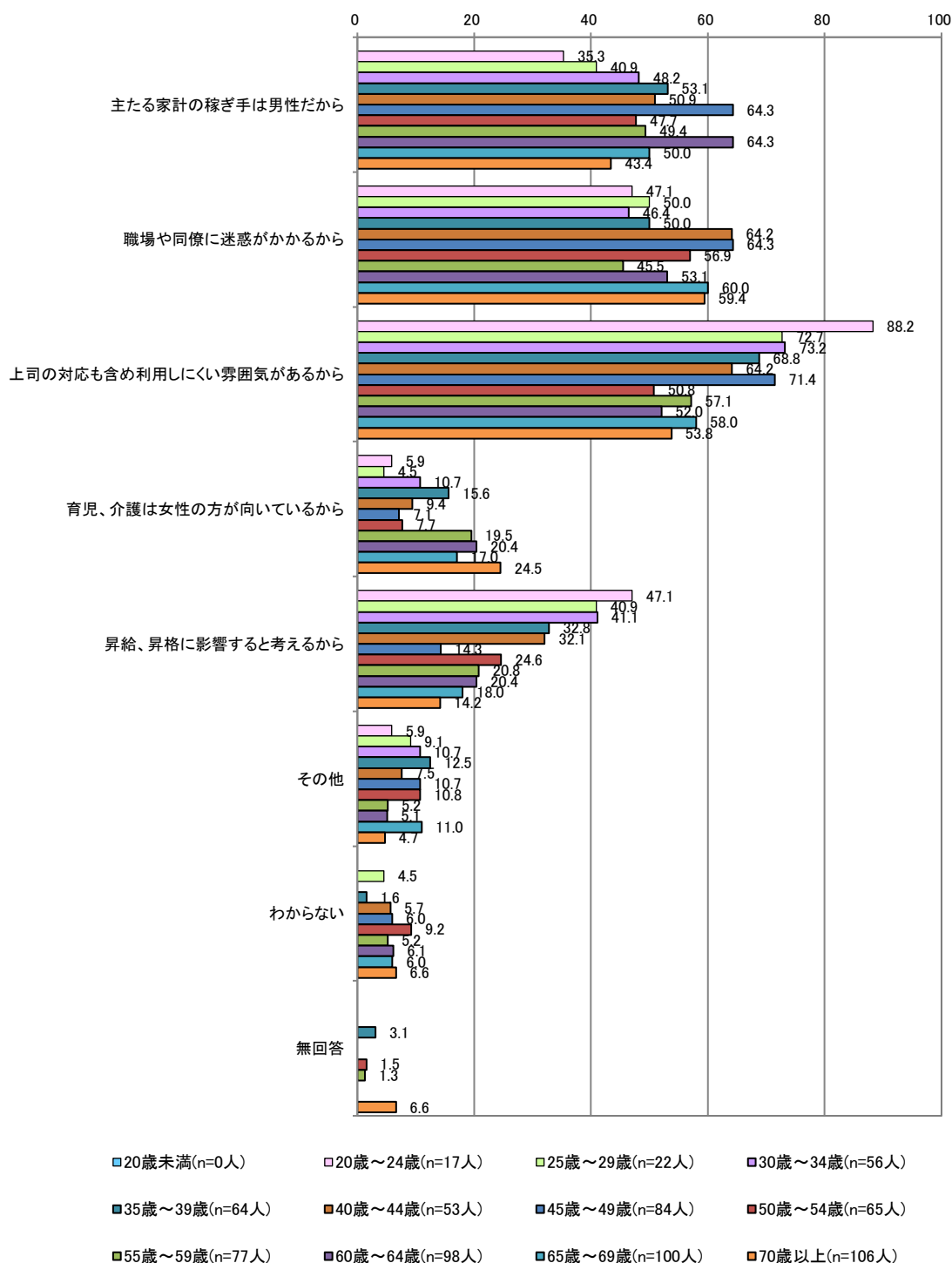
- ・全体でみると、最も回答が多いのは、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」（61.0％）で、約6割となっている。次いで、「職場や同僚に迷惑がかかるから」（55.7％）、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」（51.7％）となっている。
- ・性別でみると、男性では「職場や同僚に迷惑がかかるから」（56.7％）、次いで「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」（53.0％）「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」（52.1％）となっている。
- ・女性では、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」（68.1％）が最も多くなっている。次いで、「職場や同僚に迷惑がかかるから」（55.3％）、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」（51.6％）となっている。



- ・年代別でみると、60歳～64歳で、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」が最も多くなっている。40歳～44歳、50歳～54歳、65歳以上で、「職場や同僚に迷惑がかかるから」が、24歳～49歳、55歳～59歳で「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」が最も多くなっている。
- ・子の有無別でみると、いずれも、同様の傾向を示している。

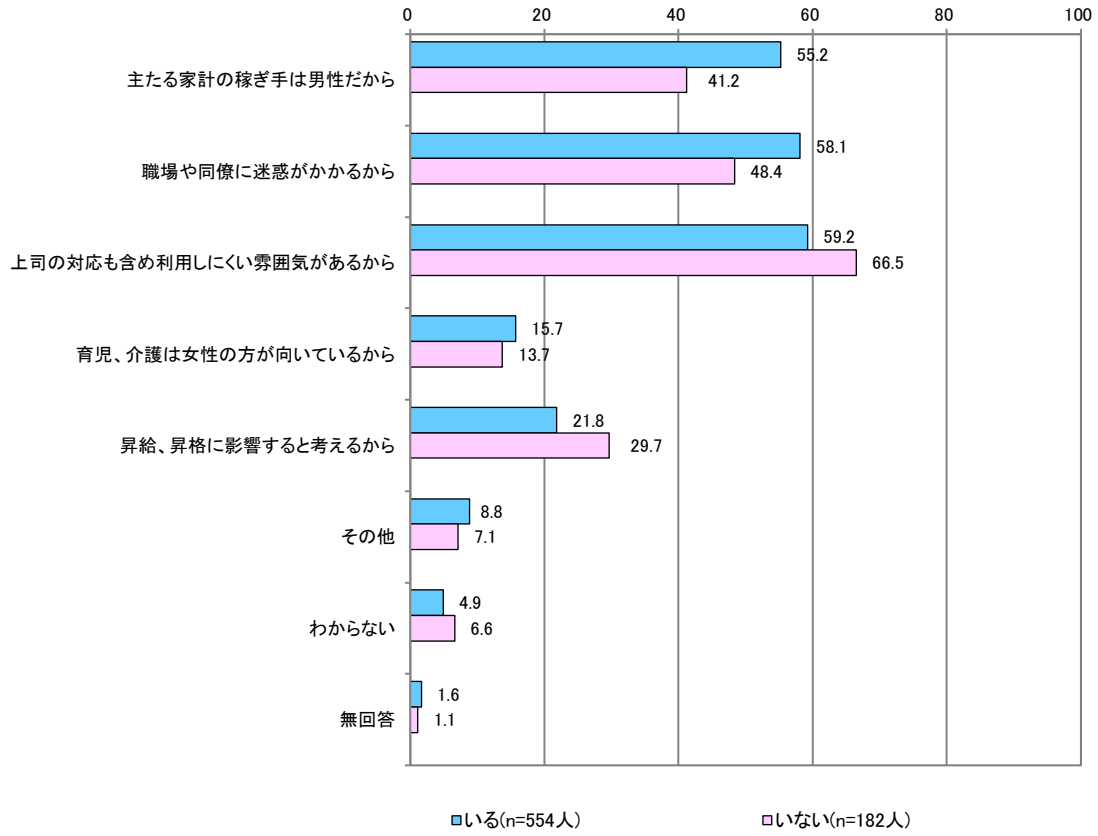
【年代別】

(%)



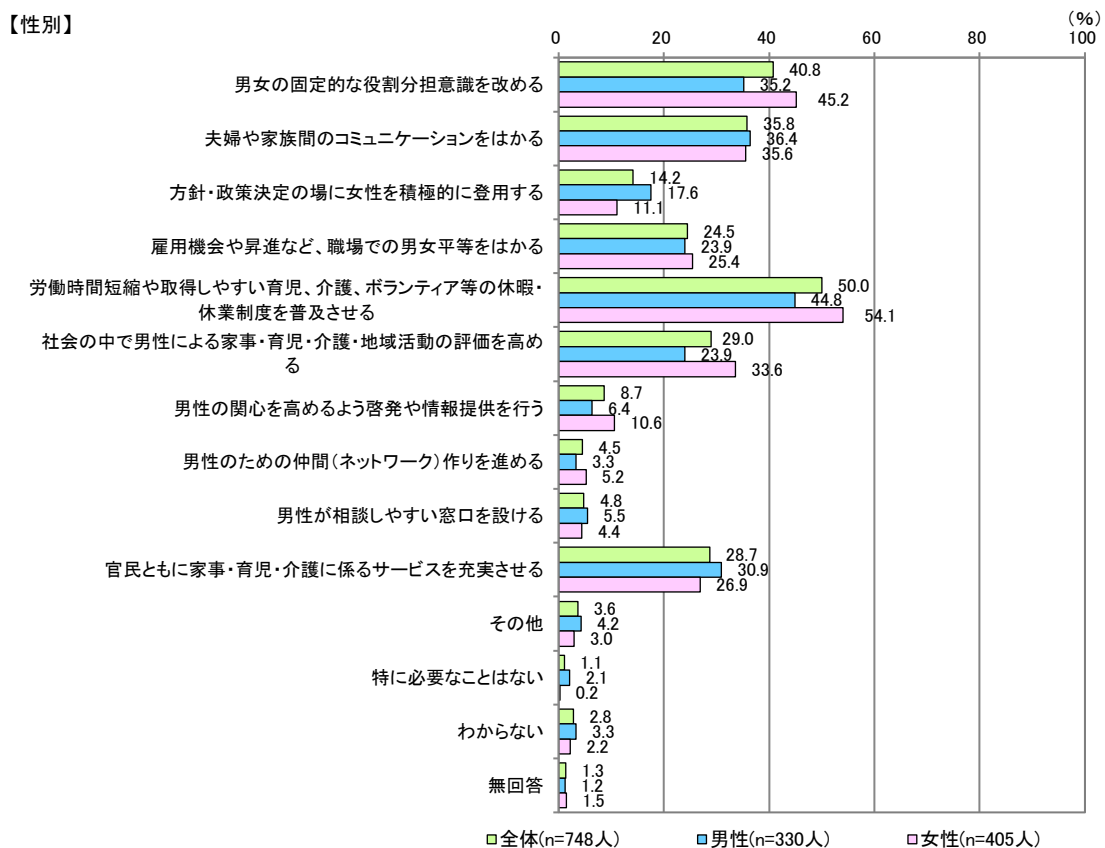
【子の有無別】

(%)



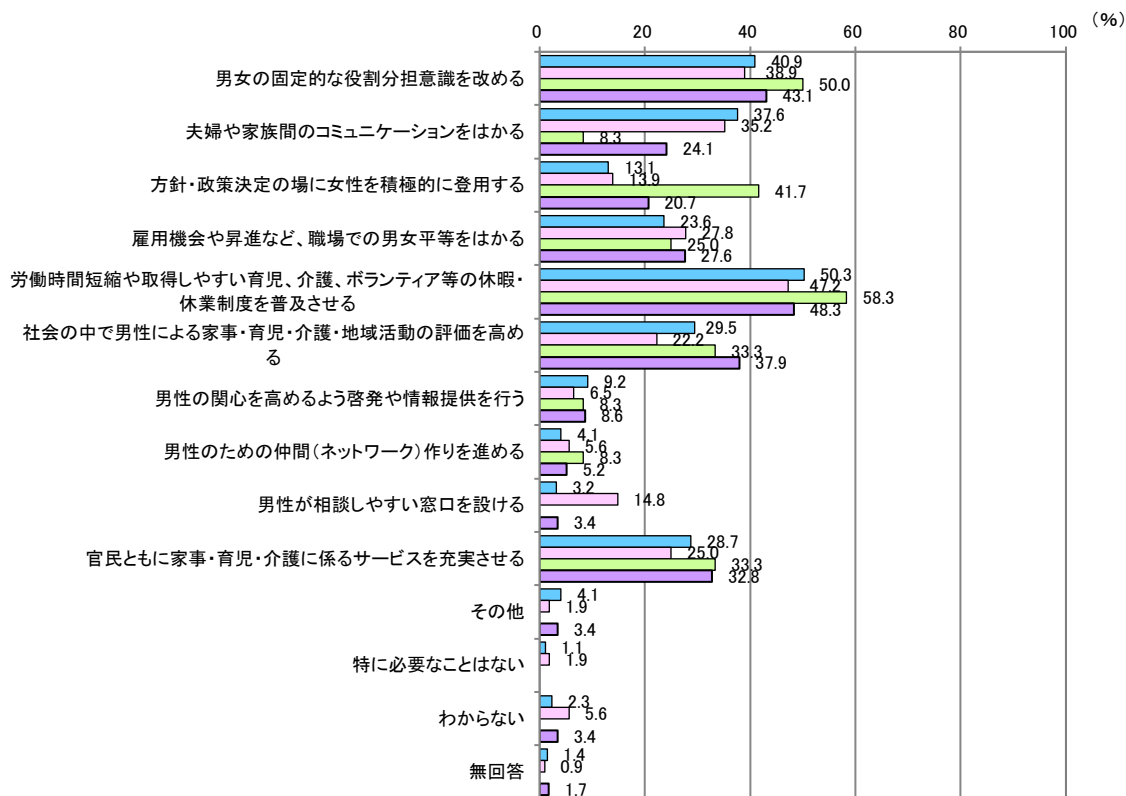
問 32 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。（〇は3つまで）

- ・全体では、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(50.0%)が最も多く、5割となっている。次に、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(40.8%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(35.8%)、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」(29.0%)と「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(28.7%)と続いている。
- ・性別でみると、男女とも、上位5項目の順位は同じ傾向となっている。「男女の固定的な役割分担意識を改める」については、男性は35.2%、女性は45.2%と、女性が男性よりもやや高い回答割合となっている。



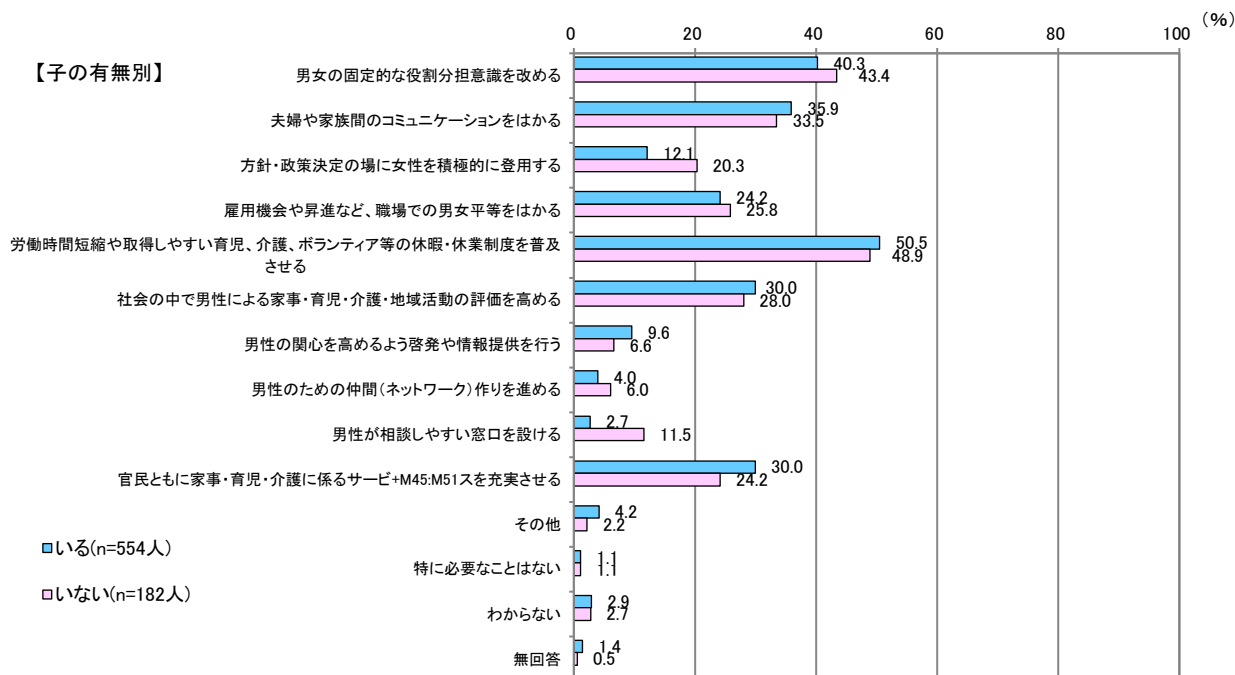
- ・配偶者の有無別でみると、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」という回答が、いずれも最も多くなっている。「男女の固定的な役割分担意識を改める」という回答が、「結婚していないがパートナーがいる」では5割となっている。
- ・子の有無別でみると、いずれも上位3項目は同じ傾向にある。

【配偶者の有無別】



■結婚している(n=567人) □結婚していない(n=108人) □結婚していないがパートナーがいる(n=12人) □配偶者と離・死別した(n=58人)

【子の有無別】

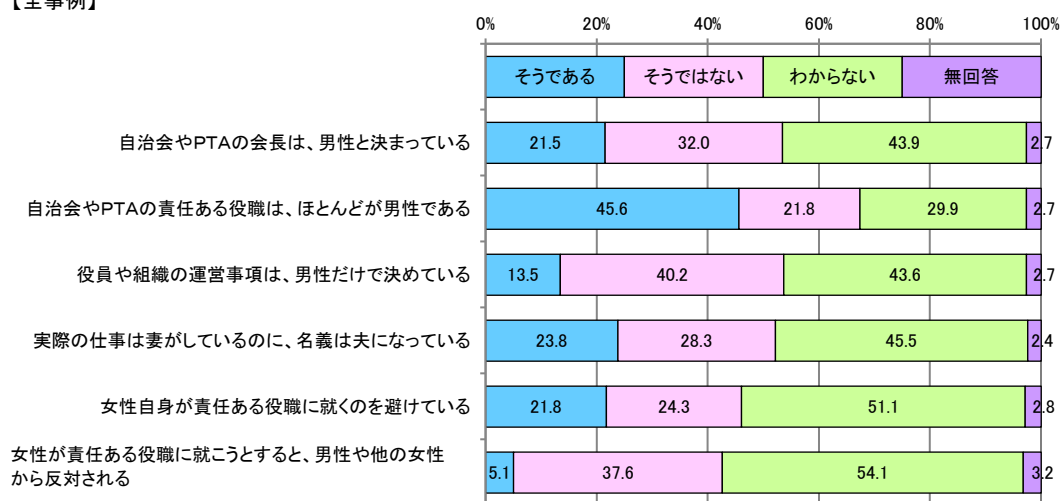


地域社会に関することについて

問 33 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において、次のような事例が見受けられますか。（それぞれ○は1つ）

- ・「そうである」という回答でみると、「自治会やPTAの責任ある役職は、ほとんどが男性である」が最も多く、約5割（45.6%）となっている。次いで「実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている」（23.8%）、「女性自身が責任ある役職に就くのを避けている」（21.8%）と続いている。
- ・一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は、男性だけで決めている」（40.2%）が最も多く、約4割となっている。次いで、「女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される」（37.6%）、「自治会やPTAの会長は、男性と決まっている」（32.0%）と続いている。

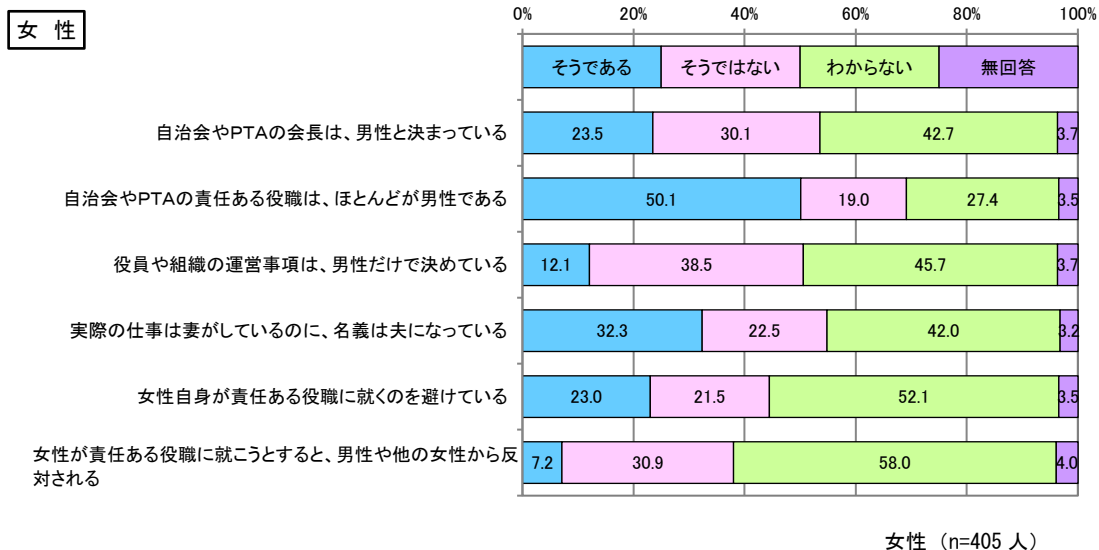
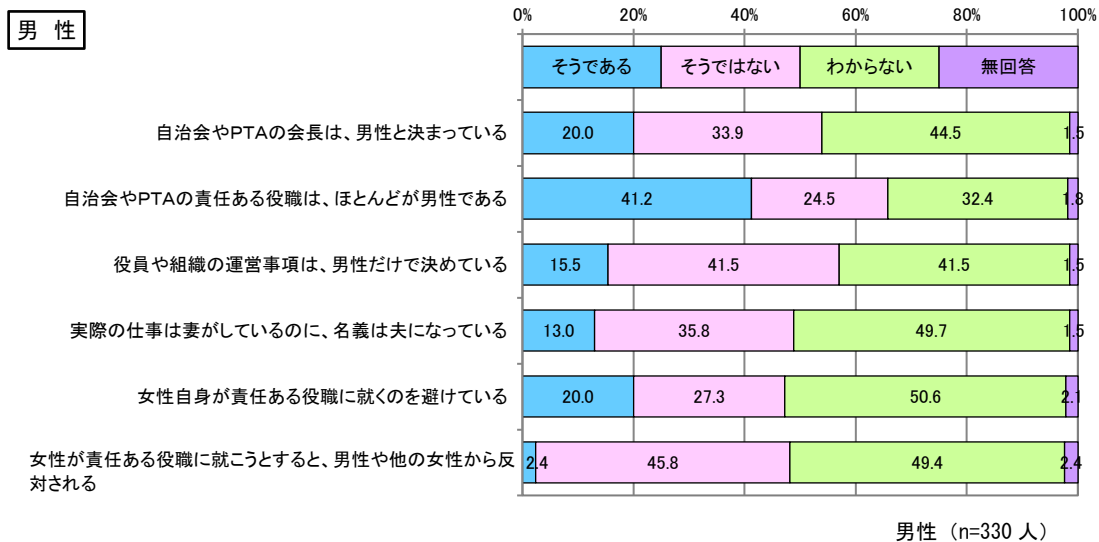
【全事例】



全体 (n=748 人)

- 性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっているものの、「そうである」という回答でみると、「実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている」では、女性の回答割合 32.3%が男性の 13.0%よりもやや高い。また、「自治会やPTAの責任ある役職は、ほとんどが男性である」でも、女性の回答割合 50.1%が男性の 41.2%とよりもやや高くなっている。

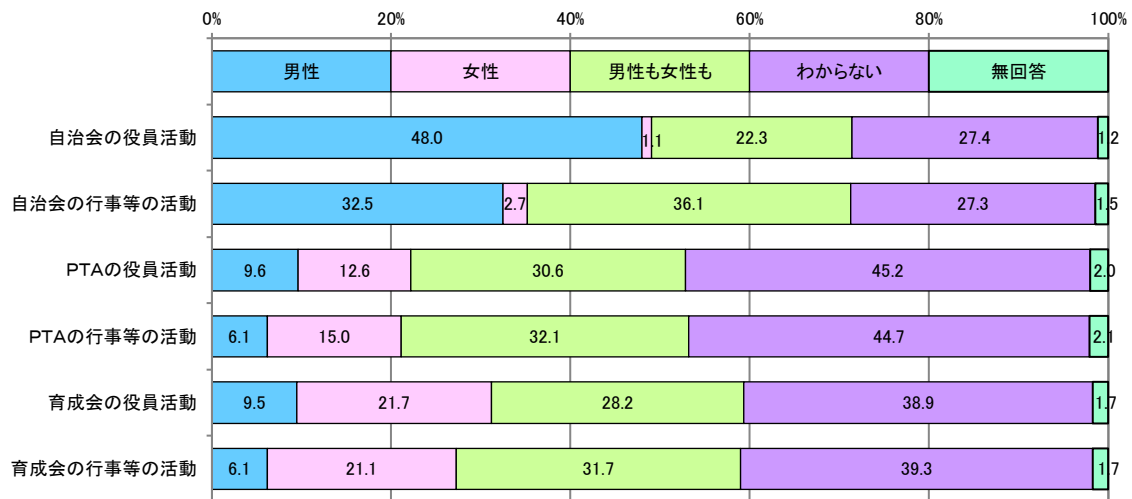
【性別】



問 34 あなたが住んでいる地域では、次の 1 から 6 の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。（それぞれ〇は 1 つ）

- ・「男性」という回答でみると、「自治会の役員活動」が最も多く、約 5 割（48.0%）となっている。次に、「自治会の行事等の活動」（32.5%）、「PTA の役員活動」（9.6%）と続いている。
- ・一方、「女性」という回答は、「育成会の役員活動」（21.7%）が最も多く、約 2 割となっている。次いで「育成会の行事等の活動」（21.1%）、「PTA の行事等の活動」（15.0%）と続いている。
- ・「男性も女性も」という回答でみると、「自治会の行事等の活動」（36.1%）が最も多く、約 4 割となっている。次に「PTA の行事等の活動」（32.1%）、「育成会の行事等の活動」（31.7%）「PTA の役員活動」（30.6%）、と続いている。

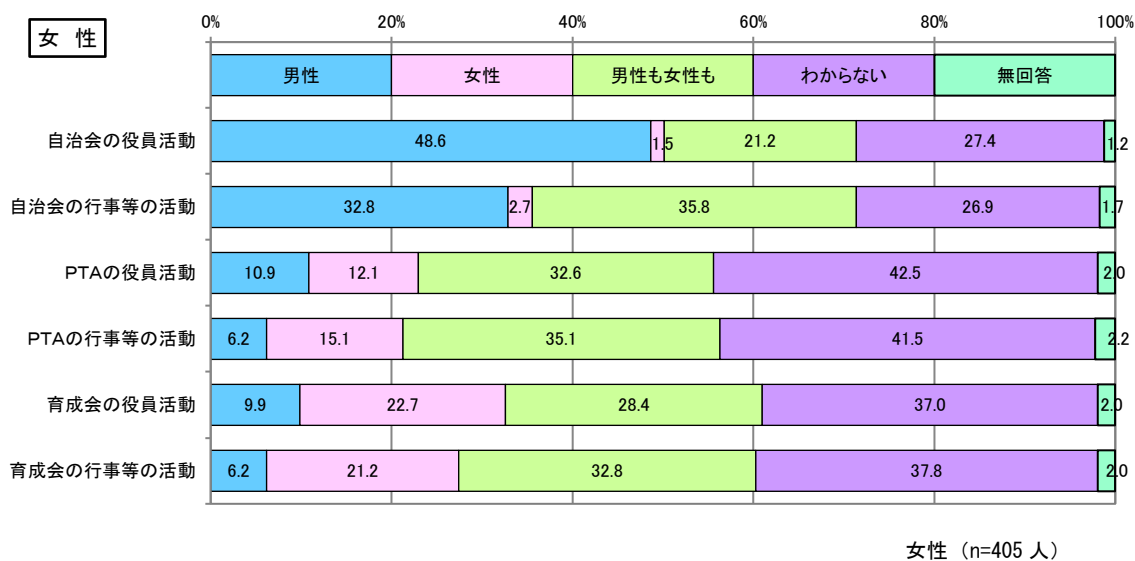
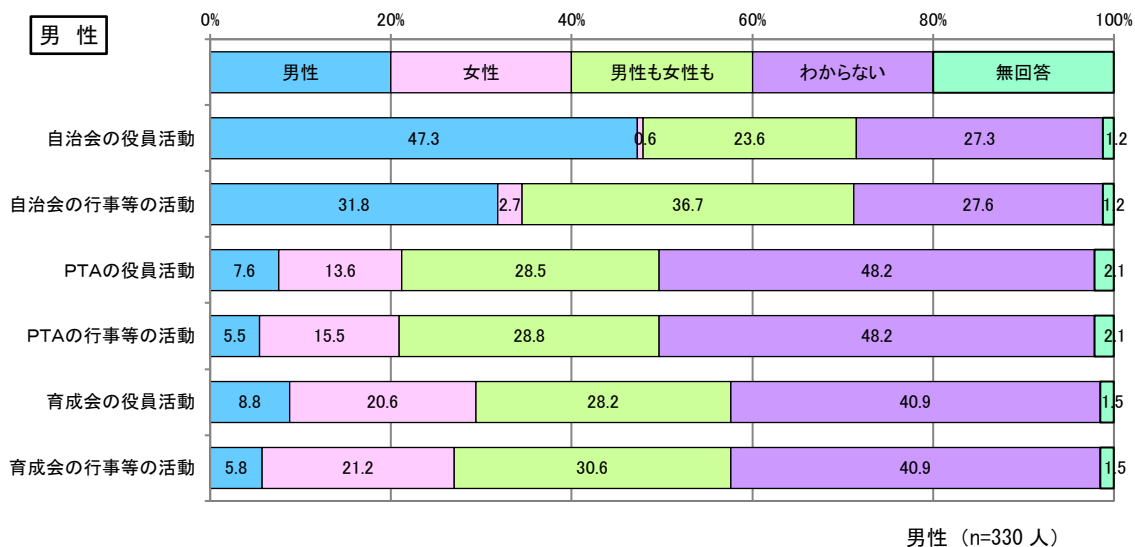
【全事例】



全体 (n=748 人)

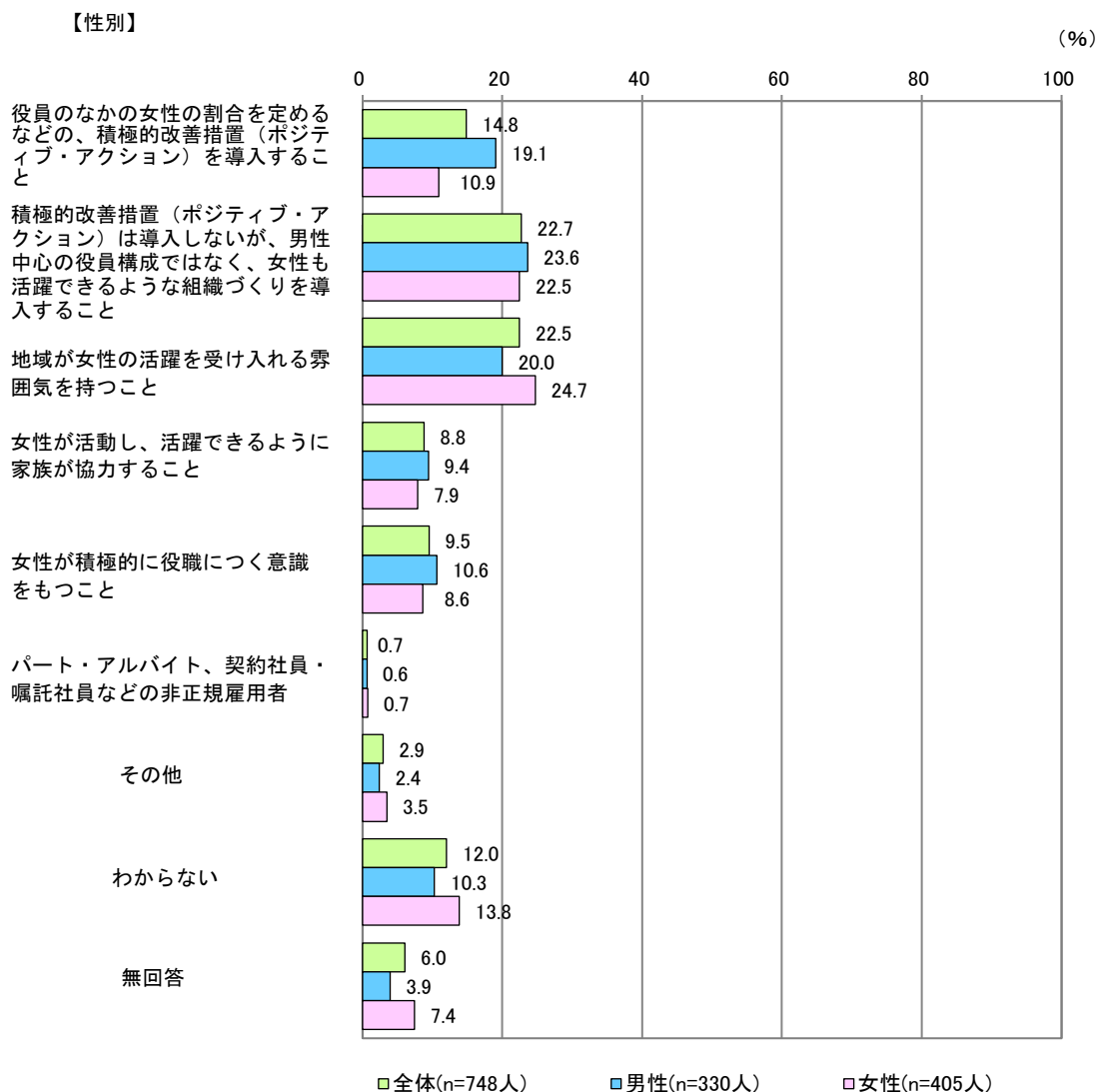
- ・性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっており、男女による大きな差異はみられない。

【性別】



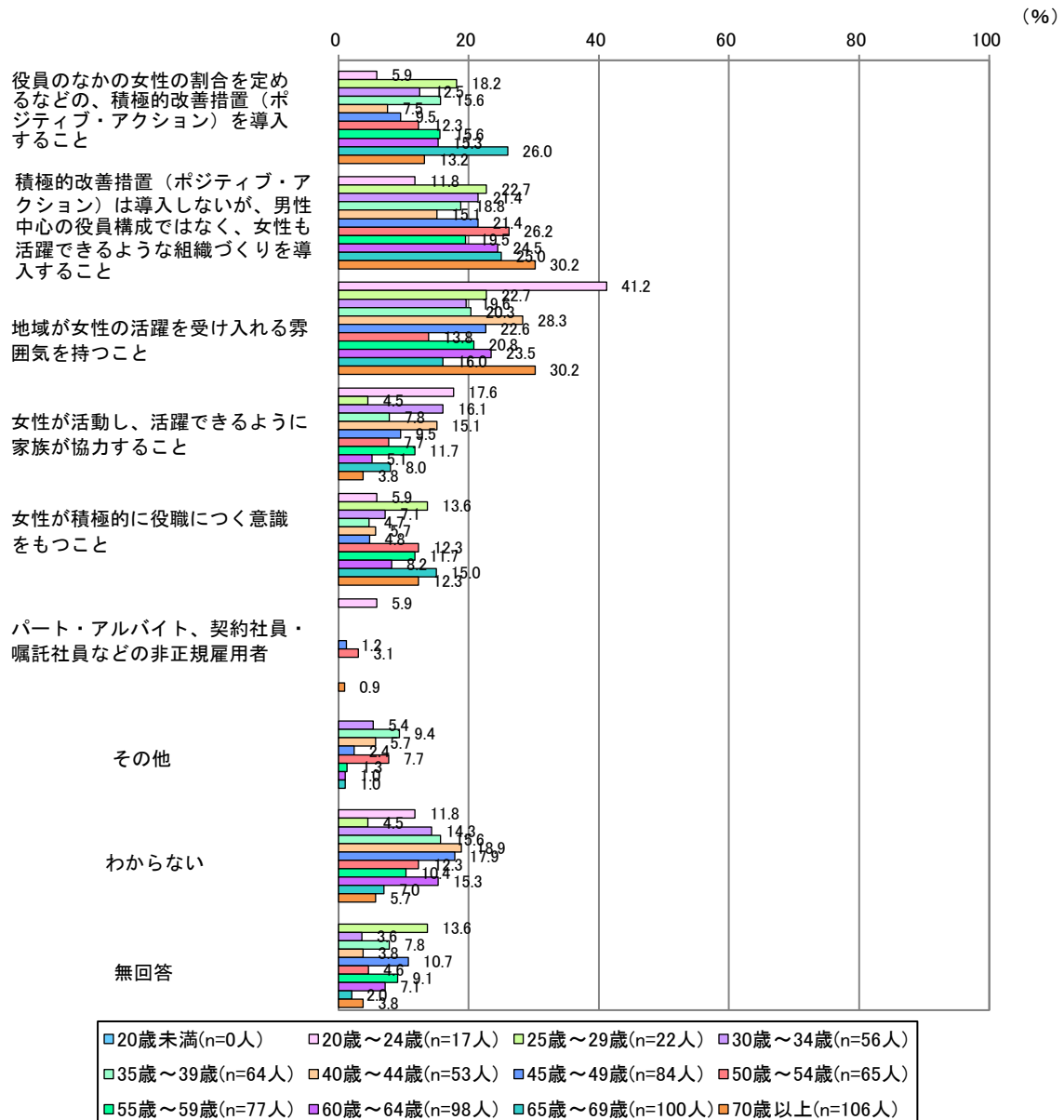
問 35 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能になるとお考えですか。（○は1つ）

- ・全体でみると、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」（22.7%）が最も多くなっている。次に、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」（22.5%）、「役員の中での女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（14.8%）と続いている。
- ・性別でみると、男性は、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」（23.6%）が最も多くなっている。次いで、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」（20.0%）、「役員の中での女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（19.1%）となっている。一方、女性では、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」（24.7%）が最も多く、次いで、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」（22.5%）が続いている。



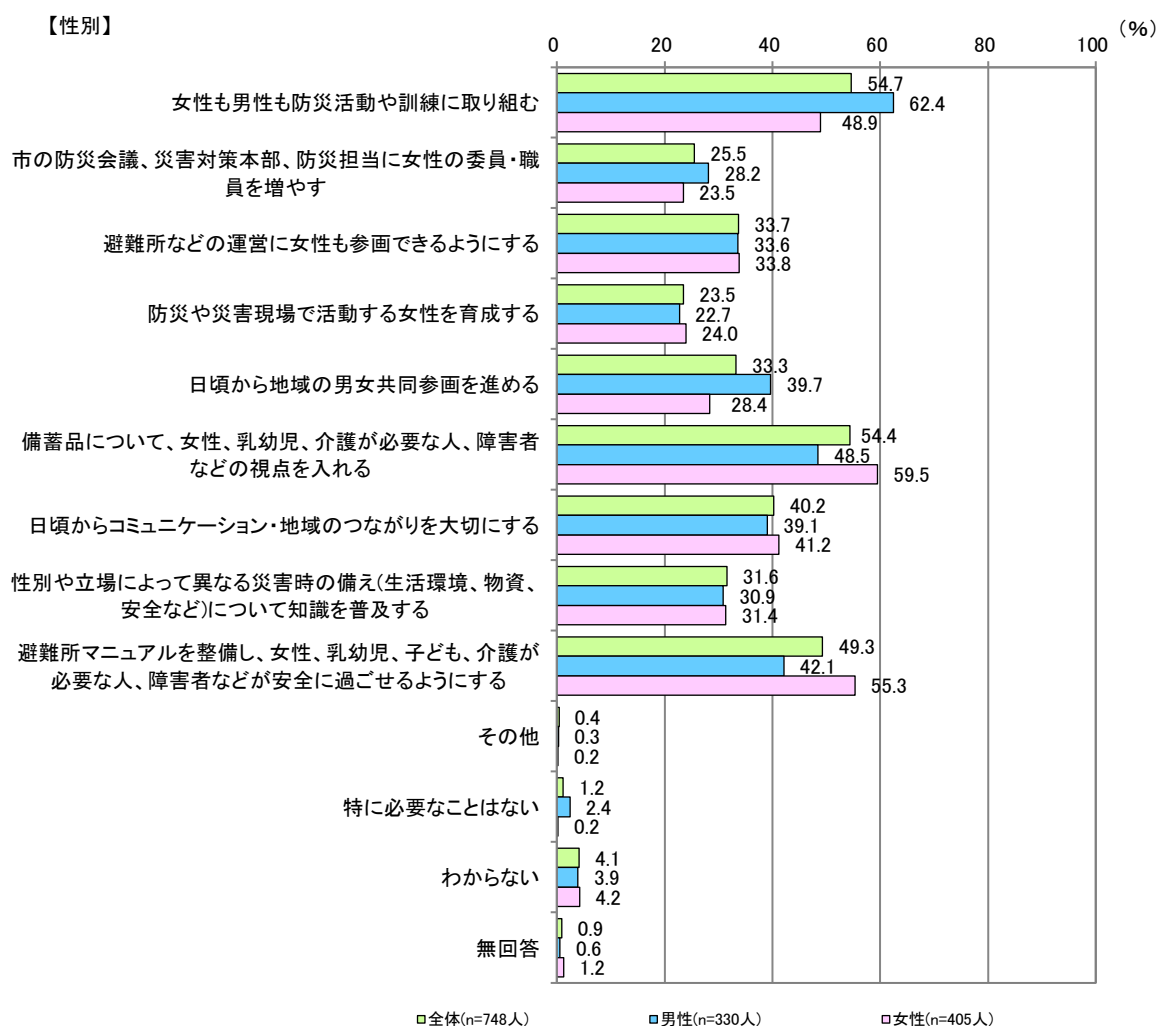
- ・年代別でみると 20 歳～29 歳、35 歳～49 歳、55 歳～59 歳、70 歳以上では、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」が最も多くなっている。また、65 歳～69 歳では、「役員の中の女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」が最も多く、他の年代では、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が多くなっている。

【年代別】



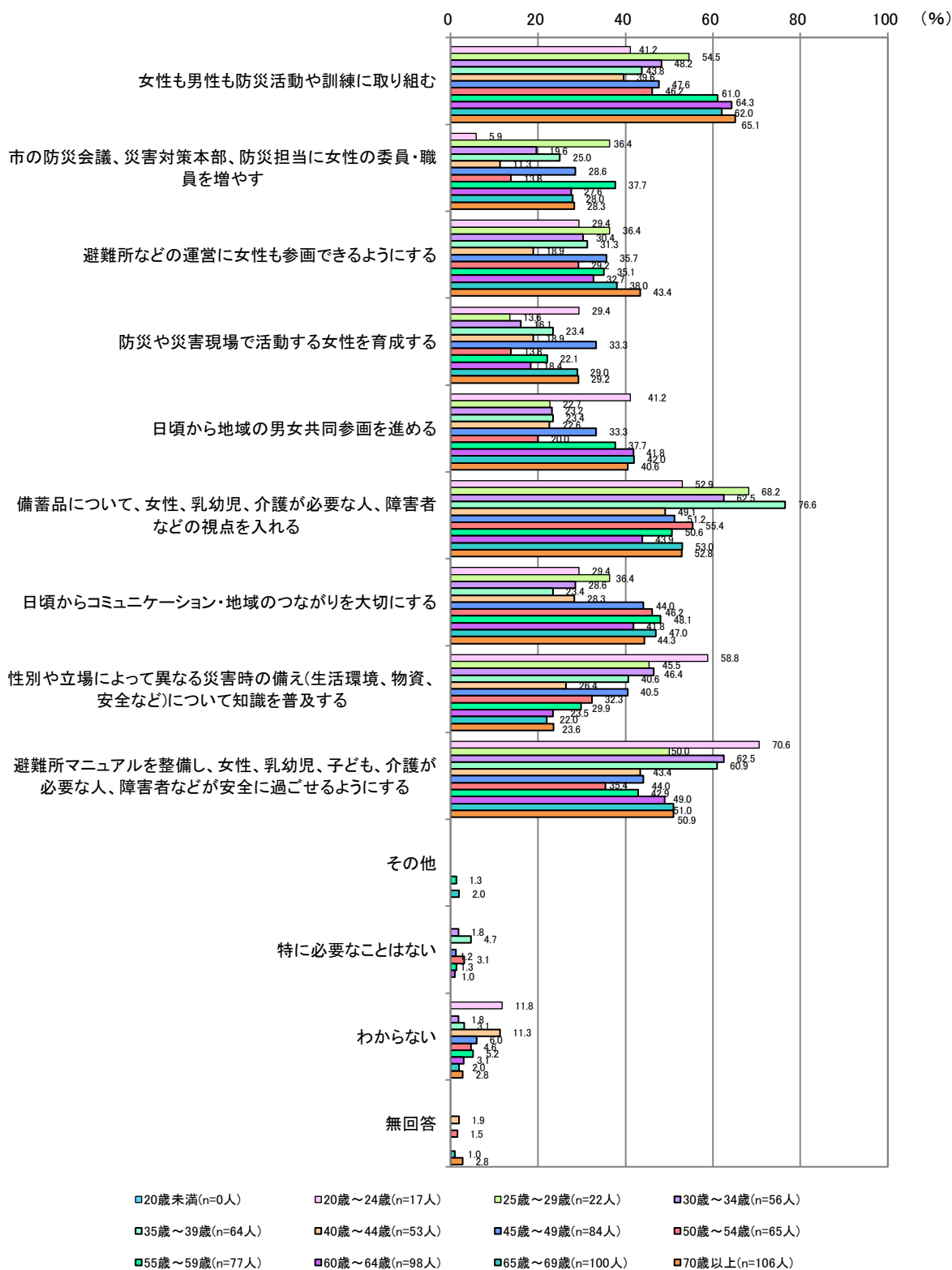
問 36 平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点が必要です。災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思えますか。(〇はいくつでも)

- ・全体でみると、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」(54.7%)、が約 5 割と最も多くなっている。次に、「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を入れる」(54.4%)、「避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障害者などが安全に過ごせるようにする」(49.3%)と続いている。
- ・性別でみると、女性は、「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を入れる」(59.5%) が最も多くなっている。一方、男性は、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」(62.4%) が最も多くなっている。



- ・年代別で見ると、55歳以上で「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」が最も多くなっている。20歳～24歳、30歳～34歳では、「避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障害者などが安全に過ごせるようにする」が最も多くなっている。その他世代は、「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を入れる」が最も多くなっている。

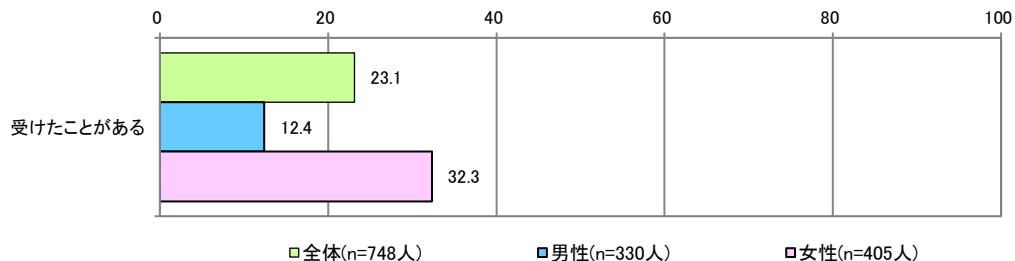
【年代別】



男女の人権に関することについて

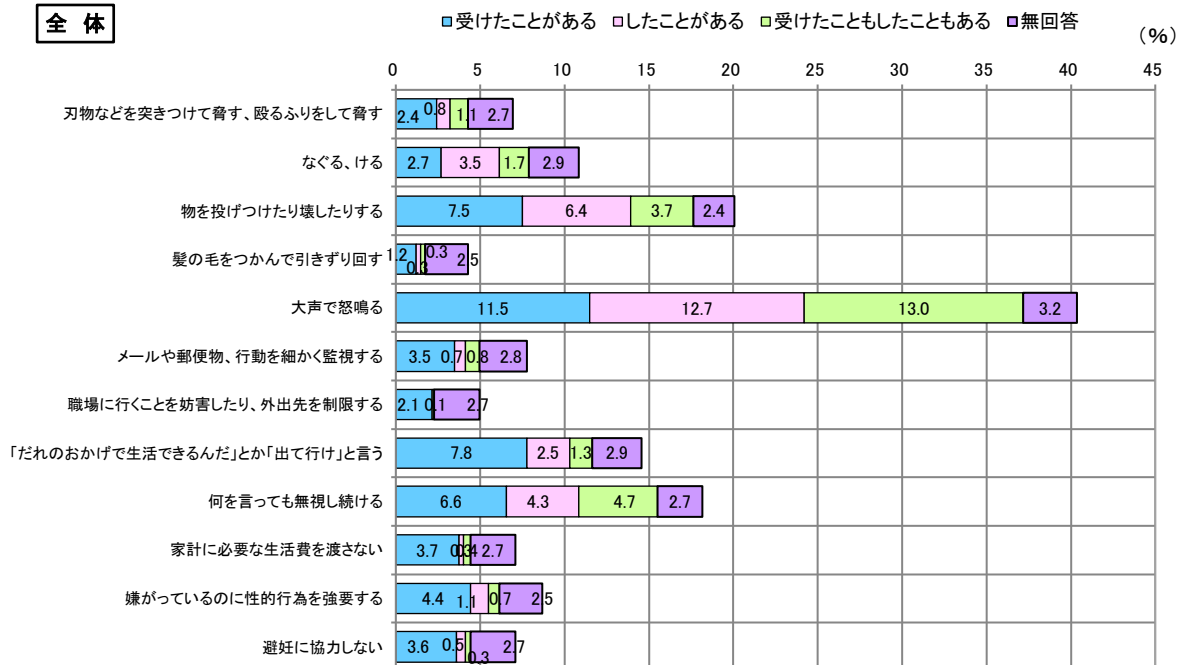
問 37 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。
あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。（それぞれ○は1つ）

- ・いずれかを「受けたことがある」という回答は、全体では23.1%となっている。
- ・性別でみると、男性では12.4%、女性では32.3%となっている。



- ・具体的な内容としては、全体でみると、「受けたことがある」という回答では、「大声で怒鳴る」(11.5%)が最も多くなっており、次いで『だれのおかげで生活できるんだ』とか『出て行け』と言う(7.8%)、「物を投げつけたり壊したりする」(7.5%)と続いている。「受けたことがある」という回答では、「大声で怒鳴る」(12.7%)が最も多くなっており、次いで、「物を投げつけたり壊したりする」(6.4%)「何を言っても無視し続ける」(4.3%)と続いている。「受けたこともしたこともある」という回答では、「大声で怒鳴る」(13.0%)が最も多くなっており、次いで「何を言っても無視し続ける」(4.7%)、「物を投げつけたり壊したりする」(3.7%)と続いている。

全体

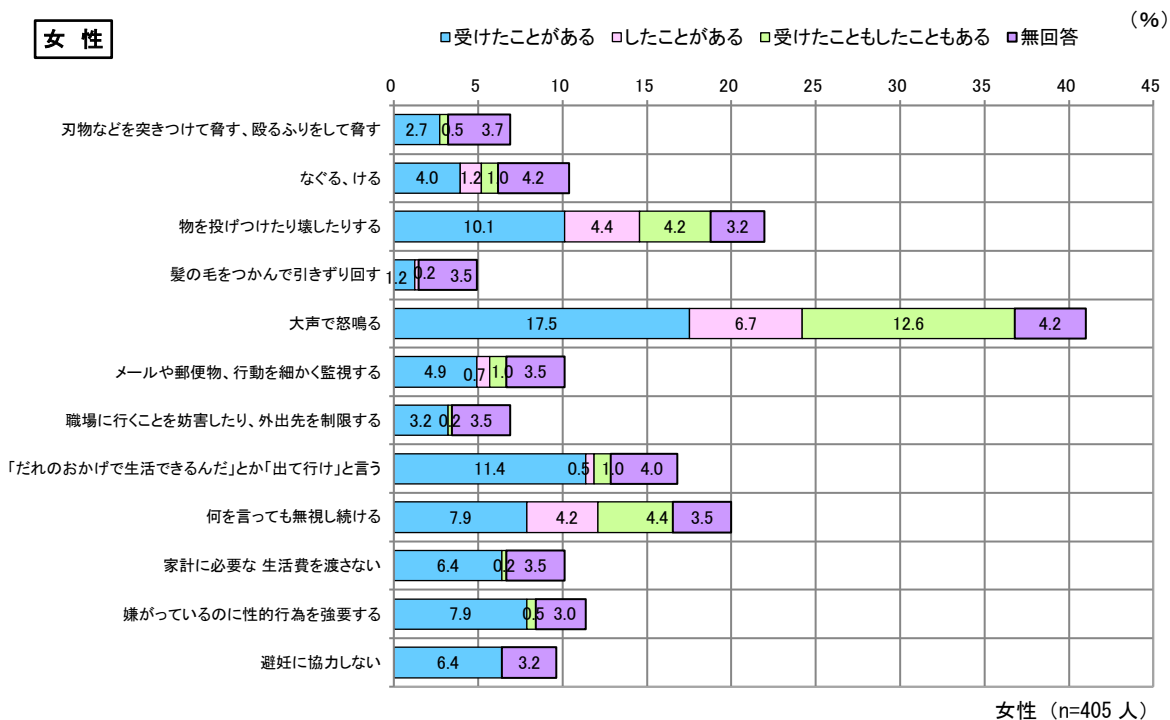
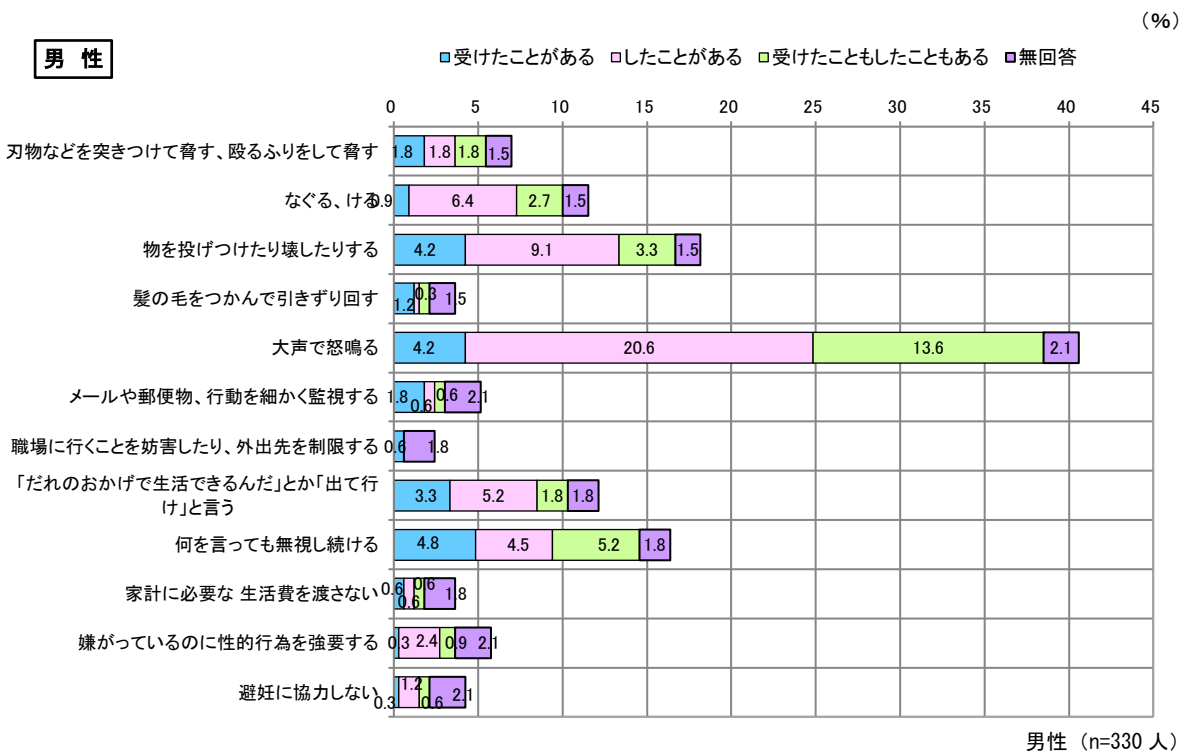


全体 (n=748人)

※残りの回答は「受けたこともしたこともない」

- ・性別でみると、男性は、「受けたこともしたこともない」という回答がほとんどの項目で大多数となっている。
- ・「受けたことがある」という回答については女性が多く、反対に「したことがある」という回答については、男性の回答が多くなっている。

【性別】

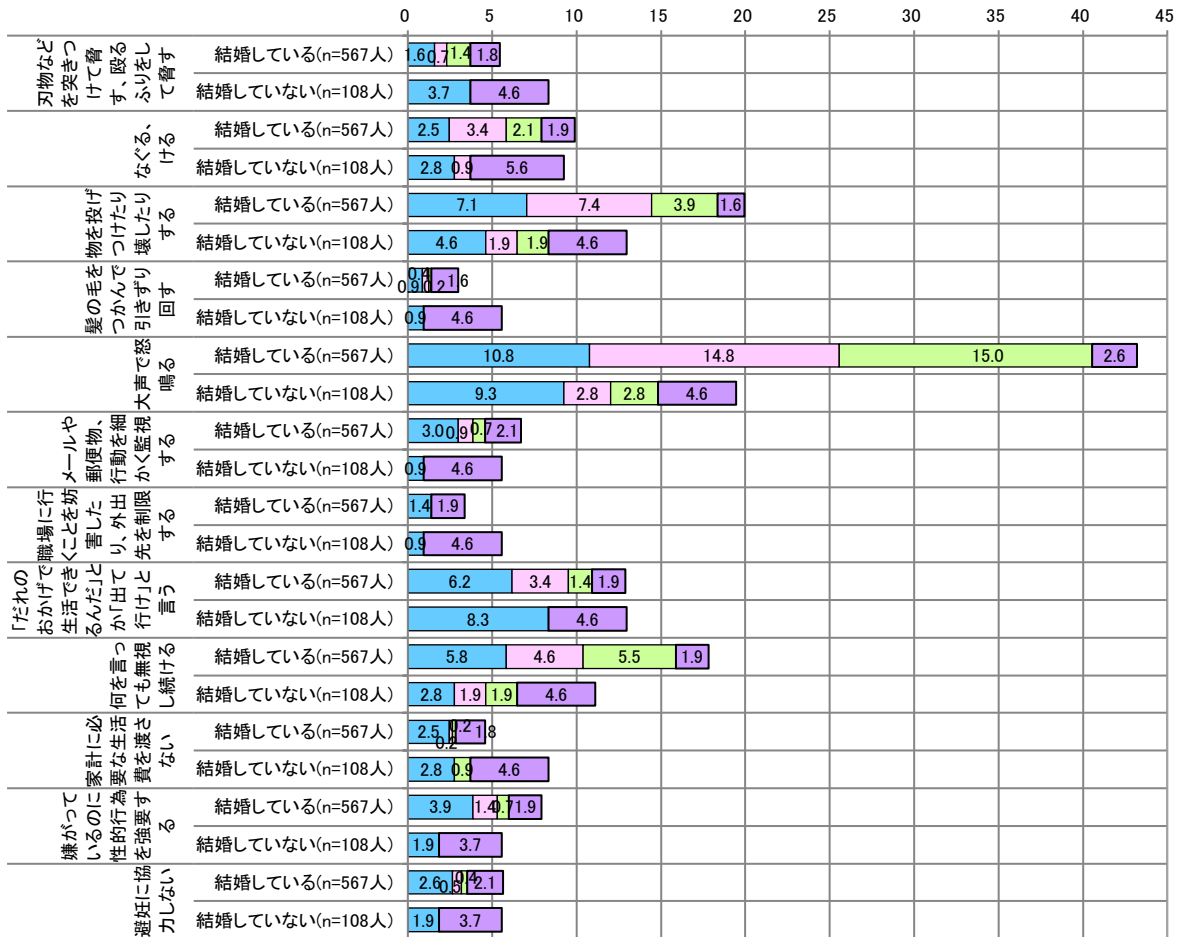


※残りの回答は「受けたこともしたこともない」

- ・婚姻の有無別にみると、「大声で怒鳴る」、「物を投げつけたり壊したりする」、「何を言っても無視し続ける」では、「結婚している」が「結婚していない」よりも回答割合が高くなっている。

【婚姻の有無別】

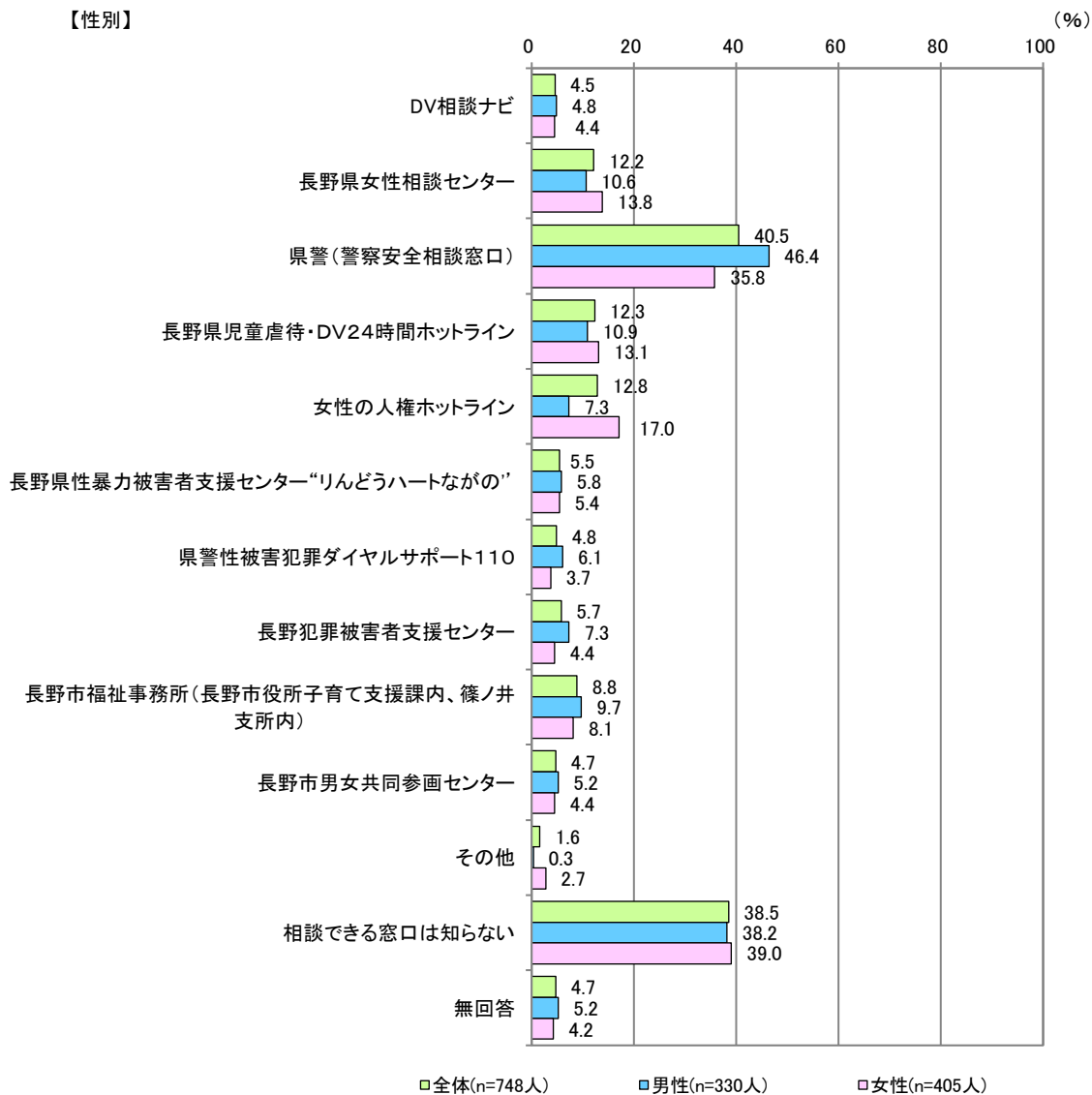
■受けたことがある □したことがある □受けたこともしたこともある □無回答 (%)



問 38 あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口をお選びください。(〇はいくつでも)

- ・全体でみると、最も回答が多かったのは「県警(警察安全相談窓口)」(40.5%)で、約4割となっている。次いで、「相談できる窓口は知らない」(38.5%)、「女性の人権ホットライン」(12.8%)、「長野県児童虐待・DV24時間ホットライン」(12.3%)、「長野県女性相談センター」(12.2%)、「長野市福祉事務所」(8.8%)と続いている。
- ・性別でみると、男性においては、「県警(警察安全相談窓口)」(46.4%)が約5割と最も多くなっている。次に、「相談できる窓口は知らない」(38.2%)、「長野県児童虐待・DV24時間ホットライン」(10.9%)、「長野市福祉事務所」(9.7%)の順となっている。
- ・一方、女性においては、「相談できる窓口は知らない」(39.0%)が最も多く、次に、「県警(警察安全相談窓口)」(35.8%)、「女性の人権ホットライン」(17.0%)、「長野県女性相談センター」(13.8%)となっており、男性とは異なる回答となり、男女の認知度に差がある。

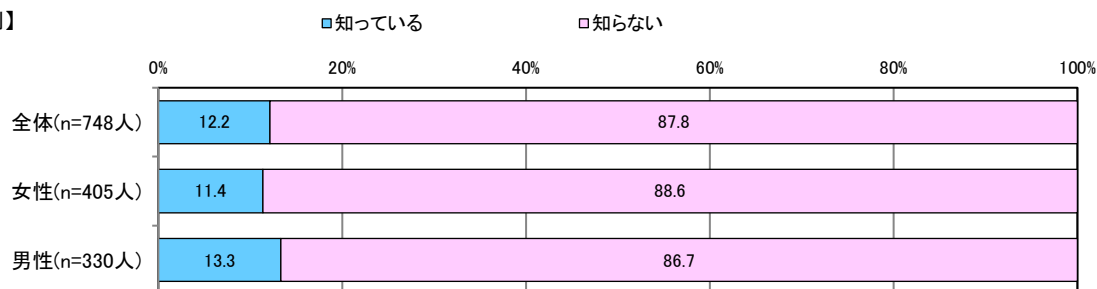
【性別】



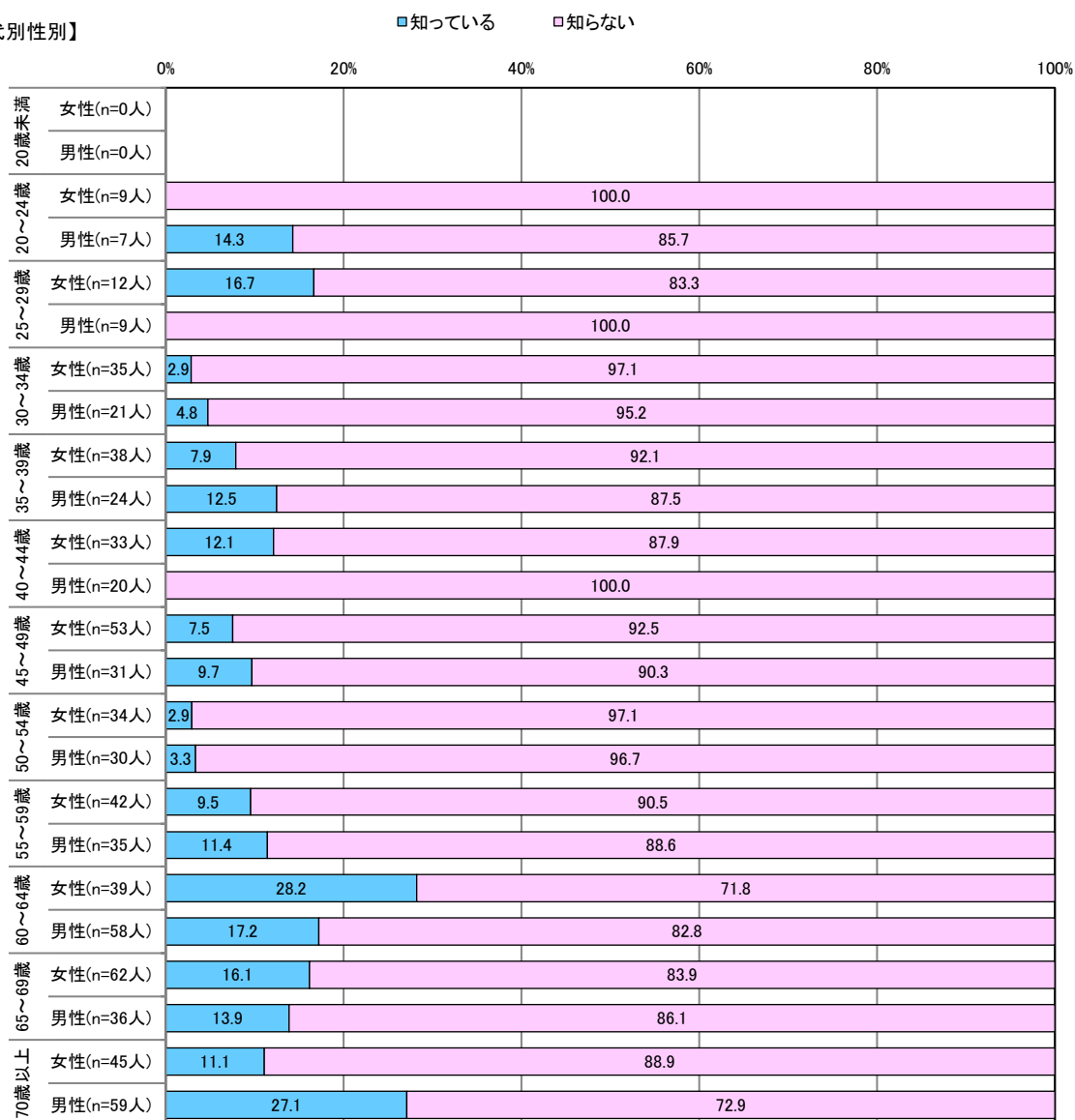
<DV被害に対する市の対応窓口の認知度>

- ・問 38 において、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答割合は、約 1 割（12.2%）となっている。
- ・性別でみると、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答割合は、「女性」（11.4%）の方が「男性」（13.3%）よりやや高くなっている。
- ・世代別性別でみると、60 歳～64 歳の女性、70 歳以上の男性の世代で、「知っている」回答割合が約 3 割となっている。

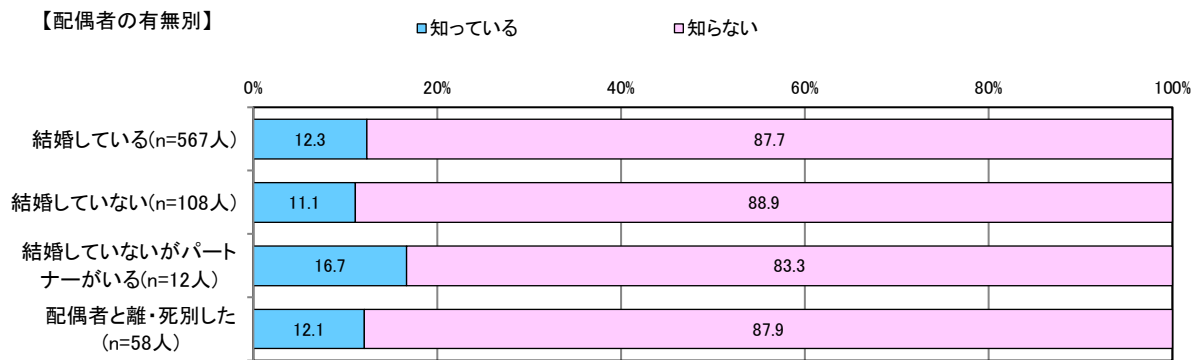
【性別】



【世代別性別】



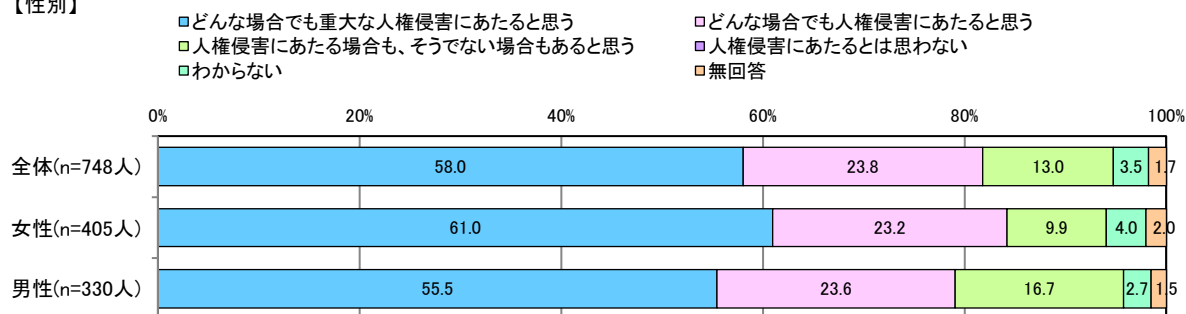
・配偶者の有無別で見ると、いずれも「知っている」が2割未満であった。特に、「結婚していない」では、11.1%となっている。



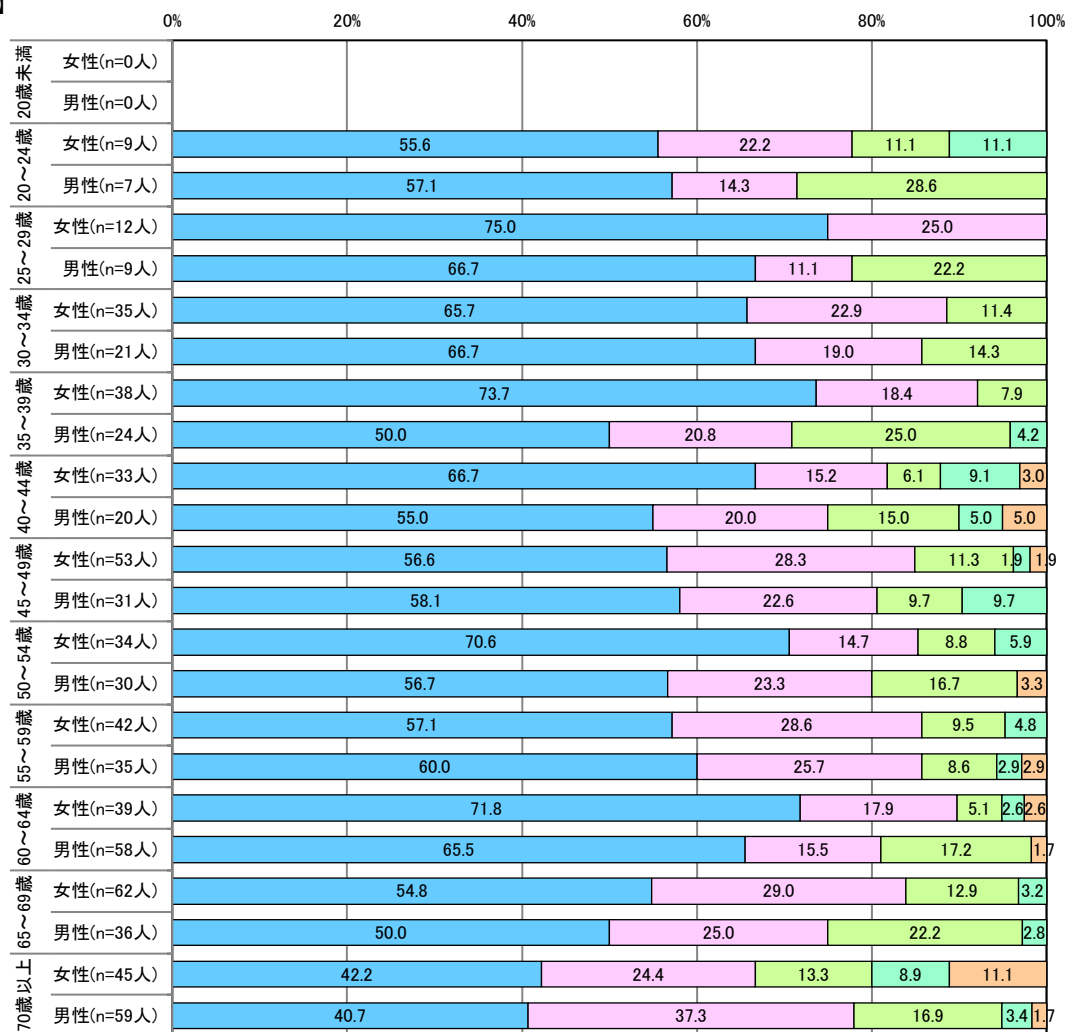
問 39 DV（ドメスティック・バイオレンス）についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。（○は1つ）

- ・全体でみると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」（58.0%）が最も多い回答となり、約6割となる。次いで、「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」（23.8%）、「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」（13.0%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも最も多い回答が、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」となり、次に「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」が2番目に多い回答になっている。
- ・世代別性別でみると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」という回答は、いずれの年代でも4割以上と最も多い回答となっている。

【性別】



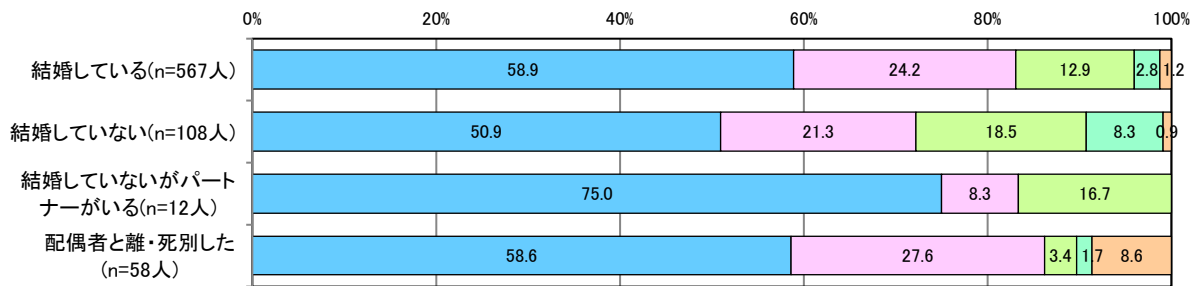
【世代別性別】



・配偶者の有無別でみると、いずれも、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」が最も多くなっている。

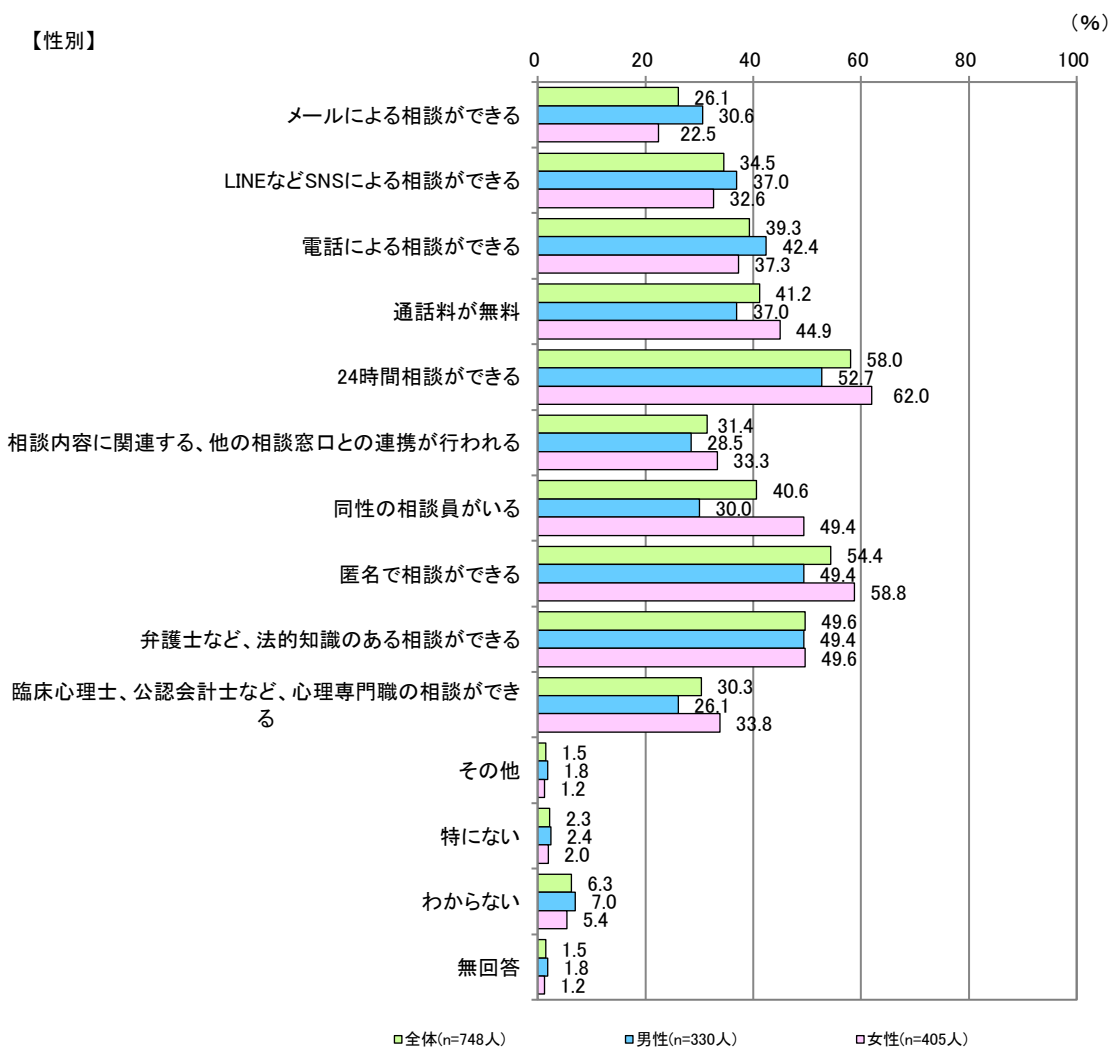
【配偶者の有無別】

- どの場合でも重大な人権侵害にあたると思う
- どの場合でも人権侵害にあたると思う
- 人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- 人権侵害にあたるとは思わない
- わからない
- 無回答



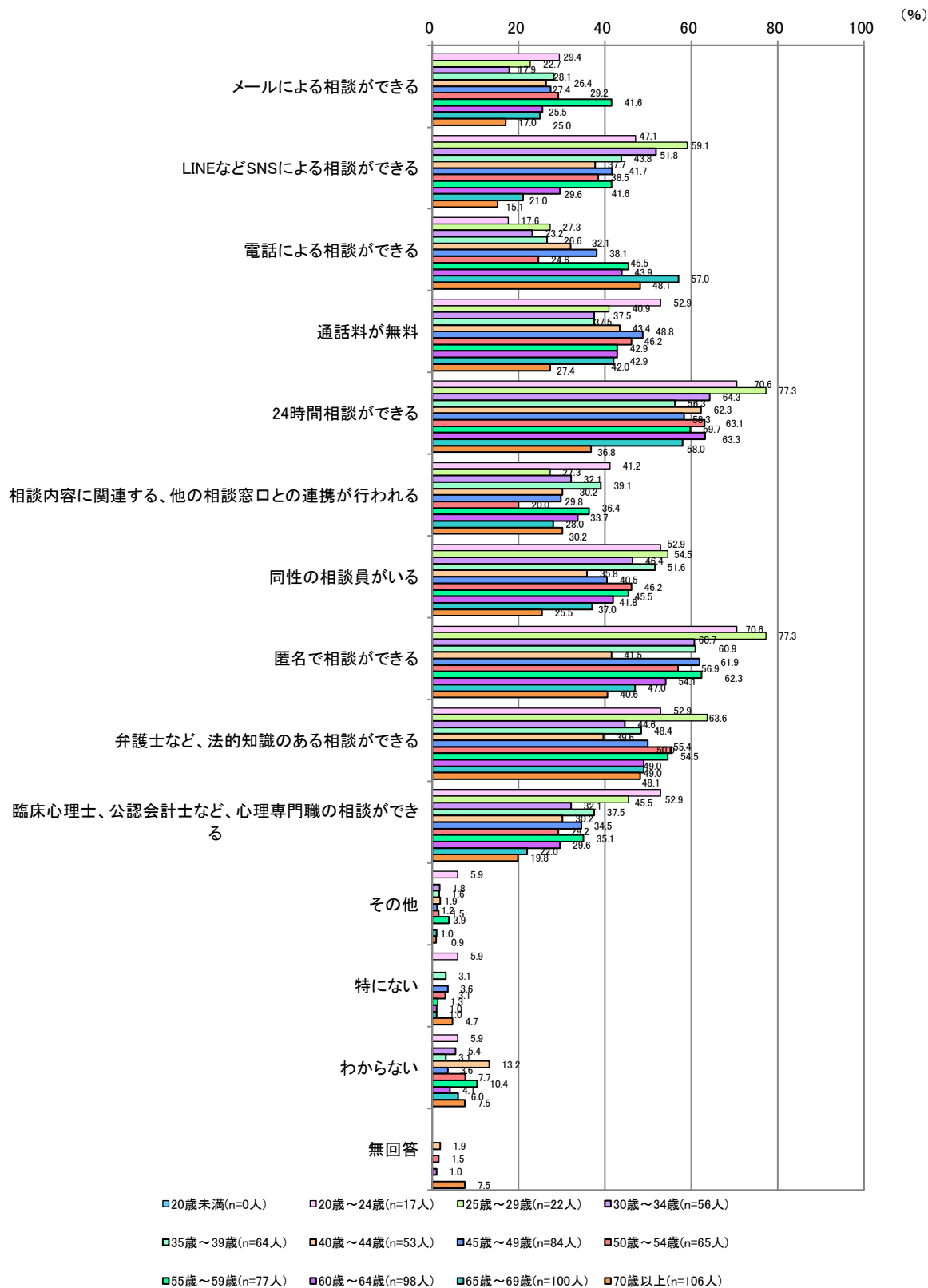
問 40 あなたは、暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。（〇はいくつでも）

- ・全体でみると、最も回答が多かったのは「24 時間相談ができる」(58.0%) で、約 6 割となっている。次いで、「匿名で相談ができる」(54.4%)、「弁護士など、法的知識のある相談ができる」(49.6%)、「通話料が無料」(41.2%)、「同性の相談員がいる」(40.6%)、「電話による相談ができる」(39.3%) と続いている。
- ・性別でみると、男性においては、「24 時間相談ができる」(52.7%)、が約 5 割と、最も多くなっている。次に、「弁護士など、法的知識のある相談ができる」(49.4%)、「匿名で相談ができる」(49.4%) で同率となっている。
- ・一方、女性においては、「24 時間相談ができる」(62.0%) が最も多く、次に、「匿名で相談ができる」(58.8%)、「弁護士など、法的知識のある相談ができる」(49.6%) が続いている。
- ・「同性の相談員がいる」という回答では、女性の回答割合が約 5 割と、男性よりも高くなっている。



- ・年代別でみると、30歳～34歳、40歳～44歳、50歳～54歳、60歳～64歳の世代で、が最も多い回答となっている。20歳～29歳では、「24時間相談ができる」と「匿名で相談ができる」が同率で、最も多くなっている。70歳以上では、「電話による相談ができる」、「弁護士など、法的知識のある相談ができる」が同率で、最も多い回答となっている。

【年代別】

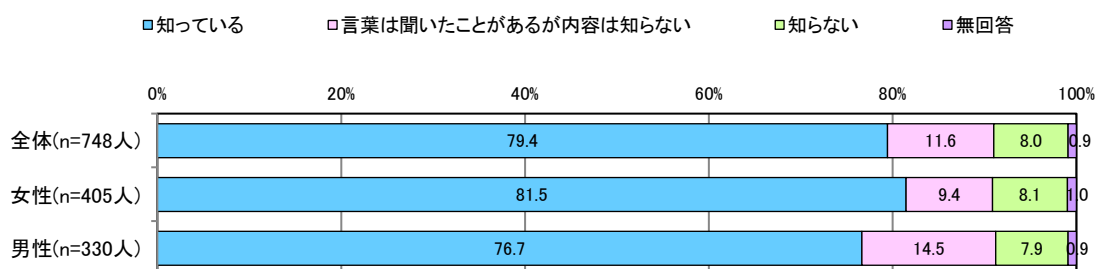


「性」の多様性に関することについて

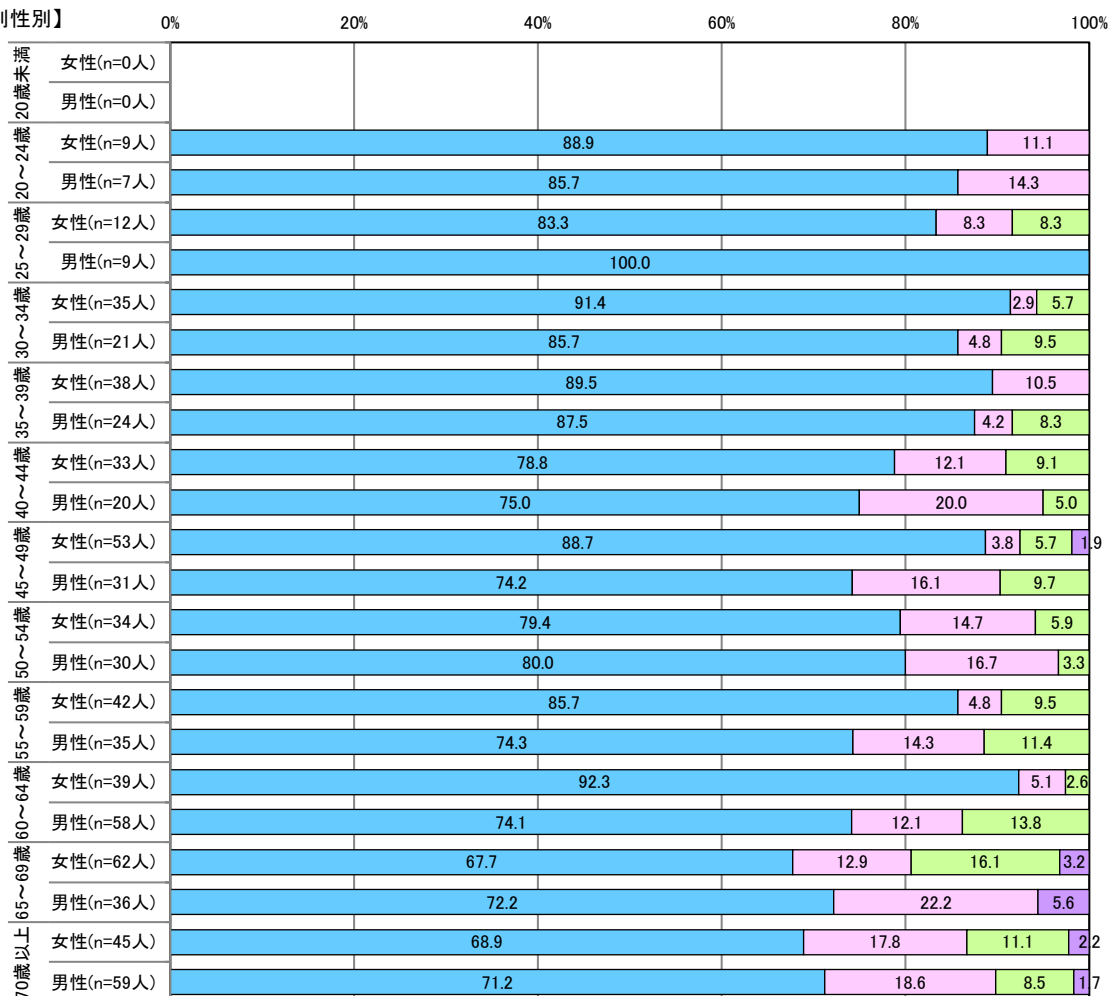
問 41 あなたは「性的少数者(セクシュアルマイノリティ)」または「LGBTQ」という言葉(どちらか一方でも)知っているか、または聞いたことがありますか。

- ・全体でみると、「知っている」(79.4%)が最も多い回答となっており、約8割となる。次いで、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」(11.6%)、「知らない」(8.0%)と続いている。
- ・性別でみると、男女とも最も多い回答が、「知っている」となり、次に「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」が2番目に多い回答になっている。
- ・世代別性別でみると、「知っている」という回答は、65歳以上の女性を除き、いずれの年代でも7割以上と最も多い回答となっている。

【性別】



【世代別性別】

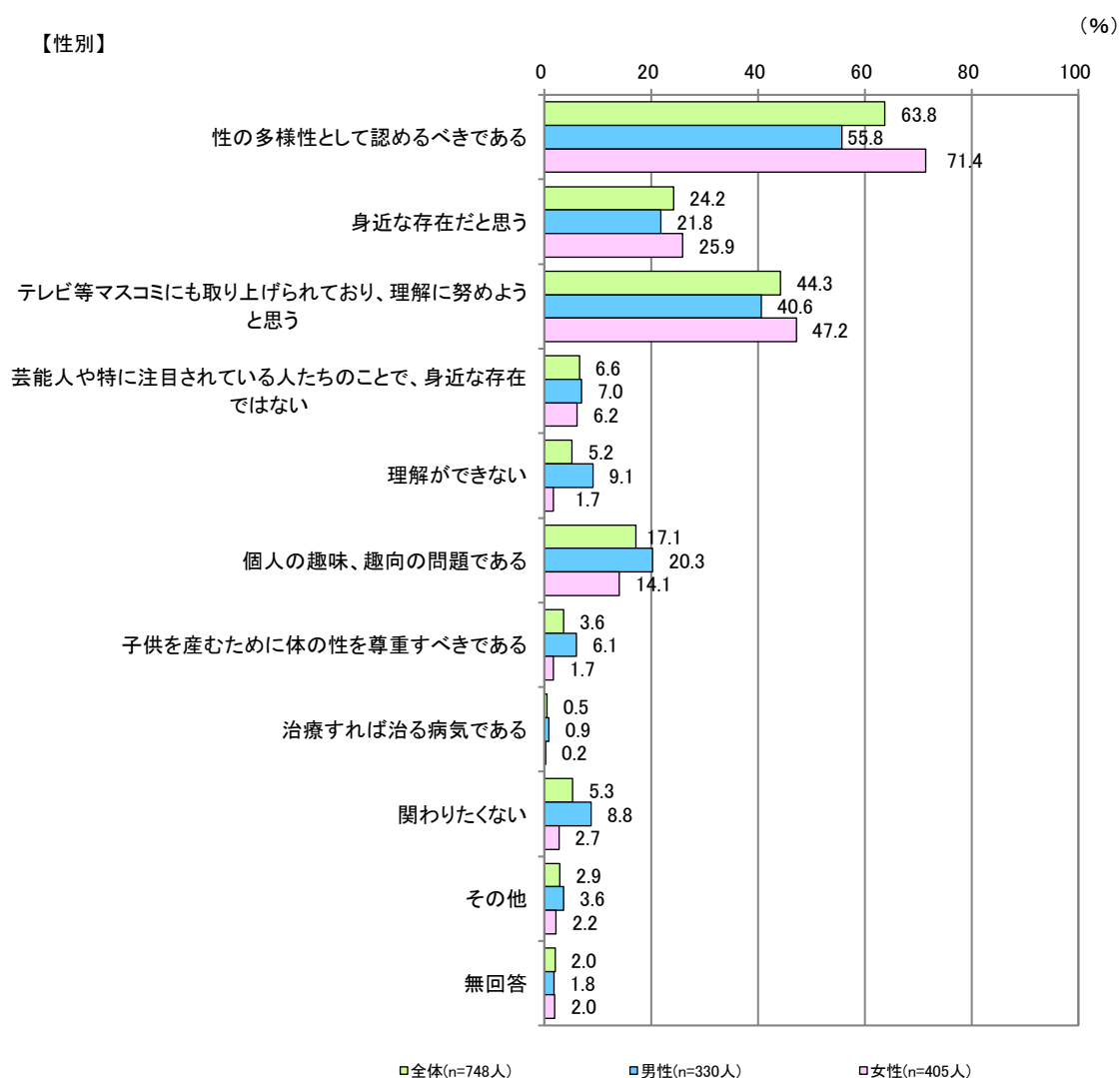


問 42 あなたは「性的少数者(セクシュアルマイノリティ)」についてどのような考えや、イメージをお持ちですか。あなたの考えに近いものをお選び下さい。(○は3つまで)

・全体で見ると、最も回答が多かったのは「性の多様性として認めるべきである」(63.8%)で、約6割となっている。次いで、「テレビ等マスコミにも取り上げられており、理解に努めようと思う」(44.3%)、「身近な存在だと思う」(24.2%)、「個人の趣味、趣向の問題である」(17.1%)、「芸能人や特に注目されている人たちのことで、身近な存在ではない」(6.6%)、「関わりたくない」(5.3%)と続いている。

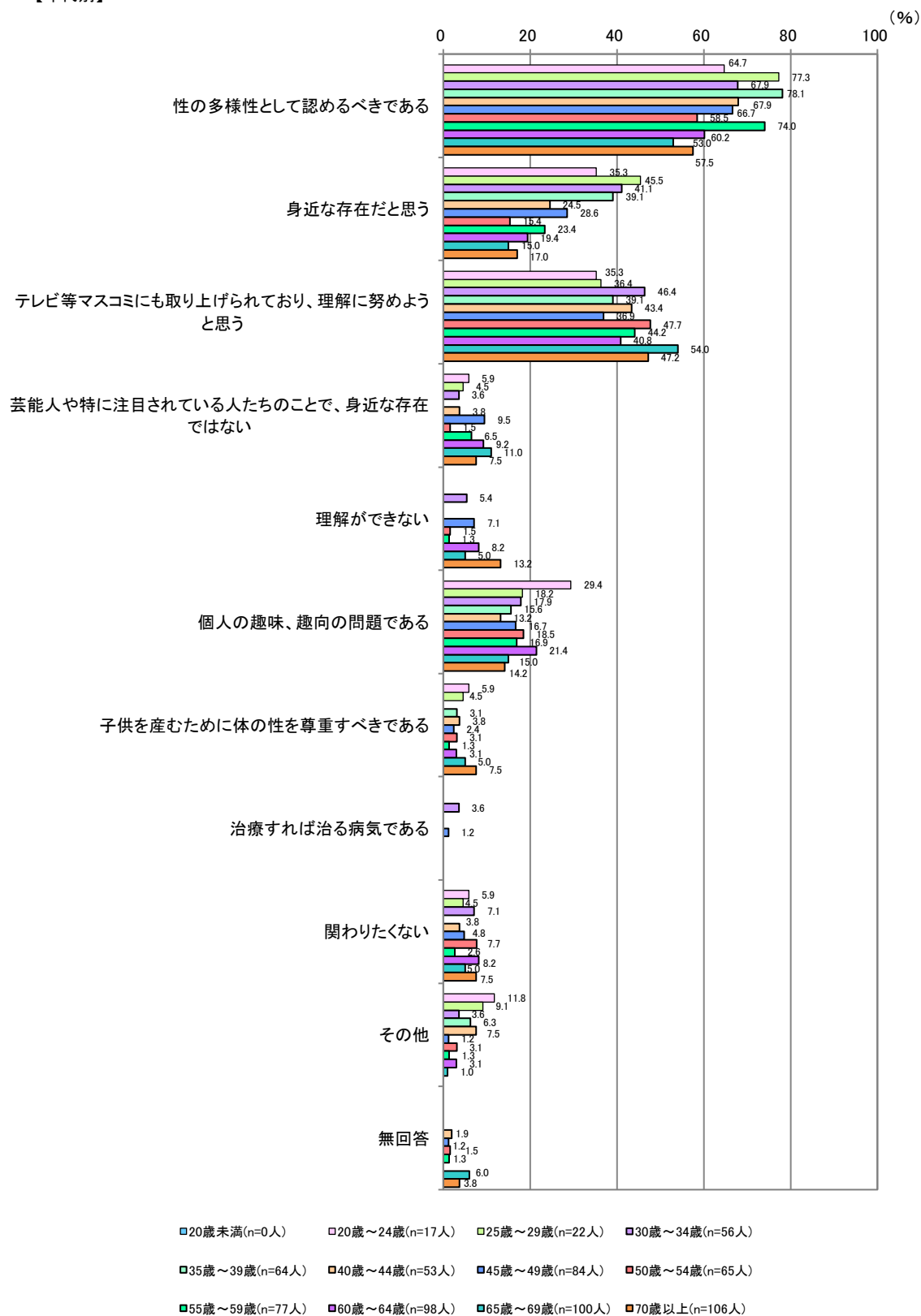
・性別で見ると、男女ともに「性の多様性として認めるべきである」が、最も多くなっている。次いで、「テレビ等マスコミにも取り上げられており、理解に努めようと思う」、「身近な存在だと思う」と続いている。

・「個人の趣味、趣向の問題である」という回答では、男性の回答割合が2割と、女性よりも高くなっている。



- ・年代別でみると、65歳～69歳を除く世代で、「性の多様性として認めるべきである」が最も多い回答となっている。65歳～69歳では、「テレビ等マスコミにも取り上げられており、理解に努めようと思う」が、最も多い回答となっている。

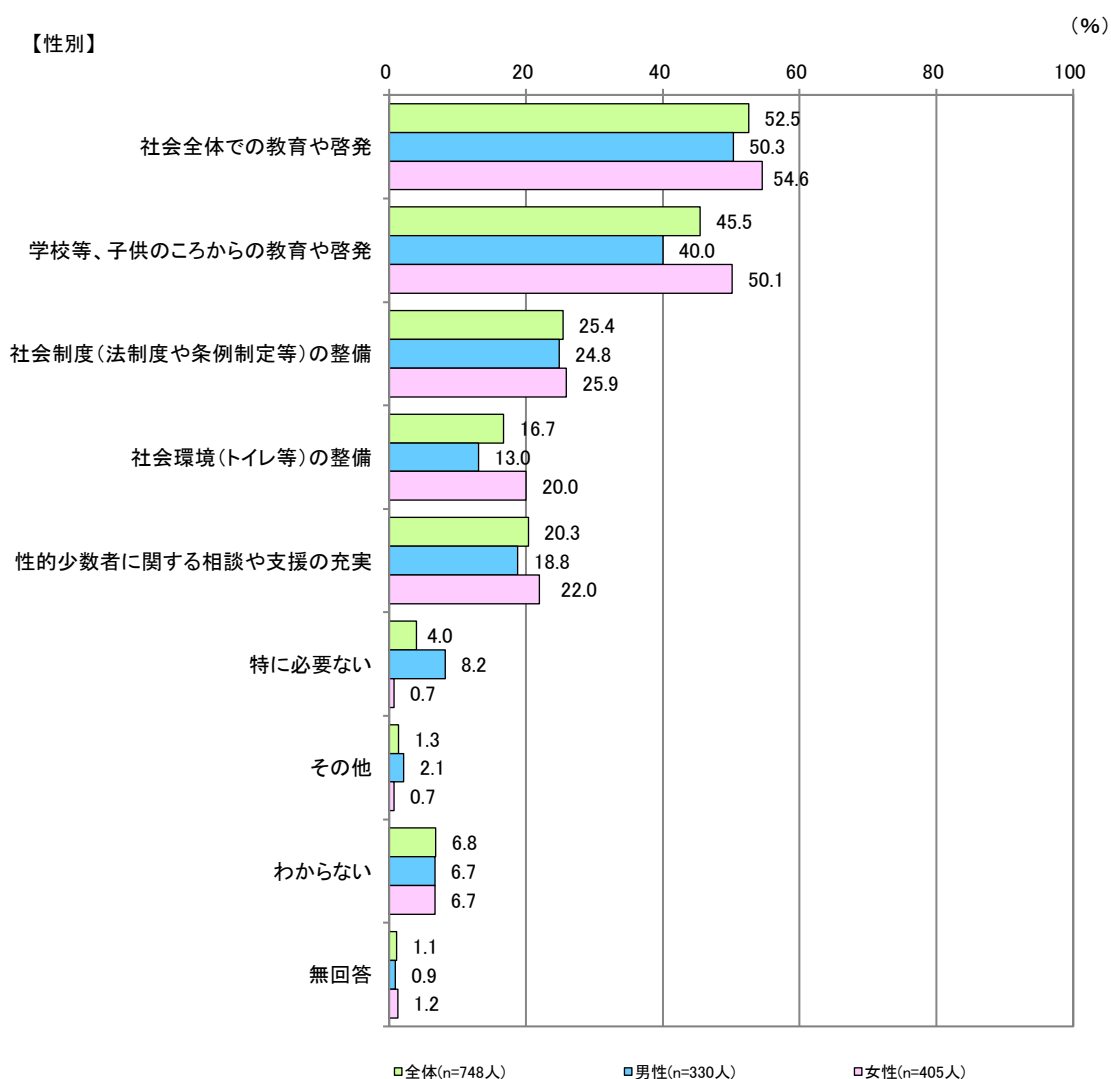
【年代別】



問 43 性的少数者(セクシュアルマイノリティ)の人権を守るためにどのようなことが必要だと思いますか。

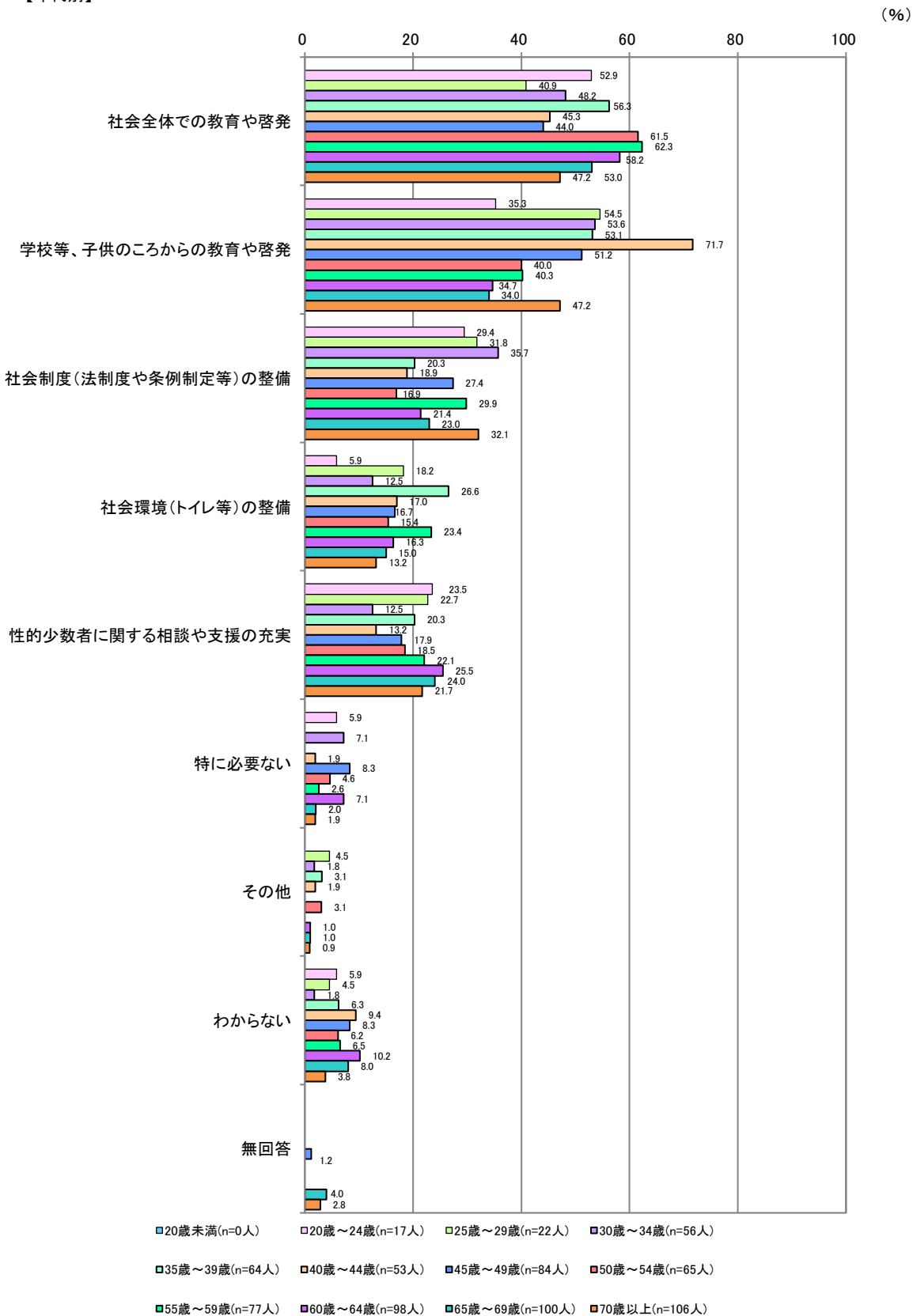
あなたの考えに近いものをお選びください。(○は2つまで)

- ・全体で見ると、最も回答が多かったのは「社会全体での教育や啓発」(52.5%)で、約5割となっている。次いで、「学校等、子供のころからの教育や啓発」(45.5%)、「社会制度(法制度や条例制定等)の整備」(25.4%)、「性的少数者に関する相談や支援の充実」(20.3%)、「社会環境(トイレ等)の整備」(16.7%)、「わからない」(6.8%)と続いている。
- ・性別で見ると、男女ともに「社会全体での教育や啓発」が最も多くなっている。次いで、「学校等、子供のころからの教育や啓発」、「社会制度(法制度や条例制定等)の整備」となっている。
- ・「学校等、子供のころからの教育や啓発」という回答では、女性の回答割合が5割と、男性の4割よりも高くなっている。



- ・年代別でみると、25歳～34歳、40歳～49歳、70歳以上の世代で、「学校等、子供のころからの教育や啓発」が最も多い回答となっている。一方他の世代では、「社会全体での教育や啓発」が最も多い回答となっている。

【年代別】

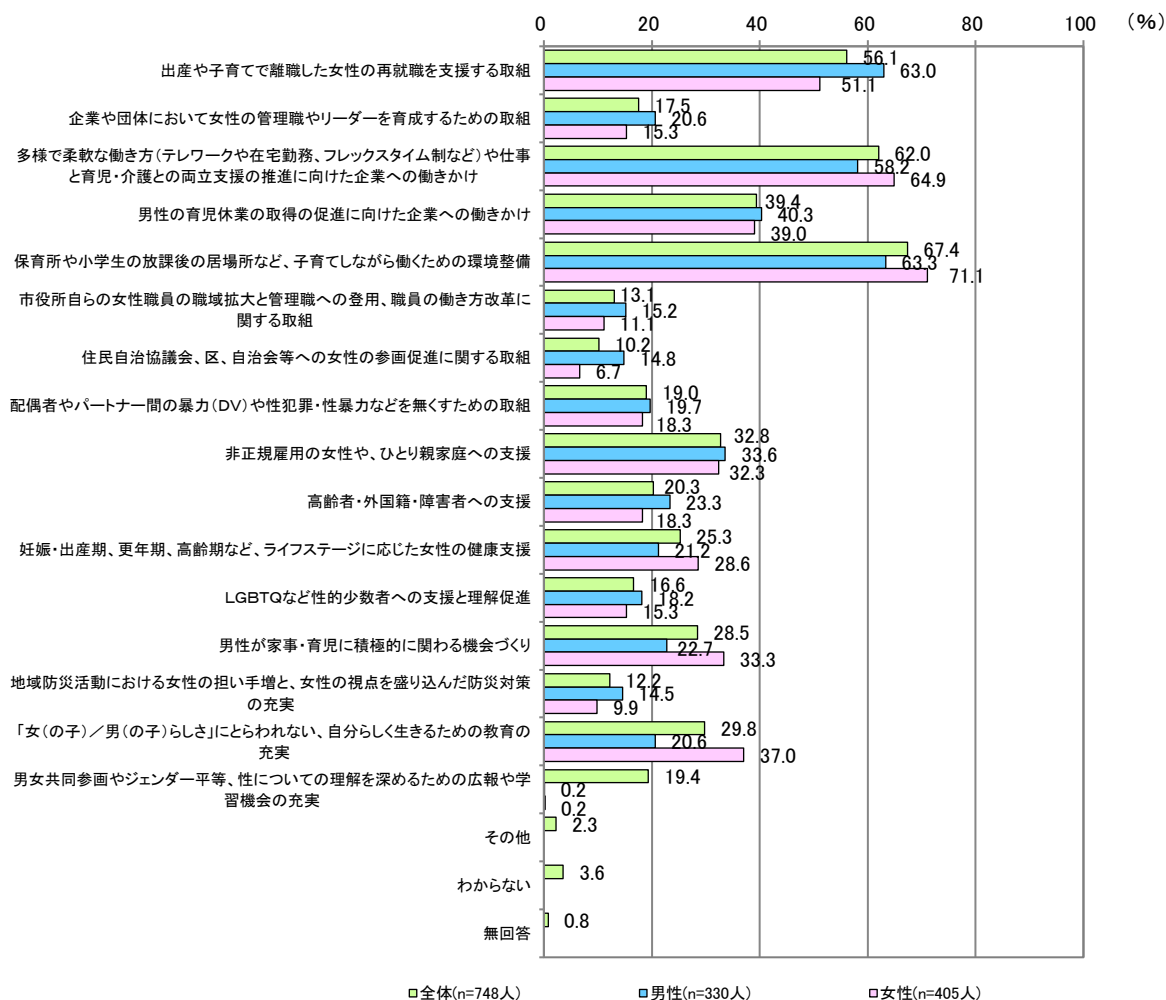


男女共同参画施策に関するについて

問 44 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、長野市が重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。（〇はいくつでも）

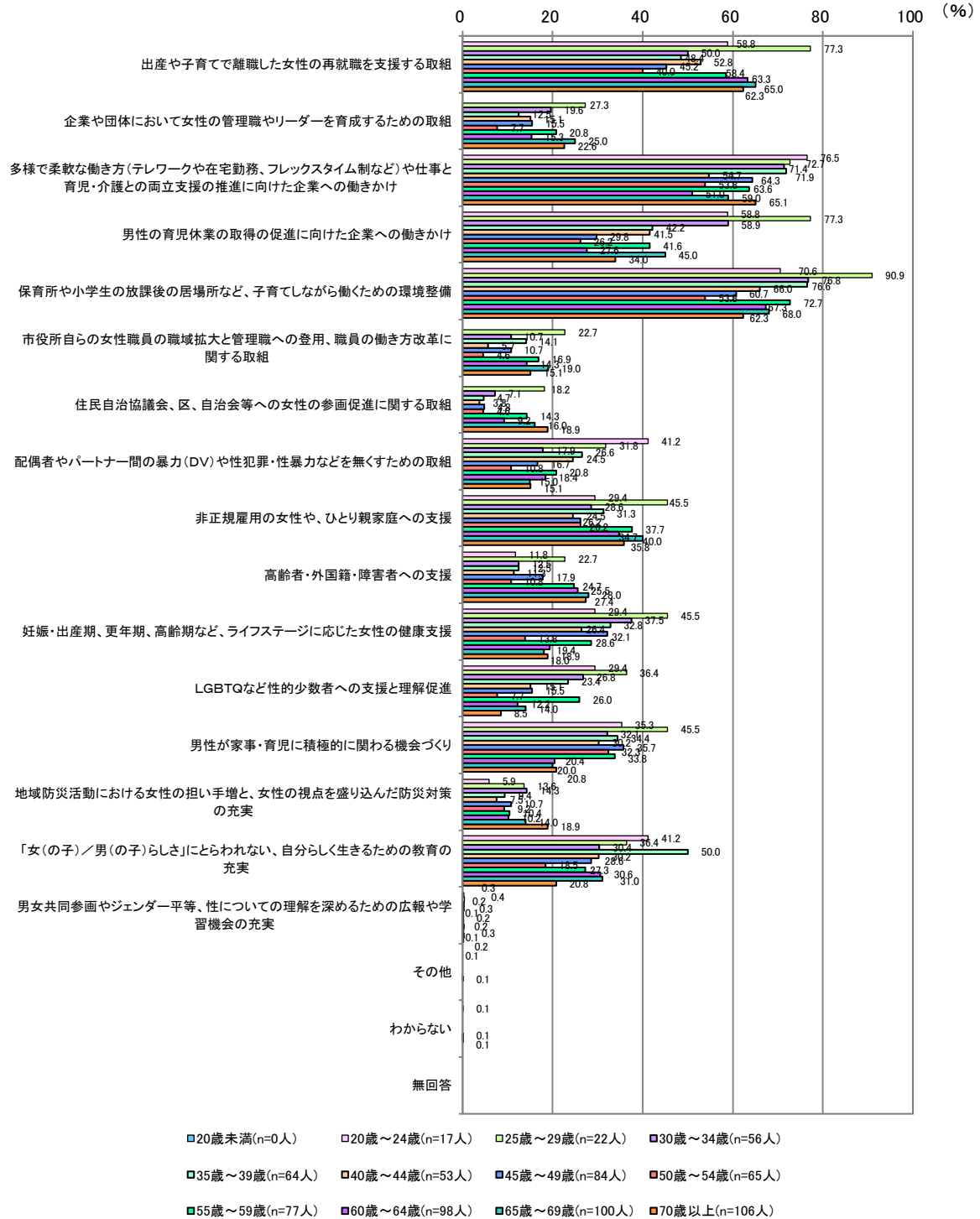
- ・全体で見ると、「保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備」（67.4%）が最も多く、約7割となっている。次いで、「多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」（62.0%）、「出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組」（56.1%）となっている。
- ・性別で見ると、男女とも、「保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備」が最も多くなっている。次に、女性は、「多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」と続いている。一方、男性は、「出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組」となっている。

【性別】



・年代別でみると、20歳～24歳、45歳～49歳、70歳以上では、「多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」が最も多くなっている。一方他の世代では、「出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組」が最も多くなっている。

【年代別】



資 料

単純集計

調査票

「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」

アンケート回答数

送付数	回答数	回収率
2,000	748	37.4%

あなた自身のことについておたずねします。

F1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)※戸籍上の性別とは関係なく、ご自身の主観でご記入ください。

選択肢	回答数	回答割合
①女性	405	54.1%
②男性	330	44.1%
③その他	1	0.1%
④回答したくない	5	0.7%
無回答	7	0.9%
合計	748	100.0%

F2 あなたの年齢について教えてください。(○は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①20歳未満	0	0.0%
②20歳～24歳	17	2.3%
③25歳～29歳	22	2.9%
④30歳～34歳	56	7.5%
⑤35歳～39歳	64	8.6%
⑥40歳～44歳	53	7.1%
⑦45歳～49歳	84	11.2%
⑧50歳～54歳	65	8.7%
⑨55歳～59歳	77	10.3%
⑩60歳～64歳	98	13.1%
⑪65歳～69歳	100	13.4%
⑫70歳以上	106	14.2%
無回答	6	0.8%
合計	748	100.0%

F3 あなたの職業を教えてください。(○は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①農林漁業の自営業主・家族従業者	18	2.4%
②農林漁業以外の自営業主・家族従業者	22	2.9%
③自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)	13	1.7%
④会社役員・経営者	31	4.1%
⑤正社員・正職員などの正規雇用者	259	34.6%
⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	193	25.8%
⑦家事専業者	76	10.2%
⑧学生	8	1.1%
⑨無職	103	13.8%
⑩その他	18	2.4%
無回答	7	0.9%
合計	748	100.0%

F4 あなたのご家族の構成世帯構成について教えてください。(○は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①単身世帯(含単身赴任)	85	11.4%
②一世代世帯(夫婦・カップルだけ)	209	27.9%
③二世帯世帯(親と子)	360	48.1%
④三世帯世帯(親と子と孫)	74	9.9%
⑤その他	14	1.9%
無回答	6	0.8%
合計	748	100.0%

F5 あなたは現在、結婚していますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①結婚している	567	75.8%
②結婚していない	108	14.4%
③結婚していないがパートナーがいる	12	1.6%
④配偶者と離・死別した	58	7.8%
無回答	3	0.4%
合計	748	100.0%

F6 あなたにお子さんはいらっしゃいますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①いる	554	74.1%
②いない	182	24.3%
無回答	12	1.6%
合計	748	100.0%

結婚している方またはパートナーがいる方におたずねします。

F7 配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①いる(正規の社員・職員)	266	45.9%
②いる(非正規:勤務時間は正規社員と同じ)	32	5.5%
③いる(非正規:パート・アルバイト)	109	18.8%
④いない	42	7.3%
⑤その他	128	22.1%
無回答	2	0.3%
合計	579	100.0%

一般的なことでおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。(それぞれ〇は1つ)

1家庭生活

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	94	12.6%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	347	46.4%
③平等である	211	28.2%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	29	3.9%
⑤女性の方が非常に優遇されている	2	0.3%
⑥わからない	48	6.4%
無回答	17	2.3%
無回答	748	100.0%

2学校A104:A133教育の場

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	15	2.0%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	102	13.6%
③平等である	439	58.7%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	22	2.9%
⑤女性の方が非常に優遇されている	2	0.3%
⑥わからない	146	19.5%
無回答	22	2.9%
合計	748	100.0%

3地域社会

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	82	11.0%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	357	47.7%
③平等である	175	23.4%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	39	5.2%
⑤女性の方が非常に優遇されている	4	0.5%
⑥わからない	71	9.5%
無回答	20	2.7%
合計	748	100.0%

4職場

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	95	12.7%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	317	42.4%
③平等である	200	26.7%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	36	4.8%
⑤女性の方が非常に優遇されている	7	0.9%
⑥わからない	66	8.8%
無回答	27	3.6%
合計	748	100.0%

5法律や制度の上

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	55	7.4%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	289	38.6%
③平等である	242	32.4%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	38	5.1%
⑤女性の方が非常に優遇されている	3	0.4%
⑥わからない	95	12.7%
無回答	26	3.5%
合計	748	100.0%

6社会通念・慣習・しきたり

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	183	24.5%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	406	54.3%
③平等である	71	9.5%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	16	2.1%
⑤女性の方が非常に優遇されている	2	0.3%
⑥わからない	51	6.8%
無回答	19	2.5%
合計	748	100.0%

7政治の場

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	279	37.3%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	326	43.6%
③平等である	71	9.5%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	5	0.7%
⑤女性の方が非常に優遇されている	0	0.0%
⑥わからない	49	6.6%
無回答	18	2.4%
合計	748	100.0%

8社会全体

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	119	15.9%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	441	59.0%
③平等である	89	11.9%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	26	3.5%
⑤女性の方が非常に優遇されている	0	0.0%
⑥わからない	54	7.2%
無回答	19	2.5%
合計	748	100.0%

問2 次の言葉やことごとらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。(それぞれ○は1つ)

1 男女共同参画社会

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	349	46.7%
②聞いたことがある	273	36.5%
③知らない	111	14.8%
無回答	15	2.0%
合計	748	100.0%

2 女性差別撤廃条約

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	127	17.0%
②聞いたことがある	271	36.2%
③知らない	335	44.8%
無回答	15	2.0%
合計	748	100.0%

3 ポジティブ・アクション(積極的改善措置)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	92	12.3%
②聞いたことがある	211	28.2%
③知らない	424	56.7%
無回答	21	2.8%
合計	748	100.0%

4 ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	548	73.3%
②聞いたことがある	164	21.9%
③知らない	19	2.5%
無回答	17	2.3%
合計	748	100.0%

5 女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	166	22.2%
②聞いたことがある	313	41.8%
③知らない	251	33.6%
無回答	18	2.4%
合計	748	100.0%

6 候補者男女均等法(政治分野における男女共同参画の推進に関する法律)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	103	13.8%
②聞いたことがある	230	30.7%
③知らない	397	53.1%
無回答	18	2.4%
合計	748	100.0%

7 長野市男女共同参画推進条例

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	70	9.4%
②聞いたことがある	240	32.1%
③知らない	421	56.3%
無回答	17	2.3%
合計	748	100.0%

問3 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①賛成	9	1.2%
②どちらかといえば賛成	123	16.4%
③どちらかといえば反対	235	31.4%
④反対	308	41.2%
⑤わからない	62	8.3%
無回答	11	1.5%
合計	748	100.0%

問4 日常生活で、「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などを言われたり、期待されたりすることはありますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①よくある	156	20.9%
②たまにある	417	55.7%
③ない	165	22.1%
無回答	10	1.3%
合計	748	100.0%

問4で「1.よくある」または「2.たまにある」を選ばれた方におたずねします。

問5 どのような場で言われたり、期待されたりしますか。(〇はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①家庭	283	49.4%
②職場	234	40.8%
③学校	35	6.1%
④地域・近隣	252	44.0%
⑤友人関係	44	7.7%
⑥親族関係	216	37.7%
⑦社会全体(メディアや広告など)	147	25.7%
⑧その他	3	0.5%
無回答	4	0.7%
対象	573	-

問6 それは、どのような内容に関することですか。(〇はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①言葉づかい	162	28.3%
②容姿(顔立ち、体つきなど)	95	16.6%
③服装や身だしなみ	165	28.8%
④行動の仕方	245	42.8%
⑤感情表現(泣く、怒るなど)	78	13.6%
⑥進学、進路選択	39	6.8%
⑦ライフイベント(結婚、出産など)	164	28.6%
⑧趣味やスポーツ	18	3.1%
⑨家事・育児・介護	320	55.8%
⑩働き方や仕事内容	274	47.8%
⑪お金(収入や支出に関すること)	124	21.6%
⑫その他	7	1.2%
無回答	4	0.7%
対象	573	-

問7 日常生活における「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などについて、不便さや不快感、生きづらさを感じますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①あった	51	6.8%
②なかった	301	40.2%
③覚えていない	218	29.1%
無回答	3	0.4%
合計	573	76.6%

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問8 子ども時代に「女の子／男の子だから〇〇しなさい」や「女の子らしく・男の子らしく」などと言われたことがありますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①あった	494	66.0%
②なかった	95	12.7%
③覚えていない	157	21.0%
無回答	2	0.3%
合計	748	100.0%

問8で「1.あった」を選ばれた方におたずねします。

問9 それは、誰に言われましたか。(〇はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①母親	351	71.1%
②父親	240	48.6%
③兄弟姉妹	35	7.1%
④祖母	143	28.9%
⑤祖父	74	15.0%
⑥その他の親族	119	24.1%
⑦近隣住民	85	17.2%
⑧学校の先生	183	37.0%
⑨クラブや習い事の先生	33	6.7%
⑩友人や同じ学校の児童・生徒	73	14.8%
⑪その他	14	2.8%
無回答	0	0.0%
対象	494	-

問10 それは、どのような内容に関することですか。(〇はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①言葉づかい	265	53.6%
②容姿(顔立ち、体つきなど)	101	20.4%
③服装や身だしなみ	215	43.5%
④行動の仕方	311	63.0%
⑤感情表現(泣く、怒るなど)	124	25.1%
⑥進学、進路選択	96	19.4%
⑦ライフイベント(結婚、出産など)	76	15.4%
⑧趣味やスポーツ	38	7.7%
⑨家事・育児・介護	126	25.5%
⑩働き方や仕事内容	96	19.4%
⑪お金(収入や支出に関すること)	56	11.3%
⑫その他	7	1.4%
無回答	2	0.4%
対象	494	-

問11 子ども時代に「女らしさ・男らしさ」を言われたことについて、あなたの生き方に影響したと思いますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①影響した	87	17.6%
②少し影響した	200	40.5%
③影響しなかった	207	41.9%
合計	494	100.0%

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問12 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①女性は職業をもたない方がよい	2	0.3%
②結婚するまでは職業をもつ方がよい	9	1.2%
③子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	15	2.0%
④子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	428	57.2%
⑤子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	126	16.8%
⑥その他	116	15.5%
⑦わからない	47	6.3%
無回答	5	0.7%
合計	748	100.0%

職場における「女性活躍と就労」に関することでおたずねします。

問13 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①必要だと思う	477	63.8%
②どちらかといえば必要だと思う	252	33.7%
③必要ないと思う	10	1.3%
無回答	9	1.2%
合計	748	100.0%

現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

問14 あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか(次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか)。(それぞれ〇は1つ)

1 賃金

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	51	9.5%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	129	24.1%
③平等である	269	50.2%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	1	0.2%
⑤女性の方が非常に優遇されている	0	0.0%
⑥わからない	59	11.0%
無回答	27	5.0%
合計	536	100.0%

2 昇進や昇格

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	70	13.1%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	180	33.6%
③平等である	185	34.5%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	11	2.1%
⑤女性の方が非常に優遇されている	2	0.4%
⑥わからない	60	11.2%
無回答	28	5.2%
合計	536	100.0%

3 仕事の内容

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	36	6.7%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	121	22.6%
③平等である	249	46.5%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	54	10.1%
⑤女性の方が非常に優遇されている	7	1.3%
⑥わからない	42	7.8%
無回答	27	5.0%
合計	536	100.0%

4 研修の機会や内容

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	25	4.7%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	75	14.0%
③平等である	350	65.3%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	6	1.1%
⑤女性の方が非常に優遇されている	2	0.4%
⑥わからない	51	9.5%
無回答	27	5.0%
合計	536	100.0%

5 経験や能力を発揮する機会

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	36	6.7%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	120	22.4%
③平等である	295	55.0%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	4	0.7%
⑤女性の方が非常に優遇されている	1	0.2%
⑥わからない	53	9.9%
無回答	27	5.0%
合計	536	100.0%

問15 あなたの職場では女性の雇用や登用は進んでいると思いますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①進んでいる	137	25.6%
②どちらかといえば進んでいる	178	33.2%
③あまり進んでいない	111	20.7%
④進んでいない	33	6.2%
⑤わからない	55	10.3%
無回答	22	4.1%
合計	536	100.0%

問16 今の職場について、あなたのお考えに近い番号をお選びください。(それぞれ〇は1つ)

1 あなた自身は活躍したい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	162	30.2%
②やや思う	195	36.4%
③あまり思わない	113	21.1%
④思わない	30	5.6%
⑤わからない	7	1.3%
無回答	29	5.4%
合計	536	100.0%

2 現在の生活や仕事に満足している

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	94	17.5%
②やや思う	223	41.6%
③あまり思わない	112	20.9%
④思わない	68	12.7%
⑤わからない	13	2.4%
無回答	26	4.9%
合計	536	100.0%

3 女性が社会で働くには不利な点が多い

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	124	23.1%
②やや思う	218	40.7%
③あまり思わない	109	20.3%
④思わない	39	7.3%
⑤わからない	17	3.2%
無回答	29	5.4%
合計	536	100.0%

4 仕事を続けキャリアを積んでいきたい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	135	25.2%
②やや思う	161	30.0%
③あまり思わない	143	26.7%
④思わない	49	9.1%
⑤わからない	18	3.4%
無回答	30	5.6%
合計	536	100.0%

5 管理職への打診があれば受けてみたい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	76	14.2%
②やや思う	95	17.7%
③あまり思わない	143	26.7%
④思わない	153	28.5%
⑤わからない	37	6.9%
無回答	32	6.0%
合計	536	100.0%

6 退職して仕事に就かない

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	24	4.5%
②やや思う	46	8.6%
③あまり思わない	122	22.8%
④思わない	236	44.0%
⑤わからない	78	14.6%
無回答	30	5.6%
合計	536	100.0%

7 女性も管理職として活躍している

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	105	19.6%
②やや思う	171	31.9%
③あまり思わない	115	21.5%
④思わない	67	12.5%
⑤わからない	45	8.4%
無回答	33	6.2%
合計	536	100.0%

8 女性の管理職の部下には、なりたくない

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	18	3.4%
②やや思う	50	9.3%
③あまり思わない	140	26.1%
④思わない	246	45.9%
⑤わからない	51	9.5%
無回答	31	5.8%
合計	536	100.0%

現在職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。

問17 女性が活躍するために企業が取り組むべきことはなんでしょうか。(それぞれ○は1つ)

1 女性を管理職へ積極的に登用する

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	229	31.2%
②まあ重要だと思う	307	41.9%
③重要だと思わない	76	10.4%
④わからない	52	7.1%
無回答	69	9.4%
合計	733	100.0%

2 女性職員の採用拡大

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	274	37.4%
②まあ重要だと思う	299	40.8%
③重要だと思わない	55	7.5%
④わからない	36	4.9%
無回答	69	9.4%
合計	733	100.0%

3 非正規労働者の正社員・職員への転換・待遇改善

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	341	46.5%
②まあ重要だと思う	243	33.2%
③重要だと思わない	42	5.7%
④わからない	34	4.6%
無回答	73	10.0%
合計	733	100.0%

4 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	377	51.4%
②まあ重要だと思う	234	31.9%
③重要だと思わない	30	4.1%
④わからない	25	3.4%
無回答	67	9.1%
合計	733	100.0%

5 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	452	61.7%
②まあ重要だと思う	173	23.6%
③重要だと思わない	16	2.2%
④わからない	24	3.3%
無回答	68	9.3%
合計	733	100.0%

6 企業内託児所や学童保育所などの設置

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	395	53.9%
②まあ重要だと思う	204	27.8%
③重要だと思わない	34	4.6%
④わからない	32	4.4%
無回答	68	9.3%
合計	733	100.0%

離職されている方におたずねします。

問18 再就職される場合の雇用形態について希望されるものをお選びください。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①正規の社員・職員	20	11.2%
②派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員	21	11.7%
③パート・アルバイト(家に子どもがいない時間のみ等)	62	34.6%
④その他	14	7.8%
無回答	62	34.6%
合計	179	100.0%

問18で「2派遣・嘱託などの社員・職員」または「3パート・アルバイト」を選ばれた方におたずねします。

問19 その理由を次の中から、あなたのお考えに近いものをお選びください。(〇は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①家事や育児で家族の協力や理解が得られないから	7	8.4%
②正規の社員・職員で雇用する企業が少ないから	10	12.0%
③仕事より家庭生活を優先したいから	38	45.8%
④時間外勤務や休日出勤を避けたいから	23	27.7%
⑤配偶者(特別)控除の範囲内で働きたいから	13	15.7%
⑥積極的に仕事に就くつもりがないから	29	34.9%
⑦その他	8	9.6%
無回答	6	7.2%
対象数	83	-

離職経験のある方におたずねします。

問20 離職の原因(理由)としてあてはまるものをお選びください。(〇は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①結婚	108	23.7%
②出産	114	25.0%
③育児	74	16.2%
④看護	9	2.0%
⑤介護	34	7.5%
⑥転職・起業	83	18.2%
⑦配偶者の転勤	30	6.6%
⑧健康上の理由	67	14.7%
⑨給料が少ない	67	14.7%
⑩定年退職	79	17.3%
⑪解雇等職場の都合	49	10.7%
⑫特に理由はない	17	3.7%
⑬その他	50	11.0%
対象数	456	-

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問21 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。(〇は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①家事・育児と仕事の両立が難しい	622	83.2%
②女性が就ける仕事に限られている	144	19.3%
③活躍したいと思える仕事がない	26	3.5%
④活躍を望む女性が少ない	112	15.0%
⑤お手本となる「活躍する女性」が身近にいない	64	8.6%
⑥結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い	377	50.4%
⑦上司・同僚の男性の認識、理解が不十分	277	37.0%
⑧家族の理解が不十分	131	17.5%
⑨その他	23	3.1%
⑩わからない	18	2.4%
無回答	13	1.7%
対象数	748	-

問22 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①女性の積極的登用	114	15.2%
②能力開発、自己啓発	64	8.6%
③働き方改革の推進	233	31.1%
④福利厚生 の 充実	165	22.1%
⑤賃金の男女平等	204	27.3%
⑥非常勤職員の正規職員化	130	17.4%
⑦家族の理解や協力	254	34.0%
⑧職場の理解や協力	273	36.5%
⑨経営者・管理職の意識改革	153	20.5%
⑩女性自身の意識改革	124	16.6%
⑪育児・介護に関する制度の充実	356	47.6%
⑫ロールモデル(自分が目指したい事を実践している手本となる人)	23	3.1%
⑬その他	18	2.4%
⑭わからない	12	1.6%
無回答	16	2.1%
対象数	748	-

問23 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①離職しても同一企業に再雇用されるようにすること	404	54.0%
②求人情報や就職ガイダ ンスの充実	49	6.6%
③就職に関する相談体制の充実	150	20.1%
④再就職のための講座やセミナーの充実	58	7.8%
⑤子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備	622	83.2%
⑥保育所などの保育施設の充実	474	63.4%
⑦その他	13	1.7%
⑧わからない	17	2.3%
無回答	18	2.4%
対象数	748	-

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に関することでおたずねします。

問24 あなたは、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」という言葉をご存知ですか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①言葉も内容も知っている	285	38.1%
②言葉は聞いたことがあるが内容は知らない	250	33.4%
③知らない	206	27.5%
無回答	7	0.9%
合計	748	100.0%

問25 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度についてあなたが理想とする(希望する)生活に最も近いものをお選びください。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	21	2.8%
②「家庭生活」優先	159	21.3%
③「地域活動・個人の生活」優先	15	2.0%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	282	37.7%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	26	3.5%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	62	8.3%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	176	23.5%
無回答	7	0.9%
合計	748	100.0%

問26 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度について
あなたの現実(現状)の生活に最も近いものをお選びください。(○は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	175	23.4%
②「家庭生活」優先	209	27.9%
③「地域活動・個人の生活」優先	22	2.9%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	194	25.9%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	38	5.1%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	46	6.1%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	49	6.6%
無回答	15	2.0%
合計	748	100.0%

問27あなたは次にあげる家事をしていますか。(それぞれ○は1つ)

1 掃除

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	287	44.6%
②自分と家族が同じ程度している	170	26.4%
③自分は手伝い程度している	133	20.7%
④していない	48	7.5%
無回答	5	0.8%
合計	643	100.0%

2 洗濯

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	308	47.9%
②自分と家族が同じ程度している	106	16.5%
③自分は手伝い程度している	112	17.4%
④していない	112	17.4%
無回答	5	0.8%
合計	643	100.0%

3 食料品、日用品などの買物

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	273	42.5%
②自分と家族が同じ程度している	185	28.8%
③自分は手伝い程度している	143	22.2%
④していない	38	5.9%
無回答	4	0.6%
合計	643	100.0%

4 食事のしたく

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	304	47.3%
②自分と家族が同じ程度している	89	13.8%
③自分は手伝い程度している	129	20.1%
④していない	116	18.0%
無回答	5	0.8%
合計	643	100.0%

5 食事の後かたづけ

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	291	45.3%
②自分と家族が同じ程度している	163	25.3%
③自分は手伝い程度している	126	19.6%
④していない	58	9.0%
無回答	5	0.8%
合計	643	100.0%

6 ごみ捨て

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	256	39.8%
②自分と家族が同じ程度している	175	27.2%
③自分は手伝い程度している	106	16.5%
④していない	100	15.6%
無回答	6	0.9%
合計	643	100.0%

問28 あなたの平日の1日あたりの家事従事時間(家事・育児・介護はどの程度ですか。(○は1つ))

選択肢	回答数	回答割合
①0～1時間未満	188	25.1%
②1～2時間未満	190	25.4%
③2～3時間未満	142	19.0%
④3～5時間未満	126	16.8%
⑤5時間以上	95	12.7%
無回答	7	0.9%
合計	748	100.0%

問29 あなたの休日の1日あたりの家事従事時間(家事・育児・介護はどの程度ですか。(○は1つ))

選択肢	回答数	回答割合
①0～1時間未満	111	14.8%
②1～2時間未満	183	24.5%
③2～3時間未満	171	22.9%
④3～5時間未満	140	18.7%
⑤5時間以上	135	18.0%
無回答	8	1.1%
合計	748	100.0%

身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

問30 あなたは育児または介護をどの程度していますか。それぞれ○は1つ

1 育児(お孫さんを含む)

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	104	27.0%
②自分と家族が同じ程度している	64	16.6%
③自分は手伝い程度している	95	24.7%
④していない	122	31.7%
合計	385	100.0%

2 介護

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	31	8.4%
②自分と家族が同じ程度している	22	5.9%
③自分は手伝い程度している	49	13.2%
④していない	268	72.4%
合計	370	100.0%

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問31 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。(〇は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①主たる家計の稼ぎ手は男性だから	387	51.7%
②職場や同僚に迷惑がかかるから	417	55.7%
③上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから	456	61.0%
④育児、介護は女性の方が向いているから	112	15.0%
⑤昇給、昇格に影響すると考えるから	176	23.5%
⑥その他	62	8.3%
⑦わからない	40	5.3%
無回答	11	1.5%
対象数	748	-

問32 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①男女の固定的な役割分担意識を改める	305	40.8%
②夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる	268	35.8%
③方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する	106	14.2%
④雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる	183	24.5%
⑤労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる	374	50.0%
⑥社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める	217	29.0%
⑦男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	65	8.7%
⑧男性のための仲間(ネットワーク)作りをすすめる	34	4.5%
⑨男性が相談しやすい窓口を設ける	36	4.8%
⑩官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる	215	28.7%
⑪その他	27	3.6%
⑫特に必要なことはない	8	1.1%
⑬わからない	21	2.8%
無回答	10	1.3%
対象数	748	-

「地域社会」に関することにおたずねします。

問33 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・その他のほかの地域での活動において、次のような事例が見受けられますか。(それぞれ〇は1つ)

1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	161	21.5%
②そうではない	239	32.0%
③わからない	328	43.9%
無回答	20	2.7%
合計	748	100.0%

2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	341	45.6%
②そうではない	163	21.8%
③わからない	224	29.9%
無回答	20	2.7%
合計	748	100.0%

3 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	101	13.5%
②そうではない	301	40.2%
③わからない	326	43.6%
無回答	20	2.7%
合計	748	100.0%

4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	178	23.8%
②そうではない	212	28.3%
③わからない	340	45.5%
無回答	18	2.4%
合計	748	100.0%

5 女性自身が責任ある役職に就くのを避けている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	163	21.8%
②そうではない	182	24.3%
③わからない	382	51.1%
無回答	21	2.8%
合計	748	100.0%

6 女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	38	5.1%
②そうではない	281	37.6%
③わからない	405	54.1%
無回答	24	3.2%
合計	748	100.0%

問34 あなたが住んでいる地域では、次の1から6の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。(それぞれ○は1つ)

1 自治会の役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	359	48.0%
②女性	8	1.1%
③男性も女性も	167	22.3%
④わからない	205	27.4%
無回答	9	1.2%
合計	748	100.0%

2 自治会の行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	243	32.5%
②女性	20	2.7%
③男性も女性も	270	36.1%
④わからない	204	27.3%
無回答	11	1.5%
合計	748	100.0%

3 PTAの役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	72	9.6%
②女性	94	12.6%
③男性も女性も	229	30.6%
④わからない	338	45.2%
無回答	15	2.0%
合計	748	100.0%

4 PTAの行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	46	6.1%
②女性	112	15.0%
③男性も女性も	240	32.1%
④わからない	334	44.7%
無回答	16	2.1%
合計	748	100.0%

5 育成会の役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	71	9.5%
②女性	162	21.7%
③男性も女性も	211	28.2%
④わからない	291	38.9%
無回答	13	1.7%
合計	748	100.0%

6 育成会の行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	46	6.1%
②女性	158	21.1%
③男性も女性も	237	31.7%
④わからない	294	39.3%
無回答	13	1.7%
合計	748	100.0%

問35 女性も地域の重要な方針決定の場に出させていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能になると思いますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を導入すること	111	14.8%
②積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること	170	22.7%
③地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと	168	22.5%
④女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること	66	8.8%
⑤女性が積極的に役職につく意識をもつこと	71	9.5%
⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	5	0.7%
⑦その他	22	2.9%
⑧わからない	90	12.0%
無回答	45	6.0%
合計	748	100.0%

問36 平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点が必要です。災害に備えるために、これからのどのような施策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①女性も男性も防災活動や訓練に取り組む	409	54.7%
②市の防災会議、災害対策本部、防災担当に女性の委員・職員を増やす	191	25.5%
③避難所などの運営に女性も参画できるようにする	252	33.7%
④防災や災害現場で活動する女性を育成する	176	23.5%
⑤日頃から地域の男女共同参画を進める	249	33.3%
⑥備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などの視点を入れる	407	54.4%
⑦日頃からコミュニケーション・地域のつながりを大切にする	301	40.2%
⑧性別や立場によって異なる災害時の備え(生活環境、物資、安全など)について知識を普及する	236	31.6%
⑨避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などが安全に過ごせるようにする	369	49.3%
⑩その他	3	0.4%
⑪特に必要ない	9	1.2%
⑫わからない	31	4.1%
無回答	7	0.9%
対象数	748	-

男女の「人権」に関することでおたずねします。

問37 身近な人(夫・妻・恋人)からの暴力が、DVDメスティック・バイオレンスとして問題になっています。次にあげる行為は、DVIにあたる行為です。

あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。(それぞれ〇は1つ)

1 刃物などを突きつけて脅す、殴るふりをして脅す

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	18	2.4%
②したことがある	6	0.8%
③受けたこともしたこともある	8	1.1%
④受けたこともしたこともない	696	93.0%
無回答	20	2.7%
合計	748	100.0%

2 なぐる、ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	20	2.7%
②したことがある	26	3.5%
③受けたこともしたこともある	13	1.7%
④受けたこともしたこともない	667	89.2%
無回答	22	2.9%
合計	748	100.0%

3 物を投げつけたり壊したりする

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	56	7.5%
②したことがある	48	6.4%
③受けたこともしたこともある	28	3.7%
④受けたこともしたこともない	598	79.9%
無回答	18	2.4%
合計	748	100.0%

4 髪の毛をつかんで引きずり回す

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	9	1.2%
②したことがある	2	0.3%
③受けたこともしたこともある	2	0.3%
④受けたこともしたこともない	716	95.7%
無回答	19	2.5%
合計	748	100.0%

5 大声で怒鳴る

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	86	11.5%
②したことがある	95	12.7%
③受けたこともしたこともある	97	13.0%
④受けたこともしたこともない	446	59.6%
無回答	24	3.2%
合計	748	100.0%

6 メールや郵便物、行動を細かく監視する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	26	3.5%
②したことがある	5	0.7%
③受けたこともしたこともある	6	0.8%
④受けたこともしたこともない	690	92.2%
無回答	21	2.8%
合計	748	100.0%

7 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	16	2.1%
②したことがある	0	0.0%
③受けたこともしたこともある	1	0.1%
④受けたこともしたこともない	711	95.1%
無回答	20	2.7%
合計	748	100.0%

8 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	58	7.8%
②したことがある	19	2.5%
③受けたこともしたこともある	10	1.3%
④受けたこともしたこともない	639	85.4%
無回答	22	2.9%
合計	748	100.0%

9 何を言っても無視し続ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	49	6.6%
②したことがある	32	4.3%
③受けたこともしたこともある	35	4.7%
④受けたこともしたこともない	612	81.8%
無回答	20	2.7%
合計	748	100.0%

10 家計に必要な生活費を渡さない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	28	3.7%
②したことがある	2	0.3%
③受けたこともしたこともある	3	0.4%
④受けたこともしたこともない	695	92.9%
無回答	20	2.7%
合計	748	100.0%

11 嫌がっているのに性的行為を強要する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	33	4.4%
②したことがある	8	1.1%
③受けたこともしたこともある	5	0.7%
④受けたこともしたこともない	683	91.3%
無回答	19	2.5%
合計	748	100.0%

12 避妊に協力しない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	27	3.6%
②したことがある	4	0.5%
③受けたこともしたこともある	2	0.3%
④受けたこともしたこともない	695	92.9%
無回答	20	2.7%
合計	748	100.0%

問38 あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。

知っている相談窓口をお選びください。(〇はい/×でも)

選択肢	回答数	回答割合
①DV相談ナビ	34	4.5%
②長野県女性相談センター	91	12.2%
③県警(警察安全相談窓口)	303	40.5%
④長野県児童虐待・DV24時間ホットライン	92	12.3%
⑤女性の人権ホットライン	96	12.8%
⑥長野県性暴力被害者支援センター“りんどうハートながの”	41	5.5%
⑦県警性被害犯罪ダイヤルサポート110	36	4.8%
⑧長野犯罪被害者支援センター	43	5.7%
⑨長野市福祉事務所(長野市役所子育て支援課内、篠ノ井支所内)	66	8.8%
⑩長野市男女共同参画センター	35	4.7%
⑪その他	12	1.6%
⑫相談できる窓口は知らない	288	38.5%
無回答	35	4.7%
対象数	748	-

問39 DVDメスティック・バイオレンスについてあなたの考えに最も近いのはどれですか。(○は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う	434	58.0%
②どんな場合でも人権侵害にあたると思う	178	23.8%
③人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	97	13.0%
④人権侵害にあたるとは思わない	0	0.0%
⑤わからない	26	3.5%
無回答	13	1.7%
合計	748	100.0%

問40 あなたは、暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(○はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①メールによる相談ができる	195	26.1%
②LINEなどSNSによる相談ができる	258	34.5%
③電話による相談ができる	294	39.3%
④通話料が無料	308	41.2%
⑤24時間相談ができる	434	58.0%
⑥相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる	235	31.4%
⑦同性の相談員がいる	304	40.6%
⑧匿名で相談ができる	407	54.4%
⑨弁護士など、法的知識のある相談ができる	371	49.6%
⑩臨床心理士、公認会計士など、心理専門職の相談ができる	227	30.3%
⑪その他	11	1.5%
⑫特になし	17	2.3%
⑬わからない	47	6.3%
無回答	11	1.5%
対象数	748	-

問41 あなたは「性的少数者(セクシュアルマイノリティ)」または「LGBTQ」という言葉(どちらか一方でも)知っているか、または聞いたことがありますか。

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	594	79.4%
②言葉は聞いたことがあるが内容は知らない	87	11.6%
③知らない	60	8.0%
無回答	7	0.9%
合計	748	100.0%

問42 性的少数者(セクシュアルマイノリティ)についてどのような考えや、イメージをお持ちですか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①性の多様性として認めるべきである	477	63.8%
②身近な存在だと思う	181	24.2%
③テレビ等マスコミにも取り上げられており、理解に努めようと思う	331	44.3%
④芸能人や特に注目されている人たちのことで、身近な存在ではない	49	6.6%
⑤理解ができない	39	5.2%
⑥個人の趣味、趣向の問題である	128	17.1%
⑦子供を産むために体の性を尊重すべきである	27	3.6%
⑧治療すれば治る病気である	4	0.5%
⑨関わりたくない	40	5.3%
⑩その他	22	2.9%
無回答	11	1.5%
対象数	748	-

問43 性的少数者(セクシュアルマイノリティ)の人権を守るためにどのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください(○は2つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①社会全体での教育や啓発	393	52.5%
②学校等、子供のころからの教育や啓発	340	45.5%
③社会制度(法制度や条例制定等)の整備	190	25.4%
④社会環境(トイレ等)の整備	125	16.7%
⑤性的少数者に関する相談や支援の充実	152	20.3%
⑥特に必要ない	30	4.0%
⑦その他	10	1.3%
⑧わからない	51	6.8%
無回答	8	1.1%
対象数	748	-

「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。

問44 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、長野市が重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。(○はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組	420	56.1%
②企業や団体において女性の管理職やリーダーを育成するための取組	131	17.5%
③多様で柔軟な働き方(テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など)や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ	464	62.0%
④男性の育児休業の取得の促進に向けた企業への働きかけ	295	39.4%
⑤保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備	504	67.4%
⑥市役所自らの女性職員の職域拡大と管理職への登用、職員の働き方改革に関する取組	98	13.1%
⑦住民自治協議会、区、自治会等への女性の参画促進に関する取組	76	10.2%
⑧配偶者やパートナー間の暴力(DV)や性犯罪・性暴力などを無くすための取組	142	19.0%
⑨正規雇用の女性や、ひとり親家庭への支援	245	32.8%
⑩高齢者・外国籍・障害者への支援	152	20.3%
⑪妊娠・出産期、更年期、高齢期など、ライフステージに応じた女性の健康支援	189	25.3%
⑫LGBTQなど性的少数者への支援と理解促進	124	16.6%
⑬男性が家事・育児に積極的に関わる機会づくり	213	28.5%
⑭地域防災活動における女性の担い手増と、女性の視点を盛り込んだ防災対策の充実	91	12.2%
⑮「女(の子)／男(の子)らしさ」にとらわれない、自分らしく生きるための教育の充実	223	29.8%
⑯男女共同参画やジェンダー平等、性についての理解を深めるための広報や学習機会の充実	145	19.4%
⑰その他	17	2.3%
⑱わからない	27	3.6%
無回答	6	0.8%
対象数	748	-

問45 「男女共同参画」及び「女性活躍推進」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

選択肢	回答数	回答割合
①文章回答あり	130	17.4%
②文章回答無し	618	82.6%
合計	748	100.0%

調査票

各 位



NAGANO

長野市男女共同参画シンボルマーク

「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」ご協力をお願い

平素から、市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、心豊かで生きがいのある社会を形成するために、男女が社会の対等な構成員として喜びと責任を共に分かちあい、個性と能力を十分に発揮し、自分らしく生きられる男女共同参画社会の実現のため様々な施策を進めています。

この調査は、男女共同参画や女性活躍の推進など各種施策の基礎資料とするため、令和5年9月1日現在、市内にお住いの18歳以上75歳未満の市民の皆様から、男女2,000人を年代別に無作為によって選ばせていただいた中のお一人としてお願いするものです。

なお、この調査は無記名で行い、お答えはすべて数値に置き換え、統計的に処理した上で分析します。今後の施策推進や啓発のために使用し、集計結果として公表することはありますが、皆様にご迷惑をおかけすることは一切ございませんので、率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところ、大変お手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和5年10月

長野市長 荻原健司

ご記入にあたってのお願い

- ☆ お答えは、当てはまる番号に○を付けてください。
- ☆ 「その他」に当てはまる場合は、お手数をおかけしますが〔 〕内になるべく具体的に記入してください。
- ☆ 一部の方だけお答えいただく設問もあります。
- ☆ ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに令和5年10月31日(火)までにポストに投函してください。

この調査についてのお問い合わせは

長野市地域・市民生活部人権・男女共同参画課

電 話：224-5428 (直通)

ファクス：224-7547 担当：瀧澤までお願いします。

「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」調査票

- この調査は、あなた(あて名の方)ご自身のお考えでご記入ください。
- ご回答は、特に説明のない限り、あてはまる項目を選び、その番号を○で囲んでください。

あなた自身のことについておたずねします。

F 1 あなたの性別※を教えてください。(○は1つ) ※戸籍上の性別とは関係なく、ご自身の主観でご記入ください。

- | | | | |
|-------|-------|--------|------------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. その他 | 4. 回答したくない |
|-------|-------|--------|------------|

F 2 あなたの年齢について教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|------------|-------------|-------------|------------|
| 1. 20歳未満 | 2. 20歳～24歳 | 3. 25歳～29歳 | 4. 30歳～34歳 |
| 5. 35歳～39歳 | 6. 40歳～44歳 | 7. 45歳～49歳 | 8. 50歳～54歳 |
| 9. 55歳～59歳 | 10. 60歳～64歳 | 11. 65歳～69歳 | 12. 70歳以上 |

F 3 あなたの職業を教えてください。(○は1つ)

- | |
|---------------------------------|
| 1. 農林漁業の自営業主・家族従業者 |
| 2. 農林漁業以外の自営業主・家族従業者 |
| 3. 自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など) |
| 4. 会社役員・経営者 |
| 5. 正社員・正職員などの正規雇用者 |
| 6. パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者 |
| 7. 家事専業者 |
| 8. 学生 |
| 9. 無職 |
| 10. その他 [] |

F 4 あなたのご家族の構成(世帯構成)について教えてください。(○は1つ)

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1. 単身世帯(含単身赴任) | 2. 一世帯世帯(夫婦・カップルだけ) |
| 3. 二世帯世帯(親と子) | 4. 三世帯世帯(親と子と孫) |
| 5. その他 [] | |

F 5 あなたは現在、結婚していますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1. 結婚している | 2. 結婚していない |
| 3. 結婚していないがパートナーがいる | 4. 配偶者と離・死別した |

F 6 あなたにお子さんはいらっしゃいますか。(○は1つ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

結婚している方またはパートナーがいる方におたずねします。

F 7 配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1. いる(正規の社員・職員) | 2. いる(非正規:勤務時間は正規雇用と同じ) |
| 3. いる(非正規:パート・アルバイト) | 4. いる(その他:) |
| 5. いない | |

一般的なことでおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。(それぞれ○は1つ)

	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が 非常に優遇されている	わからない
1. 家庭生活	1	2	3	4	5	6
2. 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
3. 地域社会	1	2	3	4	5	6
4. 職場	1	2	3	4	5	6
5. 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
6. 社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
7. 政治の場	1	2	3	4	5	6
8. 社会全体	1	2	3	4	5	6

問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。(それぞれ○は1つ)

	知っている	ある 聞いたことが	知らない
1. 男女共同参画社会	1	2	3
2. 女子差別撤廃条約	1	2	3
3. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	1	2	3
4. ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）	1	2	3
5. 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）	1	2	3
6. 候補者男女均等法（政治分野における男女共同参画の推進に関する法律）	1	2	3
7. 長野市男女共同参画推進条例	1	2	3

問3 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。(○は1つ)

1. 賛成	2. どちらかといえば賛成	3. どちらかといえば反対	4. 反対	5. わからない
-------	---------------	---------------	-------	----------

問4 日常生活で、「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などを言われたり、期待されたりすることはありますか。(○は1つ)

1. よくある	2. たまにある	3. ない
---------	----------	-------

問4で「1.よくある」または「2.たまにある」を選ばれた方におたずねします。

問5 どのような場で言われたり、期待されたりしますか。(〇はいくつでも)

- | | | | | |
|---------|---------------------|----------|----------|---------|
| 1. 家庭 | 2. 職場 | 3. 学校 | 4. 地域・近隣 | 5. 友人関係 |
| 6. 親族関係 | 7. 社会全体 (メディアや広告など) | 8. その他 [|] | |

問6 それは、どのような内容に関することですか。(〇はいくつでも)

- | | | | | |
|----------------------|----------------------|-------------|---|--|
| 1. 言葉づかい | 2. 容姿 (顔立ち、体つきなど) | 3. 服装や身だしなみ | | |
| 4. 行動の仕方 | 5. 感情表現 (泣く、怒るなど) | 6. 進学、進路選択 | | |
| 7. ライフイベント (結婚、出産など) | 8. 趣味やスポーツ | 9. 家事・育児・介護 | | |
| 10. 働き方や仕事内容 | 11. お金 (収入や支出に関すること) | 12. その他 [|] | |

問7 日常生活における「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などについて、不便さや不快感、生きづらさを感じますか。(〇は1つ)

- | | | |
|----------|-----------|---------|
| 1. よく感じる | 2. たまに感じる | 3. 感じない |
|----------|-----------|---------|

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問8 子ども時代に「女の子/男の子だから〇〇しなさい」や「女の子らしく・男の子らしく」などと言われたことがありましたか。(〇は1つ)

- | | | |
|--------|---------|-----------|
| 1. あった | 2. なかった | 3. 覚えていない |
|--------|---------|-----------|

問8で「1. あった」を選ばれた方におたずねします。

問9 それは、誰に言われましたか。(〇はいくつでも)

- | | | | | |
|-------------------|-----------|----------|---------------|-------|
| 1. 母親 | 2. 父親 | 3. 兄弟姉妹 | 4. 祖母 | 5. 祖父 |
| 6. その他の親族 | 7. 近隣住民 | 8. 学校の先生 | 9. クラブや習い事の先生 | |
| 10. 友人や同じ学校の児童・生徒 | 11. その他 [|] | | |

問10 それは、どのような内容に関することですか。(〇はいくつでも)

- | | | | | |
|----------------------|----------------------|-------------|---|--|
| 1. 言葉づかい | 2. 容姿 (顔立ち、体つきなど) | 3. 服装や身だしなみ | | |
| 4. 行動の仕方 | 5. 感情表現 (泣く、怒るなど) | 6. 進学、進路選択 | | |
| 7. ライフイベント (結婚、出産など) | 8. 趣味やスポーツ | 9. 家事・育児・介護 | | |
| 10. 働き方や仕事内容 | 11. お金 (収入や支出に関すること) | 12. その他 [|] | |

問11 子ども時代に「女らしさ・男らしさ」を言われたことについて、あなたの生き方に影響したと思いますか。(〇は1つ)

- | | | |
|---------|-----------|------------|
| 1. 影響した | 2. 少し影響した | 3. 影響しなかった |
|---------|-----------|------------|

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問12 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。(〇は1つ)

1. 女性は職業をもたない方がよい
2. 結婚するまでは職業をもつ方がよい
3. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
4. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
5. 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
6. その他 []
7. わからない

職場における「女性活躍と就労」に関することにおたずねします。

問13 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどうお考えですか。(〇は1つ)

1. 必要だと思う
2. どちらかといえば必要だと思う
3. 必要ないと思う

現在、職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

問14 あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか(次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか)。(それぞれ〇は1つ)

	優遇されている 非常に 男性の方が	優遇されている 男性の方が どちらかといえば	平等である	優遇されている 女性の方が どちらかといえば	優遇されている 非常に 女性の方が	わからない
1. 賃金	1	2	3	4	5	6
2. 昇進や昇格	1	2	3	4	5	6
3. 仕事の内容	1	2	3	4	5	6
4. 研修の機会や内容	1	2	3	4	5	6
5. 経験や能力を発揮する機会	1	2	3	4	5	6

問15 あなたの職場では女性の雇用や登用は進んでいると思いますか。(〇は1つ)

1. 進んでいる
2. どちらかといえば進んでいる
3. あまり進んでいない
4. 進んでいない
5. わからない

問16 今の職場について、あなたのお考えに近い番号をお選びください。(それぞれ○は1つ)

	そう思う	やや思う	あまり 思わない	思わない	わからない
1. あなた自身は活躍したい	1	2	3	4	5
2. 現在の生活や仕事に満足している	1	2	3	4	5
3. 女性が社会で働くには不利な点が多い	1	2	3	4	5
4. 仕事を続けキャリアを積んでいきたい	1	2	3	4	5
5. 管理職への打診があれば受けてみたい	1	2	3	4	5
6. 退職して仕事に就かない	1	2	3	4	5
7. 女性も管理職として活躍している	1	2	3	4	5
8. 女性の管理職の部下には、なりたくない	1	2	3	4	5

現在、職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。

問17 女性が活躍するために企業が取り組むべきことは何だと思えますか。(それぞれ○は1つ)

	とても重要 だと思っ	まあ重要 だと思っ	重要だと 思わない	わからない
1. 女性を管理職へ積極的に登用する	1	2	3	4
2. 女性社員・職員の採用拡大	1	2	3	4
3. 非正規労働者の正社員・職員への転換・待遇改善	1	2	3	4
4. 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化	1	2	3	4
5. 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入	1	2	3	4
6. 企業内託児所や学童保育所などの設置	1	2	3	4

離職されている方におたずねします。

問18 再就職される場合の雇用形態について希望されるものをお選びください。(○は1つ)

1. 正規の社員・職員
2. 派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員
3. パート・アルバイト(家に子どもがいない時間のみなど)
4. その他 []

問18で「2. 派遣・嘱託などの社員・職員」または「3. パート・アルバイト」を選ばれた方におたずねします。

問19 その理由を次の中から、あなたのお考えに近いものをお選びください。(○は3つまで)

1. 家事や育児などで家族の協力や理解が得られないから	2. 正規の社員・職員で雇用する企業が少ないから
3. 仕事より家庭生活を優先したいから	4. 時間外勤務や休日出勤を避けたいから
5. 配偶者(特別)控除の範囲内で働きたいから	6. 積極的に仕事に就くつもりがないから
7. その他 []	

離職経験のある方におたずねします。

問20 離職の原因（理由）としてあてはまるものをお選びください。（○は3つまで）

- | | | | | |
|--------------|-------------|-----------|-----------|----------|
| 1. 結婚 | 2. 出産 | 3. 育児 | 4. 看護 | 5. 介護 |
| 6. 転職・起業 | 7. 配偶者の転勤 | 8. 健康上の理由 | 9. 給料が少ない | 10. 定年退職 |
| 11. 解雇等職場の都合 | 12. 特に理由はない | 13. その他〔 | | 〕 |

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問21 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。（○は3つまで）

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1. 家事・育児などと仕事の両立が難しい | 2. 女性が就ける仕事に限られている |
| 3. 活躍したいと思える仕事がない | 4. 活躍を望む女性が少ない |
| 5. お手本となる「活躍する女性」が身近にいない | 6. 結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い |
| 7. 上司・同僚の男性の認識、理解が不十分 | 8. 家族の理解が不十分 |
| 9. その他〔 | 〕 |
| 10. わからない | |

問22 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。（○は3つまで）

- | | |
|--------------------|------------------------------------|
| 1. 女性の積極的登用 | 2. 能力開発、自己啓発 |
| 3. 働き方改革の推進 | 4. 福利厚生の実施 |
| 5. 賃金の男女平等 | 6. 正規雇用と非正規雇用との待遇差の解消 |
| 7. 家族の理解や協力 | 8. 職場の理解や協力 |
| 9. 経営者・管理職の意識改革 | 10. 女性自身の意識改革 |
| 11. 育児・介護に関する制度の実施 | 12. ロールモデル（自分が目指したい事を実践している手本となる人） |
| 13. その他〔 | 〕 |
| 14. わからない | |

問23 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。（○は3つまで）

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1. 離職しても同一企業に再雇用されるようにすること | 2. 求人情報や就職ガイダンスの実施 |
| 3. 再就職に関する相談体制の実施 | 4. 再就職のための講座やセミナーの実施 |
| 5. 子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備 | 6. 保育所などの保育施設の実施 |
| 7. その他〔 | 〕 |
| 8. わからない | |

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に関することにおたずねします。

問24 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。（○は1つ）

- | | | |
|----------------|------------------------|---------|
| 1. 言葉も内容も知っている | 2. 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない | 3. 知らない |
|----------------|------------------------|---------|

問25 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度についてあなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものをお選びください。（○は1つ）

1. 「仕事」優先
2. 「家庭生活」優先
3. 「地域活動・個人の生活」優先
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
5. 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
6. 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問26 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度についてあなたの現実（現状）の生活に最も近いものをお選びください。（○は1つ）

1. 「仕事」優先
2. 「家庭生活」優先
3. 「地域活動・個人の生活」優先
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
5. 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
6. 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問27 あなたは次にあげる家事をしていますか。（それぞれ○は1つ）

	主に自分がしている	家族が同じ程度している	自分と手伝い程度している	自分はいない
1. 掃除	1	2	3	4
2. 洗濯	1	2	3	4
3. 食料品、日用品などの買物	1	2	3	4
4. 食事のしたく	1	2	3	4
5. 食事の後かたづけ	1	2	3	4
6. ごみ捨て	1	2	3	4

問28 あなたの平日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。（○は1つ）

1. 0～1 時間未満
2. 1～2 時間未満
3. 2～3 時間未満
4. 3～5 時間未満
5. 5 時間以上

問29 あなたの休日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。（○は1つ）

1. 0～1 時間未満
2. 1～2 時間未満
3. 2～3 時間未満
4. 3～5 時間未満
5. 5 時間以上

身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

問30 あなたは育児または介護をどの程度していますか。(それぞれ○は1つ)

	主に自分が している	自分と 家族が 同じ程度 している	自分は 手伝い程度 している	していない
1. 育児（お孫さんを含む）	1	2	3	4
2. 介護	1	2	3	4

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問31 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。
(○は3つまで)

1. 主たる家計の稼ぎ手は男性だから
2. 職場や同僚に迷惑がかかるから
3. 上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから
4. 育児、介護は女性の方が向いているから
5. 昇給、昇格に影響すると考えるから
6. その他 []
7. わからない

問32 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 男女の固定的な役割分担意識を改める
2. 夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる
3. 方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する
4. 雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる
5. 労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる
6. 社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める
7. 男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
8. 男性のための仲間（ネットワーク）作りを進める
9. 男性が相談しやすい窓口を設ける
10. 官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる
11. その他 []
12. 特に必要なことはない
13. わからない

「地域社会」に関することでおたずねします。

問33 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において、次のような事例が見受けられますか。(それぞれ○は1つ)

	そうである	そうではない	わからない
1. 自治会やPTAの会長は、男性と決まっている	1	2	3
2. 自治会やPTAの責任ある役職は、ほとんどが男性である	1	2	3
3. 役員や組織の運営事項は、男性だけで決めている	1	2	3
4. 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている	1	2	3
5. 女性自身が責任ある役職に就くのを避けている	1	2	3
6. 女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される	1	2	3

問34 あなたが住んでいる地域では、次の1から6の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。(それぞれ○は1つ)

	男性	女性	男性も女性も	わからない
1. 自治会の役員活動	1	2	3	4
2. 自治会の行事等の活動	1	2	3	4
3. PTAの役員活動	1	2	3	4
4. PTAの行事等の活動	1	2	3	4
5. 育成会の役員活動	1	2	3	4
6. 育成会の行事等の活動	1	2	3	4

問35 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能になるとお考えですか。(○は1つ)

1. 役員の中での女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)※を導入すること
2. 積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること
3. 地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと
4. 女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること
5. 女性が積極的に役職につく意識をもつこと
6. パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者
7. その他 []
8. わからない

※ 積極的改善措置(ポジティブ・アクション)
男女共同参画に関し、男女間の格差を改善するため必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいいます。

問36 平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点が必要です。災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
2. 市の防災会議、災害対策本部、防災担当に女性の委員・職員を増やす
3. 避難所などの運営に女性も参画できるようにする
4. 防災や災害現場で活動する女性を育成する
5. 日頃から地域の男女共同参画を進める
6. 備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を入れる
7. 日頃からコミュニケーション・地域のつながりを大切にする
8. 性別や立場によって異なる災害時の備え（生活環境、物資、安全など）について知識を普及する
9. 避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障害者などが安全に過ごせるようにする
10. その他 []
11. 特に必要なことはない
12. わからない

男女の「人権」に関することでおたずねします。

問37 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）※として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。

あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。（それぞれ〇は1つ）

※DV（ドメスティック・バイオレンス）・・・配偶者等に身体的又は精神的な苦痛を与える暴力的行為をいいます。

	受けたことがある	したことがある	受けたこともしたこともある	受けたこともしたこともない
1. 刃物などを突きつけて脅す、殴るふりをして脅す	1	2	3	4
2. なぐる、ける	1	2	3	4
3. 物を投げつけたり壊したりする	1	2	3	4
4. 髪の毛をつかんで引きずり回す	1	2	3	4
5. 大声で怒鳴る	1	2	3	4
6. メールや郵便物、行動を細かく監視する	1	2	3	4
7. 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する	1	2	3	4
8. 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う	1	2	3	4
9. 何を言っても無視し続ける	1	2	3	4
10. 家計に必要な生活費を渡さない	1	2	3	4
11. 嫌がっているのに性的行為を強要する	1	2	3	4
12. 避妊に協力しない	1	2	3	4

問38 あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口をお選びください。(〇はいくつでも)

1. DV相談ナビ
2. 長野県女性相談センター
3. 県警(警察安全相談窓口)
4. 長野県児童虐待・DV24時間ホットライン
5. 女性の人権ホットライン
6. 長野県性暴力被害者支援センター“りんどうハートながの”
7. 県警性被害犯罪ダイヤルサポート110
8. 長野犯罪被害者支援センター
9. 長野市福祉事務所(長野市役所子育て支援課内、篠ノ井支所内)
10. 長野市男女共同参画センター
11. その他 []
12. 相談できる窓口は知らない

問39 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。(〇は1つ)

1. どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う
2. どんな場合でも人権侵害にあたると思う
3. 人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
4. 人権侵害にあたるとは思わない
5. わからない

問40 あなたは、暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

1. メールによる相談ができる
2. LINEなどSNSによる相談ができる
3. 電話による相談ができる
4. 通話料が無料
5. 24時間相談ができる
6. 相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる
7. 同性の相談員がいる
8. 匿名で相談ができる
9. 弁護士など、法的知識のある相談ができる
10. 臨床心理士、公認心理師など、心理専門職の相談ができる
11. その他 []
12. 特にない
13. わからない

「性」の多様性に関することでおたずねします。

問 41 あなたは「性的少数者（セクシュアルマイノリティ）」または「LGBTQ」という言葉（どちらか一方でも）知っているか、または聞いたことがありますか。

1. 知っている
2. 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない
3. 知らない

問 42 性的少数者（セクシュアルマイノリティ）についてどのような考えや、イメージをお持ちですか。あなたの考えに近いものをお選びください。（○は3つまで）

1. 性の多様性として認めるべきである
2. 身近な存在だと思う
3. テレビ等マスコミにも取り上げられており、理解に努めようと思う
4. 芸能人や特に注目されている人たちのことで、身近な存在ではない
5. 理解ができない
6. 個人の趣味、趣向の問題である
7. 子供を産むために体の性を尊重すべきである
8. 治療すれば治る病気である
9. 関わりたくない
10. その他〔具体的に

〕

問 43 性的少数者（セクシュアルマイノリティ）の人権を守るためにどのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください（○は2つまで）

1. 社会全体での教育や啓発
2. 学校等、子供のころからの教育や啓発
3. 社会制度（法制度や条例制定等）の整備
4. 社会環境（トイレ等）の整備
5. 性的少数者に関する相談や支援の充実
6. 特に必要ない
7. その他〔具体的に
8. わからない

〕

「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。

問 44 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、長野市が重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。
(〇はいくつでも)

1. 出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組
2. 企業や団体において女性の管理職やリーダーを育成するための取組
3. 多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ
4. 男性の育児休業の取得の促進に向けた企業への働きかけ
5. 保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備
6. 市役所自らの女性職員の職域拡大と管理職への登用、職員の働き方改革に関する取組
7. 住民自治協議会、区、自治会等への女性の参画促進に関する取組
8. 配偶者やパートナー間の暴力（DV）や性犯罪・性暴力などを無くすための取組
9. 非正規雇用の女性や、ひとり親家庭への支援
10. 高齢者・外国籍・障害者への支援
11. 妊娠・出産期、更年期、高齢期など、ライフステージに応じた女性の健康支援
12. L G B T Qなど性的少数者への支援と理解促進
13. 男性が家事・育児に積極的に関わる機会づくり
14. 地域防災活動における女性の担い手増と、女性の視点を盛り込んだ防災対策の充実
15. 「女（の子）／男（の子）らしさ」にとらわれない、自分らしく生きるための教育の充実
16. 男女共同参画やジェンダー平等、性についての理解を深めるための広報や学習機会の充実
17. その他 []
18. わからない

問 45 「男女共同参画」及び「女性活躍推進」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

アンケート調査はこれで終了です。お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

令和5年11月発行

発行 長野市

編集 長野市地域・市民生活部 人権・男女共同参画課

長野市大字鶴賀緑町1613番地 電話026(224)5032(直通)

E-mail : jinken-danjo@city.nagano.lg.jp

集計 協同組合長野シーアイ開発センター